

医師国家試験出題基準

令和6年版

厚生労働省医政局医事課

目 次

医師国家試験出題基準改定部会委員名簿（令和5年3月時点）	
令和6年版医師国家試験出題基準・ブループリントの趣旨	1
医師国家試験出題基準の利用法	2
ブループリント（医師国家試験設計表）	5
主な検査項目の表記	9
必修の基本的事項	15
医学総論	
I 保健医療論	30
II 予防と健康管理・増進	35
III 人体の正常構造と機能	40
IV 生殖、発生、成長、発達、加齢	46
V 病因、病態生理	49
VI 症候	53
VII 診察	61
VIII 検査	63
IX 治療	71
医学各論	
I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常	84
II 精神・心身医学的疾患	87
III 皮膚・頭頸部疾患	89
IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患	96
V 心臓・脈管疾患	99
VI 消化器・腹壁・腹膜疾患	102
VII 血液・造血器疾患	106
VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患	109
IX 神経・運動器疾患	114
X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患	120
XI アレルギー性疾患、膠原病、免疫病	124
XII 感染性疾患	126
XIII 生活環境因子・職業性因子による疾患	129
索引	
欧文索引	132
邦文索引	136
参考	
医師国家試験改善検討部会報告書	175

医師国家試験出題基準改定部会委員名簿

(所属は令和5年3月時点)

	氏名	所属
部会長	國土 典宏	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
参 与	釜菴 敏	公益社団法人日本医師会
	小西 靖彦	静岡県立総合病院
	坂井 建雄	日本医学会医学用語管理委員会、順天堂大学
	清水 貴子	社会福祉法人聖隷福祉事業団
	高木 康	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
	中谷 晴昭	千葉大学
	奈良 信雄	一般社団法人日本医学教育評価機構
	伴 信太郎	中津川市地域総合医療センター、愛知医科大学
	吉田 穂波	神奈川県立保健福祉大学
第117回国家試験		
委員長	永田 康浩	長崎大学
副委員長	細野 茂春	自治医科大学附属さいたま医療センター
委 員	赤井 靖宏	奈良県立医科大学
	綾部 琢哉	帝京平成大学
	安藤 康宏	国際医療福祉大学病院
	池添 隆之	福島県立医科大学
	池松 禎人	社会福祉法人十善会病院
	石坂 信和	社会福祉法人同愛記念病院
	稲森 正彦	横浜市立大学
	伊豫田 明	東邦大学
	岩崎 真一	名古屋市立大学
	上原 由紀	藤田医科大学
	宇於崎 宏	帝京大学
	大久保 由美子	帝京大学
	大塚 文男	岡山大学大学院
	大平 善之	聖マリアンナ医科大学
	岡山 雅信	神戸大学
	折館 伸彦	横浜市立大学
	勝沼 俊雄	東京慈恵会医科大学附属第三病院
	金子 祐子	慶應義塾大学
	河野 博隆	帝京大学

氏名	所属
菊池 健太郎	帝京大学医学部附属溝口病院
北島 美香	熊本大学
金城 紀与史	沖縄県立中部病院
小松 弘幸	宮崎大学
齋藤 登	獨協医科大学埼玉医療センター
相良 博典	昭和大学
杉浦 一充	藤田医科大学
外園 千恵	京都府立医科大学
高村 昭輝	富山大学
谷垣 伸治	杏林大学
土屋 静馬	昭和大学
冨田 泰彦	杏林大学
猶木 克彦	北里大学
長江 千愛	聖マリアンナ医科大学
中田 雅彦	東邦大学
難波 大夫	名古屋市立大学
西尾 善彦	鹿児島大学
野崎 実穂	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
橋本 英樹	東京大学
花島 律子	鳥取大学
平島 奈津子	国際医療福祉大学三田病院
福島 裕之	東京歯科大学市川総合病院
藤野 善久	産業医科大学
三井 良之	近畿大学
宮岡 等	北里大学
宮城 悦子	横浜市立大学
宮崎 淳	国際医療福祉大学
森下 英理子	金沢大学
守谷 俊	自治医科大学附属さいたま医療センター
安井 孝周	名古屋市立大学
山田 隆之	東北医科薬科大学
山本 卓明	福岡大学
山本 俊幸	福島県立医科大学
萬 知子	杏林大学
渡辺 昌文	山形大学
オブザーバー	堀岡 伸彦 文部科学省高等教育局医学教育課企画官

令和6年版医師国家試験出題基準・ブループリントの趣旨

1 医師国家試験出題基準とは

(1) 定義

医師国家試験出題基準(ガイドライン)は、医師国家試験の「妥当な範囲」と「適切なレベル」とを項目によって整理したもので、試験委員が出題に際して準拠する基準である。

(2) 基本的考え方

- ①全体を通じて、臨床実習での学習成果を中心とした臨床研修開始前の到達度を確認することに主眼を置く。
- ②「必修の基本的事項」では、医師としての基本的姿勢を含めた基本的診療能力を主題として出題する。
- ③「医学総論」、「医学各論」では、原則、我が国のどの医療機関であっても対応できるような内容に限定する。

(3) 卒前教育等との関係

大学医学部・医科大学における医学教育は、大学の自主性に基づいて実施されているが、大学医学部・医科大学卒業後、医師国家試験に合格し、医籍に登録されると医師となるのであるから、医師の任務を果たすのに必要な内容は、一連の医学教育に含まれるべきものである。一方、試験委員が準拠する医師国家試験出題基準は、卒前教育・卒後臨床研修・専門医の育成等を含めた一連の医師養成課程の中で、医師が医療現場での第一歩を踏み出す際に少なくとも具有すべき基本的知識・技能・態度を各項目に分類し、具体的に示したものである。これは、卒前教育の全てを網羅するものではなく、また、卒前教育のあり方及び内容を拘束するものではないが、医師の任務を果たすのに必要な事項を示すものである。

2 ブループリントとは

ブループリント(医師国家試験設計表)は、医師国家試験出題基準の各項目(章、大項目等)の出題割合を示したものである。これに基づき、医療に対するニーズが拡大している近年の状況を踏まえ、社会的に要請の高い分野を含めた幅広い領域から出題するほか、頻度や緊急性の高い疾患についても優先的に出題することになる。

医師国家試験出題基準の利用法

はじめに

医師国家試験は、医師法第9条に基づき「臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能」について行われる。また、医師法の一部改正により、平成16年4月1日から臨床研修が必修化され、同法第16条の2において、診療に従事しようとする医師は、2年以上、臨床研修を受けなければならないとされていることから、第9条にいう「知識と技能」とは、医療に第一歩を踏み出し、指導医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であると考えられる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、医師国家試験出題基準である。医師試験委員会は、医師国家試験の妥当な内容、範囲及び適切なレベル等を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、医師国家試験出題基準は大学医学部・医科大学の卒前教育で扱われている内容の全てを網羅するのではなく、また、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

利用方法

利用者は以下の各項に従う。

なお、各項目は、医師国家試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点があるほか、各項目間で内容が重複することがある。また、用語については、日本医学会医学用語辞典 Web 版の内容を考慮し定めている。

1. 大・中・小項目、レベル分類、備考

(1) 大項目は、中項目を束ねる見出しである。

(2) 中項目には、医師国家試験の出題範囲となる事項名・疾病名・障害名を包括する疾患概念や分類名を記載している。

(3) 小項目には、中項目の内容に属する事項名・疾病名・障害名を具体的に記載し、可能な限り出題範囲を明確化している。

(4) レベル分類には、小項目で求められる知識の範囲を明確化している。

レベル分類	病態・疾患の概要	診療のレベル		出題内容
		初療	継続診療	
a	○プライマリ・ケア領域で頻度が高い病態・疾患 ○緊急対応が必要な病態・疾患	指導下で診断から治療まで行え、必要に応じて適切にコンサルトできる	継続診療に必要な問題解決ができる	○病態生理 ○臨床推論 ○初期対応・救急対応 ○継続診療
b	○臨床研修で経験すべき病態・疾患	基本的事項を理解し、指導の下に初療ができる	適切に診療依頼ができる	○病態生理 ○臨床推論 ○初期対応
c	○臨床研修で経験すべき病態・疾患の範囲を超えるもの	疾患概念を説明でき、鑑別疾患として想起できる		○病名想起

(5) 備考には、小項目に関する内容のうち、基本的臨床能力の観点から特に重要な事項を記載している。ただし、原語表記を明確化しておく必要がある場合はこの限りでない。

2. ブループリント(医師国家試験設計表)について

項目・評価領域ごとに出題割合を規定したものである。
利用者は、以下の各項に従う。

(1) 「必修の基本的事項」

「必修の基本的事項」では、各大項目に出題割合を記載している。

これは、「必修の基本的事項」における問題全体のうち、当該大項目に関する問題の出題割合を示したものである。

(2) 「医学総論」及び「医学各論」

「医学総論」及び「医学各論」では、各章と各大項目に出題割合を記載している。各章に記載されている出題割合は、当該章に関する問題の医学総論(又は医学各論)全体に対する割合を示しており、また、大項目に記載されている出題割合は、当該大項目のその章全体に対する割合を示している。

【例】 医学総論 VII 診察 約7%
 3 小児の診察 約20%

※ 「医学総論」において、「VII 診察」に関する問題を全問題の約7%出題し、さらに「VII 診察」の問題のうち、「3 小児の診察」に関する問題を約20%(「医学総論」全体からみると約1.4%)出題することを意味する。

なお、「医学総論」においては「必修の基本的事項」の出題項目を、「医学各論」においては「必修の基本的事項」と「医学総論」の出題項目についても、それぞれ出題することができる。

(3) 中項目以下の取扱い

出題割合の記載のない中項目以下の事項については、試験委員会の判断で出題が可能であるが、日常臨床で遭遇する機会の多い疾患や病態の出題を優先する。

3. その他

(1) 括弧は以下のルールに基づいて使用した。試験委員の判断で、括弧内・外の語を単独または併記して使用できる。

() : 直前の語の説明又は限定

【例】 外耳(耳介、外耳道、鼓膜)

< > : 直前の語と同義

【例】 世界保健機関<WHO>

[] : () や < > の中に () や < > がある場合の大きな括り

【例】 薬剤耐性[antimicrobial resistance<AMR>]

{ } : 省略しても意味または分類の変わらない語

【例】 蛋白{質}

(2) 関連する語を列記する際に、読点「、」及び中点「・」を以下のルールに基づいて使用した。ただし、検索の利便性を確保する観点から、索引には中点を使用せずに掲載している場合がある。

読点「、」: 単純に列記する場合

【例】 眼窩、{眼}瞼裂

中点「・」: 前後の語での重複を排して列記する場合

【例】 内分泌機能検査、代謝機能検査 → 内分泌・代謝機能検査

- (3) 疾病名・障害名等は、一部で各論の章に重複して記載されている。重複していない項目についても、章または大項目の標題である臓器・病態に限定されずに出題することができる。また、年齢・性による違いに注目して出題することができる。
- (4) 必修の基本的事項の「12 主要疾患・症候群」の「A 基本的疾患・症候群」に挙げられている疾患等については、原則としてその疾患等についての基本的事項や基本的診療能力を問う内容に限って出題できる。
- (5) 医学総論の「Ⅲ 人体の正常構造と機能」に関しては、臨床的事項を理解するのに必要な内容に限って出題する。

ブループリント（医師国家試験設計表）

[出題割合は概数なので、必ずしも合計が100%にならない場合もある。最右列の数字は該当頁。]

【必修の基本的事項】

1	医師のプロフェッショナリズム	約4%	16
2	社会と医療	約6%	16
3	診療情報と諸証明書	約2%	16
4	医療の質と安全の確保	約4%	17
5	人体の構造と機能	約3%	17
6	医療面接	約6%	18
7	主要症候	約15%	19
8	一般的な身体診察	約13%	21
9	検査の基本	約5%	22
10	臨床判断の基本	約4%	23
11	救急初期診療	約9%	23
12	主要疾患・症候群	約10%	24
13	治療の基本	約4%	26
14	基本的手技	約4%	27
15	死、緩和ケア、終末期ケア	約2%	27
16	チーム医療と多職種連携	約2%	27
17	生活習慣とリスク	約5%	28
18	一般教養的事項	約2%	28

【医学総論】

I 保健医療論

約13%

1	健康・疾病・障害の概念と社会環境	約20%	30
2	社会保障制度と医療経済	約10%	30
3	保健・医療・福祉・介護の仕組み	約15%	30
4	保健・医療・福祉・介護の資源	約15%	31
5	保健・医療・福祉・介護関係法規	約15%	31
6	地域保健、地域医療	約15%	33
7	国際保健	約10%	34

II 予防と健康管理・増進

約17%

1	予防医学と健康保持増進	約12%	35
2	人口統計と保健統計	約8%	35
3	疫学とその応用	約8%	35
4	母子保健	約12%	36
5	成人保健	約4%	36
6	高齢者保健	約4%	36
7	精神保健福祉	約8%	36
8	感染症対策	約16%	37
9	国民栄養と食品保健	約4%	37
10	学校保健	約4%	37
11	産業保健	約8%	37
12	環境保健	約12%	38

III 人体の正常構造と機能

約9%

1	個体の構造	約8%	40
2	皮膚、頭頸部、感覚器、発声器	約15%	40
3	呼吸器、胸郭、胸壁	約8%	41
4	心臓、脈管	約8%	41
5	消化器、腹壁、腹膜	約8%	42
6	血液、造血器	約8%	42
7	腎、泌尿器、生殖器	約8%	42
8	心理、精神、神経、運動器	約15%	43
9	内分泌、代謝、栄養	約8%	44
10	免疫	約15%	45

IV 生殖、発生、成長、発達、加齢 約 9%

1	妊娠	約 15%	46
2	分娩	約 15%	46
3	産褥	約 8%	46
4	胎児	約 8%	46
5	新生児	約 15%	47
6	小児期	約 15%	47
7	思春期、青年期	約 8%	48
8	加齢、老化	約 15%	48

V 病因、病態生理 約 12%

1	疾病と影響因子	約 6%	49
2	先天異常	約 11%	49
3	損傷、炎症	約 11%	49
4	感染	約 11%	50
5	アレルギー、免疫異常	約 6%	50
6	腫瘍	約 11%	50
7	循環障害、臓器不全	約 6%	51
8	内分泌・代謝・栄養の異常	約 11%	51
9	中毒、放射線障害	約 11%	51
10	医原病	約 6%	52
11	死	約 11%	52

VI 症候 約 12%

1	全身症候	約 17%	53
2	皮膚、外表	約 6%	53
3	頭頸部、感覚器	約 11%	54
4	呼吸器、心臓、血管	約 11%	55
5	消化器	約 11%	56
6	血液、造血器、免疫	約 11%	57
7	腎、泌尿器、生殖器	約 11%	57
8	心理、精神機能	約 6%	57
9	神経、運動器	約 11%	58
10	内分泌、代謝、栄養	約 6%	60

VII 診察 約 7%

1	二次・三次救急の診察	約 30%	61
2	高齢者の診察と評価	約 30%	61
3	小児の診察	約 20%	61
4	胎児・新生児の診察と評価	約 10%	62
5	妊・産・褥婦と胎児の診察	約 10%	62

VIII 検査 約 9%

1	検体検査	約 23%	63
2	生体機能検査	約 23%	65
3	皮膚・感覚器・発声機能検査	約 8%	66
4	心理・精神機能検査	約 8%	67
5	妊娠・分娩・胎児・新生児の検査	約 8%	67
6	画像検査	約 15%	68
7	内視鏡検査	約 15%	70

IX 治療 約 13%

1	食事・栄養療法	約 10%	71
2	薬物療法	約 10%	71
3	輸液、輸血、血液浄化	約 10%	72
4	手術、周術期の管理、麻酔	約 10%	72
5	臓器・組織・細胞移植、人工臓器、再生医療	約 5%	74
6	放射線治療	約 5%	74
7	インターベンショナルラジオロジー <IVR>	約 5%	75
8	内視鏡治療	約 5%	76
9	リハビリテーション	約 10%	76
10	二次・三次救急の治療	約 15%	77
11	緩和ケア	約 10%	79
12	その他の治療法	約 5%	80

【医学各論】

I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常

約 5%

1	妊娠の異常	84
2	分娩・産褥の異常	84
3	胎児・新生児の異常	85
4	性分化・染色体異常、先天異常および成長・発達の障害	86

II 精神・心身医学的疾患

約 5%

1	症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動障害	87
2	気分障害、統合失調症と類縁疾患	87
3	不安症、ストレス関連症、身体的苦痛症または身体的体験症	87
4	生理的障害、身体的要因に関連した障害	88
5	小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害	88
6	成人のパーソナリティ・行動障害	88

III 皮膚・頭頸部疾患

約 11%

1	炎症性皮膚疾患	89
2	腫瘍・母斑性皮膚疾患	89
3	その他の皮膚疾患	90
4	視機能異常、視神経疾患	91
5	眼窩・外眼部・前眼部・眼球の疾患	91
6	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患	92
7	外耳・中耳疾患	92
8	内耳・神経疾患	92
9	鼻腔・副鼻腔・喉頭疾患	93
10	咽頭・口腔・唾液腺疾患	93
11	損傷、奇形	94

IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患

約 7%

1	感染性呼吸器疾患	96
2	気管・気管支・肺の形態・機能異常、外傷	96
3	免疫学的機序が考えられる肺疾患	96
4	実質性・間質性肺障害	97
5	肺循環異常	97
6	気管支・肺・胸膜・縦隔の腫瘍	97
7	胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の形態・機能異常と外傷	98
8	呼吸調節異常	98

V 心臓・脈管疾患

約 10%

1	不整脈	99
2	心不全	99
3	先天性心疾患	99
4	弁膜症	99
5	虚血性心疾患	100
6	心筋・心膜疾患、心臓腫瘍、外傷	100
7	血圧異常	100
8	脈管疾患	101

VI 消化器・腹壁・腹膜疾患

約 13%

1	食道疾患	102
2	胃・十二指腸疾患	102
3	小腸・結腸疾患	102
4	直腸・肛門疾患	102
5	消化管共通疾患	103
6	肝疾患	103
7	胆道疾患	104
8	膵疾患	104
9	横隔膜・腹膜・腹壁疾患	104
10	急性腹症	105
11	損傷、異物	105
12	その他の重要な小児領域の疾患	105

Ⅶ 血液・造血器疾患

約 5%

1	赤血球系疾患	106
2	白血球系疾患とその他の骨髄性疾患	106
3	リンパ系疾患	106
4	出血性疾患と血栓傾向	107
5	その他の重要な小児領域の疾患	107

Ⅷ 腎・泌尿器・生殖器疾患

約 12%

1	糸球体病変	109
2	血管・尿細管・間質病変	109
3	腎機能の障害による異常	110
4	腎・尿路結石と尿路閉塞性疾患	110
5	腎・尿路・生殖器の炎症	110
6	腎・尿路・男性生殖器の腫瘍	111
7	女性生殖器の類腫瘍・腫瘍	111
8	月経異常、不妊、不育	111
9	更年期・閉経後障害	112
10	その他の尿路・生殖器異常	112

Ⅸ 神経・運動器疾患

約 9%

1	脳血管障害	114
2	脳腫瘍	114
3	神経・運動器の感染性・炎症性疾患	114
4	神経変性・代謝性・脱髄疾患、中毒	115
5	末梢神経・神経筋接合部・筋疾患	115
6	発作性・機能性・自律神経系疾患	116
7	脊椎・脊髄疾患、骨・関節系統疾患	116
8	上肢・下肢の運動器疾患、非感染性骨・関節・四肢軟部疾患	116
9	骨・軟部腫瘍と類似疾患	117
10	神経・運動器の外傷、脳・脊髄の形成異常、神経皮膚症候群、その他	118
11	その他の重要な小児領域の疾患	119

Ⅹ 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患

約 8%

1	間脳・下垂体疾患	120
2	甲状腺疾患	120
3	副甲状腺<上皮小体>疾患とカルシウム・リン代謝異常	120
4	副腎皮質・髄質疾患	120
5	その他の内分泌疾患	121
6	糖{質}代謝異常	121
7	脂質代謝異常	121
8	蛋白・アミノ酸代謝異常	121
9	その他の代謝異常	122
10	その他の重要な小児領域の疾患	122
11	乳腺・乳房疾患	122

Ⅺ アレルギー性疾患、膠原病、免疫病

約 5%

1	アレルギー性疾患	124
2	膠原病と類縁疾患	124
3	原発性免疫不全症	125
4	続発性免疫不全症	125
5	その他の重要な小児領域の疾患	125

Ⅻ 感染性疾患

約 8%

1	ウイルス	126
2	細菌	126
3	抗酸菌<マイコバクテリア>	127
4	真菌、寄生虫、その他の病原体	127

Ⅼ 生活環境因子・職業性因子による疾患

約 5%

1	食中毒、病害動物による疾患	129
2	アルコールによる障害、薬物依存・中毒	129
3	喫煙による影響	129
4	産業中毒とその他の職業性疾患	129
5	物理的原因・生活環境因子による障害	130

主な検査項目の表記

出題に際して、主な検査項目の表記については以下に準拠する。ただし、以下に掲載していない検査も出題され得る。なお、「2 血液学検査」、「3 生化学検査」、「4 免疫血清学検査」及び「7 生体機能検査」の※印のある項目は、出題に際して基準範囲を記載しなくてもよい。

1 一般臨床検査

分類	項目
尿検査	肉眼的所見
	尿量
	比重
	浸透圧
	pH
	尿蛋白
	尿糖
	ウロビリノゲン
	ケトン体
	ビリルビン
	アミラーゼ
	尿潜血
	尿沈渣所見
	細菌検査
	尿細胞診
	白血球反応
妊娠反応	
微量アルブミン	
	【例】尿所見：蛋白1+、糖(-)、沈渣に赤血球10~20/HPF、白血球多数/HPF、赤血球円柱+。
糞便検査	肉眼的所見
	顕微鏡検査(虫卵など)
	便潜血反応、免疫学的便潜血検査
	便細菌検査
喀痰検査	肉眼的所見
	細胞診
	細菌検査
脳脊髄液検査	初圧
	圧(Queckenstedt現象)
	肉眼的所見
	細胞数(種類と比率)
	蛋白定量
	糖定量
	IgG%
	ミエリン塩基性蛋白
	クロール定量
	細菌検査
	細胞診
	オリゴクローナルバンド

分類	項目
穿刺液検査	肉眼的所見
	比重
	蛋白定量
	細胞数(種類)
	細胞診
	細菌検査

2 血液学検査

分類	項目			
赤沈	赤沈	※		
	血球検査	赤血球	※	
		ヘモグロビン<Hb>	※	
		ヘマトクリット<Ht>	※	
		平均赤血球容積<MCV>	※	
		平均赤血球ヘモグロビン<MCH>	※	
		平均赤血球ヘモグロビン濃度<MCHC>	※	
		網赤血球	※	
		白血球	※	
		白血球分画	※	
		血小板	※	
		末梢血・骨髓血塗抹		
			【例】血液所見：赤血球396万、Hb 12.9 g/dL、Ht 38%、網赤血球1.2%、白血球7,800(桿状核好中球12%、分葉核好中球51%、好酸球2%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球28%)、血小板20万。	
		凝固・線溶・血小板機能検査	出血時間	
			プロトロンビン時間<PT>	
			活性化部分トロンボプラスチン時間<APTT>	
血漿アンチトロンビン				
トロンビン・アンチトロンビン複合体<TAT>				
フィブリノゲン				
FDP				
Dダイマー				
プラスミン・プラスミンインヒビター複合体<PIC>				
血小板凝集能				
ループスアンチコアグラント<LAC>				

分類	項目
溶血に関する検査	赤血球浸透圧抵抗試験
	Ham試験
輸血関連検査	血液型
	交差適合試験<クロスマッチ>

3 生化学検査

分類	項目
蛋白・蛋白分画	総蛋白<TP> ※
	蛋白分画 ※
	アルブミン<A1b> ※
	$\alpha_1 \cdot \beta_2$ -マイクログロブリン
	IgG、IgA、IgM、IgE
	フェリチン
	心筋トロポニンT
	心筋トロポニンI
色素生体	総ビリルビン ※
	直接ビリルビン ※
酵素、アイソザイム	AST ※
	ALT ※
	LD<LDH>
	ALP
	γ -GT< γ -GTP>
	コリンエステラーゼ<ChE>
	アミラーゼ
	リパーゼ
	CK
	CK-MB
アンジオテンシン変換酵素<ACE>	
ペプシノゲン	
含窒素成分	尿素窒素<BUN> ※
	クレアチニン<Cr> ※
	尿酸<UA> ※
	アンモニア
糖代謝関連	{随時}血糖 ※
	空腹時血糖<FBS> ※
	ブドウ糖負荷試験<OGTT>
	HbA1c
脂質代謝関連	総コレステロール<TC> ※
	トリグリセリド<TG> ※
	HDLコレステロール ※
	LDLコレステロール ※

分類	項目	
電解質、酸塩基平衡	Na ※	
	K ※	
	Cl ※	
	Ca ※	
	P ※	
	Mg	
	浸透圧	
微量元素、重金属	Cu	
	Fe ※	
	総鉄結合能<TIBC>	
	不飽和鉄結合能<UIBC>	
ビタミン	ビタミンB ₁	
	ビタミンB ₁₂	
	葉酸	
	25水酸化ビタミンD	
ホルモン	下垂体	甲状腺刺激ホルモン<TSH>
		成長ホルモン<GH>
		黄体化ホルモン<LH>
		副腎皮質刺激ホルモン<ACTH>
		卵胞刺激ホルモン<FSH>
		プロラクチン<PRL>
	甲状腺	抗利尿ホルモン、バソプレシン<ADH>
		遊離トリヨードサイロニン<FT ₃ >
		遊離サイロキシニン<FT ₄ >
	副甲状腺 <small>（上皮小体）</small>	サイログロブリン
		カルシトニン
	副腎	副甲状腺ホルモン<PTH>
		コルチゾール
アルドステロン		
17 α -ヒドロキシprogesterone		
消化管	アドレナリン	
	ノルアドレナリン	
膵島	ガストリン	
	インスリン	
	グルカゴン	
腎臓	Cペプチド<CPR>	
	血漿レニン活性<PRA>	
	アンジオテンシン	
性腺・胎盤	エリスロポエチン	
	エストラジオール<E ₂ >	
	progesterone	
	テストステロン	
	絨毛性ゴナドトロピン<hCG>	

分類	項目	
ホルモン	心臓	心房性ナトリウム利尿ペプチド<hANP>
		脳性ナトリウム利尿ペプチド<BNP>
	尿中ホルモン	5-ヒドロキシインドール酢酸<5-HIAA>
		遊離コルチゾール
		カテコラミン
		メタネフリン・ノルメタネフリン
		バニリルマンデル酸<VMA>
腫瘍マーカー	α -フェトプロテイン<AFP>	
	CEA	
	CA19-9	
	CA125	
	PSA	
線維化マーカー	KL-6	

4 免疫血清学検査

分類	項目	
炎症マーカー	C反応性蛋白<CRP>	※
感染マーカー	プロカルシトニン	
感染の抗原・抗体	梅毒血清反応	
	Weil-Felix反応	
	ASO	
	トキソプラズマ抗体	
	寒冷凝集反応	
	マイコプラズマ抗体	
	ウイルス血清反応	
	β -D-グルカン	
	HTLV-1抗体	
	HIV抗体	
	HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体	
HCV抗体		
自己抗体	リウマトイド因子<RF>	
	抗CCP抗体	
	抗核抗体	
	抗dsDNA抗体	
	抗Sm抗体	
	抗RNP抗体	
	抗SS-A抗体	
	抗SS-B抗体	
	抗Scl-70抗体	
	抗RNAポリメラーゼIII抗体	

分類	項目	
自己抗体	抗セントロメア抗体	
	抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体<抗ARS抗体>	
	抗Jo-1抗体	
	抗MDA5抗体	
	抗Mi-2抗体	
	抗TIF1- γ 抗体	
	抗カルジオリピン抗体	
	抗 β 2グリオプロテインI抗体	
	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体<MPO-ANCA>	
	抗好中球細胞質プロテイナーゼ-3抗体<PR3-ANCA>	
	抗ミトコンドリア抗体	
	抗平滑筋抗体	
	抗サイログロブリン抗体	
	抗甲状腺ペルオキシダーゼ<TPO>抗体	
	抗TSH受容体抗体<TRAb>	
	抗GAD抗体	
	抗インスリン抗体	
直接・間接Coombs試験		
抗アクアポリン4抗体		
抗アセチルコリン受容体抗体		
蛋白免疫	免疫電気泳動 Bence Jones蛋白	
アレルギーに 関する検査	アレルギー検査	
	IgE、特異的IgE	
	皮膚反応(パッチテスト、プリックテスト、皮内反応)	
	再投与試験	
補体	血清補体価(CH ₅₀)、C3、C4 免疫複合体	
細胞免疫・食菌能 検査	リンパ球表面抗原検査	
	CD4/CD8比	
	好中球機能検査	
	リンパ球刺激試験	
	ツベルクリン反応 結核菌特異的全血インターフェロ ンガンマ遊離試験<IGRA>	
免疫移植	組織適合検査 【例】HLA-B27、HLA-B51	

5 微生物学検査

分類	項目
病原体検査	細菌検査(塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験)
	結核・抗酸菌検査(塗抹、Gaffky号数、培養、感受性試験、核酸検査)
	スピロヘータ
	リケッチア
	クラミジア
	マイコプラズマ
	ウイルス
	真菌
	原虫
	寄生虫
	核酸検査
	抗原迅速検査

注)細菌の学名はイタリック体で、ウイルスはローマン体で表記。

【例】 *Staphylococcus aureus*
poliovirus

6 病理組織学検査、細胞診

分類	項目
光顕・電顕標本	
染色法	Hematoxylin-eosin染色<H-E染色> 【例】生検組織のH-E染色標本
	PAS染色 【例】腎生検のPAS染色標本
	PAM染色
	SudanⅢ染色
	Congo-Red染色
	Gram染色 【例】喀痰のGram染色標本
	Ziehl-Neelsen染色
	Grocott染色
	May-Giemsa染色 【例】骨髓血塗抹May-Giemsa染色
	Papanicolaou染色
	免疫組織化学染色
	酵素組織化学染色
	Gomori-Trichrome染色

7 生体機能検査

分類	項目
動脈血ガス分析	pH ※
	PaCO ₂ ※
	PaO ₂ ※
	HCO ₃ ⁻ ※
	【例】動脈血ガス分析(room air) : pH 7.41、PaCO ₂ 41 Torr、PaO ₂ 83 Torr、HCO ₃ ⁻ 25 mEq/L。
機能呼吸	%VC
	FEV ₁ %
心機能	{12誘導}心電図検査
	Holter心電図検査
	運動負荷心電図検査
	心臓カテーテル検査
消化器系	唾液分泌検査
	食道・胃24時間pHモニタリング検査
	食道内圧検査
	肛門内圧検査
	BT-PABA試験
	尿素呼気試験
内分泌・代謝機能	インスリン負荷試験
	グルカゴン負荷試験
	ブドウ糖負荷試験
	絶食試験
	TRH負荷試験
	CRH負荷試験
	GHRH負荷試験
	LHRH負荷試験
	デキサメタゾン抑制試験
	水制限試験
	高張食塩水負荷試験
	ACTH試験
	甲状腺 ¹²³ I摂取率
	フロセミド負荷試験
	PTH負荷試験<Ellsworth-Howard試験>
	プロゲステロン負荷試験
	エストロゲン・プロゲステロン負荷試験
ゴナドトロピン負荷試験	
腎機能	クレアチニクリアランス
	糸球体濾過量<GFR>
	レノグラム
神経	脳波検査
	針筋電図検査
	末梢神経伝導検査

8 内視鏡検査

分類	検査名	画像名
内視鏡検査	上部消化管内視鏡検査	～像
	下部消化管内視鏡検査	
	気管支鏡検査	
	カプセル内視鏡検査	
	小腸内視鏡検査	
	喉頭内視鏡検査	
	色素内視鏡検査	
	超音波内視鏡検査	

9 画像検査

分類	検査名	画像名
超音波検査	頸部超音波検査	～像
	乳房超音波検査	
	腹部超音波検査	
	心エコー検査	～図
	カラードプラ心エコー検査	
	経食道心エコー検査	～像
	前立腺経直腸超音波検査	
	経腔超音波検査	
迅速簡易超音波検査<FAST>	～写真	
頭部エックス線撮影		
胸部エックス線撮影		
腹部エックス線撮影		
骨盤エックス線撮影		
関節エックス線撮影		
脊椎エックス線撮影		
四肢エックス線撮影		
産科的骨盤エックス線撮影		
マンモグラフィ		マンモグラム
エックス線造影撮影	上部消化管造影検査	～像
	小腸造影検査	
	注腸造影検査	
	内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査<ERCP>	
	静脈性尿路造影検査	
	逆行性尿路造影検査	
	子宮卵管造影検査<HSG>	
	血管造影検査	
	選択的動脈造影検査	
	デジタルサブトラクション血管造影検査<DSA>	

分類	検査名	画像名
CT	単純・造影CT	単純・造影CT 【例】腹部造影CT
	ダイナミックCT	ダイナミックCT
	三次元CT<3D-CT>	三次元CT<3D-CT>
	三次元CT血管撮影<3D-CTA>	三次元CT血管像<3D-CTA>
	大腸CT<CTコロノグラフィ>	大腸CT<CTコロノグラム>
	単純・造影MRI	単純・造影MRI 【例】頭部単純MRIのT2強調矢状断像
MR	磁気共鳴血管撮影<MRA>	～像<MRA>
	磁気共鳴胆管膵管撮影<MRCP>	～像<MRCP>
	ポジトロン断層撮影<PET>	～像<PET>
核医学検査	ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影<PET/CT>	～像<PET/CT>
	シングルフォトンエミッションCT<SPECT>	シングルフォトンエミッションCT<SPECT>
	シンチグラフィ	シンチグラム 【例】 ^{99m} TcO ₄ ⁻ 甲状腺シンチグラム

注) 検査名に下線がある場合は、下線部分を省いて画像名の欄の語を続ける。画像名の欄のないものは、波形名等として下線部分を省いて表記する。

【例】検査名… 腹部超音波検査、心電図検査
画像名… 腹部超音波像、心電図

必修の基本的事項

大項目	中項目	小項目
1 医師のプロフェッショナリズム 約4%	A 医の倫理	① 生と死にかかわる倫理的問題
		② 医師の職業倫理指針
		③ 善行、無危害、自律尊重、正義
	B 患者の権利と義務	① 自己決定権
		② インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、共同意思決定<シェアードディシジョンメイキング>
		③ 個人情報の保護(守秘義務)
		④ ジュネーブ宣言、リスボン宣言
2 社会と医療 約6%	A 医療制度、医療財政	① 医師法
		② 医療法
		③ 医療保険制度
		④ 介護保険制度
		⑤ 国民医療費
	B 患者・障害者のもつ心理・社会的問題	① 疾病・障害の概念と構造
		② 生活の質[quality of life<QOL>]
③ リハビリテーションの理念		
④ ノーマライゼーション		
C 保健・医療・福祉・介護・教育の制度と連携	① 職種の役割と制度	
	② 職種間コミュニケーション	
	③ 部門間連携	
D 社会資源	① 社会保障制度(所得、介護、障害)	
	② 人的、物的、精神的、経済的支援	
	③ 社会復帰	
E 医学研究と倫理	① 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針	
	② 遺伝子治療等臨床研究に関する指針	
F 臨床研究と倫理性	① ヘルシンキ宣言	
	② 臨床試験・治験の倫理と制度	
3 診療情報と諸証明書 約2%	A 診療録、医療記録	① 診療録・医療記録の管理と保存
		② 診療録の内容
		③ 診療情報の開示
		④ プライバシー保護、セキュリティ
		⑤ 問題志向型医療記録<POMR>
		⑥ SOAP(主観的所見、客観的所見、評価、計画)
	B 診療に関する諸記録	① 処方箋
		② 入院診療計画書
		③ 検査・画像・手術の記録

大項目	中項目	小項目
		④ 退院時要約
	C 診断書、検案書、証明書	① 診断書 ② 出生証明書 ③ 死産証書 ④ 死胎検案書 ⑤ 死亡診断書 ⑥ 死体検案書
4 医療の質と安全の確保 約4%	A 医療の質の確保	① 医療の質の定義<WHO> ② 医療の質(安全性、有効性、患者中心性、適時性、効率性、公平性)、質改善手法 ③ 医療の質の評価(構造・過程・結果) ④ クリニカルパス ⑤ 病院機能評価、国際標準化
	B 医療事故の発生と再発の防止	① 医療過誤、医療事故 ② 医療事故の発生要因(ヒューマンエラー、システムエラー)、医療事故の分析手法、再発防止策の立案 ③ 医療安全文化の醸成 ④ 医療事故の内容 ⑤ ヒヤリ・ハット、インシデント、アクシデント ⑥ インシデントレポート ⑦ 医療安全管理マニュアル ⑧ 医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医療安全管理者 ⑨ 医療安全支援センター ⑩ 医療事故調査制度 ⑪ 医療事故情報収集等事業
	C 薬剤耐性・院内感染対策	① 院内感染対策委員会 ② 院内感染サーベイランス ③ 院内感染対策チーム<ICT> ④ 感染対策マニュアル ⑤ 標準予防策<standard precautions> ⑥ 感染経路別予防策 ⑦ 抗菌薬の適正使用[antimicrobial stewardship<AMS>] ⑧ 薬剤耐性[antimicrobial resistance<AMR>] ⑨ 針刺し切創
	D 医療裁判	① 医事紛争、医療訴訟
	E 医薬品・医療機器の副作用・不具合	① 有害事象と副作用 ② 副作用への対応(報告義務、治療、補償) ③ 添付文書
	F 血液・血液製剤の安全性	① 使用記録保管義務
	G 医療情報	① 診療情報管理・情報セキュリティ
5 人体の構造と機能 約3%	A 周産期	① 遺伝子、染色体 ② 妊娠 ③ 分娩 ④ 産褥

大項目	中項目	小項目
	B 胎児・新生児期	① 胎児・新生児期の身体機能(循環、呼吸、発達) ② 胎児・新生児期の健康問題
	C 小児期	① 小児期の身体・心理・精神機能(発達、栄養) ② 小児期の健康問題
	D 思春期	① 思春期の身体・心理・精神機能(思春期発現、生殖機能) ② 思春期の健康問題
	E 青年期、壮年期	① 青年・壮年期の身体・心理・精神機能 ② 青年・壮年期の健康問題
	F 更年期	① 更年期の身体・心理・精神機能(内分泌、閉経) ② 更年期の健康問題
	G 老年期	① 老年期の身体・心理・精神機能(高齢者総合機能評価 [comprehensive geriatric assessment<CGA>]) ② 老年期の健康問題
	6 医療面接 約6%	A 医療面接の意義
② 医療情報の収集		
③ 病状説明		
④ 患者の教育、動機付け		
B マナー、オープニング		① 身だしなみ
		② 椅子の配置、座り方
		③ 礼儀、振舞い
		④ 挨拶、自己紹介
		⑤ 患者本人であることの確認
		⑥ プライバシー・体調・環境への配慮
C 良好なコミュニケーション		① 言語的コミュニケーション
		② 準言語的コミュニケーション
		③ 非言語的コミュニケーション
		④ 傾聴の仕方
		⑤ 患者中心型モデルに基づく面接
	⑥ 面接者の態度(共感的態度、理解的態度、支持的態度、問題解決への援助的態度、評価的態度、解釈的態度、調査的態度、逃避的態度)	
	⑦ 感情面への対応(共感、支持、反映、肯定、尊重、支援、探索)	
D 病歴情報	① 主訴	
	② 現病歴	
	③ 常用薬、アレルギー歴	
	④ 既往歴	
	⑤ 家族歴	
	⑥ 嗜好	
	⑦ 生活習慣	
	⑧ 社会歴	
	⑨ 生活環境、家庭環境	
	⑩ 海外渡航歴	
	⑪ システムレビュー<review of systems>	
E 心理・社会的情報	① 解釈モデル	
	② 心理・社会的状況	

大項目	中項目	小項目	
		③ 健康観、検査や治療に対する希望・好み	
		④ 受療行動、対処行動、他医受診、処方内容	
	F 話の伝え方	① 平易な表現、理解の確認、質問の有無の確認 ② 告知、悪い知らせの伝え方	
	G 治療への動機付け	① 患者の理解度 ② 動機付けインタビュー	
	H 説明と報告	① 指導医への報告 ② カンファレンスでのプレゼンテーション	
	7 主要症候 約15%	A 全身症候	① 発熱
			② 全身倦怠感
			③ 食思<欲>不振
④ 体重減少・増加			
⑤ ショック			
⑥ 意識障害			
⑦ けいれん発作			
⑧ めまい			
⑨ 脱水			
⑩ 浮腫			
B 皮膚、粘膜		① 皮疹、粘膜疹	
		② 痒痒	
C 頭頸部、感覚器		① 視力障害・視野異常	
		② 眼痛	
		③ 眼球運動障害、複視	
		④ 結膜充血、眼脂	
		⑤ 聴力障害(難聴)	
		⑥ 耳鳴	
		⑦ 鼻出血	
		⑧ 咽頭痛	
		⑨ 嘔声	
D 呼吸器、心臓、血管		① 咳嗽・喀痰	
		② 血痰、喀血	
		③ 喘鳴	
		④ 呼吸困難、息切れ	
		⑤ チアノーゼ	
	⑥ 胸痛、胸部圧迫感		
	⑦ 失神		
	⑧ 動悸		
	⑨ 高血圧		
E 消化器	① 嚥下障害、誤嚥		
	② 腹痛		
	③ 胸やけ		
	④ 悪心、嘔吐		
	⑤ 吐血、下血・血便		
	⑥ 便通異常(便秘・下痢)		

大項目	中項目	小項目
		⑦ 黄疸
		⑧ 腹部膨満・腫瘤
	F 血液、造血器、免疫	① 貧血
		② リンパ節腫脹
		③ 出血傾向・血栓傾向
	G 腎、泌尿器、生殖器	① 尿量の異常(乏尿、無尿、多尿)
		② 排尿障害(尿失禁、排尿困難)
		③ 血尿、蛋白尿
		④ 月経異常、無月経
		⑤ 不正性器出血
	H 心理、精神機能	① 幻覚、妄想、興奮
		② 抑うつ、躁
		③ 不安、恐怖
		④ 認知障害
		⑤ せん妄
		⑥ 睡眠障害
	I 神経、運動器	① 構音障害、失語
		② 頭痛
		③ 運動麻痺、筋力低下
		④ 運動失調
		⑤ 不随意運動
		⑥ 歩行障害
		⑦ 感覚障害
		⑧ 腰・背部痛
		⑨ 筋肉痛
		⑩ 関節痛、関節腫脹
		⑪ 関節変形
J 内分泌、代謝、栄養、乳腺疾患	① 肥満、やせ	
	② 乳房のしこり・左右差・皮膚の陥凹	
	③ 甲状腺腫	
K 周産期	① 正常妊娠・分娩	
	② 妊娠・分娩・産褥の異常	
	③ 胎児・新生児の異常	
L 小児特有の全身症状	① 哺乳力低下	
	② 体重増加不良	
	③ 活動性低下・不機嫌	
	④ 発達の遅れ	
	⑤ 性発達の異常	
8 一般的な身体診察 約13%	A 診察のあり方	① 診察前後の標準予防策<standard precautions>
		② 安全への配慮
		③ 患者への配慮(プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮)
		④ 患者への声かけと診察に必要な例示
	B 診察の基本手技	① 視診
		② 聴診

大項目	中項目	小項目
		③ 打診
		④ 触診
	C 診察時の患者の体位	① 立位
		② 座位、半座位
		③ 臥位(仰臥位、腹臥位、側臥位)
		④ 砕石位
	D 全身の診察	① 意識レベル、精神状態、認知機能の評価
		② 体格の評価(身長、体重)
		③ バイタルサイン(体温、呼吸、脈拍、血圧、酸素飽和度)
		④ 全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)
		⑤ リンパ節の触診
	E 頭頸部の診察	① 頭部
		② 眼瞼、眼球
		③ 耳、鼻、副鼻腔
		④ 口唇、口腔、咽頭、扁桃
		⑤ 甲状腺、頸部血管、気管、唾液腺
	F 胸部の診察	① 胸郭
		② 呼吸音(気管呼吸音、気管支呼吸音、肺胞呼吸音)、副雑音
		③ 心音、心雑音
④ 背部の叩打痛		
⑤ 乳房		
G 腹部の診察	① 形状	
	② 肝臓、脾臓、腎臓	
	③ 圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御	
	④ 腹水	
	⑤ 腸雑音、血管雑音	
H 肛門と直腸の診察		
I 生殖器の診察	① 男性	
	② 女性	
	③ 妊婦	
J 筋骨格系の診察	① 四肢、脊柱(彎曲、疼痛、叩打痛)	
	② 関節(可動域、腫脹、疼痛、変形)	
	③ 徒手筋力テスト	
K 神経系の診察	① 脳神経	
	② 髄膜刺激症候	
	③ 運動系	
	④ 腱反射、病的反射	
	⑤ 感覚(痛覚、温度覚、触覚、深部感覚)	
	⑥ 小脳機能	
L 四肢の診察	① 浮腫	
	② 動脈、静脈	
9 検査の基本 約5%	A 意義と目標	① 診断
		② 治療効果判定

大項目	中項目	小項目
		③ スクリーニング、健康診断
	B 検査の安全性	① 実施の説明 ② 患者確認と検体の確認 ③ 検査の合併症 ④ 検査の精度管理
	C 検体の採取	① 採血 ② 採尿、採便 ③ 採痰 ④ 穿刺 ⑤ 生検 ⑥ 擦過
	D 検体の保存	① 保存方法 ② 保存期間
	E 結果の解釈	① 基準値、カットオフ値 ② 誤差、生理的変動、性差と年齢差 ③ パニック値と緊急対応
	F 一般臨床検査	① 尿検査 ② 糞便検査 ③ 胸水・腹水の検査 ④ 脳脊髄液検査 ⑤ 妊娠反応検査
	G 血液学検査	① 血球検査 ② 凝固・線溶系検査 ③ 血液型、輸血関連検査
	H 生化学検査	① 一般的な生化学検査 ② 蛋白分画、免疫電気泳動
	I 免疫血清学検査	① 炎症マーカー ② 自己抗体 ③ 血清学的診断
	J 遺伝子関連検査	① 病原体遺伝子<核酸>検査 ② 遺伝学的検査
	K 感染症検査	① 採取法 ② 塗抹検査 ③ 染色法(Gram染色を含む) ④ 培養検査 ⑤ 薬剤感受性試験 ⑥ 病原体の迅速検査
	L 病理組織学検査、細胞診	① 組織診 ② 細胞診
	M 動脈血ガス分析	① 適応と採血法 ② 結果の解釈
	N 生体機能検査	① 呼吸機能検査 ② 心電図検査 ③ 脈波検査<ABI> ④ 内分泌・代謝機能検査

大項目	中項目	小項目
	O 画像・内視鏡検査	⑤ 脳波検査
		⑥ 針筋電図検査、末梢神経伝導検査
		① エックス線撮影
		② CT(単純、造影)
		③ 超音波検査
		④ 磁気共鳴画像<MRI>
		⑤ 核医学検査(PETを含む)
10 臨床判断の基本 約4%	A 根拠に基づいた医療 <EBM>	⑥ 内視鏡検査
		① 患者の問題の定式化<PICO/PECO>
		② 情報収集法、文献検索法
		③ クリティカル・アプライザル(学術批判的吟味)
		④ 患者への適用(総合的臨床判断)
		⑤ 研究デザイン
		⑥ メタ分析<メタアナリシス>
		⑦ 診療ガイドライン
	B 臨床疫学的指標	⑧ エビデンスレベル
		① 内的妥当性、外的妥当性
		② バイアス、交絡因子
		③ アウトカム、エンドポイント
		④ 推定と信頼区間
		⑤ 相対危険度<relative risk>(リスク比)、寄与危険度<attributable risk>(リスク差)、オッズ比<odds ratio>
		⑥ 検査前確率<事前確率>、検査後確率<事後確率>
		⑦ 感度、特異度
		⑧ 尤度比
⑨ receiver operating characteristics<ROC>曲線、カットオフ値		
C 測定の精度	① 精密度、再現性	
D 医療技術の効率性	① 費用対効果分析	
11 救急初期診療 約9%	A 救急患者の診察	① バイタルサインの把握
		② トリアージ(致命的な病態・疾患・外傷の鑑別)
		③ 重要臓器機能の障害を招く病態・疾患
		④ 外傷患者初期診療
		⑤ 緊急治療の要否の判断
		⑥ 部位別治療優先順位の判断
		⑦ 院外心停止<OHCA>
	B 基本的な救急処置	① 一次救命処置<BLS>
		② 二次救命処置<ALS>
		③ 気道確保(気管挿管、外科的気道確保)
		④ 人工呼吸療法
		⑤ 除細動、緊急ペーシング
		⑥ 蘇生的輸液療法(静脈確保を含む)
		⑦ 基本的緊急薬物療法
		⑧ 止血法
		⑨ 輸血療法

大項目	中項目	小項目
		⑩ 脳保護療法(脳ヘルニア対策、体温管理療法)
		⑪ 体温異常に対する救急処置
		⑫ 致命的骨折の固定法(頸椎、骨盤、大腿)
	C 症状・傷病別の初期対応	① 心停止
		② 失神
		③ 意識障害
		④ ショック
		⑤ けいれん、けいれん重積状態(てんかん重積状態)
		⑥ 頭痛
		⑦ 高体温、低体温{症}
		⑧ 運動障害、感覚障害
		⑨ めまい
		⑩ 呼吸困難、喘鳴
		⑪ 胸痛、背部痛
		⑫ 腹痛、腰痛
		⑬ 急性消化管出血
		⑭ 誤飲、誤嚥
		⑮ 尿閉
		⑯ 精巣痛
		⑰ 損傷(外傷、熱傷、溺水)
⑱ 薬物中毒		
⑲ 敗血症		
⑳ 精神科救急		
	D 災害医療	① 大規模災害(地震、津波、多数傷病者事故、テロ)
		② 救護活動の基本(指揮と統制、安全、情報伝達、評価、トリアージ、治療、搬送)
12 主要疾患・症候群 約10%	A 妊娠・周産期の異常	① 流・早産
		② 妊娠高血圧症候群
		③ 妊娠糖尿病
	B 精神・心身医学的疾患	① うつ病、双極性障害<躁うつ病>
		② 統合失調症
		③ パニック障害、社交<社会>不安障害、広場恐怖、適応障害<適応反応症>、心的外傷後ストレス障害<PTSD>、身体的苦痛症<身体症状症>、過換気症候群
	C 心身症	
	D 皮膚・頭頸部疾患	① 湿疹、皮膚炎(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎)
		② 蕁麻疹
		③ 薬疹
		④ ウイルス性発疹症(麻疹、風疹、水痘、ヘルペス)
	⑤ 皮膚潰瘍、褥瘡	
	⑥ 結膜炎、角膜炎	
	⑦ 白内障	
	⑧ 緑内障	
	⑨ 糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼底変化	
	⑩ 急性中耳炎	
	⑪ アレルギー性鼻炎	

大項目	中項目	小項目
	E 呼吸器・胸壁・縦隔疾患	① 上気道炎、扁桃炎、気管支炎、細気管支炎
		② 肺炎
		③ 肺結核、肺真菌症
		④ 気管支喘息(小児喘息を含む)
		⑤ 慢性閉塞性肺疾患<COPD>
		⑥ 肺癌
		⑦ 間質性肺疾患
		⑧ 自然気胸、緊張性気胸、外傷性気胸
		⑨ 急性呼吸窮迫症候群<ARDS>
		⑩ 睡眠時無呼吸症候群
		⑪ 肺塞栓症
	F 心臓・脈管疾患	① 不整脈
		② 先天性心疾患
		③ 弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)
		④ 急性心筋梗塞、急性冠症候群、狭心症
		⑤ 心筋症、心筋炎
		⑥ 高血圧症
		⑦ 急性大動脈解離、大動脈瘤破裂
		⑧ 末梢性動脈疾患
		⑨ 深部静脈血栓症、下肢静脈瘤
		⑩ 心不全、肺水腫
	G 消化器・腹壁・腹膜疾患	① 胃食道逆流症<GERD>
		② 食道静脈瘤、胃静脈瘤
		③ 食道癌
		④ 胃潰瘍、十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>
		⑤ 胃癌
		⑥ 急性胃腸炎
		⑦ 便秘症
		⑧ 乳児下痢症
		⑨ 急性虫垂炎
⑩ 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、Crohn病)		
⑪ 機能性消化管障害(機能性ディスぺプシア<FD>、過敏性腸症候群)		
⑫ 大腸癌		
⑬ 痔瘻、痔核		
⑭ 急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝		
⑮ 肝硬変、肝不全、肝性脳症		
⑯ 肝癌		
⑰ 胆石症、胆嚢炎、胆管炎		
⑱ 急性膵炎、慢性膵炎		
⑲ 膵癌		
⑳ 鼠径ヘルニア		
㉑ 腸閉塞		
㉒ 腸重積症		
㉓ 汎発性腹膜炎		
H 血液・造血器疾患	① 鉄欠乏性貧血、二次性貧血	

大項目	中項目	小項目
		② 急性白血病、慢性白血病
		③ 播種性血管内凝固<DIC>
		④ 悪性リンパ腫、骨髄腫
	I 腎・泌尿器・生殖器疾患	① 急性糸球体腎炎症候群、慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群、間質性腎炎
		② 糖尿病腎症
		③ 急性腎障害<AKI>、慢性腎臓病<CKD>
		④ 腎細胞癌、膀胱癌
		⑤ 尿路結石、尿路感染症
		⑥ 前立腺肥大症、前立腺癌、精巣癌
		⑦ 更年期障害
		⑧ 月経異常
		⑨ 子宮内膜症、子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌
		⑩ 卵巣癌、卵巣嚢腫
	J 神経・運動器疾患	① 認知症
		② 緊張型頭痛、片頭痛
		③ 脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫
		④ 脳梗塞、一過性脳虚血発作
		⑤ Parkinson病
		⑥ 髄膜炎、脳炎、脳症
		⑦ 熱性けいれん
		⑧ てんかん
		⑨ 脳性麻痺
		⑩ 頭部外傷、脊髄損傷
		⑪ 変形性脊椎症、脊柱管狭窄症
		⑫ 椎間板ヘルニア
		⑬ 変形性関節症
		⑭ 骨折、脱臼、捻挫
	K 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患	① 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症
		② 糖尿病
		③ 脂質異常症
		④ 高尿酸血症
		⑤ 骨粗鬆症
		⑥ 乳癌
	L アレルギー性疾患、膠原病・リウマチ性疾患	① アナフィラキシー
		② 関節リウマチ
		③ 全身性エリテマトーデス<SLE>
		④ 血管炎症候群
		⑤ 結晶誘発性関節炎、痛風、偽痛風
	M 生活環境因子・職業性因子による疾患	① アルコール依存症、薬物依存症
		② たばこ(主流煙・副流煙)関連疾患
		③ 熱中症、寒冷による障害
		④ 中毒(食中毒を含む)
13 治療の基本 約4%	A 一般的な治療の基本	① 食事・栄養療法
		② 患者教育・カウンセリング
		③ 薬物療法

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> ④ 輸液、輸血 ⑤ 手術、周術期の管理、麻酔 ⑥ 臓器・組織移植、人工臓器 ⑦ 放射線治療 ⑧ 内視鏡治療 ⑨ リハビリテーション ⑩ 救急患者の治療 ⑪ 緩和ケア ⑫ 在宅医療
14 基本的手技 約4%	A 一般的手技	① 静脈採血
		② 静脈確保
		③ 動脈採血
		④ 穿刺(腰椎、胸腔、腹腔)
		⑤ 胃管の挿入と抜去
		⑥ 尿道カテーテルの挿入と抜去
		⑦ 気道確保
	B 注射	① 皮内
		② 皮下
③ 筋肉		
④ 静脈		
C 外科手技	① 清潔操作	
	② 手洗い、ガウンテクニック	
	③ Personal Protective Equipment<PPE>の着脱と廃棄	
	④ 縫合、結紮、抜糸	
	⑤ 創の消毒、被覆(ドレッシング)	
15 死、緩和ケア、終末期ケア 約2%	A 死の判定と診断	① 心臓死、脳死、脳死判定
		② 異状死
		③ 死亡診断、死体検案
	B 緩和ケア	① 緩和ケアの概念
		② 緩和ケアチーム
		③ 緩和ケア病棟<PCU>
		④ 全人的苦痛<トータルペイン>
		⑤ 苦痛のアセスメント
		⑥ 苦痛の緩和
	C 終末期ケア	① 死に至る心の過程
		② 終末期患者とのコミュニケーション
		③ 終末期における意志決定(尊厳死、リビングウィル)
④ 終末期における水・栄養管理		
⑤ 終末期の治療		
⑥ 家族ケア(悲嘆のケア<グリーフケア>)		
16 チーム医療と多職種連携 約2%	A 医療機関でのチームワーク	① 医師を含む医療専門職の連携
		② 多職種の各専門性の理解
		③ 医療専門職間の連携
		④ ガイドライン・プロトコール

大項目	中項目	小項目
17 生活習慣とリスク 約5%	B 地域でのチームワーク	① 病診連携、病病連携
		② 保健・医療・福祉・介護・教育の連携
		③ 家族との連携
		④ 地域連携バス
		⑤ 地域包括ケアシステム
	C コンサルテーション	① 対診
		② 転医
	D 社会生活支援	① 生活への復帰
		② 社会保障制度(所得、介護、障害)
		③ 人的支援
		④ 物的支援(福祉用具)
	A 基本概念	① 国民健康づくり運動
② 非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)のリスクファクター		
③ 健康寿命の延伸と生活の質[quality of life<QOL>]の向上		
④ 行動変容		
⑤ 健康づくり支援のための環境整備		
B 栄養、食生活		① 食事摂取基準
		② 栄養マネジメント<栄養管理>
		③ 食行動
C 身体活動、運動	① 身体活動とエネルギー消費	
	② 運動の効用	
D 休養・心の健康	① 睡眠の質、不眠	
	② ストレス対策	
	③ 過重労働対策	
	④ 自殺の予防	
E 喫煙	① 喫煙状況・種類(燃焼式・加熱式)	
	② 喫煙の有害性	
	③ 受動喫煙	
	④ 禁煙支援	
F 飲酒	① 飲酒状況	
	② 飲酒の有害性	
	③ アルコール依存への支援	
G 健康の社会環境モデル	① 社会的な健康規定要因(Social Determinants of Health)<SDH>	
	② 環境(社会経済的・構造的)レベルと個人レベルの要因	
	③ 行動レベルと行動変容	
18 一般教養的事項 約2%	A 医学史、人文・社会科学、自然科学、芸術、哲学などに関連する一般教養的知識や考え方	
	B 診療に必要な一般的な医学英語	

医学総論

I 保健医療論[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考	
1 健康・疾病・障害の概念と社会環境 約20%	A 健康の概念	① 健康の定義	歴史の変遷	
		B 環境と健康	① 宿主	リスクファクター
	② 病因			
	③ 環境			
	④ 行動			
	C 社会環境の変動と国民の健康	① 人口構造		
		② 疾病構造		
		③ 生活様式		
		④ 家族構成		
		⑤ 地域社会構造		
		⑥ 産業構造		
	D 疾病・障害の概念と社会	① 身体機能と構造<body functions and structures>、活動<activities>、参加<participation>		
		② 生活の質[quality of life<QOL>]		
③ ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン				
2 社会保障制度と医療経済 約10%	A 社会保障の概念と制度	① 公的扶助	自助・互助・公助	
		② 社会保険		
		③ 公衆衛生と医療		
		④ 社会福祉		
	B 医療保険、介護保険、年金保険、公費医療	① 医療保険の種類と対象		
		② 介護保険		
		③ 年金保険		
		④ 公費医療の種類と対象		
	C 医療経済	① 国民医療費		
		② 医療費負担と給付		
3 保健・医療・福祉・介護の仕組み 約15%	A 保健・医療・福祉・介護の組織と連携	① 国と地方公共団体		
		② 保健所		
		③ 地方衛生研究所		
		④ 市町村保健センター		
		⑤ 社会福祉関係施設		民生委員・社会福祉協議会
		⑥ 児童相談所、福祉施設		
		⑦ 特別支援学校		
		⑧ 地域包括支援センター		
		⑨ 医療安全支援センター		
	B 少子化社会・障害児<者>への対応	① 健やか親子21		
		② 次世代育成支援対策		
		③ 障害者基本計画		
	C 在宅ケア	① 在宅医療	訪問診療、往診	
		② 訪問看護		
		③ 在宅介護	訪問介護、通所介護<デイサービス>	
		④ 在宅リハビリテーション	訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション<デイケア>	

I 保健医療論[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考	
	D 遠隔医療	① 遠隔診療 ② 診療支援		
4 保健・医療・福祉・介護の資源 約15%	A 保健・医療・福祉・介護の施設と機能	① 病院		
		② 診療所		
		③ 地域医療支援病院		
		④ 特定機能病院		
		⑤ 臨床研究中核病院		
		⑥ 療養病床		
		⑦ 保険薬局	お薬手帳	
		⑧ 介護保険施設	介護老人福祉施設<特別養護老人ホーム>、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院	
		⑨ 居宅サービス、ショートステイ、グループホーム		
		⑩ 訪問看護ステーション		
		⑪ 居宅介護支援事業所	介護支援専門員<ケアマネジャー>	
		⑫ 要介護認定	介護保険主治医意見書、ケアプラン、要支援、要介護、直接・間接生活介護、BPSD・機能訓練・医療関連行為	
	B 保健・医療・福祉・介護従事者	① 保健・医療・福祉・介護従事者の現状と役割		
		② 多職種連携とチーム医療	多職種連携教育 [interprofessional education<IPE>]	
		③ 医行為と診療補助行為	医療的行為	
5 保健・医療・福祉・介護関係法規 約15%	A 医事	① 医師法		
		② 医療法		
		③ 刑法	秘密漏示、文書偽造、過失傷害、墮胎	
		④ 民法	説明義務、注意義務、過失(予見性、回避義務)	
		⑤ 死産の届出に関する規定		
		⑥ 死体解剖保存法		
		⑦ 臓器の移植に関する法律		
		⑧ 医学及び歯学の教育のための献体に関する法律		
		⑨ 個人情報保護法		
		B 薬事	① 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律<医薬品医療機器等法>	未承認薬・適応外使用の取扱い
			② 毒物及び劇物取締法	
			③ 麻薬及び向精神薬取締法	
			④ 覚せい剤取締法	

I 保健医療論[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
	C 地域保健	① 地域保健法	
		② 健康増進法	
	D 母子保健	① 母子保健法	
		② 母体保護法	
		③ 児童虐待の防止等に関する法律	
	E 成人・高齢者保健	① 高齢者の医療の確保に関する法律<高齢者医療確保法>	
		② 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV法>	
		③ 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律	
	F 精神保健	① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法>	
		② 自殺対策基本法	
		③ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律<医療観察法>	
		④ 民法(成年後見制度)	
	G 感染症対策	① 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>	
		② 検疫法	
		③ 予防接種法	
	H 疾病対策	① がん対策基本法	
		② 健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法<循環器病対策基本法>	
		③ アレルギー疾患対策基本法	
		④ アルコール健康障害対策基本法	
		⑤ 肝炎対策基本法	
	I 食品保健	① 食品衛生法	
	J 学校保健	① 学校保健安全法	
	K 産業保健	① 労働基準法	医師の働き方改革
② 労働安全衛生法			
③ 労働者災害補償保険法			
④ じん肺法			
L 環境保健	① 環境基本法		
	② 公害健康被害の補償等に関する法律		
	③ 水道法		
	④ 下水道法		
	⑤ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律<廃棄物処理法>		
	⑥ 建築物における衛生的環境の確保に関する法律<建築物衛生法>		
M 医療保険	① 健康保険法		
	② 国民健康保険法		
	③ 高齢者医療確保法		

I 保健医療論[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
	N 難病対策、社会福祉、介護	① 難病の患者に対する医療等に関する法律<難病法>	
		② 児童福祉法	
		③ 生活保護法	
		④ 老人福祉法	
		⑤ 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)	障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法
		⑥ 障害者差別解消法	
		⑦ 介護保険法	
6 地域保健、地域医療 約15%	A 地域保健・地域医療と医師の役割	① 医師会	
		② 医療連携	地域医療構想
		③ 地域社会との連携	自治体との連携
	B 医療計画	① 医療圏	
		② 基準病床数	
		③ 地域医療支援病院の整備	
		④ 病院・診療所・薬局の連携、地域包括ケア	
		⑤ へき地医療・救急医療の確保	
		⑥ 医療従事者の確保	地域医療支援センター
		⑦ 地域連携	
	C プライマリヘルスケアとプライマリ・ケア	① アルマ・アタ<Alma Ata>宣言	
		② 地域診断	
		③ 社会的な健康規定要因	
		④ 地域保健福祉活動	
	D 健康増進とヘルスプロモーション	① 健康増進の概念	
		② ヘルスプロモーションの概念、オタワ憲章、バンコク憲章、アデレード宣言	Health in all policies
	E 救急医療	① 救急医療体制	
		② 初期・二次・三次救急医療	
		③ 救急医療機関、救命救急センター、救急指定病院、休日夜間急患センター、在宅当番医	
		④ 救急医療情報	
		⑤ 救急搬送、救急医療用ヘリコプター<ドクターヘリ>、ドクターカー、救急車	
		⑥ 応急処置<病院前救護>	特定行為、救急隊員、救急救命士
	F 災害医療	① 災害時保健医療	
		② 医療救護班、災害派遣医療チーム	[disaster medical assistance team<DMAT>]
		③ 災害拠点病院	
		④ トリアージ	staging care unit<SCU>
		⑤ 地域医療搬送、広域医療搬送	

I 保健医療論[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
	G 離島・へき地医療	① へき地医療拠点病院	
		② へき地診療所	
		③ 無医地区	
		④ へき地保健医療対策	
		⑤ へき地医療支援機構	
7 国際保健 約10%	A 世界の保健・医療問題	① 持続可能な開発のための2030アジェンダ<SDGs>	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ<UHC>
		② 母子の健康状況	
		③ 感染症、エピデミック<流行>、パンデミック	国際保健規則<International Health Regulations>
		④ 非感染性疾患<NCD>	
	B 国際保健・医療協力	① 国際機関	国際連合<UN>、世界保健機関<WHO>、国際労働機関<ILO>
		② 二国間協力、多国間協力	国際協力機構<JICA>、政府開発援助<ODA>、非政府機関<NGO>

II 予防と健康管理・増進[約17%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 予防医学と健康保持増進 約12%	A 地域社会と公衆衛生	① コミュニティヘルス	
		② 公衆衛生の概念と機能	
	B 予防医学	① 予防医学の概念	
		② 一次・二次・三次予防	
		③ population strategyとhigh risk strategy	
	C 健康保持・増進	① 健康教育・学習、保健指導、健康相談	
		② 健康保持・増進の概念	
	D 健康診断・診査と健康管理	① 健康管理の概念・方法	
② 健康診断・診査と事後指導			
2 人口統計と保健統計 約8%	A 人口静態	① 日本の人口	
		② 国勢調査	
		③ 世界の人口	
	B 人口動態	① 出生と死亡	
		② 結婚と離婚	
		③ 死産	
		④ 再生産率、合計特殊出生率	
		⑤ 生命表	平均余命、平均寿命
	C 疾病・障害の分類・統計	① 国際疾病分類<ICD>	
		② 国際生活機能分類<ICF>	
		③ 国民生活基礎調査	
		④ 患者調査	
3 疫学とその応用 約8%	A 疫学の概念	① 宿主、病因、環境	リスクファクター
		② 疾病の自然史	
		③ 頻度と分布	
		④ 標本の抽出	母集団、偶然誤差
		⑤ 疫学的因果関係	ヒルの基準(関連強固性、時間性、一貫性、整合性、量反応関係、生物学的妥当性など)
	B 疫学指標	① 頻度を表す指標	死亡率、罹患率、有病率
		② 関連を表す指標	相対危険度<relative risk>(リスク比)、寄与危険度<attributable risk>(リスク差)、オッズ比<odds ratio>
		③ 指標の比較	年齢調整率、標準化死亡比<SMR>
	C 統計解析	① 確率分布と期待値	標準偏差
		② 検定と推定	有意水準、95%信頼区間、標準誤差
		③ 分析モデル	線形回帰、ロジスティック回帰、比例ハザードモデル、生存分析
	D 観察研究	① 記述疫学	
		② 横断研究	
		③ 症例対照研究	

II 予防と健康管理・増進[約17%]

大項目	中項目	小項目	備考
		④ コホート研究	
	E 介入研究	① 臨床試験 ② ランダム化比較試験<RCT>	intention to treat<ITT>、プラセボ、遮蔽化(マスキング)
	F システマティックレビューとメタ分析<メタアナリシス>	① システマティックレビュー ② メタ分析<メタアナリシス>	
4 母子保健 約12%	A 現状と動向	① 出生	
		② 妊産婦死亡	
		③ 死産	
		④ 周産期死亡	
		⑤ 新生児・乳児死亡	
		⑥ 人工妊娠中絶	
	B 母性保健、周産期の保護	① 家族計画、不妊	
		② 母子健康手帳	
		③ 妊産婦健康診査	
		④ 産休制度、育児休業制度	
		⑤ 環境因子と胎児障害	飲酒、喫煙、感染症、薬物、環境汚染、放射線
	C 小児の保健・福祉	① 乳児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査	
		② 育児指導	
		③ 養育医療	
		④ 自立支援医療	
⑤ 新生児マスキング			
⑥ 児童虐待の予防			
5 成人保健 約4%	A 現状と動向	① 非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)の罹患と死亡	
	B 非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)と保健対策	① 非感染性疾患<NCD>(生活習慣病を含む)のリスクファクター	
		② 予防対策とその評価	
		③ 特定健康診査、特定保健指導	
6 高齢者保健 約4%	A 現状と動向	① 高齢者の人口・死因・受療率・有訴率	
		② 要支援・要介護の原因	
	B 高齢者の健康保持・増進	① 加齢と健康状態	
		② 日常生活動作<ADL>	
		③ 生活の質[quality of life<QOL>]	
		④ 閉じこもり、廃用症候群	運動器症候群<ロコモティブシンドローム>、サルコペニア、フレイル
		⑤ 介護予防	
7 精神保健福祉 約8%	A 現状と動向	① 精神障害者	
		② 心の健康づくり	自殺対策、依存症対策

II 予防と健康管理・増進[約17%]

大項目	中項目	小項目	備考	
		③ 精神保健福祉センター	精神医療審査会	
		④ 精神障害者社会復帰施設		
	B 精神的健康の保持・増進	① 精神保健福祉相談	学校精神保健、産業精神保健	
	② 地域精神保健福祉活動	地域移行		
8 感染症対策 約16%	A 感染症の疫学	① 主な感染症の疫学と流行状況	積極的疫学調査	
		② 感染症発生动向調査<サーベイランス>		
		③ 母子感染		
		④ 院内感染		
	B 医師と自治体の対応	① 健康診断、入院、届出		
		② 就業制限	学校における出席停止	
	C 予防接種と検疫	① 集団予防と個人予防		
		② 予防接種	副反応、有害事象	
		③ 生ワクチン、不活化ワクチン、mRNAワクチン		
		④ 検疫		
		⑤ 人獣共通感染症対策		
		⑥ バイオテロ対策		
9 国民栄養と食品保健 約4%	A 国民栄養の現状と対策	① 食事調査		
		② 国民健康・栄養調査		
		③ 食事摂取基準		
		④ 食生活指針	食事バランスガイド	
		⑤ 栄養教育・指導		
	B 食品の安全性と機能性	① 食品添加物	1日の摂取許容量<ADI>	
		② 食品中の汚染物質	ハサップ手法<HACCP>	
		③ 遺伝子組換え食品		
		④ 保健機能食品、特別用途食品、健康食品		
10 学校保健 約4%	A 学校保健の現状と動向	① 学齢期好発疾患と予防		
		② 体格、体力		
	B 学校医と保健管理	① 学校医の職務		
		② 養護教諭		
		③ 健康診断		
		④ 児童の慢性疾患と保健管理		
		⑤ 学校における感染症の予防		
		⑥ 学校精神保健	引きこもり、自殺の予防	
		⑦ 児童の事故と対策(学校安全教育・安全管理)		
	11 産業保健 約8%	A 産業保健の仕組み	① 労働者の安全衛生管理	
			② 労働者の健康増進	
			③ 労働災害の補償	
		B 現状と動向	① 業務上疾病の発生状況	
			② 労働力の動向	正規雇用、非正規雇用、高齢者労働

II 予防と健康管理・増進[約17%]

大項目	中項目	小項目	備考
	C 産業医と労働安全衛生管理	① 労働衛生管理体制	
		② 産業医の資格と職務	
		③ 健康管理、作業環境管理、作業管理	SDS(安全データシート)
		④ 許容濃度、管理濃度	化学物質の自発的管理
		⑤ 生物学的モニタリング	
		⑥ 労働災害	
		⑦ 健康保持増進対策	トータルヘルスプロモーションプラン<THP>
		⑧ 労働安全衛生マネジメントシステム	
		⑨ 過重労働対策	
		⑩ メンタルヘルス対策	
		⑪ 都道府県労働局、労働基準監督署、産業保健総合支援センター、地域産業保健センター	
		⑫ 健康診断と事後指導	
12 環境保健 約12%	A 環境と適応	① 環境の概念	
		② 生態系と生物濃縮	
		③ 有害物質の吸収・排泄	
	B 地球環境の変化と健康影響	① 地球温暖化	
		② オゾン層破壊	
		③ 酸性雨	
		④ 砂漠化	
	C 環境汚染の発生要因と健康影響	① 環境汚染の概念(エピソード)	環境保全
		② 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染	汚染の指標
		③ 内分泌かく乱化学物質、ダイオキシン類	
		④ 農薬、重金属類	
		⑤ 石綿	
	D 上水道と下水道	① 水質基準	
		② 浄水法と消毒	
		③ 水系感染	
		④ 汚染処理	
	E 公害の健康被害と対策	① 公害の概念	
		② 主な公害のエピソード	
		③ 公害健康被害補償制度	
	F 環境汚染の評価と対策	① 環境基準、排出規制	
		② 環境モニタリング	
		③ 環境影響評価<環境アセスメント>	
	G 廃棄物処理	① 一般廃棄物	
		② 産業廃棄物	
		③ 感染性廃棄物	医療廃棄物
		④ リサイクル	
	H 騒音・振動の健康影響と対策	① 騒音の聴器・聴覚への影響、騒音性難聴	

II 予防と健康管理・増進[約17%]

大項目	中項目	小項目	備考
		② 騒音の生理的・心理的影響	
		③ 全身振動	
		④ 局所振動	
		⑤ 低周波空気振動	
		⑥ 評価と対策	
		I 放射線の健康影響と管理	① 非電離放射線の健康影響
		② 電離放射線の健康影響	
		③ 放射線管理	職業被ばく、医療被ばく、被ばく低減3原則
		④ 放射性廃棄物	
	J 居住・衣服環境と健康	① 屋内環境の管理	換気、採光、照明、冷暖房
		② 建築物衛生	
		③ 衣服の機能と健康	

III 人体の正常構造と機能[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 個体の構造 約8%	A 細胞、組織		
	B 局所解剖	① 周囲臓器との位置関係 ② 画像検査との相関	
2 皮膚、頭頸部、感覚器、発声器 約15%	A 皮膚の構造・機能	① 表皮、真皮、付属器、脈管、神経、皮下組織	
		② 角化、メラニン生成、免疫機能、Langerhans細胞、細胞間接着、基底膜、肥満細胞	
		③ 細胞間脂質	
		④ 結合組織の代謝	
		⑤ 発汗	
		⑥ 皮脂	
		⑦ 毛周期	
		⑧ 経皮吸収	
	B 頭蓋・頭蓋腔の構造	① 前頭蓋窩、中頭蓋窩、後頭蓋窩、トルコ鞍、視神経管、上眼窩裂、錐体、内耳道、頸静脈孔、大後頭孔	
	C 顔面の構造	① 眼窩、眼瞼、鼻、副鼻腔、外鼻孔、鼻根、人中、口唇、口角、三叉神経、顔面神経	
	D 頸部の構造	① 頸筋膜、頸筋群、頸動脈、頸静脈、迷走神経、反回神経、副神経、舌下神経、舌神経、腕神経叢、横隔神経、交感神経幹、星状神経節	
	E 頭頸部の生理的間隙	① 咽後間隙、副咽頭間隙	
	F 視覚系の構造・機能	① 眼球[角膜、結膜、強膜、前房・後房、隅角、ぶどう膜(虹彩、毛様体、脈絡膜)、瞳孔、水晶体、硝子体、網膜]、視路(視神経、視{神経}交叉、視索、外側膝状体、視放線)、視中枢	
② 眼球付属器(眼瞼、涙器、外眼筋、眼窩)			
③ 視機能[視力、光覚(暗順応)、色覚、視野、調節、両眼視、眼圧、眼位、眼球運動、輻湊、開瞼、閉瞼]			
G 聴覚系の構造・機能	① 聴器[外耳(耳介、外耳道、鼓膜)、中耳(耳小骨、蝸牛窓、前庭窓、乳突洞、耳管)、内耳(蝸牛、コルチ器、有毛細胞)]		
	② 聴覚生理、聴力(伝音機構、感音機構、聴覚の電気現象)		
H 前庭平衡系の構造・機能	① 末梢前庭器官(球形嚢、卵形嚢、三半規管、内リンパ嚢)		
	② 前庭反射		

Ⅲ 人体の正常構造と機能[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
	I 嗅覚系・味覚系の構造・機能	① 嗅上皮	
		② 味蕾	
	J 発声器の構造・機能	① 声帯、内喉頭筋、粘膜波動、上喉頭神経、反回神経(下喉頭神経)	
		K 体性感覚系の構造・機能	① 痛覚
		② 温度覚	
		③ 触覚、圧覚	
		④ 深部感覚	
3 呼吸器、胸郭、胸壁 約8%	A 胸郭の構造・機能	① 胸膜、胸壁、横隔膜	横隔神経、肋間神経、迷走神経、反回神経、交感神経幹
		② 乳房(乳腺、Montgomery腺)	
		③ 縦隔	上縦隔、前縦隔、中縦隔、後縦隔
		④ 胸腺	
	B 上気道・下気道の構造・機能	① 鼻、鼻腔、喉頭、声帯、気管、気管支	
		② 吸気の加温・加湿	
		③ 保護・防御機能	
		④ 呼吸機能	
	C 肺の構造・機能	① 気管、気管支、肺胞	
		② 肺血管系	
		③ 肺のリンパ管とリンパ節	
		④ 肺表面活性物質	
		⑤ 肺気量分画	
		⑥ 換気、死腔	換気力学(胸腔内圧、肺コンプライアンス、抵抗、closing volume)
		⑦ 換気血流比	
		⑧ 拡散	
		⑨ 肺泡気-動脈血酸素分圧較差 <A-aDO ₂ >	換気分布
		⑩ 呼吸の調節(換気量)	
		⑪ 血液中のガス運搬	
		⑫ 酸塩基平衡	
⑬ 代謝			
⑭ 防御機能			
D 呼吸運動	① 呼吸筋		
	② 呼吸調節、末梢受容体、呼吸中枢、無呼吸反射		
4 心臓、脈管 約8%	A 心臓・血管の構造・機能	① 心臓、大血管、冠血管、末梢血管	
		② 心臓の興奮と伝導	洞結節、房室結節
		③ 心周期と時相	
		④ 心機能、心筋収縮性・拡張性	
		⑤ 心拍出量	
		⑥ 血圧	

III 人体の正常構造と機能[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
		⑦ 循環血液量	
		⑧ 体循環	冠循環
		⑨ 肺循環	
		⑩ 循環動態の調節	
		⑪ 容量血管と抵抗血管	
		⑫ 末梢血管抵抗	
		⑬ 静脈還流	
	B リンパ管の構造と機能	① リンパ管とリンパ節	
		② 胸管	
5 消化器、腹壁、腹膜 約8%	A 口腔・咽頭の構造・機能	① 歯、舌、唾液腺、口蓋、扁桃、耳管、上・中・下咽頭	
		② 咬合、咀嚼、消化、食塊形成、唾液	摂食機能、口腔環境
		③ 嚥下	嚥下機能
	B 消化管の構造・機能	① 消化管壁の構造	
		② 脈管系	門脈系、上腸間膜血管
		③ 神経系	
		④ 消化管運動	食道内圧、胃腸反射
		⑤ 消化管の消化・吸収	
		⑥ 胃液の分泌	
		⑦ 消化管生理活性物質	消化管ホルモン、増殖因子
		⑧ 消化管の免疫	腸内細菌叢
		⑨ 排便機能	直腸肛門反射
	C 肝・胆道・膵の構造・機能	① 肝・胆道・膵の構造	
		② 肝臓の機能	
		③ 胆汁および胆汁分泌	胆嚢収縮の調節
		④ 腸肝循環	胆汁酸
		⑤ 膵内外分泌	
	D 腹壁・腹膜の構造・機能	① 腹壁の筋肉・筋膜	
		② 神経系	
		③ 腹腔内臓器、腹膜	
6 血液、造血器 約8%	A 血液・造血器の構造・機能	① 骨髄、リンパ組織、脾臓	
		② 血球の産生・崩壊とその調節	造血幹細胞
		③ 血球の形態・機能	
		④ 髄外造血	
		⑤ 鉄・造血ビタミンの代謝	ヘプシジン、葉酸、ビタミンB ₁₂
		⑥ 止血機能と血管壁、血小板、凝固・線溶系	
		⑦ 血漿とその成分	蛋白分画
		⑧ 造血因子、サイトカイン	エリスロポエチン、顆粒球コロニー刺激因子<G-CSF>、トロンボポエチン
7 腎、泌尿器、生殖器 約8%	A 腎の構造・機能	① 腎(糸球体、尿細管、間質、血管系)	
		② 体液の分布と組成	

III 人体の正常構造と機能[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考	
		③ 尿の生成	糸球体濾過、クリアランス、尿の濃縮と希釈	
		④ 水・電解質の代謝調節	ホメオスタシス	
		⑤ 酸塩基平衡		
		⑥ 腎の内分泌機能	エリスロポエチン、ビタミンD、レニン	
		⑦ 血圧の調節		
		B 尿路の構造・機能	① 腎杯、腎盂、尿管、膀胱、前立腺、尿道	
		② 蓄尿、排尿		
	C 男性生殖器の構造・機能	① 精巣、精巣上体、精管、精嚢、前立腺、陰茎		
	② 造精機能			
	③ 勃起			
	④ 射精			
	⑤ 脈管系			
	⑥ 神経系			
	⑦ 視床下部・下垂体・副腎・精巣系			
	D 女性生殖器の構造・機能	① 外陰、会陰、膣、子宮、子宮支持組織、卵巣、卵管、骨盤底筋群、Douglas窩、Bartholin腺		
	② 脈管系			
	③ 視床下部・下垂体・卵巣系			
	④ 性周期(排卵、子宮内膜の周期性変化、月経、性器外周期、基礎体温)			
	8 心理、精神、神経、運動器 約15%	A 心理・精神機能	① 意識	
			② 知覚	
			③ 記憶	
		④ 見当識		
		⑤ 知能		
		⑥ 思考		
		⑦ 感情、気分		
		⑧ 意欲と行動		
		⑨ 自我		
		⑩ 気質、性格、パーソナリティ<人格>		
	B 精神機能と身体	① 睡眠	レム<REM>睡眠、ノンレム睡眠	
		② 日内<概日>リズム<サーカディアンリズム>		
		③ 神経伝達物質		
	C 中枢神経・末梢神経の構造・機能	① 頭蓋、脳、脊柱、脊椎、脊髄、神経根		
		② 脳室、脳槽、髄膜	髄液の分泌・循環・吸収	
		③ 大脳皮質と機能局在	高次脳機能	
		④ 大脳基底核とその連絡路		

III 人体の正常構造と機能[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考	
		⑤ 視床		
		⑥ 視床下部、下垂体		
		⑦ 海馬、扁桃体、辺縁系		
		⑧ 脳幹		
		⑨ 小脳とその連絡路		
		⑩ 脳神経		
		⑪ 嗅覚路		
		⑫ 視覚路		
		⑬ 聴覚・前庭路		
		⑭ 脊髄の機能局在と主な伝導路		
		⑮ 末梢神経		
		⑯ 自律神経系		
		⑰ 運動系伝導路		
		⑱ 感覚系伝導路	デルマトーム	
		⑲ 反射	求心路、中枢、遠心路	
		D 脳・脊髄血管系とその支配領域	① 内頸動脈領域	
			② 椎骨・脳底動脈領域	
			③ Willis動脈輪	
			④ 脳静脈系	硬膜静脈洞
	⑤ 脊髄動脈系			
	E 運動器の構造・機能	① 骨、軟骨、筋、腱、靭帯、末梢神経		
		② 骨格(頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤、四肢)		
		③ 関節(関節軟骨、滑膜、関節包、半月板、椎間板)		
		④ 骨の成長と骨形成・吸収	成長軟骨	
		⑤ 神経支配		
		⑥ 運動生理		
	9 内分泌、代謝、栄養 約8%	A 内分泌器官の構造・機能	① 内分泌器官	視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺<上皮小体>、副腎皮質・髄質、膵島、腎、性腺
			② ホルモンの種類	
			③ ホルモンの合成・分泌とその調節	
④ ホルモンの作用機序				
⑤ 内分泌系と免疫系・精神神経系			ホメオスタシス	
B 代謝と栄養		① 代謝と内分泌		
		② 代謝経路		
		③ 代謝調節		
		④ 食事摂取基準		
		⑤ 栄養素の役割とバランス		

Ⅲ 人体の正常構造と機能[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
10 免疫 約15%	A 免疫系臓器	① 中枢性免疫系臓器(骨髄、胸腺)	
		② 末梢性免疫系臓器(リンパ節、脾、扁桃、粘膜関連リンパ組織<MALT>)	
	B 自然免疫	① 好中球、好酸球、単球、NK細胞	
	C 獲得免疫	① Tリンパ球<T細胞>	ヘルパーT細胞、細胞傷害性T細胞<CTL>、制御性T細胞<Treg>
		② Bリンパ球<B細胞>、形質細胞	
		③ 抗原提示細胞(マクロファージ、樹状細胞)、リンパ濾胞	
	D 免疫系の調節	① 免疫グロブリン	
		② 補体	
		③ サイトカイン、ケモカイン	腫瘍壊死因子<TNF>、インターロイキン<IL>-1、IL-6、IL-17
		④ 免疫応答とその調節	細胞傷害性Tリンパ球抗原4<CTLA-4>、Programmed cell death 1 receptor<PD-1>、PD-1 ligand 1<PD-L1>
		⑤ 組織適合{性}抗原<HLA>	
		⑥ 免疫寛容	

IV 生殖、発生、成長、発達、加齢[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考	
1 妊娠 約15%	A 妊娠の成立・維持	① 受精		
		② 受精卵の卵割と輸送		
		③ 着床		
		④ 妊娠維持の機構		
		⑤ 妊娠持続期間		
	B 胎児付属物	① 胎盤		
		② 卵膜		
		③ 臍帯		
		④ 羊水		
	C 胎児・胎盤系	① 胎児・胎盤循環	動脈管、静脈管、卵円孔	
		② 胎児発育		
		③ 内分泌機能		
		④ ガス・物質交換と代謝		
	D 妊娠による母体変化	① 妊娠徴候		
		② 妊娠による臓器の変化		
E 妊婦の栄養				
2 分娩 約15%	A 分娩の3要素	① 産道(骨産道、軟産道)		
		② 娩出物(胎児、胎児付属物)	胎向、胎位、胎勢	
		③ 娩出力(陣痛、腹圧)		
	B 分娩の経過	① 前徴	産徴、前陣痛<前駆陣痛>	
		② 分娩開始		
		③ 分娩時期(第1期<開口期>、第2期<娩出期>、第3期<後産期>)		
		④ 破水		
		⑤ 児頭の浮動・下降・進入・固定・嵌入		
		⑥ 回旋(第1~4回旋)		
		⑦ 児頭の変形	心形機能、骨重積、産瘤	
		⑧ 児の娩出	排臨、発露	
		⑨ 胎盤娩出		
	3 産褥 約8%	A 産褥の経過	① 後陣痛	
			② 子宮復古	
③ 悪露				
④ 産褥無月経、授乳性無月経				
⑤ 全身の復古				
B 乳汁分泌		① 乳汁分泌の機序		
		② 初乳		
		③ 成熟乳<成乳>		
4 胎児 約8%		A 胎児の発育	① 妊卵<胚>、胎芽、胎児	
			② 器官形成期	薬物、放射線の影響
	③ 成長の評価			
	④ 妊娠期間、胎児の形態			
	B 器官形成と臓器の成熟	① 皮膚		
		② 感覚器		
		③ 呼吸器		

IV 生殖、発生、成長、発達、加齢[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
		④ 循環器	
		⑤ 消化器	
		⑥ 血液、造血器	
		⑦ 腎、泌尿器、生殖器	Wolff管、Müller管
		⑧ 神経、運動器	
		⑨ 内分泌、代謝	
		⑩ 免疫	
5 新生児 約15%	A 成熟徴候	① 在胎週数	
		② 出生時の身長・体重	
		③ 身体的特徴	
		④ 頭囲、胸囲	
		⑤ 大泉門	
	B 新生児の生理	① 呼吸	
		② 循環	臍帯脱落
		③ 体温	
		④ 腎臓、体液	
		⑤ 肝臓、ビリルビン代謝	生理的黄疸
		⑥ 消化	胎便、移行便、生理的体重減少
		⑦ 血液、免疫	IgG、IgA、IgM、胎児ヘモグロビン
	6 小児期 約15%	A 小児の成長	① 発育区分
② 身体発育			成長速度曲線、身長、体重、頭囲、胸囲、プロポーション
③ 生歯			
④ 骨年齢			
⑤ 成長の評価			成長曲線、成長速度曲線、発育指数(Kaup指数、Rohrer指数、肥満度)
B 小児の発達		① 反射(原始反射と姿勢反射)	
		② 運動	運動発達評価
		③ 精神	
		④ 言語発達	
		⑤ 生活習慣	
		⑥ 社会性	
		⑦ 視力、聴力	
		⑧ 評価	スクリーニング法、発達指数、知能指数
C 小児栄養		① 栄養所要量	
		② 母乳栄養	
	③ 人工栄養		
	④ 離乳		
	⑤ 幼児・学童の栄養		
	⑥ 栄養状態の評価		
	⑦ 過剰と欠乏		

IV 生殖、発生、成長、発達、加齢[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
7 思春期、青年期 約8%	A 身体の成長・発達	① 成長スパーク<growth spurt>	
		② 二次性徴	
		③ 思春期の発来機序	
	B 精神発達	① 発達区分	
		② 発達理論	
		③ 思春期危機	
		④ 自我<自己>同一性形成	
	⑤ 学習と社会経験		
8 加齢、老化 約15%	A 加齢による変化、疾患の特徴	① 加齢による機能低下	骨密度測定、運動器症候群<ロコモティブシンドローム>、サルコペニア、フレイル
		② 加齢による疾患の特徴	
	B 高齢者の生理的特徴	① 予備力・適応能力の低下	
		② 検査値の加齢変化	
	C 高齢者の心理的特徴	① 認知機能の低下	
		② 感情・意欲・性格の変化	
		③ 行動の変化	
	D 高齢者の疾患の特徴と頻度の変化	① 非定型的症状	
		② 多疾患合併	ポリファーマシー
		③ 老年症候群	摂食嚥下障害、歩行障害・転倒、排泄障害、栄養障害
		④ 日常生活障害	運動器不安定症
	E 寿命	① アドバンス・ケア・プランニング<ACP>	
		② 人生のプロセス	ライフサイクル

V 病因、病態生理[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 疾病と影響因子 約6%	A 疾病の自然経過	① 病因発生	
		② 病期(前臨床期、臨床期)	
		③ 病型	
	B 内因と外因	① 疾患関連遺伝子	
		② 遺伝子異常と環境因子	遺伝子-環境相互作用 (gene-environment interaction)
	C 生活・職業・社会環境と疾病	① 生活習慣<ライフスタイル>	
		② 環境因子	
		③ 労働環境	
		④ ワークライフバランス	妊娠・出産・育児と労働
		⑤ 技術革新と健康障害	
	D ストレス	① 心理・社会的要因	
		② 自律神経・内分泌機能の変化	
		③ 感情と行動の変化	
		④ ストレス関連疾患の誘発と症状増悪	
⑤ 災害、移民			
2 先天異常 約11%	A 原因と分類	① 単一遺伝子病	
		② 多因子遺伝	
		③ 細胞質遺伝	
		④ 染色体異常	
		⑤ 環境因子による奇形	
	B 遺伝形式	① Mendel遺伝様式	顕性遺伝(優性遺伝)、潜性遺伝(劣性遺伝)
		② 非Mendel遺伝様式	
	C 染色体異常の種類	① 染色体異常の原因	
		② 数的異常	
		③ 構造異常	欠失、転座、iso染色体
		④ モザイク	
		⑤ 隣接遺伝子症候群	
	D 遺伝相談	① 遺伝カウンセリング	
		② 出生前診断	
3 損傷、炎症 約11%	A 創傷の治癒過程	① 一次治癒、二次治癒	
		② 肉芽組織、瘢痕組織、肥厚性瘢痕、ケロイド	
		③ 創傷治癒に影響する因子	
	B 物理的損傷	① 鋭的外傷、穿通性損傷	刺創、銃創、杵創
		② 鈍的外傷、非穿通性損傷	墜落、転落、転倒、狭圧
		③ 爆傷	
		④ 熱傷	
		⑤ 凍傷・凍瘡	
		⑥ 電撃傷	
		⑦ 放射線障害	
		⑧ 褥瘡	

V 病因、病態生理[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考	
	C 化学的損傷	① アルカリによる損傷		
		② 酸による損傷		
	D 炎症の局所的変化	① 組織反応		
		② 症候		
	E 炎症の全身的变化	① 呼吸・循環の変化		
		② 代謝性反応		
③ 免疫反応				
4 感染 約11%	A 概念	① 病原体		
		② 感染防御機構	易感染性宿主<compromised host>	
		③ 感染と発症	キャリア(保菌者)	
		④ 感染様式と経路		
	B 病態	① 市中感染症		
		② 院内<病院>感染症		
		③ 菌交代現象、菌交代症		
		④ 薬剤耐性[antimicrobial resistance<AMR>]		
		⑤ 日和見感染症<opportunistic infection>		
		⑥ 二次感染、複数菌感染		
		⑦ 性感染症<STD、STI>		
		⑧ 垂直感染	母子感染(子宮、産道、母乳)	
		⑨ 輸入感染症		
		⑩ 新興・再興感染症		
		⑪ 人獣共通感染症		
		⑫ バイオテロに関連する感染症		
	5 アレルギー、免疫異常 約6%	A 免疫異常疾患	① 免疫不全 ② 自己免疫疾患	
		B アレルギー	① Coombs分類	アナフィラキシー
	6 腫瘍 約11%	A 腫瘍の疫学	① 罹患<発生>率	
② 生存率				
③ 死亡率				
④ 予防				
B 腫瘍の病因		① 発がん因子		
		② がんと遺伝的要因・外的要因		
		③ がん遺伝子、がん抑制遺伝子		
C 腫瘍の病理・病態		① 腫瘍の定義		
		② 良性、悪性		
		③ 上皮性、非上皮性		
		④ 腫瘍細胞の異型性と多形性		
		⑤ 潜在がん、偶発がん、上皮内がん、表在がん		
	⑥ 早期がん、進行がん、転移がん、重複がん			

V 病因、病態生理[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
		⑦ 局所浸潤	
		⑧ 転移	リンパ行性転移、血行性転移
		⑨ 播種	
		⑩ 悪液質	
		⑪ 再発	
7 循環障害、臓器不全 約6%	A 血行障害	① 阻血、虚血	
		② 充血	
		③ うっ血	
		④ 出血	
	B 梗塞	① 血栓	
		② 塞栓	
	C リンパ還流障害	① 水腫	
		② リンパ漏、リンパ浮腫	
	D ショック	① 血流分布異常性ショック	アナフィラキシー、感染性<敗血症性>、神経原性
		② 循環血液量減少性ショック	出血性、体液喪失
		③ 心原性ショック	心筋性、機械性、不整脈
		④ 閉塞性ショック	心タンポナーデ、肺血栓塞栓症、緊張性気胸
	E 血圧異常	① 高血圧	高血圧緊急症
		② 低血圧	起立性低血圧、起立性調節障害
F 臓器不全	① 多臓器不全<MOF>、多臓器機能障害症候群<MODS>		
8 内分泌・代謝・栄養の異常 約11%	A ホルモンの合成・分泌の異常	① 欠乏と過剰	
		② 機能異常	
	B エネルギー及び栄養素の欠乏と過剰	① 低栄養、肥満	
		② 糖{質}・脂質・蛋白{質}代謝(核酸代謝を含む)の異常	
		③ ビタミン、無機質<ミネラル>、必須<微量>元素、必須<微量>栄養素	
9 中毒、放射線障害 約11%	A 中毒の発生要因		
	B 中毒の病態生理	① 毒物の吸収・分布・代謝・排泄	
		② 中毒量、致死量、LD ₅₀	用量反応曲線
		③ 急性中毒、慢性中毒	
		④ 発がん性	
		⑤ 生殖毒性	
		⑥ 依存	
	C 放射線の身体的影響	① 急性期反応<障害>	
		② 晩期反応<障害>	
③ 妊娠時期と放射線感受性			

V 病因、病態生理[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
	D 放射線の確率的影響・確定的影響	① 閾<しきい>線量、Linear Non-Threshold (LNT) 仮説	
		② 放射線による発がん	
		③ 遺伝的影響	
	E 被ばくの種類	① 内部被ばく ② 外部被ばく	
10 医原病 約6%	A 診断に伴う医原病	① 医師の対応による医原病 ② 診断による医原病	医師による偏見・ステイグマ 診断プロセス、認知バイアス
	B 治療に伴う医原病		
11 死 約11%	A 死因の究明	① 病死及び自然死、外因死、不詳の死	突然死、乳幼児突然死症候群<SIDS>
		② 診療関連死	
		③ 監察医制度	
		④ 司法解剖、行政解剖、承諾解剖、病理解剖	
		⑤ 臨床病理検討会<CPC>	
	B 死後変化	① 早期死体現象	
		② 晩期死体現象	
③ 死後経過時間の推定			

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 全身症候 約17%	A 発熱		
	B 全身倦怠感		
	C 体重減少・増加		
	D ショック		
	E 意識障害		
	F けいれん		
	G めまい		
	H 脱水		皮膚の緊張度<ツルゴール>
	I 浮腫		
	J 黄疸		
	K 顔貌の異常		
2 皮膚、外表 約6%	A 皮疹	① 紅斑	
		② 紫斑、出血斑	
		③ 色素斑、色素異常	
		④ 丘疹	
		⑤ 結節	
		⑥ 腫瘤	
		⑦ 水疱	
		⑧ 膿疱	
		⑨ 囊腫	
		⑩ 膨疹	
		⑪ びらん	
		⑫ 潰瘍	
		⑬ 毛細血管拡張<telangiectasia>	
		⑭ 硬化、瘢痕、萎縮	
		⑮ 鱗屑、痂皮	
		⑯ 苔癬化	
		⑰ 壊疽	
	B 粘膜疹	① アфта	
	C 爪・毛髪異常	① 脱毛	
		② 爪の異常	
	D 光線過敏		
	E 皮膚分泌異常	① 発汗	
② 皮脂			
F デルマドローム			
G 多形皮膚萎縮			
H 脈管異常	① 血管・リンパ管奇形		
I 小奇形			
J リンパ節腫脹	① リンパ節転移	Virchow結節	
K 循環障害	① 末梢循環障害		
L 角化異常			
M 癢痒			
N 疼痛			

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
3 頭頸部、感覚器 約11%	A 頸部の異常	① 頸部腫瘤	
		② 甲状腺腫	
		③ 頸部腫脹	
	B 視機能障害	① 視力障害	
		② 光覚異常	夜盲、昼盲
		③ 色覚異常	
		④ 視野異常	視野狭窄、半盲、暗点
		⑤ 斜視、斜位	
		⑥ 異常眼球運動、眼振	
	C 眼症状	① 眼精疲労	
		② 眼痛	
		③ 眼の充血	
		④ 眼脂	
		⑤ 流涙	
		⑥ 眼の乾燥感	
		⑦ 羞明	
		⑧ 飛蚊症、光視症	
		⑨ 変視症	
		⑩ 眼球運動異常、複視	
	D 眼組織の異常	① 角膜混濁	
		② 房水セル、房水フレア	
		③ 虹彩ルベオーシス	
		④ 水晶体混濁	
		⑤ 白色瞳孔	
		⑥ 網膜・脈絡膜の異常	
	E 外眼部の異常	① 眼瞼下垂、{眼}瞼裂狭小	
		② 閉瞼不全、兎眼	
	F 眼球の異常	① 眼球突出	
		② 眼球陥凹	
	G 耳の異常	① 難聴	伝音難聴、感音難聴、混合性難聴
		② 耳鳴	
		③ 耳閉感	
		④ 耳漏	
		⑤ 耳痛	
	H 鼻の異常	① 鼻閉	
		② 鼻漏	
		③ 鼻出血	Kiesselbach部位
		④ 嗅覚障害	
	I 咽頭・口腔の異常	① 咽頭痛	
		② いびき	
		③ 嚥下障害	
		④ 味覚障害	
J 口および口腔内の異常	① 舌の異常	舌苔、巨大舌、潰瘍、硬結	
	② 口腔粘膜の異常	アフタ	

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考		
		③ 唾液分泌異常	口腔乾燥症		
		④ 口腔内感染			
		⑤ 歯、歯肉の異常	う歯		
		⑥ 口臭			
		⑦ 開口障害、咀嚼障害			
		4 呼吸器、心臓、血管 約11%	A 喉頭の異常	① 嗄声、音声障害 ② 咳嗽 ③ 呼吸困難 ④ 咽喉頭異常感	
		B 気管・気管支の異常	① 咳嗽 ② 喀痰 ③ 血痰、咯血 ④ 喘鳴		
C 呼吸の異常	① 呼吸困難、息切れ ② 頻呼吸 ③ 徐呼吸 ④ 無呼吸	低酸素<O ₂ >血症、高二酸化炭素<CO ₂ >血症、低二酸化炭素<CO ₂ >血症			
D 呼吸リズムの異常	① Kussmaul呼吸 ② Cheyne-Stokes呼吸 ③ Biot呼吸 ④ 呼吸延長				
E 呼吸音の変化	① 呼吸音の増強 ② 呼吸音の減弱・消失 ③ 気管呼吸音 ④ 気管支呼吸音 ⑤ 肺胞呼吸音				
F 副雑音	① 水泡音<coarse crackles> ② 捻髪音<fine crackles> ③ いびき音<rhonchi> ④ 笛音<wheezes> ⑤ 喘鳴<stridor> ⑥ 胸膜摩擦音 ⑦ 声音振盪	増強、減弱			
G 胸痛					
H 失神					
I 胸水					
J 異常心音	① III音 ② IV音 ③ opening snap ④ 収縮中期クリック ⑤ 奔馬調律 ⑥ 心膜ノック音				
K 心雑音	① 無害性雑音				

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
		② 収縮期駆出性<収縮中期性>雑音	
		③ 汎<全>収縮期雑音	
		④ 拡張期輪転様雑音<拡張期ランブル>	
		⑤ 拡張早期灌水様雑音<拡張早期雑音>	
		⑥ 連続性雑音	
		⑦ 心膜摩擦音	
		L 不整脈	① 脈拍の欠損、絶対的不整脈
	M 脈拍異常	① 速脈、遅脈	
		② 大脈、小脈	
		③ 奇脈	
	N 心不全	① 浮腫	
		② 頸静脈怒張	
		③ 息切れ	
	O 血管雑音		
P 血圧異常	① 高血圧		
	② 低血圧		
Q 間欠性跛行	① 四肢の跛行		
R Raynaud現象			
S その他	① チアノーゼ		
	② ばち指		
5 消化器 約11%	A 食欲異常	① 食思<欲>不振	
		② 過食	
	B 嚥下障害	① 嚥下痛	
		② 通過障害	
		③ 誤嚥	
	C 上部消化管逆流症状	① 胸やけ、吞酸	
		② 悪心、嘔吐	
	D 腹痛	① 内臓痛	
		② 体性痛	
		③ 関連痛	
	E 腹膜刺激症状	① 筋性防御	
② 反跳痛		Blumberg徴候	
F 消化管出血	① 吐血		
	② 下血	黒色便<タール便>、血便	
G 便通異常	① 下痢		
	② 便秘		
H 皮膚の異常	① 黄疸	{灰}白色便	
	② 腹壁血管怒張		
I 腹部膨隆、腹部腫瘍	① 鼓腸		
	② 腹水		
	③ 腹部腫瘍		
J 臓器腫大	① 肝腫大		
	② 脾腫		

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
6 血液、造血器、免疫 約11%	A 貧血		
	B リンパ節腫脹	① 反応性	
		② 腫瘍性	
	C 脾腫	① 反応性	
		② 腫瘍性	
D 出血傾向	① 紫斑		
	② 点状出血		
	③ 関節内出血、筋肉内出血		
E 血栓傾向	① 動脈血栓		
	② 静脈血栓		
7 腎、泌尿器、生殖器 約11%	A 尿の量の異常	① 無尿	
		② 乏尿	
		③ 多尿	
	B 下部尿路症状	① 排尿症状	尿勢低下、尿線途絶、排尿遅延、腹圧排尿
		② 蓄尿症状	頻尿、夜間頻尿、尿意切迫感、尿失禁、遺尿<夜尿>
		③ 排尿後症状	残尿感
	C その他の排尿の異常	① 排尿痛	
		② 尿閉	
	D 尿の性状の異常	① 蛋白尿	
		② 糖尿	
		③ ビリルビン尿	
		④ 血尿	
		⑤ 膿尿	
		⑥ 血色素<ヘモグロビン>尿	
		⑦ ミオグロビン尿	
⑧ 乳び尿			
E 精液の性状	① 血精液症		
F 男性性機能の異常	① 勃起障害		
	② 射精障害		
G 女性生殖器の異常	① 外生殖器<外陰部>の異常		
	② 女性性器・膀胱の下垂・脱出		
	③ 帯下		
	④ 月経異常(月経痛、中間痛<排卵痛>、月経周期と量の異常)		
	⑤ 性器出血		
	⑥ 不妊、不育		
H 妊娠時の異常	① 妊娠悪阻		
	② 性器出血		
	③ 下腹痛		
	④ 破水		
8 心理、精神機能 約6%	A 知能障害	① 知的障害<精神遅滞>	
		② 認知症	
		③ 二次性認知症	

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
	B 記憶障害	① Korsakoff症候群	
		② 健忘	
	C 発達障害	① 学習障害	
		② 言語発達遅滞	
	D 失見当識		
	E 知覚障害	① 錯覚	
		② 幻覚	
	F 思考障害	① 思路障害	
		② 妄想	
		③ 強迫観念	
	G 感情障害	① 不安、パニック発作	
		② 恐怖	
		③ うつ状態	
		④ 躁状態	
		⑤ 両価性	
	H 自我障害	① 離人症、転換、解離	
		② させられ<作為>体験	
	I 意欲と行動の障害	① 食欲異常	
		② 性欲異常	
		③ 精神運動性興奮	
④ 昏迷			
⑤ 緊張病症候群			
⑥ 注意欠如、多動			
⑦ 無為、自閉			
J 睡眠障害	① 不眠		
	② 過眠		
K 不定愁訴	① 心気症		
L 病識欠如			
M 疎通性障害			
N 脳器質精神症候群			
O 意識障害	① 意識混濁		
	② もうろう状態		
	③ せん妄		
9 神経、運動器 約11%	A 高次脳機能障害	① 失語	Broca失語、Wernicke失語
		② 失行	
		③ 失認	
		④ 注意障害	
		⑤ 遂行機能障害	
	B 広範な脳機能障害	① 植物状態	
		② 失外套症候群	
		③ 無動性無言症	
		④ 閉じ込め症候群<locked-in syndrome>	
	C 脳神経障害		

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
	D 言語障害	① 構音障害	
		② 言語発達障害	
	E 髄膜刺激症候	① 項部硬直	髄膜炎、くも膜下出血
		② Kernig徴候	
		③ jolt accentuation	
	F 頭囲の異常	① 大頭	
		② 小頭	
		③ 狭頭	
	G 筋の障害	① 筋萎縮	
		② 筋力低下	
		③ 筋肉痛	
		④ 筋けいれん	
	H 反射異常	① 中枢神経(脳・脊髄)症状	Babinski徴候<Babinski反射>、Chaddock反射
		② 末梢神経症状	
	I 運動系の異常	① 運動麻痺	
		② 不随意運動	振戦、ミオクローヌス、舞踏運動、ジストニア、固定姿勢保持困難<asterixis>、アテトーシス、チック
		③ 運動失調	
		④ 錐体路徴候	痙縮
		⑤ 錐体外路徴候	筋強剛、無動、寡動
		⑥ 起立・歩行障害	
	J 平衡・感覚・自律神経系の障害	① 感覚障害	
		② 平衡障害	
		③ 自律神経障害	
	K 頭蓋内圧亢進	① 脳ヘルニア	
L 脊髄・神経根障害	① 脊髄障害	横断性脊髄症、Brown-Séquard症候群	
	② 神経根障害	神経根症	
	③ 末梢神経障害		
M 脊柱の異常	① 姿勢の異常	不良姿勢	
	② 脊柱変形	側弯、後弯、前弯、円背、平背	
	③ 脊椎運動制限		
N 関節やその周辺構造の障害	① 関節拘縮	良肢位<機能肢位>	
	② 関節強直		
	③ 関節弛緩		
	④ 関節動揺性		
	⑤ 関節不安定性		
	⑥ 関節痛		
	⑦ 関節腫脹		
	⑧ 関節破壊、関節変形		

VI 症候[約12%]

大項目	中項目	小項目	備考
		⑨ 腱断裂	
		⑩ 腱拘縮	
		⑪ 付着部痛	アキレス腱付着部痛
	○ その他	① 頭痛、頭重感	
		② 肩凝り	
		③ 背部痛	炎症性腰背部痛
		④ 腰痛	
		⑤ 坐骨神経痛	
10 内分泌、代謝、栄養 約6%	A 肥満、やせ		
	B 身長 of 異常	① 高身長、低身長	
	C 体毛 of 異常	① 多毛、脱毛、男性化徴候	
	D 乳腺 of 異常	① 女性化乳房、乳汁漏出	
	E 糖尿		

VII 診察[約7%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 二次・三次救急の診察 約30%	A 初診時の評価	① バイタルサイン	動脈血酸素飽和度<SpO ₂ >
		② 意識レベル	Japan coma scale<JCS>、Glasgow coma scale<GCS>
		③ 心停止	院外心停止<OHCA>
		④ 血液ガス・電解質分析	ガス交換・酸塩基平衡・電解質の評価
		⑤ 臓器障害の状態把握	
		⑥ 運動機能障害の判定	
		⑦ 緊急治療の要否・部位別治療優先順位の判断	
		⑧ 重症度と緊急度	
	B 病態に応じた診察、評価と原因の鑑別	① ショック	ショック指数<shock index>
		② 意識障害	
		③ 脳血管障害	
		④ 急性呼吸不全	
		⑤ 急性心不全	
		⑥ 急性冠症候群	
		⑦ 急性腹症	
		⑧ 急性消化管出血	
		⑨ 急性肝不全	肝性昏睡
		⑩ 急性腎障害	
⑪ 内分泌・代謝疾患	糖尿病性昏睡、低血糖昏睡、甲状腺クリーゼ、副腎不全		
⑫ 精神科救急	自傷他害、精神運動興奮		
⑬ 重症感染症			
⑭ 外傷			
⑮ 急性中毒	トキシンドローム		
⑯ 熱傷(電撃症、化学的損傷を含む)			
⑰ バイオテロ			
⑱ 急性放射線障害			
2 高齢者の診察と評価 約30%	A 高齢者の診察	① 診察時の注意	
		② 既往歴・合併症の評価	
	B 高齢者総合機能評価 [comprehensive geriatric assessment <CGA>]	① 日常生活動作<ADL>、手段的日常生活動作<IADL>	
		② 認知機能	
		③ 気分・意欲	
		④ 運動機能	
		⑤ 嚥下障害	
⑥ 生活環境			
⑦ 介護の必要度	フレイルの評価		
3 小児の診察 約20%	A 乳幼児の診察	① 一般的診察	
		② 成長・発達の評価	
		③ 育児環境の評価	
		④ 乳幼児の救急時の状態把握	

VII 診察[約7%]

大項目	中項目	小項目	備考	
	B 学童期の児の診察	① 一般的診察		
		② 成長・発達の評価		
		③ 生活環境の評価		
		④ 心理的評価		
	C 思春期の児の診察	① 一般的診察		
		② 二次性徴の評価		
③ 心理的評価				
4 胎児・新生児の診察と評価 約10%	A 胎児の診察	① 胎児の位置の診断	胎位、胎向、胎勢	
		② 胎動		
		③ 胎児心拍数の測定		
		④ 発育・成熟の診断		
		⑤ 出生前診断		
	B 胎児付属物の診察	① 胎盤・臍帯・羊水の診断	羊水量、羊水の性状、胎盤の位置、臍帯動脈血pH	
	C 新生児の診察	① 一般的診察、Apgarスコア		
		② 神経学的診察	フロッピーインファント	
		③ 診察時の注意		
		④ 外表奇形		
	5 妊・産・褥婦と胎児の診察 約10%	A 妊婦の診察	① 妊娠の診断	
			② 妊娠時期の診断	
③ 妊婦健康診査				
④ 胎位・胎向の診断				
⑤ 頸管成熟度			Bishopスコア	
⑥ プレコンセプションケア・カウンセリング				
B 産婦の診察		① 分娩時期の診断		
		② 胎児下降度の診断・表現法		
		③ 児頭回旋の診断・表現法		
		④ 頸管開大度の診断・表現法		
		⑤ 陣痛の観察	胎児心拍数陣痛図<CTG>	
		⑥ パルトグラム		
		⑦ 胎盤剝離徴候		
C 褥婦の診察		① 性器の復古		
		② 全身の復古		
	③ 乳汁分泌			

VIII 検査[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 検体検査 約23%	A 検体の採取と保存	① 採血(種類、部位)	静脈血、動脈血、毛細血管血
		② 採尿	
		③ 採便	
		④ 喀痰採取	
		⑤ 穿刺	胸水、腹水、脳脊髄液、骨髓、Douglas窩、関節液、嚢胞貯留液、膿、羊水
		⑥ 生検、細胞診	
		⑦ 新生児・乳幼児の採血と穿刺法	
		⑧ 法医学的試料の採取	
		⑨ 抗凝固剤、血清・血漿分離法、検体保存法	
		⑩ 保存期間	
	B 一般臨床検査	① 尿	定性、定量、沈渣
		② 糞便	潜血、虫卵
		③ 喀痰	
		④ 脳脊髄液	
		⑤ 穿刺液	
		⑥ 関節液	
		⑦ 精液	
		⑧ 子宮頸管粘液	
		⑨ 膣分泌物	
	C 血液学検査	① 赤血球沈降速度(赤沈)	
		② 血球(網赤血球、赤血球・白血球・血小板形態を含む)	May-Giemsa染色、Wright染色、ペルオキシダーゼ染色、PAS染色、エステラーゼ染色、鉄染色、フローサイトメトリー
		③ 凝固・線溶・血小板機能検査	
		④ 骨髓検査	骨髓穿刺、骨髓生検
		⑤ 溶血に関する検査	
		⑥ 血液型、交差適合試験<クロスマッチ>、輸血関連検査	
	D 生化学検査	① 蛋白、蛋白分画	
		② 生体色素	ビリルビン
		③ 酵素、アイソザイム	
		④ 含窒素成分	
		⑤ 糖質および糖代謝関連物質	
		⑥ 脂質および脂質代謝関連物質	
		⑦ 水、電解質、酸塩基平衡	
		⑧ 重金属、微量元素	
		⑨ ビタミン	
		⑩ ホルモン	
		⑪ 血中薬物・毒物と代謝産物	
		⑫ 腫瘍マーカー	

VIII 検査[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
	E 免疫血清学検査	① 炎症反応	CRP
		② 感染病原体の抗原・抗体	
		③ 自己抗体	
		④ 免疫グロブリン	クラス、サブクラス
		⑤ IgE、特異的IgE検査	
		⑥ 補体	
		⑦ 細胞性免疫	ツベルクリン反応
		⑧ 食菌能	
		⑨ 移植免疫	組織適合{性}抗原<HLA>
		⑩ 細胞表面抗原	
		⑪ 抗体検査法	補体結合反応<CF>、赤血球凝集抑制試験<HI>、中和試験<NT>、酵素結合免疫吸着法<ELISA>、二重免疫拡散<DID>法
	F 微生物学検査	① 病原微生物の同定・検鏡	単染色、Gram染色、Ziehl-Neelsen染色、墨汁染色<墨汁法>、PAS染色、Grocott染色、Giemsa染色、Gimenez染色
		② 病原微生物の培養・分離・同定	
		③ 免疫学的検査による診断	結核菌特異的全血インターフェロンガンマ遊離測定法<IGRA>、微生物抗原検査
		④ 薬剤感受性試験	
		⑤ 病原体別検査	
		⑥ ウレアーゼ試験、尿素呼気試験、尿中・血清抗体、便中抗原	<i>Helicobacter pylori</i>
		⑦ 核酸増幅検査(PCR法、RT-PCR法、pulsed field gel electrophoresis)	
	G 病理組織学検査、細胞診	① 生検検体採取法、内視鏡的鉗子生検、ポリープ切除、内視鏡的粘膜切除、経皮的生検	
		② 生検・手術切除検体取扱法	固定法
		③ 標本作製法(凍結切片を含む)	
		④ 迅速診断の適応、標本の取扱法、診断限界	
		⑤ 細胞診(検体の採取、取扱法、染色法、報告様式)	Papanicolaou染色
		⑥ 病理学的組織検体の染色法	H-E染色、PAS染色、PAM染色、SudanⅢ染色、Congo-Red染色、Gram染色、Ziehl-Neelsen染色、Grocott染色、KB<Klüver-Barrera>染色、May-Giemsa染色、免疫組織化学染色、酵素組織化学染色、FISH法
		⑦ 電子顕微鏡による病理検査	固定法

VIII 検査[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
	H 染色体検査、体細胞遺伝子検査	① 分染法 ② 常染色体 ③ 性染色体 ④ 悪性腫瘍細胞の遺伝子検査	
2 生体機能検査 約23%	A 呼吸機能検査	① スパイロメトリ	
		② 肺気量分画	
		③ 肺拡散能	
		④ flow-volume曲線	
		⑤ 動脈血ガス分析	
		⑥ 睡眠時無呼吸症候群検査	ポリソムノグラフィー
		⑦ ピークフローメトリ	
	B 心血管機能検査	① 心電図検査	Holter心電図検査
		② 心エコー検査	ドプラ法、カラードプラ法
		③ 心筋シンチグラフィ	
		④ 心血管CT・MRI	
		⑤ 心臓カテーテル検査	
		⑥ 心臓電気生理学的検査<EPS>	
		⑦ 足関節上腕血圧比<ABI>	
	C 消化管機能検査	① 唾液分泌検査	
		② 消化管運動機能検査	食道内圧検査、肛門内圧検査
		③ pHモニタリング	
		④ 蛋白漏出試験	α_1 -アンチトリプシン法
		⑤ ガストリン・ペプシノゲン測定	
	D 肝・胆道機能検査	① 色素排泄試験	ICG<indocyanine green>試験
	E 膵機能検査	① 外分泌機能検査	BT-PABA試験<PFD試験>
		② 内分泌機能検査	経口グルコース負荷試験<75g OGTT試験>
	F 内分泌・代謝機能検査	① 血中・尿中ホルモン測定	
		② 内分泌機能検査、負荷試験	
		③ 代謝機能検査	
		④ 核医学的機能検査	甲状腺 ¹²³ I摂取率
	G 腎機能検査	① 推算糸球体濾過量<eGFR>	クレアチニンクリアランス、血清シスタチンC
② 尿蛋白・酵素		尿中アルブミン、 β_2 -マイクログロブリン	
H 排尿機能検査	① 尿流測定		
	② 膀胱内圧測定		
	③ 残尿量測定		
I 脳波検査	① 波形診断	発作性異常波	
	② 異常脳波賦活法		
	③ 聴性脳幹反応<ABR>		
J 筋電図・神経伝導検査	① 針筋電図検査		
	② 反復誘発筋電図検査		

VIII 検査[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
		③ 末梢神経伝導検査	
3 皮膚・感覚器・発声機能検査 約8%	A 皮膚検査	① プリックテスト、皮内テスト	
		② 針反応	
		③ パッチテスト、光パッチテスト	
		④ 光線テスト	
		⑤ 薬剤リンパ球刺激試験(DLST)	
		⑥ 皮膚温測定法、サーモグラフィ	
		⑦ Tzanck試験	
		⑧ Nikolsky現象	
		⑨ ダーモスコピー	
		⑩ 苛性カリ<KOH>直接鏡検法	
		⑪ 皮膚描記法	Darier徴候
		⑫ 硝子圧法	
		⑬ 発汗テスト	
	B 視器一般検査	① 徹照法	
		② 細隙灯顕微鏡検査	
		③ 眼圧検査	
		④ 眼底検査、蛍光眼底造影検査	
		⑤ 隅角検査	
		⑥ 涙液分泌検査	
		⑦ スペキュラーマイクロスコープ	
		⑧ 角膜知覚検査	
		⑨ 角膜曲率測定	
		⑩ 眼軸長検査	
		⑪ 光干渉断層計<OCT>	
	C 視機能検査	① 視力検査	
		② 視野検査	
		③ 色覚検査	
		④ 光覚<暗順応>検査	
		⑤ 屈折検査	
		⑥ 調節検査	
		⑦ 眼位検査	
		⑧ 両眼視機能検査	
		⑨ 網膜電図検査<ERG>	
		⑩ 視覚誘発電位<VEP>	
	D 聴覚・平衡機能検査	① 純音聴力検査<気導・骨導聴力閾値検査>	
		② 自記オージオメトリ	
		③ 語音聴力検査	
		④ 音叉検査	
		⑤ 他覚的聴力検査	聴性脳幹反応<ABR>、耳音響放射<OAE>
		⑥ 幼児聴力検査	遊戯聴力検査、行動反応聴力検査<BOA>
		⑦ ティンパノメトリ	あぶみ骨筋反射

VIII 検査[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
		⑧ 平衡機能検査	重心動揺検査
		⑨ 眼球運動・眼振の検査	自発眼振、頭位・頭位変換眼振、温度眼振(カロリックテスト)、回転眼振
	E 嗅覚・味覚検査	① オルファクトメトリ	
		② 電気味覚検査	
		③ 濾紙ディスク検査	
	F 発声・発語検査	① 発声機能検査	
		② 構音検査	
4 心理・精神機能検査 約8%	A 心理学的検査	① 質問紙法	状態特性不安検査<STAI>
		② 投影法	Rorschachテスト、Beckのうつ病自己評価尺度
		③ 評価尺度	簡易精神症状評価尺度 [Brief Psychiatric Rating Scale<BPRS>]、Hamiltonうつ病評価尺度<Hamilton Rating Scale for Depression>
	B 知能検査	① Wechsler成人知能検査<WAIS-III>	
		② Wechsler児童用知能検査<WISC-IV>	
		③ 田中・Binet知能検査	
		④ Wechsler記憶検査<WMS-R>	
		⑤ スクリーニング検査	Mini-Mental State Examination<MMSE>、改訂長谷川式簡易知能評価スケール
	C 神経心理学的検査	① 標準型失語症検査<SLTA>	
		② リバーミード行動記憶検査<RBMT>	
		③ Wechsler記憶スケール<WMS>	
		④ 前頭葉機能検査<FAB>	
	D 発達検査	① 津守・稲毛式発達検査	
		② スクリーニング法	日本版Denver式発達スクリーニング検査、遠城寺式分析的乳幼児発達検査法
5 妊娠・分娩・胎児・新生児の検査 約8%	A 妊娠の検査	① 妊娠反応	
		② 超音波検査	
	B 妊娠中の検査	① 血液検査	血液型、不規則抗体、感染症検査
		② 超音波検査	子宮頸管長
		③ 分泌物検査	B群連鎖球菌
		④ 出生前検査・診断	羊水検査、NIPT、着床前診断
	C 分娩の検査	① 超音波検査	
		② 胎児心拍数陣痛図<CTG>	

VIII 検査[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
	D 胎児発育・成熟の検査	① 超音波検査	頭殿長<CRL>、大横径<BPD>、大腿骨長<FL>、腹囲<AC>、推定胎児体重<EFBW>
		② 胎児成熟度検査	肺サーファクタント、マイクロバブルテスト
	E 胎児の健全性<健全性、fetal well-being>の検査	① 胎児心拍数陣痛図<CTG>	
		② ノンストレステスト<NST>	
		③ コントラクションストレステスト<CST>	
		④ biophysical profile score<BPS>	
		⑤ 超音波ドプラ法	パルスドプラ法
		⑥ 羊水量	
		⑦ 胎動	
		⑧ 血液ガス分析	臍帯動脈血pH
	F 胎盤・臍帯・羊水の検査	① 超音波検査	羊水ポケット、羊水指数<AFI>
	G 先天異常の検査	① 羊水検査	
		② 絨毛検査	
		③ 胎児血液検査	
		④ 超音波検査	
	H 新生児の検査	① 新生児マススクリーニング	タンデムマス・スクリーニング
		② マイクロバブルテスト	
	6 画像検査 約15%	A 超音波検査	① 原理と検査技術
② ドプラ法、カラードプラ法、パワードプラ法			造影超音波診断法
③ 超音波所見			高・低エコー域、音響陰影、音響増強
④ エコー下穿刺生検			
⑤ 血流測定			
B 電離放射線		① 種類と性質	
		② 放射性同位元素	
		③ 放射能	
C 放射線の単位と測定		① 単位[吸収線量(Gy)、線量当量(Sv)、放射能(Bq)]	
		② 測定	
D 放射線防護3原則		① 行為の正当化	
		② 防護の最適化	
		③ 線量限度の適用	
E 画像検査における医療情報		① 画像情報システム	
		② 画像診断支援システム	
F エックス線単純撮影		① 種類と適応	デジタルラジオグラフィ<DR>、コンピューテッドラジオグラフィ<CR>
		② 兆候(サイン)	
G 血管造影検査		① 種類、適応、禁忌	

VIII 検査[約9%]

大項目	中項目	小項目	備考
		② 合併症	
	H 消化管造影検査	① 種類、適応、禁忌 ② 合併症	
	I 尿路膀胱造影検査	① 種類、適応、禁忌 ② 合併症	
	J その他の造影検査	① 咽頭造影検査 ② 胆道<胆嚢・胆管>造影検査 ③ 内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査<ERCP> ④ 子宮卵管造影検査<HSG> ⑤ 関節造影検査 ⑥ 脊髄腔造影検査<ミエログラフィ>	嚥下機能検査
	K CT	① 原理、CT値 ② 適応 ③ multidetector-row CT<MDCT> ④ 三次元再構成画像(冠状断、矢状断) ⑤ 三次元CT血管撮影<3D-CTA> ⑥ 大腸CT<CTコロノグラフィ>	window幅、windowレベル ヘリカルCT
	L 造影CT	① 適応と禁忌 ② 造影効果 ③ ダイナミックCT	動脈優位相、門脈相、平衡相
	M 磁気共鳴画像検査<MRI>の原理と技術	① 原理、MR信号 ② 安全管理 ③ 撮像法 ④ 磁気共鳴胆管膵管撮影<MRCP> ⑤ 磁気共鳴血管撮影<MRA>	体内植込みデバイス T1強調像、T2強調像、プロトン密度強調像、T2*強調像、FLAIR像、拡散強調像、脂肪抑制法
	N 造影磁気共鳴画像検査<造影MRI>	① 種類、適応、禁忌 ② 造影効果 ③ ダイナミックMRI	
	O 造影剤	① 種類 ② 禁忌 ③ 副作用 ④ アナフィラキシー ⑤ 造影剤腎症 ⑥ 腎性全身性線維症<NSF>	バリウム、ヨード造影剤、ガドリニウム造影剤 危険因子、予防
	P 核医学検査の原理と技術	① 放射性医薬品 ② ポジトロン核種 ③ トレーサー原理	¹⁸ F ¹⁸ F-FDG
	Q シンチグラフィ	① 種類と適応 ② 撮像法	早期相、遅延相、動態検査

Ⅷ 検査[約 9 %]

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
		③ シングルフォトンエミッションCT<SPECT>	
		④ ポジトロン断層撮影<PET>	
		⑤ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影<PET/CT>	
7 内視鏡検査 約15%	A 内視鏡の種類と原理	① 硬性鏡	
		② ファイバースコープ	
		③ 電子スコープ	画像強調内視鏡
		④ 拡大内視鏡	
		⑤ カプセル内視鏡	
		⑥ 超音波内視鏡	
	B 内視鏡検査の適用部位	① 外耳、中耳	
		② 鼻腔、副鼻腔	
		③ 咽頭、喉頭	
		④ 気管、気管支	気管支肺胞洗浄<BAL>
		⑤ 胸腔、縦隔	
		⑥ 食道、胃、十二指腸	
		⑦ 小腸	バルーン内視鏡
		⑧ 結腸、直腸、肛門	
		⑨ 胆道、膵管	
		⑩ 腹腔	
		⑪ 泌尿器(腎杯、腎盂、尿管、膀胱、尿道)	
		⑫ 女性性器	コルポスコピー、子宮鏡
		⑬ 関節腔	
		⑭ 血管	
C 内視鏡検査の基本手技と合併症	① 適応と禁忌	検査前全身状態の評価	
	② 前処置とその合併症	咽頭麻酔、局所麻酔、鎮痛薬、消化管運動抑制薬、腸管洗浄	
	③ 基本手技	挿入、観察、生検、擦過、散布	
	④ 合併症	穿孔、出血	

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考	
1 食事・栄養療法 約10%	A 食事・栄養療法の基本	① 栄養アセスメント		
		② 栄養サポートチーム<NST>		
		③ 食事摂取基準量		
		④ 栄養療法	食事療法	
		⑤ 妊産婦の栄養マネジメント<栄養管理>		
		⑥ 乳幼児の栄養マネジメント<栄養管理>		
		⑦ 高齢者の栄養マネジメント<栄養管理>		
	B 栄養摂取の方法	① 経口栄養		
		② 経管・経腸栄養		
		③ 経静脈栄養	末梢静脈栄養、中心静脈栄養	
	C 適応	① 過栄養		
		② 栄養不良		
		③ ビタミン欠乏症		
		④ 微量元素欠乏		
	D 合併症	① 機械的合併症		
		② 代謝性合併症		
	2 薬物療法 約10%	A 薬物の選択	① 病態	
			② 薬物動態	
			③ 患者要因	
B 薬物動態		① 吸収、分布、代謝、排泄		
		② 一回投与、反復投与		
		③ 治療薬物モニタリング<TDM>		
		④ ゲノム要因		
C 薬効		① 薬物の相互作用(相乗、拮抗、酵素誘導、酵素阻害)	併用禁忌	
		② 食物・嗜好品との相互作用		
		③ 薬効の評価、プラセボ効果		
		④ 適応と禁忌		
D 用法・用量		① 投与経路と種類の特徴(経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻)		
		② 剤型		
		③ 服薬計画	併用薬	
		④ 服薬指導		
		⑤ アドヒアランス		
		⑥ 新生児、小児、妊婦、高齢者	ポリファーマシー	
		⑦ 肝・腎障害		
E 有害事象		① 種類		
		② 機序		
		③ 対策		
F 疾患に応じた薬物治療		① 中枢神経作用薬		
		② 自律神経作用薬		

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考		
		③ 循環器作用薬			
		④ 呼吸器作用薬			
		⑤ 消化器作用薬			
		⑥ 利尿薬			
		⑦ グルココルチコイド及び非ステロイド性抗炎症薬<NSAID>			
		⑧ 抗菌薬	感受性試験、抗菌スペクトル		
		⑨ 抗腫瘍薬			
		⑩ 分子標的薬			
		⑪ 免疫チェックポイント阻害薬			
		⑫ 疾患修飾性抗リウマチ薬<DMARD>			
		⑬ 免疫抑制薬			
		⑭ 麻薬性鎮痛薬・鎮静薬			
		3 輸液、輸血、血液浄化 約10%	A 輸液	① 適応と一般的注意	
				② 輸液の種類と用法	
B 輸血	① 適応と一般的注意				
	② 適正使用				
	③ 血液型、交差適合試験<クロスマッチ>				
	④ 同種輸血と自己輸血				
	⑤ 成分輸血(赤血球液、洗浄赤血球液、濃厚血小板、新鮮凍結血漿、血漿分画製剤)		アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、血液凝固因子製剤		
	⑥ 交換輸血				
	⑦ 輸血副作用		アナフィラキシー		
	⑧ 輸血後GVHD				
	⑨ 輸血関連急性肺障害				
	⑩ 輸血による感染症				
C 血液浄化	① 血液透析				
	② 腹膜透析				
	③ 血漿交換				
	④ 血液濾過				
	⑤ 血液吸着				
4 手術、周術期の管理、麻酔 約10%	A 手術	① 手術適応			
		② 手術時期			
		③ 消毒と滅菌			
		④ 出血			
		⑤ 止血			
		⑥ 凝固・線溶異常			
		⑦ 外科的侵襲に対する反応			
	B 基本的な手術手技	① 切開法			
		② 止血法			
		③ 縫合法、結紮法			
		④ 切除術			

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
		⑤ 摘出術	
		⑥ 植皮術	
		⑦ ドレナージ	
		⑧ 減圧法	
		⑨ 整復・固定術	
		⑩ 鏡視下手術	腹腔鏡、胸腔鏡、関節鏡
	C 術後合併症	① 手術部位感染症<SSI>	清潔操作
		② 呼吸器合併症	
		③ 腎不全	
		④ 肝機能障害	
		⑤ 急性呼吸窮迫症候群<ARDS>	
		⑥ 心不全	
		⑦ ショック	
		⑧ 多臓器不全<MOF>	
		⑨ 多臓器機能障害症候群<MODS>	
	D 術前麻酔管理	① 術前評価	術前合併症の評価と対処
		② 麻酔前投薬	
	E 全身麻酔	① 吸入麻酔	
		② 静脈麻酔	
		③ 筋弛緩薬とその拮抗薬	
		④ 覚醒	
	F 麻酔導入	① 気道確保	
		② 気管挿管	
		③ 声門上器具	
		④ 急速・緩徐導入	
	G 術中麻酔管理	① 麻酔の維持	
		② 輸液	
		③ 輸血	
		④ 酸塩基平衡	
		⑤ 呼気終末二酸化炭素濃度<ETCO ₂ >	
		⑥ P/F<PaO ₂ /FI _{O₂} >比	
		⑦ 人工呼吸	
		⑧ 悪性高熱症	
⑨ 体温			
⑩ モニタリング			
⑪ 麻酔事故			
⑫ 麻酔合併症			
⑬ 年齢に応じた麻酔法		小児・高齢者麻酔	
⑭ 産科麻酔			
⑮ 緊急手術			
⑯ 低体温療法			
H 術後管理と集中治療	① 体位		
	② 術後鎮痛法		
	③ 呼吸循環管理		

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考	
		④ 脳圧管理		
		⑤ 輸液管理		
		⑥ 栄養管理、血糖管理	静脈栄養・経腸栄養の選択	
		⑦ ドレーン管理		
		⑧ 感染予防		
		⑨ 手術創の処置	創傷被覆・保護材	
		⑩ 離床		
		I 局所麻酔	① 脊髄くも膜下麻酔	
			② 硬膜外麻酔	
			③ 伝達麻酔法	
		④ 浸潤・表面麻酔		
		⑤ 適応、禁忌		
		⑥ 局所麻酔薬中毒		
		J 疼痛の管理	① ペインクリニック	
			② 神経障害性疼痛	
			③ アロディニア	
			④ 術後創部痛	
			⑤ 神経ブロック	末梢神経、神経叢、星状神経節
	5 臓器・組織・細胞移植、人工臓器、再生医療 約5%	A 移植の種類と適応	① 臓器・組織・細胞移植	
B 提供者<ドナー>と被移植者<レシピエント>		① 自家・同種・異種移植		
		② 生体臓器提供、心停止下での臓器提供、脳死下での臓器提供		
		③ 日本臓器移植ネットワーク、アイバンク、組織バンク、骨髄バンク		
		④ 臓器提供、意思表示、同意の条件	意思表示カード	
		⑤ 倫理的・社会的・文化的配慮		
C 移植と免疫				
D 人工臓器の種類と適応		① 人工腎臓、血液浄化法		
		② 人工血管、人工弁(機械弁、生体弁、同種生体弁)		
		③ 人工心肺、機械的補助循環(VAD、ECMO、PCPS、IABP)		
		④ ペースメーカー、植え込み型除細動器		
		⑤ 人工関節・骨・腱・靭帯		
		⑥ 眼内レンズ		
	⑦ 人工聴覚器(人工内耳・中耳)			
6 放射線治療 約5%	A 生物学的原理	① DNA損傷と修復		
		② 細胞死と細胞生存曲線		
		③ 正常組織の放射線感受性		
		④ 腫瘍の放射線感受性		
		⑤ 放射線治療可能比<正常組織耐容線量/腫瘍致死線量>		

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
	B 放射線効果の修飾	① 細胞周期	
		② 酸素効果	
		③ 回復・再増殖・再酸素化・再分布<4R>	
		④ 線エネルギー付与<LET>	
		⑤ 線量率効果	
		⑥ 化学療法との併用	
		⑦ 温熱効果	
	C 空間的線量分布	① 深部線量百分率	
		② 線量分布図	
		③ 治療計画	
		④ 標的体積、リスク臓器	
	D 時間的線量配分	① 通常分割照射	
		② 多<過>分割照射	
		③ 少<寡>分割照射	
	E 外照射	① 多門照射	
		② 定位放射線照射	
		③ 強度変調放射線治療<IMRT>	
		④ 画像誘導放射線治療<IGRT>	
		⑤ 粒子線治療	
	F 小線源治療	① 密封小線源治療	腔内照射、組織内照射
	G 核医学治療	① 放射性同位元素<RI>内用療法<内{部}照射療法>	α 線、 β 線
H 放射線治療の適応	① 根治照射		
	② 予防照射		
	③ 緩和照射		
I 集学的治療	① 術前・術中・術後<周術期>照射		
	② 化学放射線療法		
J 照射の合併症	① 急性放射線障害		
	② 晩発性放射線障害		
7 インターベンショナルラジオロジー<IVR> 約5%	A 血管系治療	① 適応	
		② 動脈塞栓術<TAE>	出血、動脈瘤、腫瘍、血管奇形、子宮
		③ 動脈化学塞栓療法<TACE>	肝細胞癌
		④ 動注化学療法	
		⑤ 経皮的血管形成術<PTA>、ステント留置{術}	
		⑥ ステントグラフト内挿術	胸部・腹部大動脈瘤
		⑦ 血栓溶解療法、血栓回収術	
		⑧ カテーテルアブレーション	
		⑨ 動脈瘤コイル塞栓術	脳動脈瘤
		⑩ 硬化療法	静脈瘤
		⑪ 中心静脈<CV>ポート留置術	
	B 非血管系治療	① 適応	

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
		② 方法(エックス線透視下・超音波下・CT{ガイド}下治療)	
		③ 経皮的ドレナージ	胆道、尿路、膿瘍
		④ 碎石術、採石術	胆石、腎結石
		⑤ 拡張術、ステント留置{術}	気道、食道、胆道、消化管
		⑥ 経皮的胃瘻造設	
		⑦ 神経ブロック	
		⑧ 経皮的局所療法	ラジオ波焼灼術、凍結療法、硬化療法
		⑨ 経皮的生検	CTガイド下生検
8 内視鏡治療 約5%	A 種類と適応	① 止血、凝固、結紮、クリッピング	
		② 硬化療法	
		③ 切開、切除	
		④ 拡張、ステント留置{術}	
		⑤ 照射、レーザー	
		⑥ 異物除去術	
		⑦ 内視鏡下手術	内視鏡的粘膜下層剝離術<ESD>、腹腔鏡下手術
9 リハビリテーション 約10%	A リハビリテーションの概念	① 理念	国際障害疾病分類<ICF>
		② 急性期リハビリテーション	
		③ 回復期リハビリテーション	
		④ 維持期リハビリテーション	
		⑤ 地域リハビリテーション	
		⑥ 小児リハビリテーション	
		⑦ がんリハビリテーション	
		⑧ リハビリテーション・チーム	
		⑨ 自立生活支援	
		⑩ 社会参加	
	B リハビリテーションの技術	① 理学療法	筋力増強訓練、関節可動域訓練、基本動作訓練、歩行訓練、促通訓練
		② 作業療法	
		③ 言語聴覚療法	失語症訓練、構音障害訓練、摂食・嚥下訓練
		④ 日常生活動作<ADL>訓練	
		⑤ 認知リハビリテーション	
		⑥ 物理療法	
		⑦ リハビリテーション工学	
		⑧ 職業リハビリテーション	
		⑨ 福祉用具	義肢、装具、移動機器(杖、白杖、歩行器、車椅子、リフト)、自助具、コミュニケーションエイド
		⑩ 住宅改修	
	C 身体障害のリハビリテーション	① 脳血管障害	
		② 頭部外傷	
		③ 脊髄損傷	

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考	
		④ 脳性麻痺		
		⑤ 神経・筋疾患		
		⑥ 骨・関節疾患		
		⑦ 切断		
		⑧ 視覚障害<ロービジョン>	ロービジョンケア	
		⑨ 音声・言語・咀嚼機能障害		
		⑩ 内部障害	心臓、呼吸器、腎臓、膀胱、直腸、小腸	
		⑪ 廃用症候群		
		D 精神・知的・発達障害のリハビリテーション	① 生活指導、療育	
			② 作業療法	
			③ レクリエーション療法	
	④ 生活技能訓練[social skills training<SST>]			
	⑤ デイケア、ナイトケア、ナイトホスピタル			
	⑥ 作業所、授産所		就労支援	
	⑦ 地域生活支援センター	グループホーム、福祉ホーム、福祉工場、援護寮		
	⑧ 患者会、患者クラブ			
	10 二次・三次救急の治療 約15%	A 二次・三次救急に必要な処置	① 気道確保	気管挿管、輪状甲状靭帯穿刺・切開<輪状甲状軟骨間膜穿刺・切開>、気管切開
② 呼吸療法			酸素投与法、人工呼吸療法	
③ 胸骨圧迫			心肺蘇生法<CPR>	
④ 電気ショック(同期、非同期)			AED、除細動、カルディオバージョン	
⑤ 致死的不整脈の治療			緊急ペーシング	
⑥ 輸液療法			蘇生的投与速度・量、静脈選択と確保	
⑦ 輸血療法			緊急度、投与法、合併症	
⑧ 機械的呼吸・循環補助			PCPS、ECMO	
⑨ 外科的気道確保				
⑩ 脳室ドレナージ				
⑪ 心嚢穿刺・ドレナージ			心膜開窓術	
⑫ 胸腔穿刺・ドレナージ				
⑬ 腹腔穿刺・ドレナージ				
⑭ 膀胱穿刺・ドレナージ				
⑮ 内視鏡的止血術				
⑯ 緊急血液浄化法				
⑰ 消化管内圧減圧治療			胃管、イレウス管	
B ショックの治療		① 循環血液量減少性ショック		
		② 心原性ショック		
		③ 血流分布異常性ショック		
	④ 閉塞性ショック			

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
医学総論 IX 治療	C 重症救急病態	① 急性呼吸不全、急性呼吸窮迫症候群<ARDS>	
		② 急性心不全	
		③ 急性腎障害<AKI>	
		④ 急性肝不全	
		⑤ 播種性血管内凝固<DIC>	
		⑥ 多臓器不全<MOF>	
		⑦ 二次性脳障害	
	D 外傷の治療・処置	① 創傷の治療・処置	洗浄、デブリドマン、止血、縫合、創閉鎖、皮膚欠損の処置、破傷風とガス壊疽の予防
		② 捻挫・骨折・脱臼の治療・処置	整復、固定(非観血的、観血的)
		③ 頭部外傷	
		④ 顔面・頸部外傷	眼外傷、頸部刺創
		⑤ 胸部外傷	
		⑥ 腹部外傷	
		⑦ 骨盤・四肢外傷	
		⑧ 脊椎・脊髄外傷	
		⑨ 泌尿器・生殖器外傷	
		⑩ 挫滅<圧挫>症候群<crush syndrome>	
		⑪ 区画<コンパートメント>症候群	筋膜切開
		⑫ 多発外傷、爆傷	部位別治療優先順位の判断、ダメージコントロール
	E 急性中毒の治療・処置	① 胃洗浄、腸洗浄	
		② 強制利尿	
		③ 血液浄化法	
		④ 解毒・拮抗薬	
		⑤ 特殊な治療法	
	F 熱傷の治療・処置	① 全身療法	輸液の公式、感染防止
		② 重症度判定	熱傷面積の評価、熱傷指数、予後指数
		③ 局所療法	減張切開、デブリドマン、局所療法薬、早期焼痂切除、植皮
		④ 気道熱傷の治療	
		⑤ 合併症	急性腎障害、Curling潰瘍、敗血症、栄養障害
	G 環境異常の治療	① 熱中症	
		② 低体温{症}	
		③ 凍傷	
		④ 減圧症、酸素欠乏症、高山病	
⑤ 急性放射線障害			

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考	
11 緩和ケア 約10%	H 異物・溺水・刺咬症の治療・処置	① 異物		
		② 窒息、溺水		
		③ 刺咬症		
	I 産科的救急治療・処置	① 母体・新生児搬送		
		② 急速遂娩	帝王切開、鉗子・吸引分娩	
		③ 胎児機能不全[non-reassuring fetal status<NRFS>]		
		④ 産科ショック		
	J 新生児の救急治療・処置	① 新生児蘇生法		
		② 新生児集中治療室		
	K 乳児の救急治療・処置			
	A 全人的苦痛の緩和	① 緩和ケアの概念	② 全人的苦痛<トータルペイン>の種類と原因	スピリチュアルペイン
			③ 身体的苦痛	
			④ 精神的苦痛	
⑤ 社会的苦痛				
⑥ チームアプローチ				
⑦ 家族ケア				
⑧ 緩和ケアチーム				
⑨ ホスピス、緩和ケア病棟<PCU>				
⑩ 癒し環境				
B 身体的苦痛の緩和			① 疼痛の種類と原因	② 疼痛緩和の薬物療法
	③ がん悪液質の概念と病状把握	がん疼痛、非がん疼痛、WHO方式がん疼痛治療法		
	④ 全身倦怠感・食思<欲>不振・呼吸困難の治療とケア			
	⑤ 胸水・腹水・全身浮腫の治療とケア			
	⑥ 緩和的外科治療			
	⑦ 緩和的放射線治療			
	⑧ インターベンショナルラジオロジー<IVR>			
	⑨ 苦痛緩和のための鎮静<セデーション>			
	C オピオイド<医療用麻薬>	① オピオイドの種類と効果		② タイトレーション
③ レスキュードーズ				
④ オピオイドローテーション				
⑤ 鎮痛補助薬				
⑥ オピオイドの副作用と対策				

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
	D ホスピス・緩和ケア	① ホスピスケアの基準	
		② 生活の質[quality of life<QOL>]の改善・維持	quality of death<QOD>
		③ 緩和ケア病棟<PCU>	
		④ 緩和ケアチーム	デスカンファレンス
		⑤ 在宅ホスピス・緩和ケア	
		⑥ レスパイトケア	
		⑦ 悲嘆のケア<グリーフケア>	
		⑧ 遺族ケア	
12 その他の治療法 約5%	A 酸素療法(急性期、慢性期)	① 合併症	CO ₂ ナルコーシス
		② 在宅酸素療法	ネーザルハイフロー
	B 人工換気	① 持続的気道陽圧法<CPAP>	
		② 圧支持換気<PSV>	
		③ 持続的陽圧換気<CPPV>	呼気終末陽圧換気<PEEP>
		④ 同期式間欠的強制換気<SIMV>	
		⑤ 非侵襲的陽圧換気<NPPV>	
	C 呼吸理学療法	① 排痰法	
		② 呼吸訓練	
	D 物理療法	① 凍結療法	
		② 温熱療法	
		③ 電気治療	
	E 光線療法	① 新生児黄疸に対する治療	
		② PUVA療法	
	F レーザー療法		
	G 体外衝撃波結石破砕術<ESWL>		
	H 高気圧酸素治療	① 合併症	
	I 電気けいれん療法		
	J 免疫療法	① 減感作療法	
		② 免疫グロブリン大量療法	
		③ 抗体療法	生物学的製剤
	K 生殖医療	① 人工授精<AIH>	
		② 生殖補助技術<生殖補助医療><ART>	体外受精-胚移植<IVF-ET>、顕微授精<ICSI>
	L 精神療法	① 精神分析療法	
		② 自律訓練法	
		③ 森田療法	
		④ 行動療法	
		⑤ 認知行動療法	
⑥ 心理教育<psychoeducation>			
⑦ 芸術療法			
⑧ 遊戯療法			
⑨ 家族療法			
⑩ 集団療法			

IX 治療[約13%]

大項目	中項目	小項目	備考
		⑪ カウンセリング	
	M リエゾン精神医学<精神科コンサルテーション>		

医学各論

I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 妊娠の異常	A 妊娠初期の異常	① 妊娠悪阻	a	
		② 異所性妊娠	a	
		③ 流産、切迫流産	a	
		④ 胞状奇胎	b	
		⑤ 頸管無力症	b	頸管縫縮術
		⑥ 不育症、習慣流産	b	
	B 妊娠中・後期の異常	① 妊娠高血圧症候群、子癇、HELLP症候群、加重型妊娠高血圧腎症	a	高血圧合併、可逆性後頭葉白質脳症<PRES>、可逆性脳血管攣縮症候群<RCVS>、周産期心筋症
		② 早産、切迫早産	a	
		③ 常位胎盤早期剝離	a	
		④ 前置胎盤、癒着胎盤	a	
		⑤ 多胎妊娠	b	
		⑥ 前期破水	b	
		⑦ 血液型不適合妊娠	b	
		⑧ 胎盤機能不全	b	
		⑨ ハイリスク妊娠	c	
		⑩ 過期妊娠	c	
		⑪ 羊水過多症、羊水過少症	c	羊水指数<AFI>、最大羊水深度<MVP>、羊水ポケット、Potter症候群
		⑫ 絨毛膜羊膜炎	c	細菌性膣症
	C 合併症妊娠	① 耐糖能異常合併妊娠(妊娠糖尿病、糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病)	a	
		② 妊娠貧血、鉄欠乏性貧血	b	
③ 甲状腺機能異常合併妊娠(亢進症・低下症)		b		
④ 免疫性血小板減少症<ITP>		c		
⑤ 膠原病と類縁疾患		c		
D 母子感染	① HBV、HCV、HIV、HTLV-I、パルボウイルスB19(伝染性紅斑)、B群連鎖球菌、TORCH症候群	b		
2 分娩・産褥の異常	A 前期破水	① 前期破水、早期破水	b	
	B 陣痛の異常	① 微弱陣痛、過強陣痛	b	
	C 産道の異常	① 児頭骨盤不均衡<CPD>、狭骨盤	b	
	D 胎位の異常	① 骨盤位、横位	b	
		② 不正軸進入	c	
	E 回旋進入の異常	① 後方後頭位、低在横定位、高在縦定位	b	
	F 胎盤の異常	① 癒着胎盤	b	
	G 臍帯の異常	① 臍帯下垂、臍帯脱出	c	
H その他の難産	① 遷延分娩、分娩停止、肩甲難産	b		

I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	I 分娩時裂傷	① 子宮破裂、頸管・膣・会陰裂傷	b	帝王切開後分娩
	J 出血と産科ショック	① 弛緩出血、子宮内反症、羊水塞栓症、血栓塞栓症	a	産科DIC、ショック指数<shock index>
		② 播種性血管内凝固<DIC>	a	
	K 産褥の異常	① 産褥期精神障害	a	
		② 子宮復古不全、産褥熱	b	
		③ 乳腺炎、乳汁分泌不全	b	
		④ 産褥血栓症、肺塞栓症	b	
3 胎児・新生児の異常	A 胎児異常	① 胎児機能不全 [non-reassuring fetal status<NRFS>]	a	ノンストレステスト<NST>、胎児心拍数陣痛図<CTG>、biophysical profile score<BPS>
		② 多胎、双胎間輸血症候群	b	一児胎児死亡
		③ 胎児発育不全 [fetal growth restriction<FGR>]	b	
		④ 胎児貧血	b	胎児母体間輸血症候群、胎児中大脳動脈最大血流速度
		⑤ 肺低形成	b	
		⑥ 胎児新生児溶血性疾患<HDFN>、血液型不適合妊娠	c	
		⑦ 形態異常	c	
		⑧ 胎児水腫・胸水・腹水	c	
		⑨ 子宮内胎児死亡	c	
	B 新生児仮死	① 新生児仮死	a	Apgarスコア、臍帯動脈血液ガス
	C 新生児の分類と異常	① 低出生体重児、早期産児	a	
		② 巨大児	b	
		③ 過期産児	c	
	D 新生児の呼吸障害	① 呼吸窮迫症候群<RDS>	a	
		② 胎便吸引症候群<MAS>	b	
		③ 一過性多呼吸	b	
		④ 未熟児無呼吸発作	b	
		⑤ 新生児慢性肺疾患	c	Wilson-Mikity症候群
	E 新生児黄疸	① 高ビリルビン血症	a	
		② 新生児溶血性疾患	b	
	F 新生児のけいれん	① 低血糖、低カルシウム血症	b	
	G 新生児の感染症	① 敗血症、髄膜炎	a	B群連鎖球菌
	H その他の新生児疾患	① ビタミンK欠乏症	a	メレナ
② 頭蓋内出血		b		
③ 帽状腱膜下出血		b		
④ 頭血腫		b		
⑤ 未熟{児}網膜症		b		

I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		⑥ 低体温{症}	c	
		⑦ 先天性甲状腺機能低下症	c	新生児クレチン症
		⑧ 未熟児貧血	c	
		⑨ 分娩外傷	c	
		⑩ 壊死性腸炎	c	
		⑪ 髄膜瘤	c	
4	A 染色体・遺伝子異常	① Down症候群	a	
		② Turner症候群	b	
		③ Klinefelter症候群	b	
		④ trisomy(13番、18番)	c	
	B 性分化・性器の異常	① 膣欠損症、Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser<MRKH>症候群	b	
		② 性分化疾患	c	
	C 内分泌の異常	① アンドロゲン不応症<精巣性女性化症候群>	b	
		② 先天性副腎皮質過形成	c	
	D 成長・発達の障害		a	

II 精神・心身医学的疾患[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
1 症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神および行動障害	A 認知症	① Alzheimer型認知症	a		
		② 脳血管性認知症	a		
		③ Lewy小体型認知症	a		
		④ 前頭側頭葉変性症	b		
	B 器質性精神障害	① Parkinson病、進行性核上性麻痺、Wernicke脳症、多発性硬化症	a		
	C 症状性精神障害	① 肝性脳症、Wilson病、甲状腺機能障害、副腎皮質機能障害、全身性エリテマトーデス<SLE>	a		
	D せん妄		a		
	E 物質関連障害および嗜癖性障害	① アルコール依存症	a		
		② 精神病性障害(アルコール精神病、覚醒剤精神病、大麻精神病)	b	急性中毒、耐性、依存、離脱症状	
		③ ギャンブル障害<ギャンブル依存>、ゲーム依存	c		
2 気分障害、統合失調症と類縁疾患	A 気分<感情>障害	① うつ病	a		
		② 双極性障害<躁うつ病>	a	双極Ⅰ型障害、双極Ⅱ型障害	
	B 統合失調症	① 妄想型統合失調症	a		
		② 破瓜型統合失調症	a		
		③ 緊張型統合失調症	a		
	C 妄想性障害		b		
	D 急性一過性精神病性障害<非定型精神病>		b		
	E 統合失調感情障害		b		
	3 不安症、ストレス関連症、身体的苦痛症または身体的体験症	A 不安障害<不安症>	① パニック障害<パニック症>	a	
			② 全般性不安障害<全般不安症>	b	
③ 社交<社会>不安障害<社交不安症><社交恐怖>			b		
④ 広場恐怖症			b		
B 強迫性障害<強迫症>		① 強迫症、身体醜形症、抜毛症、心気症	b		
C ストレス関連症		① 心的外傷後ストレス障害<心的外傷後ストレス症><PTSD>	a		
		② 適応障害<適応反応症>	a		
D 解離性<転換性>障害<解離症>		① 解離性健忘、解離性同一性障害<解離性同一症>、離人感・現実感喪失症、転換<変換>症<解離性神経学的症状症>	b		
E 身体的苦痛症または身体的体験症		① 身体的苦痛症<身体症状症>	b		

II 精神・心身医学的疾患[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
4 生理的障害、 身体的要因に 関連した障害	A 摂食障害	① 神経性やせ症<神経性無食欲症>	a	
		② 神経性過食症<大食症>	a	
	B 睡眠-覚醒障害	① 不眠症	a	
		② 睡眠時無呼吸症候群	b	
		③ むずむず脚症候群	b	
		④ レム<REM>睡眠行動障害	b	
		⑤ 過眠症	c	ナルコレプシー
		⑥ 概日リズム障害	c	
		⑦ 睡眠時遊行症	c	
		⑧ 周期性四肢運動障害	c	
C 性機能不全		c		
D 心身症		a		
5 小児・青年期の精神・心身医学的疾患、 成人の人格・ 行動障害	A 知的障害<知的発達症><精神遅滞>		a	知的発達症、知的発達障害
	B 学力の特異的発達障害	① 限局性学習障害<発達性学習症>	b	
	C 広汎性発達障害	① 発達性協調運動症<発達性協調運動障害>	c	
		② 常動運動症<常動運動障害>	c	
	D 自閉スペクトラム症		a	
	E 注意欠如多動性障害<注意欠如多動症><ADHD>		a	
	F 秩序破壊的または非社会的行動症群	① 素行障害<素行・非社会的行動症><行為障害>、反抗挑発症	b	
	G 場面緘黙		c	
	H チック症<チック障害>	① Tourette障害<Tourette症>	c	
	I コミュニケーション症<コミュニケーション障害>	① 小児期発症流暢症<小児期発症流暢障害(吃音)>	c	
J 小児期のストレス関連症<関連障害>	① 反応性アタッチメント症<反応性愛着障害>	c		
	② 脱抑制性対人交流症<脱抑制型対人交流障害>	c		
6 成人のパーソナリティ・行動障害	A パーソナリティ障害<パーソナリティ症>	① 境界性パーソナリティ障害<ボーダーラインパターン>	b	
	B 習慣および衝動の障害	① 放火症、窃盗症	c	
	C 性嗜好(パラフィリア)症	① 窃視症、露出症、窃触症、小児性愛、フェティシズム	c	

III 皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 炎症性皮膚疾患	A 湿疹、皮膚炎	① アトピー性皮膚炎	a	Kaposi水痘様発疹症
		② 接触皮膚炎	a	
		③ 脂漏性皮膚炎	a	
		④ 皮脂欠乏性湿疹	a	
		⑤ 貨幣状湿疹	b	
		⑥ 自家感作性皮膚炎	b	
		⑦ うっ滞性皮膚炎	b	
	B 蕁麻疹	① 血管性浮腫	a	Quinke浮腫
	C 痒疹、紅皮症	① 結節性痒疹	a	
		② 色素性痒疹	b	
	D 薬疹、中毒疹	① Stevens-Johnson症候群	a	
		② 中毒性表皮壊死症 <toxic epidermal necrolysis>	a	
		③ 薬剤性過敏症症候群 <drug-induced hypersensitivity syndrome>	a	
		④ 固定薬疹	b	
	E 紅斑症	① 多形滲出性紅斑	a	
		② 結節性紅斑	a	
	F 好中球性皮膚症	① Sweet病	c	
		② 壊疽性膿皮症	b	
	G 皮膚血流障害	① 血栓性静脈炎	a	
		② 凍瘡	a	
		③ 網状皮斑	b	リベド
2 腫瘍・母斑性皮膚疾患	A 母斑	① 脂腺母斑、表皮母斑、色素性母斑、太田母斑	b	
	B 母斑症	① 神経線維腫症1型 <von Recklinghausen病>	b	café au lait斑
		② 結節性硬化症	b	
	C 血管腫	① Kasabach-Merritt症候群	b	
		② 毛細血管奇形<単純性血管腫>	c	くも状血管拡張<血管腫>
		③ 乳児血管腫<イチゴ状血管腫>	c	
		④ 静脈奇形<海綿状血管腫>	c	
	D リンパ管腫		b	
	E 皮膚良性腫瘍	① 粉瘤	a	
		② 脂漏性角化症	b	Leser-Trélat徴候
		③ ケラトアkantオーマ	b	
		④ ケロイド	b	
		⑤ 皮膚線維腫	c	
		⑥ 毛細血管拡張性肉芽腫	c	
		⑦ グロムス腫瘍	c	
⑧ 色素性蕁麻疹		c		
F 皮膚悪性腫瘍	① 有棘細胞癌	a		
	② 基底細胞癌	a		

III 皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
		③ 悪性黒色腫	a		
		④ 日光角化症	b		
		⑤ 乳房外Paget病	b		
		⑥ Bowen病	b		
		⑦ 血管肉腫	b		
		G 皮膚悪性リンパ腫	① 菌状息肉症	a	
		② Sézary症候群	b		
3 その他の皮膚疾患	A 遺伝性水疱症	① Hailey-Hailey病	b		
		② 先天性表皮水疱症	c		
	B 後天性水疱症	① 天疱瘡	a	Nikolsky現象	
		② 水疱性類天疱瘡	a		
		③ 後天性表皮水疱症	c		
	C 遺伝性角化症	① 魚鱗癬	b		
		② 掌蹠角化症	b		
		③ Darier病	b		
		④ 汗孔角化症	c		
	D 炎症性角化症	① 乾癬	a	Auspitz現象、Köbner現象	
		② 扁平苔癬	a		
		③ Gibertばら色秕糠疹	b		
		④ 類乾癬	c		
	E 膿疱症	① 膿疱性乾癬	b		
		② 掌蹠膿疱症	b	関節炎	
	F 光線過敏症	① 慢性光線性皮膚炎	b		
	G 色素異常症	① 尋常性白斑	b		
	H 遺伝性皮膚疾患	① 色素性乾皮症	b		
		② 弾性線維性仮性黄色腫	b		
		③ Werner症候群	c		
	I 発汗異常症	① 多汗症、無汗症	a		
	J 細菌感染症	① せつ、癰	a		
		② 蜂巣炎<蜂窩織炎>	a		
		③ ひょう疽	a		
		④ 丹毒	a		
		⑤ 伝染性膿痂疹	a		
		⑥ ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	a		
		⑦ 壊死性筋膜炎	a	劇症型A群β溶連菌感染症、 <i>Vibrio vulnificus</i>	
		⑧ ガス壊疽	b		
	K 皮膚抗酸菌症	① 非結核性抗酸菌症	b		
		② 尋常性狼瘡	c		
		③ 皮膚腺病	c		
④ 硬結性紅斑		c	結核疹		
L 皮膚真菌症	① 白癬、カンジダ症	a	Celsus禿瘡		
	② 癬風	b			

III 皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		③ スポロトリコーシス	b	
	M 動物性皮膚疾患	① 疥癬	a	
	N ウイルス感染症	① 単純ヘルペス	a	
		② カボジ水痘様発疹症	a	
		③ 尋常性疣贅	a	
	O 瘡瘡	① 尋常性瘡瘡、酒皸様皮膚炎	a	
	P 脱毛症	① 円形脱毛症	a	抜毛症
	Q 肉芽腫症	① 環状肉芽腫	c	糖尿病
	R ムチン沈着症	① 浮腫性硬化症	b	糖尿病
		② 脛骨前粘液水腫	c	
	S アミロイド沈着症	① アミロイド苔癬	b	
4 視機能異常、視神経疾患	A 視機能異常	① 弱視	a	
		② 屈折異常	a	
		③ 調節異常	a	
		④ 色覚異常	c	
	B 視神経疾患	① うつ血乳頭	a	
		② 視神経炎・症	b	
		③ 視神経萎縮	b	
	C 眼位・眼球運動障害	① 斜視、斜位	a	
		② 眼筋麻痺	b	
		③ 動眼神経麻痺	b	
		④ 外転神経麻痺	b	
		⑤ 滑車神経麻痺	c	
	5 眼窩・外眼部・前眼部・眼球の疾患	A 眼窩の異常	① 眼窩腫瘍	b
② 眼球突出			b	
B 眼瞼の異常		① 兔眼{症}	a	
		② 麦粒腫	a	
		③ 霰粒腫	a	
		④ 眼瞼内反	b	
		⑤ 眼瞼外反	b	
		⑥ 眼瞼炎	b	
		⑦ 眼瞼腫瘍	b	
C 眼表面・涙器の異常		① 結膜炎	a	
		② 結膜下出血	a	
		③ 涙道狭窄・閉塞	b	
		④ 涙嚢炎	b	
		⑤ 翼状片	b	
		⑥ 春季カタル	b	
		⑦ 角膜感染症	b	
		⑧ 角膜炎	b	
		⑨ 角膜潰瘍	b	
		⑩ 強膜炎	b	
	⑪ 涙液分泌障害	c		
	⑫ 角膜の色素沈着	c	Kayser-Fleischer輪	

III 皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
6	D 眼組織の異常	① 白内障	a	眼内レンズ挿入術	
		② 緑内障	a		
		③ 水晶体偏位・脱臼	c		
	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患	A ぶどう膜炎	① Behçet病	a	
			② 前部ぶどう膜炎<虹彩炎、虹彩毛様体炎>	b	
			③ 後部ぶどう膜炎<脈絡膜炎、網脈絡膜炎>	b	
			④ Vogt-小柳-原田病	b	
			⑤ サルコイドーシス	b	
		B 汎ぶどう膜炎	① 眼内炎	b	
		C 網膜の異常	① 糖尿病網膜症	a	
			② 網膜剥離	a	
			③ 網膜静脈閉塞症	b	
			④ 網膜動脈閉塞症	b	
			⑤ 網膜色素変性	b	
			⑥ 加齢黄斑変性	b	
⑦ 未熟{児}網膜症	b				
⑧ 変性近視	b				
⑨ 中心性漿液性脈絡網膜症	c				
⑩ 黄斑円孔、網膜上膜<網膜前膜>	c				
D 硝子体の異常	① 硝子体出血	b			
	② 硝子体混濁	c			
E 眼内腫瘍	① 脈絡膜腫瘍	c			
	② 網膜芽細胞腫	c			
7	A 外耳道の異常	① 外耳道異物	a		
		② 耳性帯状疱疹<Ramsay Hunt症候群>	a		
		③ 急性化膿性限局性外耳炎<耳せつ>	b		
		④ 耳垢栓塞	b		
		⑤ 聴器癌、外耳道癌	c		
		⑥ 悪性外耳道炎	c		
	B 鼓膜の異常	① 鼓膜炎	c		
	C 中耳の異常	① 急性中耳炎	a		
		② 滲出性中耳炎	a	鼓膜チューブ挿入術	
		③ 慢性穿孔性<化膿性>中耳炎	b	鼓室形成術	
		④ 耳管機能不全	b		
		⑤ 好酸球性中耳炎	c		
		⑥ 真珠腫性中耳炎	c	乳突洞削開術	
⑦ 耳硬化症		c			
8	A 内耳の異常	① 騒音性難聴	a		
		② 薬剤性難聴	a		
		③ 老人性難聴	a		
		④ 突発性難聴	a		

III 皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
		⑤ 内耳炎	b		
		⑥ 音響外傷	b		
		⑦ 乳幼児の難聴	b	人工内耳埋込み術	
		⑧ ウイルス性難聴	b		
		⑨ 遺伝性難聴	b	若年発症型両側性感音難聴	
		⑩ 外リンパ瘻	c		
		⑪ 機能性難聴	c		
		B 前庭の異常	① Ménière病	a	遅発性内リンパ水腫
			② 良性発作性頭位めまい症	a	
			③ 前庭神経炎	a	
			④ 薬剤性平衡障害	a	
	⑤ 動揺病		a		
	C その他の神経の異常	① 顔面神経麻痺	a	Bell麻痺	
		② 三叉神経痛	a	微小血管減圧術	
		③ Horner症候群	a		
		④ 舌下神経麻痺	b		
		⑤ 小脳橋角部腫瘍	b	聴神経腫瘍	
		⑥ 舌咽神経麻痺、舌咽神経痛	b		
		⑦ 反回神経麻痺	b		
		⑧ 顔面けいれん、眼瞼けいれん	b	微小血管減圧術	
⑨ 軟口蓋麻痺		c			
⑩ 頸静脈孔症候群		c			
9 鼻腔・副鼻腔・喉頭疾患	A 鼻・副鼻腔の異常	① 鼻せつ	a		
		② 鼻炎	a		
		③ 副鼻腔炎	a	好酸球性副鼻腔炎	
		④ 歯性上顎洞炎	a		
		⑤ 副鼻腔真菌症	b		
		⑥ 術後副鼻腔嚢胞	b		
		⑦ 鼻・副鼻腔癌	b		
	B 喉頭の異常	① 感冒<かぜ症候群>	a		
		② クループ症候群	a		
		③ 急性喉頭蓋炎	a		
		④ 急性喉頭炎	a		
		⑤ 喉頭癌	a		
		⑥ 急性声門下喉頭炎	b	仮性クループ	
		⑦ 声帯ポリープ、声帯結節	b		
		⑧ 慢性喉頭炎	c		
		⑨ 喉頭乳頭腫	c		
		10 咽頭・口腔・唾液腺疾患	A 口腔の異常	① 口角炎、舌炎	a
② アフタ性口内炎	a				
③ 急性ヘルペス性口内炎	a				
④ ヘルパンギーナ	a				
⑤ 口腔カンジダ症	b				
⑥ 白斑<板>症	b				

III 皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		⑦ 口腔・口唇の癌、舌癌	b	
	B 顎骨の異常	① 顎関節症	a	
		② 顎骨腫瘍	c	
	C 咽頭の異常	① 咽頭炎	a	
		② 口蓋扁桃肥大症、咽頭扁桃<アデノイド>増殖症	a	
		③ 急性扁桃炎	a	
		④ 扁桃周囲炎・膿瘍	a	
		⑤ 咽後膿瘍	b	
		⑥ 慢性扁桃炎	b	
		⑦ 悪性リンパ腫	b	
		⑧ 上咽頭癌	b	
		⑨ 中咽頭癌	b	
		⑩ 下咽頭癌	b	
		⑪ 若年性血管線維腫	c	
	D 唾液腺の異常	① 唾石症	a	
		② 唾液腺炎	b	
		③ 唾液腺良性腫瘍	b	多形腺腫、Warthin腫瘍
		④ 唾液腺癌	c	
	E 頸部の異常	① 頸部リンパ節炎	a	頸部リンパ節結核
		② 頸部膿瘍	a	深頸部膿瘍、深頸部感染症
		③ リンパ節転移	a	
		④ 先天性頸嚢胞・瘻	c	正中頸嚢胞、側頸嚢胞、下咽頭梨状陥凹瘻
		⑤ リンパ管腫	b	
11 損傷、奇形	A 物理・化学的外傷	① 熱傷	a	
		② 凍傷・凍瘡	a	
		③ 電撃傷	a	
		④ 褥瘡	a	
		⑤ 角・結膜化学損傷	a	角・結膜アルカリ・酸損傷
		⑥ 光線性眼障害	b	紫外線、赤外線、電離放射線、レーザー光線、可視光線
	B 眼の外傷	① 異物	a	
		② 鈍的眼外傷	b	
		③ 鋭的眼外傷	b	
	C 耳の損傷	① 鼓膜損傷	b	外傷性耳小骨離断
		② 耳介血腫	c	
	D 顔面の骨折	① 側頭骨骨折	b	
		② 鼻骨骨折	b	
		③ 顔面骨折	b	Le Fort型骨折、下顎骨骨折、頬骨骨折、上顎骨骨折

Ⅲ 皮膚・頭頸部疾患[約11%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
		④ 前頭骨骨折	b		
		⑤ 吹き抜け骨折	b		
		⑥ 視神経損傷、視神経管骨折	b		
	E	喉頭損傷		b	
	F	皮膚・頭頸部の 先天異常	① 耳介奇形	c	
	② 先天性耳瘻孔		c		
	③ 外耳道閉鎖症		c	Treacher Collins症候群	
	④ 中耳奇形		c	耳小骨連鎖異常	
	⑤ 内耳奇形		c		
	G	唇・口蓋の先天異常	① 唇裂、口蓋裂	c	

IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患[約7%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
1 感染性呼吸器疾患	A 気道感染症	① 感冒<かぜ症候群>、上気道炎	a		
		② 気管支炎、細気管支炎	a		
	B 肺実質感染症	① 市中肺炎	a	細菌、非定型病原体	
		② 院内肺炎	a	耐性菌、日和見感染症 <opportunistic infection>	
		③ 医療・介護関連肺炎	a	嚥下性肺炎患	
	C 肺真菌症	① アスペルギルス症、クリプトコックス症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎	a		
	D 抗酸菌症	① 肺結核症	a		
		② 非結核性抗酸菌症	a	<i>M. avium</i> <i>M. intracellulare</i> <i>M. kansasii</i>	
	E ウイルス	① インフルエンザ、サイトメガロウイルス肺炎	a		
	F 寄生虫症	① 吸虫症、線虫症	c		
	G 胸膜・縦隔の感染症	① 胸膜炎	a	細菌性、結核性	
		② 膿胸	b		
		③ 縦隔炎	c	降下性縦隔炎	
2 気管・気管支・肺の形態・機能異常、外傷	A 気管・気管支の異常	① 気管支拡張症	a	Kartagener症候群	
		② びまん性汎細気管支炎	a		
		③ 閉塞性細気管支炎	a		
		④ 気道異物	a		
		⑤ 気管・気管支の狭窄・閉塞	b		
	B 肺の異常	① 気腫性嚢胞<ブラ、ブレブ>	a		
		② 無気肺	b		
		③ 肺分画症	c		
	C 気管支・肺の異常	① 慢性閉塞性肺疾患<COPD>、喘息COPDオーバーラップ<ACO>	a	慢性気管支炎、肺気腫	
	D 外傷	① 気管・気管支損傷	b		
		② 肺損傷	b		
	3 免疫学的機序が考えられる肺疾患	A アレルギー性疾患	① 気管支喘息、咳喘息	a	
			② アトピー咳嗽	a	
③ 好酸球性肺炎			a	急性、慢性	
④ アレルギー性気管支肺真菌症			b	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症	
⑤ 過敏性肺炎			b		
B 全身性疾患に伴う肺病変		① サルコイドーシス	a		
		② 膠原病および類縁疾患に伴う肺病変	b		
		③ 顕微鏡的多発血管炎	b	ANCA関連血管炎	
		④ 多発血管炎性肉芽腫症	b		
		⑤ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	b		
		⑥ 悪性リンパ腫、白血病	b		
		⑦ Langerhans細胞組織球症	c		

IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患[約7%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		⑧ アミロイドーシス	c	
4 実質性・間質性肺障害	A 特発性間質性肺炎<IIPs>	① 特発性肺線維症<IPF>	a	
		② 非特異性間質性肺炎<NSIP>	b	
		③ 特発性器質化肺炎<COP>	b	
	B IIPs以外の原因不明疾患	① 肺リンパ脈管筋腫症<LAM>	c	
	C 医原性肺疾患及び化学物質による肺障害	① 薬剤性肺障害	b	分子標的薬
		② 化学薬品、重金属などによる肺障害	b	
		③ 放射線肺炎	b	
		④ 酸素中毒	c	
		⑤ パラコート中毒	c	
	D 急性呼吸不全	① 急性呼吸窮迫症候群<ARDS>	a	
	E じん肺症	① 珪肺<silicosis>	b	
		② 石綿肺<asbestosis>	b	
	F 先天異常・代謝異常に基づく疾患	① 肺胞微石症	c	
② 肺胞蛋白症		c		
5 肺循環異常	A 肺水腫	① 心原性肺水腫	a	
	B 肺血栓塞栓症	① 急性肺血栓塞栓症	a	
		② 慢性肺血栓塞栓症	b	
	C 肺高血圧症	① 左心系疾患に伴う肺高血圧症	a	
		② 肺動脈性肺高血圧症	b	特発性、遺伝性、続発性
		③ 肺疾患あるいは低酸素血症に続発する肺高血圧症	b	
D 肺性心		a		
E 肺動静脈瘻		b		
6 気管支・肺・胸膜・縦隔の腫瘍	A 肺悪性腫瘍	① 肺癌	a	腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌、大細胞神経内分泌癌、カルチノイド、大細胞癌
		② 転移性肺腫瘍	a	
	B その他の気管支・肺腫瘍	① 良性肺腫瘍	a	過誤腫、硬化性肺胞上皮腫
		② 気管・気管支腫瘍	c	
	C 縦隔腫瘍	① 悪性リンパ腫	a	
		② 胸腺腫瘍	b	重症筋無力症
		③ 神経原性腫瘍	b	
		④ 嚢胞性腫瘍	b	
		⑤ 胚細胞腫瘍	c	
	D 胸膜腫瘍	① 胸膜中皮腫	a	胸膜プラーク
	E 癌性胸膜炎		a	
	F 癌性リンパ管症		a	

IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患[約7%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
7 胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の形態・機能異常と外傷	A 胸膜	① 気胸、緊張性気胸	a	
		② 血胸	b	
		③ 乳び胸	c	
	B 縦隔	① 縦隔気腫、皮下気腫	a	
		② 気管食道瘻、食道気管瘻	a	
		③ 上大静脈症候群	a	
		④ 反回神経麻痺	a	嗝声
	C 胸壁、横隔膜	① 肋骨骨折	a	flail chest
		② 胸郭変形	b	漏斗胸
		③ 横隔膜ヘルニア	b	
		④ 横隔神経麻痺	c	
		⑤ 横隔膜弛緩症	c	
8 呼吸調節異常	A 異常呼吸	① 睡眠時無呼吸症候群	a	中枢性、閉塞性
		② 過換気症候群	a	
		③ 肺泡低換気症候群	b	原発性、肥満

V 心臓・脈管疾患[約10%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 不整脈	A 上室{性}頻脈性不整脈	① 上室期外収縮	a	
		② 発作性上室頻拍	a	カテーテルアブレーション
		③ WPW症候群	a	
		④ 心房粗動	a	
		⑤ 心房細動	a	カテーテルアブレーション、Maze手術
	B 心室{性}頻脈性不整脈	① 心室期外収縮	a	
		② 心室頻拍	a	植え込み型除細動器
		③ 心室細動	a	
	C 徐脈性不整脈	① 洞不全症候群	a	ペースメーカー
		② 房室ブロック	a	
	D 心臓{性}突然死をきたす症候群	① QT延長症候群	b	torsades de pointes
		② Brugada症候群	b	
		③ 致死性不整脈	b	植え込み型除細動器
2 心不全	A 心不全	① 左心不全	a	左室駆出率の保たれた心不全(HFpEF)、左室駆出率の低下した心不全(HFrEF)
		② 右心不全	a	肺高血圧症
		③ 急性心不全	a	慢性心不全の急性増悪
		④ 慢性心不全	a	
	B 心原性ショック		a	
3 先天性心疾患	A 左右短絡疾患	① 心房中隔欠損症	a	経皮的心房中隔欠損閉鎖術
		② 心室中隔欠損症	a	
		③ 動脈管開存症	b	経皮的動脈管閉鎖術
		④ 房室中隔欠損症<心内膜床欠損症>	c	
	B 右左短絡疾患	① Fallot四徴症	b	Blalock-Taussig短絡手術
		② 三尖弁閉鎖症	c	Fontan手術
		③ 肺動脈閉鎖症	c	純型肺動脈閉鎖
	C その他の複雑心奇形	① Ebstein奇形	b	
		② 完全大血管転位症	b	Rastelli手術、Jatene手術
		③ 大動脈縮窄症、大動脈離断症	b	
		④ 総肺静脈還流異常症	b	
		⑤ 修正大血管転位症	c	
		⑥ 両大血管右室起始症	c	
⑦ 単心房、単心室		c	内臓心房錯位、無脾症、多脾症、Fontan手術	
4 弁膜症	A 僧帽弁疾患	① 僧帽弁狭窄症	a	
		② 僧帽弁閉鎖不全症	a	僧帽弁逸脱症候群
	B 大動脈弁疾患	① 大動脈弁狭窄症	a	経カテーテル大動脈弁留置術<TAVI>

V 心臓・脈管疾患[約10%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	C その他	② 大動脈弁閉鎖不全症	a	
		① 三尖弁閉鎖不全症	a	
		② 感染性心内膜炎	a	
		③ 連合弁膜症	b	
		④ リウマチ性心炎	c	
5 虚血性心疾患	A 狭心症	① 労作性狭心症	a	冠動脈バイパス術、経皮的冠動脈インターベンション
		② 冠攣縮性狭心症	a	
	B 急性冠症候群	① 急性心筋梗塞(ST上昇型・非ST上昇型心筋梗塞)、不安定狭心症	a	心筋梗塞後合併症、経皮的冠動脈インターベンション、冠動脈バイパス術
		② 心臓{性}突然死	a	
	C 陳旧性心筋梗塞		a	心室瘤
	D 無痛性虚血性心疾患		a	
E 川崎病		a	冠動脈瘤	
6 心筋・心膜疾患、心臓腫瘍、外傷	A 心筋炎	① ウイルス性心筋炎	a	
	B 特発性心筋症	① 肥大型心筋症	a	心臓{性}突然死
		② 拡張型心筋症	a	心臓移植
		③ 拘束型心筋症	b	
	C 二次性心筋疾患	① 心アミロイドーシス	b	
		② 心サルコイドーシス	b	
		③ アルコール性心筋症	b	
		④ 虚血性心筋症	b	
		⑤ 筋ジストロフィー	c	
	D 心膜疾患	① 急性心膜炎	a	
		② 心嚢液貯留	a	
		③ 収縮性心膜炎	b	
	E 心タンポナーデ		a	
	F 心臓腫瘍	① 粘液腫	c	
② 転移性腫瘍		c		
G 外傷	① 心臓外傷	c		
	② 血管損傷	c		
H その他	① たこつぼ心筋症	b		
	② 心臓震盪	b		
7 血圧異常	A 本態性高血圧		a	
	B 二次性高血圧	① 腎実質性高血圧症	a	
		② 腎血管性高血圧症	a	
		③ 内分泌性高血圧症	a	原発性アルドステロン症、Cushing症候群、褐色細胞腫、先端巨大症、甲状腺機能亢進症
		④ 睡眠時無呼吸症候群	a	
C 高血圧緊急症		a		

V 心臓・脈管疾患[約10%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	D 起立性低血圧		a	Shy-Drager症候群
8 脈管疾患	A 大動脈疾患	① 胸部大動脈瘤	a	
		② 腹部大動脈瘤	a	
		③ 胸腹部大動脈瘤	a	
		④ 大動脈解離	a	DeBakey分類、Stanford分類
		⑤ 高安動脈炎	b	
		⑥ Marfan症候群	b	大動脈弁輪拡張症、Bentall手術
	B 末梢動脈疾患	① 閉塞性動脈硬化症	a	
		② Raynaud症候群	a	
		③ 急性動脈閉塞症	a	
		④ Buerger病	b	
	C 静脈疾患	① 深部静脈血栓症 [deep vein thrombosis <DVT>]	a	肺血栓塞栓症、下大静脈フィルター留置術
	D リンパ管疾患	① リンパ浮腫	b	

VI 消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
1 食道疾患	A 機能異常	① 食道アカラシア	b		
	B 炎症、感染症	① 胃食道逆流症<GERD>、非びらん性胃食道逆流症<NERD>	a		
		② 逆流性食道炎	a	Barrett上皮、Barrett食道	
	C 腫瘍	① 食道癌	a		
	D 血管病変	① 食道静脈瘤	a	胃静脈瘤（バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術<BRTO>）	
	E 損傷、外傷	① Mallory-Weiss症候群	a		
② 食道穿孔・破裂		b	Boerhaave症候群		
2 胃・十二指腸疾患	A 形態異常	① 上腸間膜動脈性十二指腸閉塞症<上腸間膜動脈症候群>	b		
	B 機能異常	① 機能性ディスぺプシア<FD>	a		
		② 胃切除後症候群	a	ダンピング症候群	
	C 炎症、感染症	① 急性胃炎、急性胃粘膜病変	a		
		② 慢性胃炎	a	萎縮性胃炎、自己免疫性胃炎(A型胃炎)	
		③ 消化性潰瘍(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)	a		
		④ ヘリコバクター・ピロリ感染症	a		
		⑤ 胃アニサキス症	a		
	D 腫瘍	① 胃ポリープ	a	胃底腺ポリープ、過形成性ポリープ	
		② 胃癌	a	スキルス型胃癌	
		③ 胃腺腫	b		
		④ 十二指腸腫瘍	b	十二指腸腺腫・癌、十二指腸乳頭部腫瘍	
	3 小腸・結腸疾患	A 機能異常	① 便秘症	a	
			② 過敏性腸症候群	a	
③ 吸収不良症候群			b	短腸症候群	
B 炎症、感染症		① 感染性腸炎	a	感染性胃腸炎、感染性大腸炎	
		② 虫垂炎	a	McBurney圧痛点、Lanz圧痛点	
		③ 薬物性腸炎	a	偽膜性腸炎、出血性腸炎	
		④ Crohn病	a		
		⑤ 潰瘍性大腸炎	a		
		⑥ 放射線性腸炎	c		
		⑦ 腸結核	c		
C 腫瘍		① 大腸ポリープ、大腸腺腫	a		
		② 結腸癌	a		
		③ 小腸癌	c		
4 直腸・肛門疾患	A 形態異常	① 直腸脱	b		
	B 炎症、感染症	① 肛門周囲膿瘍、痔瘻	a		

VI 消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	C 腫瘍	① 直腸癌	a	
		② 肛門癌、肛門管癌	b	
	D 血管病変	① 痔核	a	
		E 損傷、外傷	① 裂肛	b
5 消化管共通疾患	A 炎症、感染症	① 抗血小板薬による粘膜障害	b	
		② 消化管アレルギー、好酸球性胃腸炎、好酸球性食道炎	b	
		③ 消化管Behçet	c	
	B 腫瘍	① 悪性リンパ腫	b	粘膜関連リンパ組織<MALT>リンパ腫
		② 消化管粘膜下腫瘍<SMT>	b	Gastrointestinal stromal tumor<GIST>、平滑筋腫、脂肪腫、血管腫
		③ 消化管ポリポーシス	b	家族性腺腫性ポリポーシス<FAP>、Turcot症候群、Peutz-Jeghers症候群、Gardner症候群
		④ 消化管神経内分泌腫瘍	c	Neuroendocrine tumor<NET>
	C 代謝性疾患	① 消化管アミロイドーシス	c	
	D 形態異常	① 食道憩室、胃憩室、十二指腸憩室、Meckel憩室、大腸憩室	a	憩室炎、憩室出血
	E 血管性病変	① 虚血性腸炎	a	胃前庭部毛細血管拡張症<GAVE>
		② 毛細血管拡張症<angiodysplasia>	c	
6 肝疾患	A 形態異常	① 肝嚢胞	c	
	B 炎症、感染症	① 急性肝炎	a	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、D型肝炎、E型肝炎
		② 劇症肝炎	a	B型肝炎ウイルスの再活性化
		③ 慢性肝炎	a	B型肝炎、C型肝炎
		④ 肝硬変	a	特発性細菌性腹膜炎
		⑤ 原発性胆汁性胆管炎<原発性胆汁性肝硬変>	a	肝内胆汁うっ滞
		⑥ 薬物性肝障害	a	細胞障害型、胆汁うっ滞型
		⑦ 自己免疫性肝炎	b	
		⑧ 肝膿瘍	b	細菌性・アメーバ性肝膿瘍
		⑨ 寄生虫性肝疾患	c	肝包虫症、日本住血吸虫症
	C 腫瘍	① 肝細胞癌	a	
		② 肝内胆管癌	a	
		③ 転移性肝癌	a	
		④ 肝血管腫	b	

VI 消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	D 血管病変	① 門脈圧亢進症	a	特発性門脈圧亢進症、肝外門脈閉塞症
		② Budd-Chiari症候群	b	
	E 代謝性疾患	① ビリルビン代謝の異常	a	Gilbert症候群、Dubin-Johnson症候群、Rotor症候群
		② 脂肪肝	a	非アルコール性脂肪性肝疾患<NAFLD>、非アルコール性脂肪性肝炎<NASH>
		③ アルコール性肝障害	a	アルコール性肝炎
		④ ヘモクロマトーシス	c	
		⑤ Wilson病	c	
7 胆道疾患	A 形態異常	① 膵・胆管合流異常症	c	
	B 炎症、感染症	① 胆嚢炎	a	
		② 胆管炎	a	Charcot 3徴、Reynolds 5徴、急性閉塞性化膿性胆管炎
		③ 原発性硬化性胆管炎	c	
	C 腫瘍	① 胆嚢ポリープ	a	
		② 胆嚢癌、胆管癌	a	
		③ 胆嚢腺筋腫症	b	
D 代謝性疾患	① 胆石症	a		
8 膵疾患	A 炎症、感染症	① 急性膵炎	a	重症急性膵炎、被包化壊死<WON>、仮性嚢胞
		② 慢性膵炎・膵石症	a	
		③ 自己免疫性膵炎	b	
	B 腫瘍	① 膵癌	a	
		② 膵嚢胞性腫瘍	b	膵管内乳頭粘液性腫瘍<IPMN>、粘液性嚢胞腫瘍<MCN>
		③ 膵神経内分泌腫瘍	b	インスリノーマ、グルカゴノーマ、ガストリノーマ<Zollinger-Ellison症候群>、WDHA症候群
9 横隔膜・腹膜・腹壁疾患	A 形態異常	① 食道裂孔ヘルニア	a	
		② 鼠径ヘルニア	a	
		③ 大腿ヘルニア	a	
		④ 閉鎖孔ヘルニア	b	
		⑤ 腹壁癒痕ヘルニア	b	
	B 炎症、感染症	① 細菌性腹膜炎	a	
		② 横隔膜下・Douglas窩膿瘍	c	
	C 腫瘍	① 癌性腹膜炎	a	
		② 腹膜中皮腫	c	
		③ 腹膜偽粘液腫	c	
		④ 後腹膜腫瘍	c	

VI 消化器・腹壁・腹膜疾患[約13%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
10 急性腹症	A 形態異常	① 単純性腸閉塞	a	
		② 腸管軸捻転症	a	
	B 機能異常	① 麻痺性イレウス	a	
	C 炎症、感染症	① 急性腹膜炎	a	
	D 血管病変	① 嵌頓ヘルニア	a	
		② 絞扼性腸閉塞	a	
		③ 腸間膜動脈閉塞症、非閉塞性腸管虚血症<NOMI>	b	
	④ 腸間膜静脈血栓症	c		
E 損傷、外傷	① 消化管穿孔	a		
11 損傷、異物	A 外傷	① 腹部外傷	a	
	B 損傷	① 消化管損傷	a	
		② 肝損傷	a	
		③ 胆道損傷	b	
		④ 脾損傷	b	
		⑤ 脾損傷	b	
		⑥ 横隔膜損傷	c	
C 異物	① 消化管異物	a	食道異物	
12 その他の重要な小児領域の疾患	A 食道の異常	① 先天性食道閉鎖症	b	Gross分類
	B 胃・十二指腸の異常	① 肥厚性幽門狭窄症	b	Ramstedt手術
		② 先天性十二指腸閉鎖・狭窄症	c	ダブルバブルサイン
	C 小腸・結腸の異常	① 乳児下痢症	b	
		② 新生児壊死性腸炎	b	
		③ 腸重積症	b	カニ爪陰影欠損、target sign
		④ 先天性小腸狭窄・閉鎖症	c	
		⑤ 胎便性腹膜炎	c	
		⑥ 腸回転異常症	c	中腸軸捻転
		⑦ Hirschsprung病<先天性巨大結腸症、腸管無神経節症>	c	
	D 直腸・肛門の異常	① 鎖肛	c	
	E 肝の異常	① 新生児肝炎	b	
		② 体質性黄疸	b	Crigler-Najjar症候群
		③ 肝芽腫	c	α-フェトプロテイン<AFP>
	F 胆道の異常	① 胆道閉鎖症	b	肝門部空腸吻合術
	G 横隔膜・腹壁疾患	① 鼠径ヘルニア	a	
		② 尿管管遺残	b	
③ 横隔膜ヘルニア		b	Bochdalekヘルニア	
④ 臍ヘルニア		b		
⑤ 精巣水腫		b		
⑥ 臍帯ヘルニア		c		
⑦ 腹壁破裂		c		

VII 血液・造血器疾患[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 赤血球系疾患	A 鉄代謝障害	① 鉄欠乏性貧血	a	
		② 鉄過剰症	c	ヘモクロマトーシス、ヘモジデローシス
	B 巨赤芽球性貧血	① ビタミンB ₁₂ 欠乏性貧血	a	悪性貧血
		② 葉酸欠乏性貧血	c	
	C 溶血性貧血	① 自己免疫性溶血性貧血	b	
		② 冷式抗体による溶血性貧血	b	寒冷凝集素症、発作性寒冷血色素尿症
		③ 赤血球破碎症候群	b	
	D 造血不全症	① 再生不良性貧血	a	Fanconi貧血
		② 骨髄異形成症候群<MDS>	a	後天性鉄芽球性貧血
		③ 発作性夜間ヘモグロビン尿症	b	GPIアンカー蛋白
		④ 赤芽球癆	c	Diamond-Blackfan症候群
	E 二次性貧血	① 慢性疾患に伴う貧血<ACD>	a	
		② 腎性貧血、内分泌異常による貧血	a	
F 出血性貧血		a		
G 二次性赤血球増加症		b	エリスロポエチン産生過剰	
2 白血球系疾患とその他の骨髄性疾患	A 無顆粒球症	① 薬剤性無顆粒球症	a	発熱性好中球減少症
	B 骨髄系腫瘍	① 急性骨髄性白血病	a	二次性白血病<治療関連白血病>
		② 慢性骨髄性白血病	a	Philadelphia染色体、BCR-ABL融合遺伝子
		③ 原発性骨髄線維症	b	
		④ 本態性血小板血症	b	
		⑤ 真性赤血球増加症	b	JAK2遺伝子変異
		⑥ 慢性好酸球性白血病	c	好酸球增多症候群<HES>
C 類白血病反応		b		
3 リンパ系疾患	A 急性リンパ性白血病		a	
	B Hodgkinリンパ腫		a	Hodgkin細胞、Reed-Sternberg細胞
	C 成熟B細胞性腫瘍	① 慢性リンパ性白血病	b	
		② 濾胞性リンパ腫	b	
		③ びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	a	
		④ 多発性骨髄腫	a	M蛋白、Bence Jones蛋白、続発性アミロイドーシス
		⑤ 粘膜関連リンパ組織<MALT>リンパ腫	b	
⑥ マクログロブリン血症		b	Waldenstrom、過粘稠度症候群<hyperviscosity症候群>	

VII 血液・造血器疾患[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
		⑦ 意義不明の単クローン性免疫グロブリン血症[monoclonal gammopathy of undetermined significance<MGUS>]	b		
		⑧ Burkittリンパ腫	c		
		⑨ 原発性アミロイドーシス	c		
	D 成熟T細胞・NK細胞腫瘍	① 成人T細胞白血病・リンパ腫	b		
		② 末梢T細胞性リンパ腫	c		
	F 血球貪食症候群<hemophagocytic syndrome>	① 血球貪食性リンパ組織球症[Hemophagocytic lymphohistiocytosis<HLH>]	c	マクロファージ活性化症候群<MAS>	
	G 伝染性単核{球}症		a	Epstein-Barr<EB>ウイルス感染症	
4 出血性疾患と血栓傾向	A 血小板の異常	① 免疫性血小板減少症<ITP>	a	ヘリコバクター・ピロリ感染症	
		② 血栓性血小板減少性紫斑病<TTP>	a	ADAMTS-13	
		③ 溶血性尿毒症症候群<HUS>	a	Vero毒素	
		④ ヘパリン起因性血小板減少症<HIT>	a	HIT抗体	
		⑤ 二次性血小板減少症	b	脾機能亢進症、薬剤性	
		⑥ 後天性血小板機能異常症	b		
	B 凝固因子の異常	① 血友病	a	第Ⅷ因子、第Ⅸ因子	
		② 播種性血管内凝固<DIC>	a		
		③ von Willebrand病	b		
		④ 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症(後天性血友病、後天性von Willebrand病)	b	交差混合試験 抗第Ⅷ因子インヒビター	
		⑤ ビタミンK欠乏症	b		
	C 血管の異常による出血傾向	① IgA血管炎	b		
		② 遺伝性出血性末梢血管拡張症<Osler病>	c		
	D 血栓性疾患	① 先天性血栓形成傾向	b	プロテインC・プロテインS・アンチトロンビン欠乏症	
		② 後天性血栓形成傾向	b	抗リン脂質抗体症候群、血栓性血小板減少性紫斑病<TTP>、溶血性尿毒症症候群<HUS>	
	5 その他の重要な小児領域の疾患	A 小児血液疾患	① ビタミンK欠乏症	a	
			② サラセミア	b	
			③ 新生児出血性疾患	b	
			④ 異常ヘモグロビン症	c	
			⑤ 遺伝性球状赤血球症	c	
⑥ 赤血球酵素異常症			c		
⑦ 先天性血小板機能異常症			c	血小板無力症、Bernard-Soulier症候群	

VII 血液・造血器疾患[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	B 小児造血器腫瘍	① 白血病	a	
		② 悪性リンパ腫	b	

VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 糸球体病変	A 糸球体腎炎	① 急性糸球体腎炎	a	
		② 急速進行性糸球体腎炎症候群	a	血管炎症候群
		③ 慢性糸球体腎炎	a	IgA腎症、膜性腎症
	B 原発性ネフローゼ症候群	① 微小変化群	a	
		② 巣状分節性糸球体硬化症	a	
		③ 膜性腎症	a	
		④ 膜性増殖性糸球体腎炎	c	
	C 全身疾患に伴う腎疾患	① 糖尿病腎症	a	
		② IgA血管炎	b	
		③ アミロイド腎症	c	
		④ 二次性膜性腎症	c	
	D 膠原病に伴う腎病変	① 顕微鏡的多発血管炎	a	ANCA関連血管炎
		② 全身性エリテマトーデス<SLE>	b	ループス腎炎
		③ 全身性強皮症	b	血栓性微小血管症
		④ 関節リウマチ	c	
		⑤ 多発血管炎性肉芽腫症	c	ANCA関連血管炎
	E 血尿・蛋白尿	① 血尿	a	
		② 蛋白尿	a	
	F 遺伝性腎炎	① Alport症候群	c	
		② 基底膜菲薄化症候群<良性家族性血尿>	c	
		③ Fabry病	c	
2 血管・尿細管・間質病変	A 腎血管疾患	① 高血圧性腎硬化症	a	
		② 腎血管性高血圧症	b	
		③ 悪性腎硬化症、悪性高血圧症	b	
		④ 腎梗塞	b	
		⑤ コレステロール塞栓症	b	
		⑥ 全身性強皮症	b	強皮症腎クリーゼ
		⑦ 腎静脈血栓症	c	
		⑧ 結節性多発動脈炎	c	
	B 尿細管間質疾患	① 急性尿細管壊死	a	
		② 急性間質性腎炎	a	薬剤性
		③ 骨髄腫腎	b	
		④ 慢性間質性腎炎	b	
		⑤ Sjögren症候群	b	
		⑥ IgG4関連疾患	b	
		⑦ 中毒性腎障害	b	
		⑧ 尿酸腎症<痛風腎>	c	
	C 尿細管機能異常	① 尿細管性アシドーシス	b	
		② シスチン尿症	b	
		③ 腎性尿崩症	c	
		④ Bartter症候群	c	
		⑤ Gitelman症候群	c	
		⑥ Liddle症候群	c	

VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
3 腎機能の障害による異常	A 急性腎障害<AKI>	① 急性腎障害(腎前性・腎性・腎後性)	a	
		② 急性尿細管壊死	a	
		③ 横紋筋融解症	a	
		④ 溶血性尿毒症症候群<HUS>	a	
	B 慢性腎臓病<CKD>		a	
	C 慢性腎不全	① 腎性貧血	a	
		② ミネラル骨代謝異常<CKD-MBD>	a	
	D 長期透析患者の合併症	① 透析アミロイドーシス	c	
	E 水・電解質の異常	① 脱水と浮腫	a	
		② ナトリウム代謝異常	a	
		③ カリウム代謝異常	a	
		④ カルシウム代謝異常	a	
		⑤ リン代謝異常	b	
		⑥ マグネシウム代謝異常	b	
	F 酸塩基平衡の異常	① アシドーシス	a	
		② アルカローシス	a	
	4 腎・尿路結石と尿路閉塞性疾患	A 結石症	① 腎結石、尿管結石	a
② 膀胱結石、尿道結石			a	
B 尿路閉塞性疾患		① 上部尿路閉塞性疾患	a	水腎症
		② 下部尿路閉塞性疾患	a	
C その他の異常		① 神経因性膀胱	a	
		② 膀胱尿管逆流症	a	
5 腎・尿路・生殖器の炎症	A 腎・尿路の炎症	① 急性腎盂腎炎	a	
		② 膀胱炎	a	間質性膀胱炎
		③ 尿道炎	a	
		④ 腎膿瘍	b	
		⑤ 慢性腎盂腎炎	c	
	B 男性生殖器の炎症	① 前立腺炎	a	
		② 精巣上体炎	a	
		③ 精巣炎	b	
		④ 亀頭包皮炎	b	
	C 女性生殖器の炎症	① 膣炎	a	細菌性膣症、外陰膣カンジダ症、トリコモナス膣炎
		② 骨盤内炎症性疾患<PID>	a	
		③ 外陰炎	b	
		④ Bartholin腺嚢胞、Bartholin腺炎	b	Bartholin腺膿瘍
		⑤ 子宮頸管炎	b	
		⑥ 子宮内膜炎・筋層炎	b	
		⑦ 子宮留膿症・腫	b	
		⑧ 卵管留膿症・腫	b	

VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
	D 性感染症<STD、STI>	① 淋菌性尿道炎	a	クラミジア性尿道炎	
		② 非淋菌性尿道炎	a		
		③ 性器ヘルペス	a		
		④ 尖圭コンジローマ	b		
6 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍	A 腎・上部尿路腫瘍	① 腎細胞癌	a		
		② 腎盂・尿管癌	a		
	B 下部尿路腫瘍	① 膀胱癌	a	上皮内癌	
		② 尿膜管癌	c		
	C 男性生殖器腫瘍	① 前立腺肥大症	a		
		② 前立腺癌	a		
		③ 精巣癌(セミノーマ)	a		
		④ 精巣癌(非セミノーマ)	a		
		⑤ 陰茎癌	b		
	7 女性生殖器の類腫瘍・腫瘍	A 外陰の腫瘍	① Bowen病	b	
② 外陰癌			b		
③ 外陰Paget病			c		
B 子宮頸部の類腫瘍・腫瘍		① 子宮頸部上皮内腫瘍<CIN>	a		
		② 子宮頸癌	a		
		③ 子宮頸管ポリープ	b		
C 子宮体部の類腫瘍・腫瘍		① 子宮内膜増殖症	a		
		② 子宮体癌<子宮内膜癌>	a		
		③ 子宮筋腫	a		
		④ 子宮内膜ポリープ	b		
		⑤ 子宮内膜異型増殖症	b		
		⑥ 子宮肉腫	b		
D 卵巣腫瘍		① 機能性卵巣嚢胞	a		
		② 表層上皮性・間質性腫瘍	a		
		③ 茎捻転	a		
		④ 胚細胞腫瘍	b		
		⑤ 卵巣・卵管・腹膜癌	b		
		⑥ 二次性<転移性>腫瘍	b		
		⑦ 性索間質性腫瘍	c		
E 子宮内膜症、子宮腺筋症		① 子宮内膜症	a	子宮内膜症性嚢胞<卵巣チョコレート嚢胞>	
		② 子宮腺筋症	b		
F 絨毛性疾患		① 胞状奇胎	b		
		② 存続絨毛症	c		
		③ 絨毛癌	c		
G その他の婦人科腫瘍		① 陰癌	c		
8 月経異常、不妊、不育		A 無月経	① 視床下部性無月経	a	神経性やせ症<神経性無食欲症>
			② 下垂体性無月経	b	
			③ 卵巣性無月経	b	
			④ 子宮性無月経	b	

VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	B 月経周期と量の異常	① 希発月経	a	
		② 過多月経	a	
		③ 過少月経	a	
	C 月経困難症	① 機能性月経困難症	b	
		② 器質性月経困難症	b	
	D その他の月経異常	① 月経前症候群	a	
		② 機能性子宮出血	a	
		③ 無排卵	b	
		④ 黄体機能不全	b	
		⑤ 高プロラクチン血症、乳汁漏出症	b	
		⑥ 多嚢胞性卵巣症候群<PCOS>	b	
	E 不妊、不育	① 女性不妊症	a	生殖補助技術<生殖補助医療><ART>、卵巣過剰刺激症候群
		② 閉塞性無精子症(新規)	a	
		③ 非閉塞性無精子症(新規)	a	
		④ 男性不妊症	b	精液検査
⑤ 不育症		c	抗リン脂質抗体症候群	
F 避妊		a	経口避妊薬、緊急避妊	
9 更年期・閉経後障害	A 更年期障害		a	ホルモン補充療法
	B 閉経後障害	① 骨粗鬆症	a	
② 萎縮性膣炎		b		
③ 脂質異常症		b		
④ 動脈硬化		b		
⑤ 冠動脈疾患		b		
10 その他の尿路・生殖器異常	A 腎・尿路の形態異常	① 重複腎盂尿管	a	
		② 異所性尿管開口	a	
		③ 膀胱瘤	a	
		④ 単純性腎嚢胞	b	
		⑤ 嚢胞腎	b	
		⑥ 馬蹄腎	b	
		⑦ 膀胱憩室	b	
	B 男性生殖器の形態異常	① 尿道下裂	a	
		② 包茎	a	
		③ 停留精巣	a	
		④ 精巣・精索水腫	a	
		⑤ 精索静脈瘤	a	
		⑥ 精巣捻転症	a	
	C 女性生殖器の形態異常	① 子宮の奇形	b	
		② 膣脱、子宮脱	b	直腸瘤
	D 尿路・生殖器の機能異常	① 夜尿症<夜間遺尿症>	a	
		② 過活動膀胱	a	
		③ 腹圧性尿失禁	a	
		④ 勃起障害	b	
		⑤ 持続勃起症	c	

VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患[約12%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	E 尿路・生殖器の損傷	① 腎・尿路損傷	a	
		② 陰茎折症	a	
		③ 精巣損傷	a	
		④ 膀胱腔瘻	b	
		⑤ 直腸腔瘻、膀胱腸瘻	b	
		⑥ 子宮腔癒着{症}<Asherman症候群>	b	
		⑦ 尿路・性器異物	c	
		⑧ 女性性器損傷	c	
		⑨ 尿管腔瘻	c	
		⑩ 月経瘻	c	

IX 神経・運動器疾患[約9%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
1 脳血管障害	A 脳内出血	① 高血圧性脳出血	a		
		② アミロイドアンギオパチー	b		
	B くも膜下出血	① 脳動脈瘤、解離性脳動脈瘤	a		脳血管攣縮、正常圧水頭症
	C 脳梗塞	① 心原性脳塞栓症	a		無症候性脳梗塞、Wallenberg症候群、Weber症候群、tissue plasminogen activator<t-PA>
		② アテローム血栓性脳梗塞	a		
		③ ラクナ梗塞	a		
		④ 一過性脳虚血発作	a		
		⑤ 脳動脈狭窄・閉塞	a		
	D その他の血管性障害	① 脳動脈解離	a		
		② 脳動静脈奇形	b		
		③ 静脈洞血栓症	b		
		④ もやもや病	b		
		⑤ 硬膜動静脈瘻	c		内頸動脈海綿静脈洞瘻
	E 脳卒中後遺症	① 偽性球麻痺	a		脳卒中後の急性期・回復期・維持期リハビリテーション
② 廃用性萎縮		a			
③ 脳血管性認知症		a			
2 脳腫瘍	A 脳実質内腫瘍	① 神経膠腫	a		
		② 悪性リンパ腫	b		
		③ 胚細胞腫瘍	c		
		④ 血管芽腫	c		
	B 脳実質外腫瘍	① 髄膜腫	b		
		② 下垂体腫瘍(下垂体腺腫)	b		
		③ 神経鞘腫	b		
		④ 頭蓋咽頭腫	c		
	C 転移性脳腫瘍	① 転移性脳腫瘍	a		
		② 髄膜癌腫症<癌性髄膜炎>	c		
	D 頭蓋骨腫瘍	① 頭蓋骨転移	c		
	3 神経・運動器の感染性・炎症性疾患	A ウイルス感染症	① 脳炎	a	単純ヘルペス脳炎
② 髄膜炎			a		
③ 進行性多巣性白質脳症			c		
④ AIDS認知症<HIV脳症>			c		
⑤ HTLV-I 関連脊髄症<HAM>			c		
B プリオン病		① Creutzfeldt-Jakob病	b		
C 細菌・真菌感染症		① 細菌性髄膜炎	a		
		② 脳膿瘍	a		
		③ 真菌性髄膜炎	b		
		④ 結核性髄膜炎	b		
D 急性脳炎、急性脳症		① 急性散在性脳脊髄炎	b		インフルエンザ脳症
		② 急性小脳性失調症	b		
E 骨・関節感染症		① 化膿性脊椎炎		b	椎間板炎、椎体炎
			② 結核性骨関節炎	b	結核性脊椎炎<脊椎カリエス>、結核性関節炎
		③ 化膿性骨髄炎		b	Brodie骨膿瘍
			④ 化膿性関節炎	b	乳児化膿性股関節炎

IX 神経・運動器疾患[約9%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
4 神経変性・代謝性・脱髄疾患、中毒	A 認知症	① Alzheimer型認知症	a	
		② 脳血管性認知症	a	
		③ Lewy小体型認知症	a	
		④ 前頭側頭葉変性症	b	
	B Parkinson病と類縁疾患	① Parkinson病	a	ジスキネジア
		② Parkinson症候群	a	血管性、薬剤性
		③ 進行性核上性麻痺	b	
		④ 大脳皮質基底核変性症	b	
		⑤ 本態性振戦	b	
	C Huntington病と類縁疾患	① Huntington病	b	
		② ジストニア	b	
		③ 痙性斜頸	b	
		④ 書痙	b	
	D 代謝性疾患	① ビタミンB ₁₂ 欠乏症	a	亜急性連合性脊髄変性症
		② Wernicke脳症	b	
		③ ミトコンドリア病	b	MELAS、MERRF、Kearns-Sayre症候群、Leigh脳症
	E 白質変性症	① 副腎白質ジストロフィー	c	
	F 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、痙性対麻痺	① 脊髄小脳変性症	b	
		② 多系統萎縮症	b	
		③ 遺伝性痙性対麻痺	c	
G 運動ニューロン疾患	① 筋萎縮性側索硬化症<ALS>	a		
	② 球脊髄性筋萎縮症	b		
H 脱髄疾患	① 多発性硬化症	b		
	② 視神経脊髄炎	b		
I 中毒性疾患	① 一酸化炭素中毒<CO中毒>	a		
	② 低酸素脳症	a		
	③ 悪性症候群	a		
5 末梢神経・神経筋接合部・筋疾患	A 末梢神経の炎症性・遺伝性・代謝性疾患	① 多発ニューロパチー	a	
		② Guillain-Barré症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー	b	
		③ 腫瘍随伴性多発ニューロパチー	b	
		④ 単ニューロパチー	b	
		⑤ 多発単ニューロパチー	b	
		⑥ 遺伝性運動感覚性ニューロパチー	c	Charcot-Marie-Tooth病
		⑦ アミロイドニューロパチー	c	
	B 末梢神経の絞扼性疾患	① 手根管症候群	a	Tinel徴候
		② 肘部管症候群	a	
	C 神経痛	① 三叉神経痛	a	
		② 帯状疱疹後神経痛	a	
		③ Tolosa-Hunt症候群	c	

IX 神経・運動器疾患[約9%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
	D 神経筋接合部・筋疾患	① 重症筋無力症	a		
		② 皮膚筋炎、多発性筋炎	a		
		③ Lambert-Eaton筋無力症候群	b		
		④ 筋ジストロフィー	b	Duchenne型、Becker型、肢帯型、顔面肩甲上腕型	
		⑤ 筋強直性ジストロフィー	b		
		⑥ 内分泌・代謝性ミオパチー	b		
		⑦ 周期性四肢麻痺	b		
6 発作性・機能的・自律神経系疾患	A 全般てんかん〈全般起始発作〉	① 強直間代発作〈全般運動発作〉	a		
		② 欠神発作〈全般非運動発作〉	a		
	B 局在関連てんかん〈焦点起始発作〉	① 単純部分発作〈焦点意識保持発作〉	a	側頭葉てんかん、前頭葉てんかん	
		② 複雑部分発作〈焦点意識減損発作〉	a		
	C 一次性頭痛	① 片頭痛	a		
		② 緊張型頭痛	a		
		③ 群発頭痛	a		
	D その他	① てんかん重積状態	a		
	7 脊椎・脊髄疾患、骨・関節系統疾患	A 脊椎・脊髄疾患	① 椎間板ヘルニア	a	
			② 変形性脊椎症	a	
③ 脊髄症、神経根症			a		
④ 脊柱管狭窄症			a		
⑤ 腰痛症			a	急性腰痛症	
⑥ 斜頸			b	筋性斜頸	
⑦ 側弯症			b		
⑧ 後弯症〈円背・亀背〉			b		
⑨ 脊柱靭帯骨化症			b	後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症	
⑩ 脊椎分離症			b		
⑪ 脊椎すべり症			b		
⑫ 強直性脊椎炎			b		
⑬ 脊椎腫瘍・脊髄腫瘍			b		
⑭ 脊髄血管障害			c		
⑮ 横断性脊髄炎			c		
B 骨系統疾患		① 軟骨無形成症	c		
		② 骨形成不全症	c		
C 代謝性骨疾患		① 骨粗鬆症	a		
		② くる病、骨軟化症	b		
		③ 骨Paget病	b		
8 上肢・下肢の運動器疾患、非感染性骨・関節・四肢軟部疾患	A 肩関節の疾患	① 肩関節周囲炎	a		
		② 腱板断裂	a		
		③ 反復性脱臼	b		
		④ 胸郭出口症候群	c		
	B 肘関節の疾患	① 肘内障	a		
		② 上腕骨外側上顆炎	b	テニス肘	

IX 神経・運動器疾患[約9%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	C 手の疾患	① Dupuytren拘縮	b	
		② 強剛母指	c	
	D 股関節の疾患	① 変形性股関節症	a	Trendelenburg徴候
		② 発育性股関節形成不全<先天性股関節脱臼>	b	
		③ 大腿骨頭すべり症	b	
		④ 特発性大腿骨頭壊死症	b	
		⑤ Perthes病	c	
	E 膝関節の疾患	① 変形性膝関節症	a	
		② Osgood-Schlatter病	b	
		③ 半月板障害	b	
		④ 膝蓋軟骨軟化症	c	
	F 下腿・足の疾患	① 外反母趾	a	
		② 内反足	b	
		③ 変形性足関節症	c	
	G 骨壊死	① Kienböck病、特発性膝骨壊死	c	
	H 滑膜炎、関節炎	① 関節リウマチ	a	
		② 痛風、偽痛風	a	
		③ 滑液包炎、腱鞘炎	a	de Quervain病、ばね指
	I 関節症	① 変形性関節症	a	Heberden結節
		② 神経病性関節症	c	Charcot関節
③ 血友病性関節症		c		
J 四肢軟部病変	① ガングリオン	a		
	② 異所性骨化	b		
	③ 腱付着部炎	c		
9 骨・軟部腫瘍と類似疾患	A 原発性良性骨腫瘍	① 骨軟骨腫	b	多発性軟骨性外骨腫
		② 内軟骨腫	b	
		③ 類骨骨腫	c	
		④ 骨巨細胞腫	c	
	B 原発性悪性骨腫瘍	① 骨肉腫	b	
		② 軟骨肉腫	b	
		③ Ewing肉腫	b	
		④ 脊索腫	c	
	C 転移性骨腫瘍		a	
	D 骨腫瘍類似疾患	① 単発性骨嚢腫	c	
		② 動脈瘤様骨嚢腫	c	
		③ 線維性骨異形成	c	
	E 良性軟部腫瘍	① 脂肪腫	b	
		② 血管腫	b	
		③ 神経鞘腫	b	
		④ グロムス腫瘍	c	
		⑤ 類腱腫	c	
	F 悪性軟部腫瘍	① 脂肪肉腫	c	
② 滑膜肉腫		c		
③ 悪性末梢神経鞘腫		c		

IX 神経・運動器疾患[約9%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		④ 平滑筋肉腫	c	
10 神経・運動器の外傷、脳・脊髄の形成異常、神経皮膚症候群、その他	A 頭部外傷	① 脳挫傷	a	外傷性てんかん、高次脳機能障害
		② 脳振盪	a	
		③ びまん性軸索損傷	a	
		④ 急性硬膜外血腫	a	
		⑤ 急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫	a	
		⑥ 外傷性脳内血腫	a	
		⑦ 頭蓋骨骨折	a	
		⑧ 髄液漏・脳脊髄液減少症	c	
	B 脊髄損傷	① 頸髄・胸髄・腰髄損傷	a	脊椎脱臼骨折
	C 骨折	① 脊椎骨折	a	脊椎圧迫骨折
		② 骨盤骨折	a	
		③ 四肢骨折	a	大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折
		④ 開放骨折	a	golden period
	D 関節の外傷	① 捻挫<靭帯損傷>	a	
		② 関節内骨折	a	
		③ 脱臼、亜脱臼	a	
	E 四肢軟部損傷	① 末梢神経損傷	a	腕神経叢損傷、分娩麻痺
		② 四肢血管損傷	a	
		③ 筋断裂、腱断裂	a	
		④ 区画<コンパートメント>症候群	a	Volkmann拘縮
		⑤ 挫滅<圧挫>症候群<crush syndrome>	a	
	F 四肢切断	① 外傷性切断、関節離断	c	
	G スポーツ外傷	① 肩関節脱臼	a	
		② 突き指	a	槌指<mallet finger>
		③ 肉離れ	a	
		④ 足関節捻挫	a	
		⑤ 離断性骨軟骨炎	b	
		⑥ 膝靭帯損傷	b	
		⑦ 半月板損傷	b	
		⑧ アキレス腱断裂	b	
	H 外傷の合併症	① 塞栓症	a	脂肪塞栓症、静脈血栓塞栓症
		② 偽関節	b	
		③ 関節拘縮	b	
		④ 骨壊死	b	
		⑤ 複合性局所疼痛症候群<CRPS>	b	
		⑥ 変形治癒骨折	c	
	I 水頭症	① 閉塞性水頭症	b	
		② 特発性正常圧水頭症	b	
		③ 交通性水頭症	c	
	J 先天奇形	① 頭蓋縫合早期癒合症	c	Crouzon病

IX 神経・運動器疾患[約9%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		② 二分頭蓋、脳瘤	c	
		③ 二分脊椎、髄膜瘤	c	
		④ Chiari奇形	c	
		⑤ 脊髄空洞症	c	
		K 神経皮膚症候群、母斑症	① 神経線維腫症	c
		② 結節性硬化症	c	
		③ Sturge-Weber症候群	c	
		④ von Hippel-Lindau病	c	
11 その他の重要な小児領域の疾患	A 神経変性疾患	① 脊髄性筋萎縮症	b	Werdnig-Hoffmann病
	B 先天性筋疾患	① 先天性筋ジストロフィー	b	福山型
		② 先天性筋強直性ジストロフィー	b	
	C けいれん性疾患、てんかん	① 熱性けいれん	a	
		② 欠神発作<全般非運動発作>	a	
		③ West症候群<點頭てんかん>	b	
		④ 中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかん	b	
		⑤ 憤怒けいれん<泣き入りひきつけ>	c	
		⑥ Lennox-Gastaut症候群	c	
	D 脳・脊髄の形成異常	① 小頭症	c	
	E その他	① 脳性麻痺	b	
		② 亜急性硬化性全脳炎<SSPE>	b	

X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約8%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 間脳・下垂体疾患	A 視床下部機能障害	① 中枢性摂食異常症	b	神経性食思<欲>不振症<拒食症>
		② 中枢性性早熟症	c	
		③ 低ゴナドトロピン性性腺機能低下症	c	Kallmann症候群、Prader-Willi症候群
		④ 視床下部腫瘍	c	頭蓋咽頭腫、胚{細胞}腫
	B 下垂体機能障害	① 先端巨大症	a	
		② ADH不適合分泌症候群<SIADH>	a	
		③ 下垂体腫瘍	a	下垂体腺腫、ラトケ嚢胞
		④ Cushing病	b	Nelson症候群
		⑤ 高プロラクチン血症	b	プロラクチノーマ
		⑥ 下垂体前葉機能低下症	b	Sheehan症候群
		⑦ 中枢性尿崩症	b	
		⑧ 視床下部下垂体炎	c	自己免疫性視床下部下垂体炎<リンパ球性下垂体炎>、IgG4関連疾患
2 甲状腺疾患	A 甲状腺機能障害	① 甲状腺機能亢進症	a	Basedow病<Graves病>、Plummer病
		② 甲状腺機能低下症	a	
	B 甲状腺の炎症	① 慢性甲状腺炎<橋本病>	a	
		② 亜急性甲状腺炎	a	
		③ 無痛性甲状腺炎	b	
	C 甲状腺の腫瘍	① 単純性甲状腺腫	a	
		② 腺腫様甲状腺腫	b	
		③ 甲状腺良性腫瘍	b	
		④ 甲状腺悪性腫瘍	b	
	3 副甲状腺<上皮小体>疾患とカルシウム・リン代謝異常	A 副甲状腺<上皮小体>機能障害	① 副甲状腺<上皮小体>機能亢進症	b
② 副甲状腺<上皮小体>機能低下症			b	
B カルシウム・リン代謝異常		① 骨粗鬆症	a	骨密度測定<DXA>
		② くる病、骨軟化症	b	
		③ 悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症	b	
		④ 腫瘍性低リン血症性骨軟化症	c	
4 副腎皮質・髄質疾患	A 副腎皮質機能障害	① Cushing症候群	a	副腎腺腫、副腎過形成(ACTH非依存性大結節性副腎皮質過形成<AIMAH>)
		② アルドステロン過剰症、原発性アルドステロン症	a	副腎静脈サンプリング
		③ 慢性副腎不全<Addison病>	a	Schmidt症候群
		④ 急性副腎不全	a	
		⑤ 医原性副腎皮質機能低下症	a	
		⑥ 副腎偶発腫	b	

X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約8%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		⑦ 副腎(皮質)癌	b	
	B 副腎髄質機能障害	① 褐色細胞腫	a	
		② 神経芽腫	c	
5 その他の内分泌疾患	A 性腺機能障害	① 原発性性腺機能低下症	c	Klinefelter症候群、Turner症候群
		② 多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)	b	
	B 内分泌腫瘍	① 多発性内分泌腫瘍症	b	MEN I型・II型
		② 膵神経内分泌腫瘍	b	
		③ 消化管ホルモン産生腫瘍(消化管神経内分泌腫瘍)	c	
		④ 異所性ホルモン産生腫瘍	c	
	C その他の機能障害	① ホルモン受容体異常症	c	
6 糖{質}代謝異常	A 糖尿病	① 1型糖尿病	a	劇症型、緩徐進行型
		② 2型糖尿病	a	
		③ 二次性糖尿病、遺伝子異常による糖尿病	b	ステロイド糖尿病
		④ 妊娠糖尿病	b	
	B 糖尿病の高血糖緊急症(急性合併症)	① 糖尿病ケトアシドーシス<DKA>	a	
		② 高血糖高浸透圧症候群	a	
		③ 乳酸アシドーシス	a	
	C 糖尿病の慢性合併症	① 糖尿病腎症	a	
		② 糖尿病神経障害	a	
		③ 糖尿病網膜症	b	
		④ 糖尿病足病変	b	
		⑤ 大血管障害	b	
	D 低血糖症	① インスリノーマ	b	
		② 薬剤による低血糖	b	
		③ 内分泌異常による低血糖	b	
		④ 反応性低血糖	b	
		⑤ インスリン自己免疫症候群	c	
		⑥ 膵外腫瘍	c	
	E 糖代謝異常	① 乳糖分解酵素障害症<乳糖不耐症>	c	
	7 脂質代謝異常	A 脂質異常症	① 原発性高脂血症	a
② 二次性高脂血症			b	
B 肥満症		① 単純性肥満	a	
		② メタボリックシンドローム	a	
		③ 症候性肥満	b	
8 蛋白・アミノ酸代謝異常		A 血清蛋白の異常	① 低蛋白血症	b
	B アミロイドーシス	① 全身性アミロイドーシス	b	原発性、続発性

X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約8%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
9 その他の代謝異常	A ビタミン類の代謝異常	① ビタミン欠乏症	a	ビタミンB ₁ 欠乏症 (Wernicke脳症)、ナイアシン<ニコチン酸>欠乏 (ペラグラ)
		② ビタミン過剰症	c	
	B プリン(尿酸)代謝の異常	① 痛風	a	
		② 高尿酸血症	a	Lesch-Nyhan症候群
	C ポルフィリン代謝の異常	① ポルフィリン症	c	
	D ビリルビン代謝の異常	① 体質性黄疸	b	
	E 金属代謝の異常	① Wilson病	b	Kayser-Fleischer輪
		② ヘモクロマトーシス	c	
		③ 亜鉛欠乏症候群<腸性肢端皮膚炎>	c	
	F コラーゲン代謝の異常	① Marfan症候群	b	
		② Ehlers-Danlos症候群	c	
	G エラスチン代謝の異常	① 弾性線維性偽性黄色腫	c	
	10 その他の重要な小児領域の疾患	A 間脳、下垂体、甲状腺、副腎その他の疾患	① 成長ホルモン分泌不全性低身長	b
② 先天性甲状腺機能低下症			b	クレチン症
③ 先天性副腎皮質過形成			b	
④ 性早熟症<思春期早発症>			b	McCune-Albright症候群
B 糖{質}代謝異常		① アセトン血性嘔吐症<周期性嘔吐症>	a	
		② 新生児低血糖症	b	
C 先天代謝異常		① 糖原病	c	von Gierke病、Pompe病
		② ガラクトース血症	c	
		③ リポドーシス	c	Tay-Sachs病、Gaucher病、Niemann-Pick病、Fabry病
		④ ムコ多糖症	c	Hurler症候群、Hunter症候群
		⑤ 先天性アミノ酸代謝異常症	c	フェニルケトン尿症<高フェニルアラニン血症>、ホモシスチン尿症、メープルシロップ尿症
		⑥ 尿素サイクル異常症	c	オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症
		⑦ 有機酸代謝異常症	c	
11 乳腺・乳房疾患	A 炎症、感染症	① 乳腺炎	b	
	B 腫瘍	① 乳癌	a	乳管癌、小葉癌、乳房Paget病
		② 乳管内乳頭腫	c	
		③ 乳腺線維腺腫	c	

X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患[約8%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		④ 遺伝性乳癌卵巣癌症候群	c	
	C その他の疾患	① 乳腺症	b	

XI アレルギー性疾患、膠原病、免疫病[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 アレルギー性疾患	A 全身性	① アナフィラキシー	a	
		② 薬物アレルギー	a	
		③ 食物アレルギー	a	食物依存性運動誘発アナフィラキシー
		④ 職業性アレルギー	b	
		⑤ 血清病	c	
		⑥ 昆虫・ダニアレルギー	c	
	B 皮膚、粘膜	① アレルギー性結膜炎	a	
		② 鼻アレルギー<アレルギー性鼻炎>	a	
		③ 花粉症	a	口腔アレルギー症候群
		④ 蕁麻疹	a	
		⑤ アトピー性皮膚炎	a	
		⑥ アレルギー性接触皮膚炎	a	
		⑦ 血管性浮腫	a	好酸球性血管性浮腫
	C 呼吸器	① 気管支喘息	a	NSAID過敏喘息
		② アレルギー性気管支肺真菌症	b	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
③ 過敏性肺炎		b		
2 膠原病と類縁疾患	A 関節リウマチとその類縁疾患	① 関節リウマチ	a	
		② 悪性関節リウマチ	b	リウマトイド血管炎
		③ 成人Still病	b	
	B 脊椎関節炎とその類縁疾患	① 体軸性脊椎関節炎、強直性脊椎炎	b	
		② 末梢性脊椎関節炎	b	乾癬性関節炎、反応性関節炎
		③ 掌蹠膿疱症性骨関節炎	b	SAPHO症候群
	C 全身性結合組織病とその関連疾患	① 全身性エリテマトーデス<SLE>	a	
		② Sjögren症候群	a	
		③ 全身性強皮症	a	
		④ 皮膚筋炎、多発性筋炎	a	無筋症性皮膚筋炎、抗合成酵素症候群、免疫介在性壊死性筋症
		⑤ 混合性結合組織病	b	
		⑥ 抗リン脂質抗体症候群	b	
	D 血管炎症候群とその関連疾患	① 巨細胞性動脈炎	a	
		② 顕微鏡的多発血管炎	a	
		③ 多発血管炎性肉芽腫症	a	
		④ Behçet病	a	
		⑤ リウマチ性多発筋痛症	a	
		⑥ 高安動脈炎	b	
		⑦ 結節性多発動脈炎	b	
		⑧ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	b	
		⑨ IgA血管炎	b	

XI アレルギー性疾患、膠原病、免疫病[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		⑩ クリオグロブリン血症性血管炎	c	
		⑪ 抗糸球体基底膜抗体病	c	
	E 結晶誘発性関節炎	① 痛風	a	
		② 偽痛風	a	
	F 自己炎症性疾患	① 家族性地中海熱	b	
	G その他の類縁疾患	① サルコイドーシス	a	
		② 線維筋痛症	a	
		③ 再発性多発軟骨炎	c	
④ アミロイドーシス		b		
⑤ IgG4関連疾患		b		
3 原発性免疫不全症	A 複合型免疫不全症	① 重症複合免疫不全症	c	
	B 抗体産生不全を主とする免疫不全症	① 選択的IgA欠損症	b	
		② 無ガンマグロブリン血症	c	
		③ 高IgM症候群	c	
	C 他のよく定義された免疫不全症	① Wiskott-Aldrich症候群	c	
		② 毛細血管拡張性失調症<ataxia telangiectasia>	c	
		③ 胸腺低形成<DiGeorge症候群>	c	
D 免疫調節不全症	① Chédiak-Higashi症候群	c		
E 食細胞機能不全症	① 慢性肉芽腫症、重症先天性好中球減少症	c		
F 補体欠損症	① 遺伝性血管性浮腫	b	C1インヒビター欠損症	
	② 先天性補体欠損症	c		
4 続発性免疫不全症	A 感染による免疫不全症	① 後天性免疫不全症候群<AIDS>	a	
	B 悪性腫瘍による免疫不全症		a	
	C 自己免疫疾患による免疫不全症		a	
	D 医原性免疫不全症		a	
5 その他の重要な小児領域の疾患	A 膠原病と類縁疾患	① 川崎病	a	
		② 若年性特発性関節炎<JIA>	b	
		③ リウマチ熱	c	心臓弁膜症

XII 感染性疾患[約 8 %]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 ウイルス	A ウイルスによる感染症	① インフルエンザ	a	
		② RSウイルス感染症	a	
		③ 流行性耳下腺炎<ムンプス>	a	
		④ 麻疹	a	
		⑤ 風疹	a	先天性風疹症候群
		⑥ 突発性発疹	a	
		⑦ コクサッキーウイルス感染症、エコー<ECHO>ウイルス感染症	a	ヘルパンギーナ、手足口病、急性出血性結膜炎
		⑧ アデノウイルス感染症	a	咽頭結膜熱、流行性角結膜炎
		⑨ ウイルス性下痢症	a	
		⑩ 単純ヘルペスウイルス感染症	a	
		⑪ 水痘・帯状疱疹	a	
		⑫ Epstein-Barr<EB>ウイルス感染症	a	
		⑬ パルボウイルスB19感染症	a	伝染性紅斑
		⑭ サイトメガロウイルス感染症	a	
		⑮ ヒトパピローマウイルス<HPV>感染症	a	尖圭コンジローマ、子宮頸癌
		⑯ ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、後天性免疫不全症候群<AIDS>	a	
		⑰ ウイルス性肝炎	a	
		⑱ ウイルス性髄膜炎	a	
		⑲ ノロウイルス感染症	a	
		⑳ ロタウイルス感染症	a	
		㉑ 新型コロナウイルス感染症	a	
		㉒ デング熱	b	
		㉓ 伝染性軟属腫	b	
		㉔ ヒトT細胞白血病ウイルス<HTLV-I>感染症	b	
		㉕ 急性灰白髄炎<ポリオ>	c	
		㉖ ジカウイルス感染症	c	
		㉗ エボラ出血熱	c	
		㉘ 日本脳炎	c	
2 細菌	A クラミジア・マイコプラズマ・リケッチアによる感染症	① クラミジア肺炎	a	
		② 性器クラミジア感染症	a	
		③ マイコプラズマ肺炎	a	
		④ オウム病	b	
		⑤ クラミジア結膜炎<トラコーマ>	b	
		⑥ ツツガ虫病	b	
		⑦ Q熱	c	

XII 感染性疾患[約 8 %]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
	B 細菌(抗酸菌<マイコバクテリア>を除く)による感染症	① 連鎖球菌感染症	a	
		② 腸球菌感染症	a	
		③ 肺炎球菌感染症	a	
		④ 黄色ブドウ球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌<MRSA>感染症	a	トキシックショック症候群<TSS>
		⑤ 表皮ブドウ球菌感染症	a	
		⑥ 淋菌感染症	a	
		⑦ 髄膜炎菌感染症	a	Waterhouse-Friderichsen症候群
		⑧ ヘリコバクター・ピロリ感染症	a	
		⑨ リステリア感染症	a	
		⑩ モラクセラ・カタラリス感染症	a	
		⑪ サルモネラ感染症	a	腸チフス、パラチフス、非チフス性サルモネラ症
		⑫ 百日咳	a	
		⑬ 大腸菌感染症	a	腸管出血性大腸菌感染症
		⑭ クレブシエラ感染症	a	
		⑮ セラチア感染症	a	
		⑯ 腸炎ビブリオ感染症	a	
		⑰ レジオネラ症	a	
		⑱ 緑膿菌感染症	a	
		⑲ アシネトバクター感染症	a	
		⑳ ガス壊疽	a	壊死性筋膜炎
		㉑ クロストリジウム・ディフィシル腸炎	a	CDトキシン
		㉒ バクテロイデス感染症	a	
		㉓ 梅毒	a	
		㉔ ヘモフィルス感染症	b	インフルエンザ{桿}菌感染症、軟性下疳
		㉕ 細菌性赤痢	b	
		㉖ コレラ	b	
		㉗ 破傷風	b	
		㉘ ボツリヌス症	b	バイオテロ
		㉙ 放線菌症	b	
		㉚ ノカルジア症	b	
		㉛ ジフテリア	c	
3 抗酸菌<マイコバクテリア>	A 抗酸菌<マイコバクテリア>による感染症	① 結核	a	
		② 非結核性抗酸菌症	a	
		③ Hansen病	c	
4 真菌、寄生虫、その他の病原体	A 真菌、寄生虫、その他の病原体による感染症	① カンジダ症	a	
		② アスペルギルス症	a	
		③ 白癬	a	

XII 感染性疾患[約8%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
		④ ニューモシスチス肺炎	a	
		⑤ マラリア	a	
		⑥ アニサキス症	a	
		⑦ クリプトコックス症	b	
		⑧ 癩風	b	
		⑨ アメーバ赤痢	b	
		⑩ トキソプラズマ症	b	
		⑪ トリコモナス症	b	
		⑫ スポロトリコーシス	c	
		⑬ 回虫症	c	
		⑭ 吸虫症	c	
		⑮ エキノコックス症	c	
		⑯ クリプトスポリジウム症	c	
		⑰ ジアルジア症	c	ランブル鞭毛虫
		⑱ プリオン病	c	Creutzfeldt-Jakob病、ウシ海綿状脳症<BSE、狂牛病>

XIII 生活環境因子・職業性因子による疾患[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考
1 食中毒、病害動物による疾患	A 食中毒	① 細菌性食中毒	a	
		② ウイルス性食中毒	a	
		③ 化学性食中毒	b	
		④ 自然毒食中毒	b	フグ、キノコ
	B 病害動物および鼠族・節足動物による疾患	① 節足動物による疾患	b	ダニ、クモ、ハチ、アリ、ムカデ
		② 毒蛇咬傷	c	
C 旅行者疾患	① 旅行者下痢症	b		
2 アルコールによる障害、薬物依存・中毒	A アルコールによる障害	① 急性アルコール中毒	a	
		② アルコール依存症	a	
		③ アルコール精神病	a	Wernicke脳症
		④ 慢性アルコール性臓器障害	a	
		⑤ 妊婦・胎児への影響、胎児性アルコール症候群	b	
	B 薬物依存・中毒	① 睡眠薬依存・中毒	a	
		② 向精神薬依存・中毒	a	
		③ 解熱鎮痛薬依存・中毒	a	
		④ 麻薬依存・中毒	a	
		⑤ 覚醒剤依存・中毒	b	
		⑥ 有機溶剤依存・中毒	b	
	C 毒劇物中毒		b	
	3 喫煙による障害	A タバコ煙	① タバコ煙中の有害物質、未成年者の喫煙、受動喫煙	a
B 喫煙による健康障害		① タバコ依存	a	ニコチン代替療法
		② 呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患<COPD>)、がん、循環器疾患	a	Brinkman指数
		③ 妊婦・胎児への影響	a	
A 産業中毒		① 金属中毒	b	
	② ガス中毒	b		
	③ 有機溶剤中毒	b		
	④ 化学物質中毒	b		
	⑤ 農薬中毒	b	有機リン剤、有機塩素剤	
B 作業態様による障害	① 職業性腰痛	a		
	② 頸肩腕障害	a		
	③ VDT作業による障害	a		
C 過重労働による障害	① 脳血管疾患	a		
	② 虚血性心疾患	a		
	③ 自殺	a		
D 職業性ストレスによる障害	① 適応障害	a		
	② 心身症	a		
	③ うつ病	a		
E 職業性アレルギー	① 職業性喘息	b		
	② 過敏性肺炎	b		

XIII 生活環境因子・職業性因子による疾患[約5%]

大項目	中項目	小項目	レベル分類	備考	
		③ 鼻アレルギー<アレルギー性鼻炎>	a		
		④ アレルギー性接触皮膚炎	a		
		F その他の職業性疾患	① 職業がん	b	
		② じん肺	b		
		③ 酸素欠乏症	b		
	5 物理的原因・生活環境因子による障害	A 低温・高温環境による疾患	① 熱中症	a	
② 偶発性低体温{症}			a		
③ 凍傷・凍瘡			a		
B 騒音障害		① 騒音性難聴	a		
C 振動による障害		① 動揺病	b		
		② 手腕振動障害	b		
D 気圧による障害		① 減圧症	b		
		② 高山病	b		
E 電離放射線障害		① 急性放射線障害	b		
		② 放射線による発がん	b		
F 非電離放射線障害			b	レーザー、紫外線、赤外線	
G 家庭用品による障害		① 誤飲	a		
		② 誤嚥	a		
		③ 創傷	a		
		④ 熱傷	a		
		⑤ 急性中毒	a		
H 家庭におけるアレルギー・過敏症		① 化学物質過敏症	c		
		② シックハウス症候群<シックビル症候群>	c		
I 事故による障害		① 交通事故	a		
		② 家庭内事故	a	転倒・転落	
		③ 自然災害	a		

索 引

索引

%

%VC……………12

1

{12誘導}心電図検査……………12
13番……………86
17 α -ヒドロキシprogesterone……………10
¹⁸F……………69
¹⁸F-FDG……………69
18番……………86
1型糖尿病……………121
1歳6か月児健康診査……………36
1日の摂取許容量……………37

2

25水酸化ビタミンD……………10
2型糖尿病……………121

3

3D-CT……………13
3D-CTA……………13, 69
III音……………55
3歳児健康診査……………36

4

4R……………75
IV音……………55

5

5-HIAA……………11
5-ヒドロキシインドール酢酸……………11

7

75g OGTT試験……………65

9

95%信頼区間……………35

A

A-aDO₂……………41
ABI……………22, 65
ABR……………65, 66
AC……………68
ACD……………106

ACE……………10
ACO……………96
ACP……………16, 48
ACTH……………10
ACTH試験……………12
ACTH非依存性大結節性副腎皮質過形成……………120
activities……………30
ADAMTS-13……………107
Addison病……………120
ADH……………10
ADHD……………88
ADH不適合分泌症候群……………120
ADI……………37
ADL……………36, 61
ADL訓練……………76
AED……………77
AFI……………68, 84
AFP……………11, 105
AIDS……………125, 126
AIDS認知症……………114
AIH……………80
AIMAH……………120
AKI……………26, 78, 110
Alb……………10
Alma Ata宣言……………33
ALP……………10
Alport症候群……………109
ALS……………23, 115
ALT……………10
Alzheimer型認知症……………87, 115
AMR……………17, 50
AMS……………17
ANCA関連血管炎……………96, 109
angioectasia……………103
antimicrobial resistance……………17, 50
antimicrobial stewardship……………17
Apgarスコア……………62, 85
APTT……………9
ARDS……………25, 73, 78, 97
ART……………80, 112
asbestosis……………97
Asherman症候群……………113
ASO……………11
AST……………10
asterixis……………59
ataxia telangiectasia……………125
attributable risk……………23, 35
Auspitz現象……………90
A型胃炎……………102
A型肝炎……………103

B

Babinski徴候……………59
Babinski反射……………59
BAL……………70

Barrett上皮……………102
Barrett食道……………102
Bartholin腺……………43
Bartholin腺炎……………110
Bartholin腺膿瘍……………110
Bartholin腺嚢腫……………110
Bartter症候群……………109
Basedow病……………120
BCR-ABL融合遺伝子……………106
Becker型……………116
Beckのうつ病自己評価尺度……………67
Behçet病……………92, 124
Bell麻痺……………93
Bence Jones蛋白……………11, 106
Bentall手術……………101
Bernard-Soulier症候群……………107
biophysical profile score……………68, 85
Biot呼吸……………55
Bishopスコア……………62
Blalock-Taussig短絡手術……………99
BLS……………23
Blumberg徴候……………56
BNP……………11
BOA……………66
Bochdalekヘルニア……………105
body functions and structures……………30
Boerrhaave症候群……………102
Bowen病……………90, 111
BPD……………68
BPRS……………67
BPS……………68, 85
BPSD……………31
Bq……………68
Brief Psychiatric Rating Scale……………67
Brinkman指数……………129
Broca失語……………58
Brodie骨膿瘍……………114
Brown-Séquard症候群……………59
BRTO……………102
Brugada症候群……………99
BSE……………128
BT-PABA試験……………65
BT-PABA排泄試験……………12
Budd-Chiari症候群……………104
Buerger病……………101
BUN……………10
Burkittリンパ腫……………107
Bリンパ球……………45
B群連鎖球菌……………67, 84, 85
B型肝炎……………103
B型肝炎ウイルスの再活性化……………103
B細胞……………45

C

C1インヒビター欠損症……………125
C3……………11

C4 11
 Ca 10
 CA125 11
 CA19-9 11
 café au lait斑 89
 CD4/8比 11
 CDトキシン 127
 CEA 11
 Celsus禿瘡 90
 CF 64
 CGA 18, 61
 CH₅₀ 11
 Chaddock反射 59
 Charcot 3徴 104
 Charcot-Marie-Tooth病 115
 Charcot関節 117
 ChE 10
 Chédiak-Higashi症候群 125
 Cheyne-Stokes呼吸 55
 Chiari奇形 119
 CIN 111
 CK 10
 CKD 26, 110
 CKD-MBD 110
 CK-MB 10
 Cl 10
 closing volume 41
 CO₂ナルコーシス 80
 CO₂血症 55
 coarse crackles 55
 comprehensive geriatric
 assessment 18, 61
 compromised host 50
 Congo-Red染色 12, 64
 Coombs分類 50
 COP 97
 COPD 25, 96, 129
 CO中毒 115
 CPAP 80
 CPC 52
 CPD 84
 CPPV 80
 CPR 10, 77
 Cr 10
 CR 68
 Creutzfeldt-Jakob病 114, 128
 CRH負荷試験 12
 Crigler-Najjar症候群 105
 CRL 68
 Crohn病 25, 102
 Crouzon病 118
 CRP 11, 64
 CRPS 118
 crush syndrome 78, 118
 CST 68
 CT 13, 23, 69
 CT{ガイド}下治療 76
 CTG 62, 67, 68, 85
 CTL 45
 CTLA-4 45
 CTガイド下生検 76
 CTコロノグラフィ 13, 69

CT値 69
 Cu 10
 Curling潰瘍 78
 Cushing症候群 100, 120
 Cushing病 120
 CVポート留置術 75
 Cペプチド 10
 C型肝炎 103
 C反応性蛋白 11

D

Darier徴候 66
 Darier病 90
 de Quervain病 117
 DeBakey分類 101
 deep vein thrombosis 101
 Diamond-Blackfan症候群 106
 DIC 26, 78, 85, 107
 DID法 64
 DiGeorge症候群 125
 disaster medical assistance team
 33
 DKA 121
 DLST 66
 DMARD 72
 DMAT 33
 DNA損傷と修復 74
 Douglas窩 43, 63
 Douglas窩膿瘍 104
 Down症候群 86
 DR 68
 drug-induced hypersensitivity
 syndrome 89
 DSA 13
 Dubin-Johnson症候群 104
 Duchenne型 116
 Dupuytren拘縮 117
 DVT 101
 DV法 32
 DXA 120
 Dダイマー 9
 D型肝炎 103

E

E₂ 10
 EBM 23
 Ebstein奇形 99
 EBウイルス感染症 107, 126
 ECHOウイルス感染症 126
 ECMO 74, 77
 EFBW 68
 eGFR 65
 Ehlers-Danlos症候群 122
 ELISA 64
 Ellsworth-Howard試験 12
 EPS 65
 Epstein-Barrウイルス感染症
 107, 126
 ERCP 13, 69

ERG 66
 ESD 76
 ESWL 80
 ETCO₂ 73
 Ewing肉腫 117
 E型肝炎 103

F

FAB 67
 Fabry病 109, 122
 Fallot四徴症 99
 Fanconi貧血 106
 FAP 103
 FAST 13
 FBS 10
 FD 25, 102
 FDP 9
 Fe 10
 fetal growth restriction 85
 FEV₁% 12
 FGR 85
 FH 121
 fine crackles 55
 FISH法 64
 FL 68
 flail chest 98
 FLAIR像 69
 flow-volume曲線 65
 Fontan手術 99
 FSH 10
 FT₃ 10
 FT₄ 10

G

Gaffky号数 12
 Gardner症候群 103
 Gastrointestinal stromal tumor
 103
 Gaucher病 122
 GAVE 103
 GCS 61
 G-CSF 42
 gene-environment interaction 49
 GERD 25, 102
 GFR 12
 GH 10
 GHRH負荷試験 12
 Gibertばら色糞糠疹 90
 Giemsa染色 64
 Gilbert症候群 104
 Gimenez染色 64
 GIST 103
 Gitelman症候群 109
 Glasgow coma scale 61
 golden period 118
 Gomori-Trichrome染色 12
 GPIアンカー蛋白 106
 Gram染色 12, 22, 64
 Graves病 120

Grocott染色……………12, 64
 Gross分類……………105
 growth spurt……………48
 Guillain-Barré症候群……………115
 GVHD……………72
 Gy……………68

H

HACCP……………37
 Hailey-Hailey病……………90
 HAM……………114
 Hamilton Rating Scale for
 Depression……………67
 Hamiltonうつ病評価尺度……………67
 Ham試験……………10
 hANP……………11
 Hansen病……………127
 Hb……………9
 HbA1c……………10
 HBc抗体……………11
 HBs抗原……………11
 HBs抗体……………11
 HBV……………84
 hCG……………10
 HCO₃⁻……………12
 HCV……………84
 HCV抗体……………11
 HDFN……………85
 HDLコレステロール……………10
 Health in all policies……………33
 Heberden結節……………117
Helicobacter pylori……………64
 HELLP症候群……………84
 Hematoxylin-eosin染色……………12
 Hemophagocytic
 lymphohistiocytosis……………107
 hemophagocytic syndrome……………107
 HES……………106
 H-E染色……………12, 64
 HFpEF……………99
 HFrEF……………99
 HI……………64
 high risk strategy……………35
 Hirschsprung病……………105
 HIT……………107
 HIT抗体……………107
 HIV……………84
 HIV感染症……………126
 HIV抗体……………11
 HIV脳症……………114
 HLA……………45, 64
 HLH……………107
 Hodgkinリンパ腫……………106
 Hodgkin細胞……………106
 Holter心電図検査……………12, 65
 Horner症候群……………93
 HPV感染症……………126
 HSG……………13, 69
 Ht……………9
 HTLV-1抗体……………11
 HTLV-I……………84

HTLV-I感染症……………126
 HTLV-I 関連脊髄症……………114
 Hunter症候群……………122
 Huntington病……………115
 Huntington病と類縁疾患……………115
 Hurler症候群……………122
 HUS……………107, 110
 hyperviscosity症候群……………106

I

IABP……………74
 IADL……………61
 ICD……………35
 ICF……………35, 76
 ICG試験……………65
 ICSI……………80
 ICT……………17
 IgA……………10, 47
 IgA血管炎……………107, 109, 124
 IgA腎症……………109
 IgE……………10, 11, 64
 IgG……………10, 47
 IgG%……………9
 IgG4関連疾患……………109, 120, 125
 IgM……………10, 47
 IGRA……………11, 64
 IGRT……………75
 IIPs……………97
 IIPs以外の原因不明疾患……………97
 IL-1……………45
 IL-17……………45
 IL-6……………45
 ILO……………34
 IMRT……………75
 indocyanine green試験……………65
 intention to treat……………36
 interprofessional education……………31
 IPE……………31
 IPF……………97
 IPMN……………104
 iso染色体……………49
 ITP……………84, 107
 ITT……………36
 IVF-ET……………80
 IVR……………75, 79

J

*JAK2*遺伝子変異……………106
 Japan coma scale……………61
 Jatene手術……………99
 JCS……………61
 JIA……………125
 JICA……………34
 jolt accentuation……………59

K

K……………10
 Kallmann症候群……………120

Kaposi水痘様発疹症……………89
 Kartagener症候群……………96
 Kasabach-Merritt症候群……………89
 Kaup指数……………47
 Kayser-Fleischer輪……………91, 122
 KB染色……………64
 Kearns-Sayre症候群……………115
 Kernig徴候……………59
 Kienböck病……………117
 Kiesselbach部位……………54
 KL-6……………11
 Klinefelter症候群……………86, 121
 Klüver-Barrera染色……………64
 Köbner現象……………90
 KOH直接鏡検法……………66
 Korsakoff症候群……………58
 Kussmaul呼吸……………55

L

LAC……………9
 LAM……………97
 Lambert-Eaton筋無力症候群……………116
 Langerhans細胞……………40
 Langerhans細胞組織球症……………96
 Lanz圧痛點……………102
 LD……………10
 LD₅₀……………51
 LDH……………10
 LDLコレステロール……………10
 Le Fort型骨折……………94
 Leigh脳症……………115
 Lennox-Gastaut症候群……………119
 Lesch-Nyhan症候群……………122
 Leser-Trélat徴候……………89
 LET……………75
 Lewy小体型認知症……………87, 115
 LH……………10
 LHRH負荷試験……………12
 Liddle症候群……………109
 Linear Non-Threshold (LNT) 仮説
 locked-in syndrome……………58

M

M. avium……………96
M. intracellulare……………96
M. kansasii……………96
 mallet finger……………118
 Mallory-Weiss症候群……………102
 MALT……………45
 MALTリンパ腫……………103, 106
 Marfan症候群……………101, 122
 MAS……………85, 107
 Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser
 症候群……………86
 May-Giemsa染色……………12, 63, 64
 Maze手術……………99
 McBurney圧痛點……………102
 McCune-Albright症候群……………122
 MCH……………9

MCHC	9
MCN	104
MCV	9
MDCT	69
MDS	106
Meckel憩室	103
MELAS	115
MEN I型・II型	121
Mendel遺伝様式	49
Ménière病	93
MERRF	115
Mg	10
MGUS	107
Mini-Mental State Examination<MMSE>	67
MODS	51, 73
MOF	51, 73, 78
monoclonal gammopathy of undetermined significance	107
Montgomery腺	41
MPO-ANCA	11
MR	13
MRA	13, 69
MRCP	13, 69
MRI	13, 23, 69
MRIの原理と技術	69
MRKH症候群	86
mRNAワクチン	37
MRSA感染症	127
MR信号	69
Müller管	47
multidetector-row CT	69
MVP	84
M蛋白	106

N

Na	10
NAFLD	104
NASH	104
NCD	28, 34, 36
Nelson症候群	120
NERD	102
NET	103
Neuroendocrine tumor	103
NGO	34
Niemann-Pick病	122
Nikolsky現象	66, 90
NIPT	67
NK細胞	45
NK細胞腫瘍	107
NOMI	105
non-reassuring fetal status	79, 85
NPPV	80
NRFS	79, 85
NSAID	72
NSAID過敏喘息	124
NSF	69
NSIP	97
NST	68, 71, 85
NT	64

O

OAE	66
OCT	66
ODA	34
odds ratio	23, 35
OGTT	10
OHCA	23, 61
opening snap	55
opportunistic infection	50, 96
Osgood-Schlatter病	117
Osler病	107

P

P	10
P/F比	73
PaCO ₂	12
PAM染色	12, 64
PaO ₂	12
PaO ₂ /FIO ₂ 比	73
Papanicolaou染色	12, 64
Parkinson症候群	115
Parkinson病	26, 87, 115
Parkinson病と類縁疾患	115
participation	30
PAS染色	12, 63, 64
PCOS	112, 121
PCPS	74, 77
PCR法	64
PCU	27, 79, 80
PD-1	45
PD-1 ligand 1<PD-L1>	45
PEEP	80
Personal Protective Equipmentの着脱と廃棄	27
Perthes病	117
PET	13, 23, 70
PET/CT	13, 70
Peutz-Jeghers症候群	103
PFD試験	65
pH	9, 12
Philadelphia染色体	106
pHモニタリング	65
PIC	9
PICO/PECO	23
PID	110
Plummer病	120
Pompe病	122
POMR	16
population strategy	35
Potter症候群	84
PPEの着脱と廃棄	27
PR3-ANCA	11
PRA	10
Prader-Willi症候群	120
PRES	84
PRL	10
Programmed cell death 1 receptor	45
PSA	11

PSV	80
psychoeducation	80
PT	9
PTA	75
PTH	10
PTH負荷試験	12
PTSD	24, 87
pulsed field gel electrophoresis	64
PUVA療法	80

Q

QOD	80
QOL	16, 30, 36
QOLの改善・維持	80
QOLの向上	28
QT延長症候群	99
quality of death	80
quality of life	16, 30, 36
quality of lifeの改善・維持	80
quality of lifeの向上	28
Queckenstedt現象	9
Quinke浮腫	89
Q熱	126

R

Ramsay Hunt症候群	92
Ramstedt手術	105
Rastelli手術	99
Raynaud現象	56
Raynaud症候群	101
RBMT	67
RCT	36
RCVS	84
RDS	85
receiver operating characteristics曲線	23
Reed-Sternberg細胞	106
relative risk	23, 35
REM睡眠	43
REM睡眠行動障害	88
review of systems	18
Reynolds 5徴	104
RF	11
rhonchi	55
RI内用療法	75
ROC曲線	23
Rohrer指数	47
Rorschachテスト	67
Rotor症候群	104
RSウイルス感染症	126
RT-PCR法	64

S

SAPHO症候群	124
Schmidt症候群	120
SCU	33
SDGs	34

SDH 28
 SDS 38
 Sézary症候群 90
 Sheehan症候群 120
 shock index 61, 85
 Shy-Drager症候群 101
 SIADH 120
 SIDS 52
 silicosis 97
 SIMV 80
 Sjögren症候群 109, 124
 SLE 26, 87, 109, 124
 SLTA 67
 SMR 35
 SMT 103
 SOAP 16
 Social Determinants of Health 28
 social skills training 77
 SPECT 13, 70
 SpO₂ 61
 SSI 73
 SSPE 119
 SST 77
 staging care unit 33
 STAI 67
 standard precautions 17, 20
 Stanford分類 101
 STD 50, 111
 Stevens-Johnson症候群 89
 STI 50, 111
 stridor 55
 Sturge-Weber症候群 119
 ST上昇型・非ST上昇型心筋梗塞 100
 SudanⅢ染色 12, 64
 Sv 68
 Sweet病 89

T

T1強調像 69
 T2*強調像 69
 T2強調像 69
 TACE 75
 TAE 75
 target sign 105
 TAT 9
 TAVI 99
 Tay-Sachs病 122
 TC 10
 TDM 71
 telangiectasia 53
 TG 10
 THP 38
 TIBC 10
 Tinel徴候 115
 tissue plasminogen activator 114
 TNF 45
 Tolosa-Hunt症候群 115
 TORCH症候群 84
 torsades de pointes 99
 Tourette症 88
 Tourette障害 88

toxic epidermal necrolysis 89
 TP 10
 t-PA 114
 TPO抗体 11
 TRAb 11
 Treacher Collins症候群 95
 Treg 45
 Trendelenburg徴候 117
 TRH負荷試験 12
 trisomy 86
 TSH 10
 TSS 127
 TTP 107
 Turcot症候群 103
 Turner症候群 86, 121
 Tzanck試験 66
 Tリンパ球 45
 T細胞 45

U

UA 10
 UHC 34
 UIBC 10
 UN 34

V

VAD 74
 VDT作業による障害 129
 VEP 66
 Vero毒素 107
Vibrio vulnificus 90
 Virchow結節 53
 VMA 11
 Vogt-小柳-原田病 92
 Volkmann拘縮 118
 von Gierke病 122
 von Hippel-Lindau病 119
 von Recklinghausen病 89, 119
 von Willebrand病 107

W

WAIS-Ⅲ 67
 Waldenstrom 106
 Wallenberg症候群 114
 Walthin腫瘍 94
 Waterhouse-Friderichsen症候群 127
 WDHA症候群 104
 Weber症候群 114
 Wechsler記憶スケール 67
 Wechsler記憶検査 67
 Wechsler児童用知能検査 67
 Wechsler成人知能検査 67
 Weil-Felix反応 11
 Werdnig-Hoffmann病 119
 Werner症候群 90
 Wernicke失語 58
 Wernicke脳症 87, 115, 122, 129
 West症候群 119

wheezes 55
 WHO 17, 34
 WHO方式がん疼痛治療法 79
 Willis動脈輪 44
 Wilson-Mikity症候群 85
 Wilson病 87, 104, 122
 windowレベル 69
 window幅 69
 WISC-IV 67
 Wiskott-Aldrich症候群 125
 WMS 67
 WMS-R 67
 Wolff管 47
 WON 104
 WPW症候群 99
 Wright染色 63

Z

Ziehl-Neelsen染色 12, 64
 Zollinger-Ellison症候群 104

α

α₁・β₂-マイクログロブリン 10
 α₁-アンチトリプシン法 65
 α-フェトプロテイン 11, 105
 α線 75

β

β₂-マイクログロブリン 10, 65
 β-D-グルカン 11
 β線 75

γ

γ-GT<γ-GTP> 10

あ

挨拶 18
 アイソザイム 10, 63
 アイバンク 74
 アウトカム 23
 亜鉛欠乏症候群 122
 亜急性硬化性全脳炎 119
 亜急性甲状腺炎 120
 亜急性連合性脊髄変性症 115
 アキレス腱断裂 118
 アキレス腱付着部痛 60
 悪液質 51
 アクシデント 17
 悪性 50
 悪性関節リウマチ 124
 悪性外耳道炎 92
 悪性高血圧症 109
 悪性高熱症 73
 悪性黒色腫 90
 悪性腫瘍細胞の遺伝子検査 65

- 悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症
 120
- 悪性腫瘍による免疫不全症..... 125
- 悪性症候群..... 115
- 悪性腎硬化症..... 109
- 悪性軟部腫瘍..... 117
- 悪性貧血..... 106
- 悪性末梢神経鞘腫..... 117
- 悪性リンパ腫26, 94, 96, 97, 103,
 108, 114
- アシドーシス..... 110
- アシネトバクター感染症..... 127
- 足の疾患..... 117
- アスペルギルス症..... 96, 127
- アセトン血性嘔吐症..... 122
- 亜脱臼..... 118
- 圧覚..... 41
- 圧痛..... 21
- 圧..... 9
- 圧挫症候群..... 78, 118
- 圧支持換気..... 80
- アテトーシス..... 59
- アテローム血栓性脳梗塞..... 114
- アデノイド増殖症..... 94
- アデノウイルス感染症..... 126
- アデレード宣言..... 33
- アトピー咳嗽..... 96
- アトピー性皮膚炎..... 24, 89, 124
- アドバンス・ケア・プランニング
 16, 48
- アドヒアランス..... 71
- アドレナリン..... 10
- アナフィラキシー 26, 50, 51, 69,
 72, 124
- アニサキス症..... 128
- アフタ..... 53, 54
- アフタ性口内炎..... 93
- あぶみ骨筋反射..... 66
- アミノ酸代謝異常..... 121
- アミラーゼ..... 9, 10
- アミロイドアンギオパチー..... 114
- アミロイドーシス..... 97, 121, 125
- アミロイド腎症..... 109
- アミロイド苔癬..... 91
- アミロイド沈着症..... 91
- アミロイドニューロパチー..... 115
- アメーバ性肝膿瘍..... 103
- アメーバ赤痢..... 128
- アリ..... 129
- アルカリによる損傷..... 50
- アルカローシス..... 110
- アルコール依存症..... 26, 87, 129
- アルコール依存への支援..... 28
- アルコール健康障害対策基本法..... 32
- アルコール性肝炎..... 104
- アルコール性肝障害..... 104
- アルコール性心筋症..... 100
- アルコール精神病..... 87, 129
- アルコールによる障害..... 129
- アルドステロン..... 10
- アルドステロン過剰症..... 100, 120
- アルブミン..... 10
- アルブミン製剤..... 72
- アルマ・アタ宣言..... 33
- アレルギー..... 50
- アレルギー疾患対策基本法..... 32
- アレルギー性気管支肺アスペルギル
 ス症..... 96, 124
- アレルギー性気管支肺真菌症
 96, 124
- アレルギー性結膜炎..... 124
- アレルギー性疾患..... 26, 96, 124
- アレルギー性接触皮膚炎..... 124, 130
- アレルギー性鼻炎..... 24, 124, 130
- アレルギー歴..... 18
- アレルギーに関する検査..... 11
- アレルギー検査..... 11
- アロディニア..... 74
- アンジオテンシン..... 10
- アンジオテンシン変換酵素..... 10
- 暗順応..... 40
- 暗順応検査..... 66
- 安全..... 24
- 安全管理..... 69
- 安全性..... 17
- 安全データシート..... 38
- 安全への配慮..... 20
- アンチトロンビン欠乏症..... 107
- 暗点..... 54
- アンドロゲン不応症..... 86
- アンモニア..... 10
- い
- 胃..... 70
- 胃アニサキス症..... 102
- 院内感染対策..... 17
- 胃液の分泌..... 42
- 胃潰瘍..... 25, 102
- 胃管..... 77
- 易感染性宿主..... 50
- 胃管の挿入と抜去..... 27
- 医学及び歯学の教育のための献体に
 関する法律..... 31
- 医学研究と倫理..... 16
- 医学史..... 28
- 胃癌..... 25, 102
- 息切れ..... 19, 55, 56
- 意義と目標..... 21
- 意義不明の単クローン性免疫グロブ
 リン血症..... 107
- 育児環境の評価..... 61
- 育児休業制度..... 36
- 育児指導..... 36
- 育児と労働..... 49
- 胃憩室..... 103
- 医原性肺疾患及び化学物質による肺
 障害..... 97
- 医原性副腎皮質機能低下症..... 120
- 医原性免疫不全症..... 125
- 医原病..... 52
- 医行為と診療補助行為..... 31
- 移行便..... 47
- 医師会..... 33
- 意識..... 43
- 意識混濁..... 58
- 意識障害..... 19, 24, 53, 58, 61
- 意識レベル..... 21, 61
- 医師と自治体の対応..... 37
- 医師による偏見..... 52
- 医師の職業倫理指針..... 16
- 医師の対応による医原病..... 52
- 医師の働き方改革..... 32
- 医師のプロフェッショナルリズム..... 16
- 意思表示..... 74
- 意思表示カード..... 74
- 医師法..... 16, 31
- 異種移植..... 74
- 萎縮..... 53
- 萎縮性胃炎..... 102
- 萎縮性膀胱炎..... 112
- 移植と免疫..... 74
- 胃食道逆流症..... 25, 102
- 移植の種類と適応..... 74
- 移植免疫..... 11, 64
- 異所性骨化..... 117
- 異所性尿管開口..... 112
- 異所性妊娠..... 84
- 異所性ホルモン産生腫瘍..... 121
- 石綿..... 38
- 医師を含む医療専門職の連携..... 27
- 医事..... 31
- 維持期リハビリテーション..... 76
- 医事紛争..... 17
- 胃・十二指腸疾患..... 102
- 胃・十二指腸の異常..... 105
- 異常眼球運動..... 54
- 異常呼吸..... 98
- 異状死..... 27
- 異常心音..... 55
- 異常脳波賦活法..... 65
- 異常ヘモグロビン症..... 107
- 胃静脈瘤..... 25, 102
- 椅子の配置..... 18
- 胃切除後症候群..... 102
- 胃腺腫..... 102
- 胃洗浄..... 78
- 胃前庭部毛細血管拡張症..... 103
- 遺族ケア..... 80
- 依存..... 51, 87
- 依存症対策..... 36
- イチゴ状血管腫..... 89
- 一次救命処置..... 23
- 一次性頭痛..... 116
- 一児胎児死亡..... 85
- 一次治癒..... 49
- 一次・二次・三次予防..... 35
- 胃腸反射..... 42
- 一回投与..... 71
- 一過性多呼吸..... 85
- 一過性脳虚血発作..... 26, 114
- 一貫性..... 35
- 一酸化炭素中毒..... 115
- 一般教養的事項..... 28
- 一般の手技..... 27
- 一般的診察..... 61, 62

- 一般的な生化学検査……………22
 一般的な身体診察……………20
 一般的な治療の基本……………26
 一般廃棄物……………38
 一般臨床検査……………22, 63
 胃底腺ポリープ……………102
 遺伝カウンセリング……………49
 遺伝学的検査……………22
 遺伝形式……………49
 遺伝子……………17
 遺伝子異常……………86
 遺伝子異常と環境因子……………49
 遺伝子異常による糖尿病……………121
 遺伝子-環境交互作用……………49
 遺伝子関連検査……………22
 遺伝子組換え食品……………37
 遺伝子治療等臨床研究に関する指針
 ………………16
 遺伝性……………97
 遺伝性運動感覚性ニューロパチー
 ………………115
 遺伝性角化症……………90
 遺伝性球状赤血球症……………107
 遺伝性痙性対麻痺……………115
 遺伝性血管性浮腫……………125
 遺伝性出血性末梢血管拡張症……………107
 遺伝性腎炎……………109
 遺伝性水疱症……………90
 遺伝性難聴……………93
 遺伝性乳癌卵巣癌症候群……………123
 遺伝性皮膚疾患……………90
 遺伝相談……………49
 遺伝的影響……………52
 移動機器……………76
 遺尿……………57
 医の倫理……………16
 いびき……………54
 いびき音……………55
 衣服環境と健康……………39
 衣服の機能と健康……………39
 異物……………79, 94, 105
 異物除去術……………76
 異物・溺水・刺咬症の治療・処置……………79
 胃ポリープ……………102
 移民……………49
 医薬品、医療機器等の品質、有効性
 及び安全性の確保等に関する法律
 ………………31
 医薬品・医療機器の副作用・不具合
 ………………17
 医薬品医療機器等法……………31
 癒し環境……………79
 意欲……………61
 意欲と行動……………43
 意欲と行動の障害……………58
 意欲の変化……………48
 医療安全管理マニュアル……………17
 医療安全管理委員会……………17
 医療安全管理者……………17
 医療安全管理部門……………17
 医療安全支援センター……………17, 30
 医療安全文化の醸成……………17
 医療・介護関連肺炎……………96
 医療過誤……………17
 医療観察法……………32
 医療関連行為……………31
 医療機関でのチームワーク……………27
 医療機器の副作用・不具合……………17
 医療救護班……………33
 医療記録……………16
 医療記録の管理と保存……………16
 医療技術の効率性……………23
 医療計画……………33
 医療経済……………16, 30
 医療圏……………33
 医療裁判……………17
 医療事故……………17
 医療事故情報収集等事業……………17
 医療事故調査制度……………17
 医療事故の内容……………17
 医療事故の発生と再発の防止……………17
 医療事故の発生要因……………17
 医療事故の分析手法……………17
 医療従事者の確保……………33
 医療情報……………17
 医療情報の収集……………18
 医療制度……………16
 医療専門職間の連携……………27
 医療訴訟……………17
 医療的行為……………31
 医療の質……………17
 医療の質と安全の確保……………17
 医療の質の確保……………17
 医療の質の定義……………17
 医療の質の評価……………17
 医療廃棄物……………38
 医療被ばく……………39
 医療費負担と給付……………30
 医療法……………16, 31
 医療保険……………30, 32
 医療保険制度……………16
 医療保険の種類と対象……………30
 医療面接……………18
 医療面接の意義……………18
 医療用麻薬……………79
 医療連携……………33
 イレウス管……………77
 院外心停止……………23, 61
 陰茎……………43
 陰茎癌……………111
 陰茎折症……………113
 咽喉頭異常感……………55
 咽後間隙……………40
 咽後膿瘍……………94
 インシデント……………17
 インシデントレポート……………17
 飲酒……………28, 36
 飲酒状況……………28
 飲酒の有害性……………28
 インスリノーマ……………104, 121
 インスリン……………10
 インスリン自己免疫症候群……………121
 インスリン負荷試験……………12
 インターベンショナルラジオロジー
 ………………75, 79
 インターロイキン-1……………45
 咽頭……………21, 70
 咽頭炎……………94
 咽頭結膜熱……………126
 咽頭・口腔・唾液腺疾患……………93
 咽頭・口腔の異常……………54
 咽頭造影検査……………69
 咽頭痛……………19, 54
 咽頭の異常……………94
 咽頭の構造・機能……………42
 咽頭扁桃増殖症……………94
 咽頭麻酔……………70
 院内感染……………37
 院内感染サーベイランス……………17
 院内感染症……………50
 院内感染対策チーム……………17
 院内感染対策委員会……………17
 院内肺炎……………96
 インフォームド・アセント……………16
 インフォームド・コンセント……………16
 インフルエンザ……………96, 126
 インフルエンザ{桿}菌感染症……………127
 インフルエンザ脳症……………114
- ## う
- ウイルス……………12, 96, 126
 ウイルス感染症……………91, 114
 ウイルス血清反応……………11
 ウイルス性肝炎……………126
 ウイルス性下痢症……………126
 ウイルス性食中毒……………129
 ウイルス性心筋炎……………100
 ウイルス性髄膜炎……………126
 ウイルス性難聴……………93
 ウイルス性発疹症……………24
 ウイルスによる感染症……………126
 植え込み型除細動器……………74, 99
 右左短絡疾患……………99
 う歯……………55
 ウシ海綿状脳症……………128
 右心不全……………99
 うっ血……………51
 うっ血乳頭……………91
 うっ滞性皮膚炎……………89
 うつ状態……………58
 うつ病……………24, 87, 129
 ウレアーゼ試験……………64
 ウロビリノゲン……………9
 運動……………28, 47
 運動器……………20, 43, 47, 58
 運動器疾患……………26
 運動器症候群……………36, 48
 運動機能……………61
 運動機能障害の判定……………61
 運動器の感染性……………114
 運動器の外傷……………118
 運動器の構造・機能……………44
 運動器不安定症……………48
 運動系……………21

運動系伝導路	44
運動系の異常	59
運動失調	20, 59
運動生理	44
運動ニューロン疾患	115
運動の効用	28
運動発達評価	47
運動負荷心電図検査	12
運動麻痺	20, 24, 59

え

鋭的外傷	49
鋭的眼外傷	94
栄養	18, 20, 21, 28, 44, 60
栄養アセスメント	71
栄養管理	28, 71, 74
栄養教育・指導	37
栄養サポートチーム	71
栄養疾患	26
栄養障害	48, 78
栄養所要量	47
栄養状態の評価	47
栄養摂取の方法	71
栄養素の役割とバランス	44
栄養の異常	51
栄養不良	71
栄養マネジメント	28
栄養療法	71
栄養療法の基本	71
会陰	43
会陰裂傷	85
疫学指標	35
疫学的因果関係	35
疫学とその応用	35
疫学概念	35
エキノコックス症	128
エコーウイルス感染症	126
エコー下穿刺生検	68
壊死性筋膜炎	90, 127
壊死性腸炎	86
エステルゼ染色	63
エストラジオール	10
エストロゲン・プロゲステロン負荷試験	12
壊疽	53
壊疽性膿皮症	89
エックス線陰性結石	110
エックス線撮影	13, 23
エックス線造影撮影	13
エックス線単純撮影	68
エックス線透視下・超音波下・CT{ガイド}下治療	76
エネルギー及び栄養素の欠乏と過剰	51
エビデンスレベル	23
エピソード	38
エピデミック	34
エボラ出血熱	126
エラスチン代謝の異常	122
エリスロポエチン	10, 42, 43
エリスロポエチン産生過剰	106

遠隔医療	31
遠隔診療	31
円形脱毛症	91
嚥下	42
嚥下機能	42
嚥下機能検査	69
嚥下訓練	76
嚥下障害	19, 54, 56, 61
嚥下性肺疾患	96
嚥下痛	56
援護寮	77
炎症 49, 102, 103, 104, 105, 122	
炎症性角化症	90
炎症性腰背部痛	60
炎症性疾患	114
炎症性腸疾患	25
炎症性皮膚疾患	89
炎症の局所的変化	50
炎症の全身的变化	50
炎症反応	64
炎症マーカー	11, 22
遠城寺式分析的乳幼児発達検査法	67
エンドポイント	23
円背	59, 116

お

横位	84
横隔神経	40, 41
横隔神経麻痺	98
横隔膜	41, 98
横隔膜下・Douglas窩膿瘍	104
横隔膜弛緩症	98
横隔膜損傷	105
横隔膜の形態・機能異常と外傷	97
横隔膜・腹壁疾患	105
横隔膜・腹膜・腹壁疾患	104
横隔膜ヘルニア	98, 105
応急処置	33
心形機能	46
黄色靱帯骨化症	116
黄色ブドウ球菌感染症	127
往診	30
黄体化ホルモン	10
黄体機能不全	112
黄疸	20, 53, 56
横断研究	35
横断性脊髄炎	116
横断性脊髄症	59
嘔吐	19, 56
黄斑円孔	92
オウム病	126
横紋筋融解症	110
太田母斑	89
オープニング	18
お薬手帳	31
屋内環境の管理	39
悪心	19, 56
汚染処理	38
汚染の指標	38
オゾン層破壊	38

オタワ憲章	33
オッズ比	23, 35
オビオイド	79
オビオイドの種類と効果	79
オビオイドの副作用と対策	79
オビオイドローテーション	79
主な感染症の疫学と流行状況	37
主な公害のエピソード	38
オリゴクロナルバンド	9
オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症	122
オルファクトメトリ	67
悪露	46
音叉検査	66
音響陰影	68
音響外傷	93
音響増強	68
音声・言語・咀嚼機能障害	77
音声障害	55
温度覚	21, 41
温度眼振	67
温熱効果	75
温熱療法	80

か

海外渡航歴	18
開險	40
開口期	46
開口障害	55
介護	16, 28, 33
介護医療院	31
介護関連肺炎	96
介護支援専門員	31
介護の必要度	61
介護保険	30
介護保険施設	31
介護保険主治医意見書	31
介護保険制度	16
介護保険法	33
介護予防	36
介護療養型医療施設	31
介護老人福祉施設	31
介護老人保健施設	31
解釈的態度	18
解釈モデル	18
回旋	46
疥癬	91
回旋進入の異常	84
回虫症	128
改訂長谷川式簡易知能評価スケール	67
回転眼振	67
介入研究	36
{灰}白色便	56
海馬	44
回避義務	31
回復期リハビリテーション	76
回復・再増殖・再酸素化・再分布	75
開放骨折	118
海綿状血管腫	89
潰瘍	53, 54

- 潰瘍性大腸炎…………… 25, 102
- 解離…………… 58
- 解離症…………… 87
- 解離性健忘…………… 87
- 解離性障害…………… 87
- 解離性神経学的症状症…………… 87
- 解離性同一症…………… 87
- 解離性同一性障害…………… 87
- 解離性脳動脈瘤…………… 114
- 下咽頭…………… 42
- 下咽頭癌…………… 94
- 下咽頭梨状陥凹瘻…………… 94
- カウンセリング…………… 26, 62, 81
- 過栄養…………… 71
- 過活動膀胱…………… 112
- 過換気症候群…………… 24, 98
- 下顎骨骨折…………… 94
- 化学性食中毒…………… 129
- 化学的外傷…………… 94
- 化学的損傷…………… 50, 61
- 化学物質過敏症…………… 130
- 化学物質中毒…………… 129
- 化学物質の自発的管理…………… 38
- 化学放射線療法…………… 75
- 化学薬品…………… 97
- 化学療法の併用…………… 75
- 過期産児…………… 85
- 下気道の構造・機能…………… 41
- 過期妊娠…………… 84
- 過強陣痛…………… 84
- 可逆性後頭葉白質脳症…………… 84
- 可逆性脳血管攣縮症候群…………… 84
- 蝸牛…………… 40
- 蝸牛窓…………… 40
- 核医学検査…………… 13, 23
- 核医学検査の原理と技術…………… 69
- 核医学治療…………… 75
- 核医学的機能検査…………… 65
- 角化…………… 40
- 角化異常…………… 53
- 角・結膜アルカリ・酸損傷…………… 94
- 角・結膜化学損傷…………… 94
- 拡散…………… 41
- 拡散強調像…………… 69
- 核酸検査…………… 12
- 核酸増幅検査…………… 64
- 核酸代謝…………… 51
- 覚醒…………… 73
- 覚醒剤依存・中毒…………… 129
- 覚醒剤精神病…………… 87
- 覚せい剤取締法…………… 31
- 喀痰…………… 19, 55, 63
- 喀痰検査…………… 9
- 喀痰採取…………… 63
- 拡大内視鏡…………… 70
- 拡張…………… 76
- 拡張型心筋症…………… 100
- 拡張期ランブル…………… 56
- 拡張期輪転様雑音…………… 56
- 拡張術…………… 76
- 拡張早期灌水様雑音…………… 56
- 拡張早期雑音…………… 56
- 獲得免疫…………… 45
- 角膜…………… 40
- 角膜炎…………… 24, 91
- 角膜潰瘍…………… 91
- 角膜感染症…………… 91
- 角膜曲率測定…………… 66
- 角膜混濁…………… 54
- 角膜知覚検査…………… 66
- 角膜の色素沈着…………… 91
- 確率分布と期待値…………… 35
- 過形成性ポリープ…………… 102
- 下喉頭神経…………… 41
- 過誤腫…………… 97
- 可視光線…………… 94
- 下肢静脈瘤…………… 25
- 過失…………… 31
- 過失傷害…………… 31
- 下肢の運動器疾患…………… 116
- 過少月経…………… 112
- 過食…………… 56
- 加重型妊娠高血圧腎症…………… 84
- 過重労働対策…………… 28, 38
- 過重労働による障害…………… 129
- 過剰と欠乏…………… 47
- 下垂体…………… 10, 43, 44, 122
- 下垂体機能障害…………… 120
- 下垂体疾患…………… 120
- 下垂体腫瘍…………… 114, 120
- 下垂体性無月経…………… 111
- 下垂体腺腫…………… 114, 120
- 下垂体前葉機能低下症…………… 120
- 苛性カリ直接鏡検査…………… 66
- 仮性クループ…………… 93
- 仮性嚢胞…………… 104
- かぜ症候群…………… 93, 96
- 家族機能…………… 16
- 家族ケア…………… 27, 79
- 家族計画…………… 36
- 家族構成…………… 30
- 家族性高コレステロール血症…………… 121
- 家族性腺腫性ポリポーシス…………… 103
- 家族性地中海熱…………… 125
- 家族との連携…………… 28
- 家族の医療への参加…………… 16
- 家族療法…………… 80
- 家族歴…………… 18
- 下腿・足の疾患…………… 117
- 肩関節周囲炎…………… 116
- 肩関節脱臼…………… 118
- 肩関節の疾患…………… 116
- 過多月経…………… 112
- 肩凝り…………… 60
- 下大静脈フィルター留置術…………… 101
- 喀血…………… 19, 55
- 滑車神経麻痺…………… 91
- 褐色細胞腫…………… 100, 121
- 活性化部分トロンボプラスチン時間…………… 9
- カットオフ値…………… 22, 23
- 滑液包炎…………… 117
- 活動…………… 30
- 活動性低下・不機嫌…………… 20
- 滑膜…………… 44
- 滑膜炎…………… 117
- 滑膜肉腫…………… 117
- 過程…………… 17
- 家庭環境…………… 18
- 家庭内事故…………… 130
- 家庭におけるアレルギー・過敏症…………… 130
- 家庭用品による障害…………… 130
- カテーテルアブレーション…………… 75, 99
- カテコラミン…………… 11
- 寡動…………… 59
- 可動域…………… 21
- カニ爪陰影欠損…………… 105
- 加熱式…………… 28
- 過粘稠度症候群…………… 106
- 化膿性関節炎…………… 114
- 化膿性骨髄炎…………… 114
- 化膿性脊椎炎…………… 114
- 化膿性中耳炎…………… 92
- 痂皮…………… 53
- 過敏性腸症候群…………… 25, 102
- 過敏性肺炎…………… 96, 124, 129
- 下腹痛…………… 57
- 花粉症…………… 124
- 下部消化管内視鏡検査…………… 13
- 下部尿路腫瘍…………… 111
- 下部尿路症状…………… 57
- 下部尿路閉塞性疾患…………… 110
- 寡分割照射…………… 75
- 過分割照射…………… 75
- カプセル内視鏡…………… 70
- カプセル内視鏡検査…………… 13
- 貨幣状湿疹…………… 89
- カポジ水痘様発疹症…………… 91
- 過眠…………… 58
- 過眠症…………… 88
- カラードブラ法…………… 65, 68
- カラードブラ<Doppler>心エコー検査…………… 13
- カリウム代謝異常…………… 110
- 顆粒球コロニー刺激因子…………… 42
- カルシウム代謝異常…………… 110
- カルシウム・リン代謝異常…………… 120
- カルシトニン…………… 10
- カルチノイド…………… 97
- カルディオバージョン…………… 77
- 加齢…………… 48
- 加齢黄斑変性…………… 92
- 加齢と健康状態…………… 36
- 加齢による機能低下…………… 48
- 加齢による疾患の特徴…………… 48
- 加齢による変化…………… 48
- カロリックテスト…………… 67
- 川崎病…………… 100, 125
- 簡易精神症状評価尺度…………… 67
- 肝炎対策基本法…………… 32
- 感音機構…………… 40
- 感音難聴…………… 54
- 感覚…………… 21
- 感覚器…………… 19, 40, 46, 54
- 感覚器機能検査…………… 66

- 感覚系伝導路……………44
 感覚障害……………20, 24, 59
 感覚の障害……………59
 肝外門脈閉塞症……………104
 肝芽腫……………105
 肝癌……………25
 換気……………39, 41
 換気血流比……………41
 肝機能障害……………73
 換気分布……………41
 環境……………30, 35
 環境アセスメント……………38
 環境異常の治療……………78
 環境因子……………49
 環境因子と胎児障害……………36
 環境因子による奇形……………49
 環境影響評価……………38
 環境汚染……………36
 環境汚染の概念……………38
 環境汚染の発生要因と健康影響……………38
 環境汚染の評価と対策……………38
 環境基準……………38
 環境基本法……………32
 環境(社会経済的・構造的)レベルと個人レベルの要因……………28
 環境と健康……………30
 環境と適応……………38
 環境の概念……………38
 環境への配慮……………18
 環境保健……………32, 38
 環境保全……………38
 環境モニタリング……………38
 換気力学……………41
 換気量……………41
 冠血管……………41
 肝血管腫……………103
 間欠性跛行……………56
 観血的……………78
 汗孔角化症……………90
 肝硬変……………25, 103
 肝細胞癌……………75, 103
 観察……………70
 監察医制度……………52
 観察研究……………35
 鉗子……………79
 肝疾患……………103
 間質……………42
 間質性腫瘍……………111
 間質性腎炎……………26
 間質性肺疾患……………25
 間質性肺障害……………97
 間質性膀胱炎……………110
 間質病変……………109
 肝腫大……………56
 カンダ症……………90, 96, 127
 患者医師関係の構築……………18
 患者会……………77
 患者確認と検体の確認……………22
 患者・家族の医療への参加……………16
 患者教育・カウンセリング……………26
 患者クラブ……………77
 患者・市民参画……………16
 患者・障害者のもつ心理・社会的問題……………16
 患者・障害者の社会活動と社会参加……………16
 患者・障害者の心理と態度……………16
 患者中心型モデルに基づく面接……………18
 患者中心性……………17
 患者中心の医療……………16
 患者調査……………35
 患者の教育……………18
 患者の権利と義務……………16
 患者の問題の定式化……………23
 患者の理解度……………19
 患者への声かけと診察に必要な例示……………20
 患者への適用……………23
 患者への配慮……………20
 患者本人であることの確認……………18
 患者要因……………71
 感受性試験……………12, 72
 冠循環……………42
 感情……………43
 感情・意欲・性格の変化……………48
 感情障害……………58, 87
 冠状断……………69
 感情と行動の変化……………49
 環状肉芽腫……………91
 感情面への対応……………18
 緩徐進行型……………121
 肝・腎障害……………71
 肝性昏睡……………61
 肝性脳症……………25, 87
 関節……………21, 44
 間接Coombs試験……………11
 関節液……………63
 関節エックス線撮影……………13
 関節炎……………90, 117
 関節可動域訓練……………76
 関節感染症……………114
 関節鏡……………73
 関節強直……………59
 関節腔……………70
 関節系統疾患……………116
 関節拘縮……………59, 118
 関節弛緩……………59
 関節疾患……………77
 関節腫脹……………20, 59
 関節症……………117
 関節造影検査……………69
 関節痛……………20, 59
 関節動揺性……………59
 関節内骨折……………118
 関節内出血……………57
 関節軟骨……………44
 関節の外傷……………118
 関節破壊……………59
 関節不安定性……………59
 関節変形……………20, 59
 関節包……………44
 関節やその周辺構造の障害……………59
 関節リウマチ……………26, 109, 117, 124
 関節リウマチとその類縁疾患……………124
 関節離断……………118
 乾癬……………90
 感染……………50
 感染経路別予防策……………17
 感染症……………34, 36, 102, 103, 104, 105, 122
 感染症検査……………22, 67
 感染症対策……………32, 37
 感染症の疫学……………37
 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律……………32
 感染症発生動向調査……………37
 感染療法……………32
 感染性……………51
 感染性胃腸炎……………102
 乾癬性関節炎……………124
 感染性呼吸器疾患……………96
 感染性心内膜炎……………100
 感染性大腸炎……………102
 感染性腸炎……………102
 感染性廃棄物……………38
 感染対策マニュアル……………17
 感染と発症……………50
 感染による免疫不全症……………125
 感染の抗原・抗体……………11
 感染病原体の抗原・抗体……………64
 感染防御機構……………50
 感染防止……………78
 感染マーカー……………11
 感染様式と経路……………50
 感染予防……………74
 完全大血管転位症……………99
 肝損傷……………105
 肝臓……………21, 47
 肝臓の機能……………42
 肝・胆道機能検査……………65
 肝・胆道・膵の構造……………42
 肝・胆道・膵の構造・機能……………42
 嵌頓ヘルニア……………105
 感度……………23
 冠動脈疾患……………112
 冠動脈バイパス術……………100
 冠動脈瘤……………100
 肝内胆管癌……………103
 肝内胆汁うっ滞……………103
 肝の異常……………105
 間脳……………122
 間脳・下垂体疾患……………120
 肝嚢胞……………103
 肝膿瘍……………103
 カンファレンスでのプレゼンテーション……………19
 肝不全……………25
 肝包虫症……………103
 感冒……………93, 96
 肝門部空腸吻合術……………105
 管理濃度……………38
 寒冷凝集素症……………106
 寒冷凝集反応……………11
 寒冷による障害……………26
 関連強固性……………35
 冠攣縮性狭心症……………100

関連障害……………88
 関連痛……………56
 関連を表す指標……………35
 緩和ケア……………27, 79, 80
 緩和ケアチーム……………27, 79, 80
 緩和ケアの概念……………27, 79
 緩和ケア病棟……………27, 79, 80
 緩和照射……………75
 緩和的外科治療……………79
 緩和的放射線治療……………79

が

臥位……………21
 外陰……………43
 外陰Paget病……………111
 外陰炎……………110
 外陰癌……………111
 外因死……………52
 外陰腔カンジダ症……………110
 外陰の腫瘍……………111
 外陰部の異常……………57
 外眼筋……………40
 外眼部の異常……………54
 外眼部の疾患……………91
 外傷・24, 61, 96, 100, 102, 103, 105
 外傷患者初期診療……………23
 外照射……………75
 外傷性気胸……………25
 外傷性耳小骨離断……………94
 外傷性切断……………118
 外傷性てんかん……………118
 外傷性脳内血腫……………118
 外傷の合併症……………118
 外傷の治療・処置……………78
 外耳……………40, 70
 外耳・中耳疾患……………92
 概日リズム……………43
 概日リズム障害……………88
 外耳道……………40
 外耳道異物……………92
 外耳道癌……………92
 外耳道の異常……………92
 外耳道閉鎖症……………95
 外生殖器の異常……………57
 咳嗽……………19, 55
 外側膝状体……………40
 外的妥当性……………23
 外転神経麻痺……………91
 ガイドライン・プロトコール……………27
 概念……………50
 外反母趾……………117
 外表……………53
 外表奇形……………62
 外鼻孔……………40
 外部被ばく……………52
 外分泌機能検査……………65
 外リンパ瘻……………93
 ガウンテクニック……………27
 顎関節症……………94
 顎骨腫瘍……………94

顎骨の異常……………94
 学習障害……………58
 学習と社会経験……………48
 学術批判的吟味……………23
 学童期……………47
 学童期の児の診察……………62
 学童の栄養……………47
 学力の特異的発達障害……………88
 学齢期好発疾患と予防……………37
 ガス壊疽……………90, 127
 ガス交換・酸塩基平衡・電解質の評価……………61
 ガス中毒……………129
 ガストリノーマ……………104
 ガストリン……………10
 ガストリン・ペプシノゲン測定……………65
 ガス・物質交換と代謝……………46
 画像強調内視鏡……………70
 画像検査……………68
 画像検査との相関……………40
 画像検査における医療情報……………68
 画像診断支援システム……………68
 画像情報システム……………68
 画像・内視鏡検査……………23
 画像の記録……………16
 画像誘導放射線治療……………75
 学校安全教育・安全管理……………37
 学校医と保健管理……………37
 学校医の職務……………37
 学校精神保健……………37
 学校における感染症の予防……………37
 学校における出席停止……………37
 学校保健……………32, 37
 学校保健安全法……………32
 学校保健の現状と動向……………37
 合併症……………69, 70, 71, 77, 78, 80
 合併症妊娠……………84
 合併症の評価……………61
 ガドリニウム造影剤……………69
 ガラクトース血症……………122
 がん……………129
 がん悪液質の概念と病状把握……………79
 眼圧……………40
 眼圧検査……………66
 眼位……………40
 眼位・眼球運動障害……………91
 眼位検査……………66
 がん遺伝子……………50
 眼窩……………40
 眼窩・外眼部・前眼部・眼球の疾患……………91
 眼窩腫瘍……………91
 眼窩の異常……………91
 眼外傷……………78
 眼球……………21, 40
 眼球運動……………40
 眼球運動異常……………54
 眼球運動・眼振の検査……………67
 眼球運動障害……………19, 91
 眼球陥凹……………54
 眼球突出……………54, 91
 眼球的異常……………54

眼球の疾患……………91
 眼球付属器……………40
 眼筋麻痺……………91
 ガングリオン……………117
 眼瞼……………21, 40
 眼瞼炎……………91
 眼瞼下垂……………54
 眼瞼外反……………91
 眼瞼けいれん……………93
 眼瞼腫瘍……………91
 がん検診……………36
 眼瞼内反……………91
 眼瞼の異常……………91
 {眼}瞼裂狭小……………54
 眼脂……………19, 54
 眼症状……………54
 眼振……………54
 眼振の検査……………67
 眼軸長検査……………66
 癌性胸膜炎……………97
 癌性髄膜炎……………114
 眼精疲労……………54
 癌性腹膜炎……………104
 癌性リンパ管症……………97
 眼組織の異常……………54, 92
 がん対策基本法……………32
 含窒素成分……………10, 63
 眼痛……………19, 54
 眼底検査……………66
 がんと遺伝的要因・外的要因……………50
 がん疼痛……………79
 眼内炎……………92
 眼内腫瘍……………92
 眼内レンズ……………74
 眼内レンズ挿入術……………92
 眼表面・涙器の異常……………91
 顔貌……………21
 顔貌の異常……………53
 顔面・頸部外傷……………78
 顔面けいれん……………93
 顔面肩甲骨型……………116
 顔面骨折……………94
 顔面神経……………40
 顔面神経麻痺……………93
 顔面の構造……………40
 顔面の骨折……………94
 がん抑制遺伝子……………50
 がんリハビリテーション……………76

き

気圧による障害……………130
 既往歴……………18
 既往歴・合併症の評価……………61
 記憶……………43
 記憶障害……………58
 機械性……………51
 機械的合併症……………71
 機械的呼吸・循環補助……………77
 機械的補助循環……………74
 機械弁……………74
 気管……………21, 41, 70

- 気管・気管支腫瘍……………97
 気管・気管支損傷……………96
 気管・気管支の異常……………55, 96
 気管・気管支の狭窄・閉塞……………96
 気管・気管支・肺の形態・機能異常……………96
 器官形成期……………46
 器官形成と臓器の成熟……………46
 気管呼吸音……………21
 気管支……………41, 70
 気管支炎……………25, 96
 気管支拡張症……………96
 気管支鏡検査……………13
 気管支呼吸音……………21, 55
 気管支腫瘍……………97
 気管支喘息……………25, 96, 124
 気管支損傷……………96
 気管支の異常……………55
 気管支の狭窄・閉塞……………96
 気管支の形態・機能異常……………96
 気管支・肺・胸膜・縦隔の腫瘍……………97
 気管支・肺の異常……………96
 気管支肺胞呼吸音……………55
 気管支肺胞洗浄……………70
 気管食道瘻……………98
 気管切開……………77
 気管挿管……………23, 73, 77
 期外収縮……………56
 気胸……………98
 奇形……………94
 危険因子……………69
 気質……………43
 器質性月経困難症……………112
 器質性精神病……………87
 気腫性嚢胞……………96
 記述疫学……………35
 基準値……………22
 基準病床数……………33
 機序……………71
 寄生虫……………12, 127
 寄生虫症……………96
 寄生虫性肝疾患……………103
 基礎体温……………43
 拮抗……………71
 拮抗薬……………78
 喫煙……………28, 36
 喫煙状況・種類……………28
 喫煙による健康障害……………129
 喫煙による障害……………129
 喫煙の有害性……………28
 吃音……………88
 基底細胞癌……………89
 基底膜……………40
 基底膜菲薄化症候群……………109
 亀頭包皮炎……………110
 気道……………76
 気道異物……………96
 気道確保……………23, 27, 73, 77
 気道感染症……………96
 気導・骨導聴力閾値検査……………66
 気道熱傷の治療……………78
 機能異常……………51, 102, 105
 機能訓練……………31
 機能肢位……………59
 機能性月経困難症……………112
 機能性子宮出血……………112
 機能性疾患……………116
 機能性消化管障害……………25
 機能性ディスペプシア……………25, 102
 機能性難聴……………93
 機能性卵巣嚢胞……………111
 キノコ……………129
 亀背……………116
 希発月経……………112
 気分……………43, 61
 気分障害……………87
 基本概念……………28
 基本手技……………70
 基本的緊急薬物療法……………23
 基本的手技……………27
 基本的な救急処置……………23
 基本的な手術手技……………72
 基本動作訓練……………76
 奇脈……………56
 客観的所見……………16
 キャリア……………50
 吸引分娩……………79
 嗅覚系・味覚系の構造・機能……………41
 嗅覚障害……………54
 嗅覚・味覚検査……………67
 嗅覚路……………44
 吸気の加温・加湿……………41
 救急医療……………33
 救急医療の確保……………33
 救急医療機関……………33
 救急医療情報……………33
 救急医療体制……………33
 救急医療用ヘリコプター……………33
 救急患者の治療……………27
 救急患者の診察……………23
 救急救命士……………33
 救急指定病院……………33
 救急車……………33
 救急初期診療……………23
 救急隊員……………33
 救急搬送……………33
 球形嚢……………40
 救護活動の基本……………24
 吸収……………71
 吸収線量……………68
 吸収不良症候群……………102
 丘疹……………53
 求心路……………44
 休日夜間急患センター……………33
 嗅上皮……………41
 急性……………96
 急性アルコール中毒……………129
 急性胃炎……………102
 急性胃腸炎……………25
 急性一過性精神病性障害……………87
 急性胃粘膜病変……………102
 急性灰白髄炎……………126
 急性化膿性限局性外耳炎……………92
 急性肝炎……………25, 103
 急性間質性腎炎……………109
 急性冠症候群……………25, 61, 100
 急性肝不全……………61, 78
 急性合併症……………121
 急性期……………80
 急性期反応……………51
 急性期リハビリテーション……………76
 急性喉頭炎……………93
 急性喉頭蓋炎……………93
 急性硬膜下血腫……………118
 急性硬膜外血腫……………118
 急性呼吸窮迫症候群……………25, 73, 78, 97
 急性呼吸不全……………61, 78, 97
 急性骨髄性白血病……………106
 急性散在性脳脊髄炎……………114
 急性糸球体腎炎……………109
 急性糸球体腎炎症候群……………26
 急性出血性結膜炎……………126
 急性消化管出血……………24, 61
 急性小脳性失調症……………114
 急性心筋梗塞……………25, 100
 急性心不全……………61, 78, 99
 急性心膜炎……………100
 急性腎盂腎炎……………110
 急性腎障害……………26, 61, 78, 110
 急性肺炎……………25, 104
 急性声門下喉頭炎……………93
 急性大動脈解離……………25
 急性中耳炎……………24, 92
 急性虫垂炎……………25
 急性中毒……………51, 61, 87, 130
 急性中毒の治療・処置……………78
 急性動脈閉塞症……………101
 急性尿細管壊死……………109, 110
 急性脳炎……………114
 急性脳症……………114
 急性肺血栓塞栓症……………97
 急性白血病……………26
 急性腹症……………61, 105
 急性副腎不全……………120
 急性腹膜炎……………105
 急性閉塞性化膿性胆管炎……………104
 急性ヘルペス性口内炎……………93
 急性扁桃炎……………94
 急性放射線障害……………61, 75, 78, 130
 急性腰痛症……………116
 急性リンパ性白血病……………106
 球脊髄性筋萎縮症……………115
 急速・緩徐導入……………73
 急速進行性糸球体腎炎症候群……………109
 急速遂娩……………79
 吸血虫……………96, 128
 吸入……………71
 吸入麻酔……………73
 救命救急センター……………33
 休養・心の健康……………28
 狭圧……………49
 胸囲……………47
 強オピオイド……………79
 境界性パーソナリティ障害……………88
 胸郭……………21, 41, 44
 胸郭出口症候群……………116

- 胸郭の形態・機能異常と外傷・・・97
 胸郭の構造・機能・・・41
 胸郭変形・・・98
 共感・・・18
 胸管・・・42
 共感的態度・・・18
 狂牛病・・・128
 胸腔・・・27, 70
 胸腔鏡・・・73
 胸腔穿刺・ドレナージ・・・77
 胸腔内圧・・・41
 胸骨圧迫・・・77
 頰骨骨折・・・94
 狭骨盤・・・84
 強剛母指・・・117
 鏡視下手術・・・73
 経食道心エコー検査・・・13
 狭心症・・・25, 100
 胸水・・・55, 63
 胸水・腹水・全身浮腫の治療とケア
 ・・・79
 胸水・腹水の検査・・・22
 胸髄損傷・・・118
 強制利尿・・・78
 胸腺・・・41, 45
 胸腺腫瘍・・・97
 胸腺低形成・・・125
 強直間代発作・・・116
 強直性脊椎炎・・・116, 124
 胸痛・・・19, 24, 55
 狭頭・・・59
 共同意思決定・・・16
 強度変調放射線治療・・・75
 強迫観念・・・58
 強迫症・・・87
 強迫性障害・・・87
 強皮症腎クリーゼ・・・109
 恐怖・・・20, 58
 胸腹部大動脈瘤・・・101
 胸部圧迫感・・・19
 胸部エックス線撮影・・・13
 胸部外傷・・・78
 胸部大動脈瘤・・・101
 胸部の診察・・・21
 胸部・腹部大動脈瘤・・・75
 胸壁・・・41, 98
 胸壁疾患・・・25
 強膜・・・40
 胸膜・・・41, 98
 強膜炎・・・91
 胸膜炎・・・96
 胸膜腫瘍・・・97
 胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の形態・
 機能異常と外傷・・・97
 胸膜・縦隔の感染症・・・96
 胸膜中皮腫・・・97
 胸膜の腫瘍・・・97
 胸膜ブランク・・・97
 胸膜摩擦音・・・55
 局在関連性てんかん・・・116
 局所解剖・・・40
 局所浸潤・・・51
 局所振動・・・39
 局所麻酔・・・70, 74
 局所麻酔薬中毒・・・74
 局所療法・・・78
 局所療法剤・・・78
 虚血・・・51
 虚血性心筋症・・・100
 虚血性心疾患・・・100, 129
 虚血性腸炎・・・103
 巨細胞性動脈炎・・・124
 拒食症・・・120
 居住・衣服環境と健康・・・39
 巨赤芽球性貧血・・・106
 居宅介護支援事業所・・・31
 居宅サービス・・・31
 巨大児・・・85
 巨大舌・・・54
 許容濃度・・・38
 寄与危険度・・・23, 35
 起立性調節障害・・・51
 起立性低血圧・・・51, 101
 起立・歩行障害・・・59
 筋・・・44
 筋萎縮・・・59
 筋萎縮性側索硬化症・・・115
 禁煙支援・・・28
 禁忌・・・68, 69, 74
 緊急血液浄化法・・・77
 緊急手術・・・73
 緊急治療の要否・部位別優先順位の
 判断・・・61
 緊急治療の要否の判断・・・23
 緊急度・・・77
 緊急避妊・・・112
 緊急ペーシング・・・23, 77
 筋強剛・・・59
 筋強直性ジストロフィー・・・116
 筋けいれん・・・59
 菌交代現象・・・50
 菌交代症・・・50
 筋骨格系の診察・・・21
 筋弛緩薬とその拮抗薬・・・73
 筋疾患・・・77, 115, 116
 筋ジストロフィー・・・100, 116
 菌状息肉症・・・90
 筋性斜頸・・・116
 筋性防御・・・21, 56
 金属代謝の異常・・・122
 金属中毒・・・129
 筋断裂・・・118
 緊張型頭痛・・・26, 116
 緊張型統合失調症・・・87
 緊張性気胸・・・25, 51, 98
 緊張病症候群・・・58
 筋電図・神経伝導検査・・・65
 筋肉・・・27
 筋肉痛・・・20, 59
 筋肉内出血・・・57
 筋の障害・・・59
 筋膜切開・・・78
 筋力増強訓練・・・76
 筋力低下・・・20, 59

の

- 偽関節・・・118
 義肢・・・76
 技術革新と健康障害・・・49
 偽性球麻痺・・・114
 偽痛風・・・26, 117, 125
 偽膜性腸炎・・・102
 逆流性食道炎・・・102
 逆行性尿路造影検査・・・13
 ギャンブル依存・・・87
 ギャンブル障害・・・87
 仰臥位・・・21
 凝固・・・76
 凝固因子の異常・・・107
 凝固・線溶異常・・・72
 凝固・線溶系・・・42
 凝固・線溶系検査・・・22
 凝固・線溶・血小板機能検査 9, 63
 行政解剖・・・52
 業務上疾病の発生状況・・・37
 魚鱗癖・・・90

く

- 空間的線量分布・・・75
 空腹時血糖・・・10
 区画症候群・・・78, 118
 口および口腔内の異常・・・54
 唇・口蓋の先天異常・・・95
 屈折異常・・・91
 屈折検査・・・66
 苦痛緩和のための鎮静・・・79
 苦痛のアセスメント・・・27
 苦痛への配慮・・・20
 国と地方公共団体・・・30
 クモ・・・129
 くも状血管拡張・・・89
 くも膜下出血・・・26, 59, 114
 クラス・・・64
 クラミジア・・・12
 クラミジア結膜炎・・・126
 クラミジア性尿道炎・・・111
 クラミジア肺炎・・・126
 クラミジア・マイコプラズマ・リケ
 ッチアによる感染症・・・126
 クリアランス・・・43
 クリオグロブリン血症性血管炎 125
 クリッピング・・・76
 クリティカル・アプレイザル・・・23
 クリニカルパス・・・17
 クリプトコックス症・・・96, 128
 クリプトスポリジウム症・・・128
 クループ症候群・・・93
 くる病・・・116, 120
 車椅子・・・76
 クレアチニン・・・10
 クレアチニンクリアランス 12, 65
 クレチン症・・・122
 クレブシエラ感染症・・・127

クロストリジウム・ディフィシル腸炎	127
クロスマッチ	10, 63, 72
クローラ定量	9

ぐ

隅角	40
隅角検査	66
偶然誤差	35
偶発がん	50
偶発性低体温{症}	130
グリーンケア	27, 80
グループホーム	31, 77
グルカゴノーマ	104
グルカゴン	10
グルカゴン負荷試験	12
グルココルチコイド及び非ステロイド性抗炎症薬	72
グロムス腫瘍	89, 117
群発頭痛	116

け

ケアプラン	31
ケアマネジャー	31
計画	16
経カテーテル大動脈弁留置術	99
頸管開大度の診断・表現法	62
経管・経腸栄養	71
頸管成熟度	62
頸管・膣・会陰裂傷	85
頸管縫縮術	84
頸管無力症	84
頸筋群	40
頸筋膜	40
頸肩腕障害	129
経口	71
経口栄養	71
蛍光眼底造影検査	66
経口グルコース負荷試験	65
経口避妊薬	112
脛骨前粘液水腫	91
経済的支援	16
憩室炎	103
形質細胞	45
憩室出血	103
痙縮	59
形状	21
頸静脈	40
経静脈栄養	71
頸静脈孔	40
頸静脈孔症候群	93
頸静脈怒張	56
頸髄・胸髄・腰髄損傷	118
痙性斜頸	115
痙性対麻痺	115
形態異常	85, 102, 103, 104, 105
経腔超音波検査	13
経腸栄養	71
経腸栄養の選択	74

傾聴の仕方	18
頸椎	24
頸動脈	40
茎捻転	111
珪肺	97
経皮吸収	40
経皮血管形成術	75
経皮的胃瘻造設	76
経皮的冠動脈インターベンション	100
経皮的局所療法	76
経皮的心房中隔欠損閉鎖術	99
経皮的生検	64, 76
経皮的動脈管閉鎖術	99
経皮的ドレナージ	76
頸部外傷	78
頸部血管	21
頸部刺創	78
頸部腫脹	54
頸部腫瘍	54
頸部超音波検査	13
頸部の異常	54, 94
頸部膿瘍	94
頸部の構造	40
頸部リンパ節炎	94
頸部リンパ節結核	94
刑法	31
けいれん	24, 53
けいれん重積状態	24
けいれん性疾患	119
けいれん発作	19
結果	17
結核	127
結核菌特異的全血インターフェロンガンマ遊離試験	11, 64
結核・抗酸菌検査	12
結核疹	90
結核性	96
結核性関節炎	114
結核性骨関節炎	114
結核性髄膜炎	114
結核性脊椎炎	114
結果の解釈	22
血管	19, 55, 70
血管炎症候群	26, 109
血管炎症候群とその関連疾患	124
血管芽腫	114
血管奇形	75
血管系	42
血管系治療	75
血管雑音	21, 56
血管腫	89, 103, 117
血管性	115
血管性病変	103
血管性浮腫	89, 124
血管損傷	100
血管造影検査	13, 68
血管肉腫	90
血管・尿管・間質病変	109
血管の異常による出血傾向	107
血管の構造・機能	41
血管病変	102, 103, 104, 105

血管・リンパ管奇形	53
血球	63
血球検査	9, 22
血球貪食症候群	107
血球貪食性リンパ組織球症	107
血球の形態・機能	42
血球の産生・崩壊とその調節	42
血胸	98
血行障害	51
血行性転移	51
結婚と離婚	35
結紮	27, 76
結紮法	72
血色素尿	57
欠失	49
血漿アンチトロンビン	9
血漿交換	72
血漿とその成分	42
血小板	9, 42
血小板機能検査	9, 63
血小板凝集能	63
血小板形態	107
血小板の異常	107
血小板無力症	107
血漿フィブリノゲン	9
血漿分画製剤	72
血漿分離法	63
結晶誘発性関節炎	26, 125
血漿レニン活性	10
欠神発作	116, 119
血清FDP	9
血清学的診断	22
血清・血漿分離法	63
血清抗体	64
血清シスタチンC	65
血清蛋白の異常	121
血清病	124
血清補体価	11
結石症	110
結節	53
結節性硬化症	89, 119
結節性紅斑	89
結節性多発動脈炎	109, 124
結節性痒疹	89
血栓	51
血栓回収術	75
血栓傾向	20, 57
血栓性血小板減少性紫斑病	107
血栓性疾患	107
血栓性静脈炎	89
血栓性微小血管症	109
血栓塞栓症	85
血栓溶解療法	75
血痰	19, 55
血中・尿中ホルモン測定	65
血中薬物・毒物と代謝産物	63
結腸	70
結腸癌	102
結腸疾患	102
結腸の異常	105
血糖	10
血糖管理	74

- 血圧……………21, 41
 血圧異常……………51, 56, 100
 血圧の調節……………43
 血液……………20, 42, 47, 57
 血液学検査……………22, 63
 血液ガス・電解質分析……………61
 血液ガス分析……………68
 血液型……………10, 22, 63, 67, 72
 血液型不適合妊娠……………84, 85
 血液吸着……………72
 血液凝固因子製剤……………72
 血液・血液製剤の安全性……………17
 血液検査……………67
 血液浄化……………72
 血液浄化法……………74, 78
 血液製剤の安全性……………17
 血液・造血管疾患……………25
 血液・造血管の構造・機能……………42
 血液中のガス運搬……………41
 血液透析……………72
 血液濾過……………72
 結合組織の代謝……………40
 血精液症……………57
 血尿……………20, 57, 109
 血尿・蛋白尿……………109
 血便……………19, 56
 欠乏と過剰……………51
 結膜……………40
 結膜アルカリ・酸損傷……………94
 結膜炎……………24, 91
 結膜化学損傷……………94
 結膜下出血……………91
 結膜充血……………19
 血友病……………107
 血友病性関節症……………117
 血流測定……………68
 血流分布異常性ショック……………51, 77
 ケトン体……………9
 ケモカイン……………45
 ケラトアcantoma……………89
 ケロイド……………49, 89
 腱……………44, 74
 検案書……………17
 検疫……………37
 検疫法……………32
 研究デザイン……………23
 健康観……………19
 健康管理……………38
 健康管理の概念・方法……………35
 健康教育・学習……………35
 健康・疾病・障害の概念と社会環境……………30
 腱拘縮……………60
 健康食品……………37
 健康診断……………22, 37
 健康診断・診査と健康管理……………35
 健康診断・診査と事後指導……………35
 健康診断と事後指導……………38
 健康寿命の延伸と生活の質の向上……………28
 健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法……………32
 健康相談……………35
 健康増進とヘルスプロモーション……………33
 健康増進の概念……………33
 健康増進法……………32
 健康づくり支援のための環境整備……………28
 肩甲難産……………84
 健康の概念……………30
 健康の社会環境モデル……………28
 健康の定義……………30
 健康保険法……………32
 健康保持・増進……………35
 健康保持・増進の概念……………35
 健康保持増進対策……………38
 検査・画像・手術の記録……………16
 検査後確率……………23
 検査前確率……………23
 検査前全身状態の評価……………70
 検査値の加齢変化……………48
 検査の安全性……………22
 検査の合併症……………22
 検査の基本……………21
 検査の精度管理……………22
 検査や治療に対する希望・好み……………19
 腱鞘炎……………117
 顕性遺伝……………49
 検体検査……………63
 検体の採取……………22, 64
 検体の採取と保存……………63
 検体の保存……………22
 検体保存法……………63
 腱断裂……………60, 118
 建築物衛生……………39
 建築物衛生法……………32
 建築物における衛生的環境の確保に関する法律……………32
 検定と推定……………35
 見当識……………43
 腱反射……………21
 腱板断裂……………116
 顕微鏡検査(虫卵など)……………9
 顕微鏡的多発血管炎……………96, 109, 124
 顕微授精……………80
 腱附着部炎……………117
 健忘……………58
 脛裂狭小……………54
 月経周期と量の異常……………57, 112
 月経前症候群……………112
 月経痛……………57
 月経痙……………113
 解毒・拮抗薬……………78
 解熱鎮痛薬依存・中毒……………129
 ゲノム要因……………71
 下痢……………19, 56
 減圧症……………78, 130
 減圧法……………73
 原因と分類……………49
 幻覚……………20, 58
 減感作療法……………80
 限局性学習障害……………88
 言語障害……………59, 77
 言語聴覚療法……………76
 言語的コミュニケーション……………18
 言語発達……………47
 言語発達障害……………59
 言語発達遅滞……………58
 原始反射と姿勢反射……………47
 現実感喪失症……………87
 減弱……………55
 現状と動向……………36, 37
 原虫……………12
 減張切開……………78
 原発性……………98, 121
 原発性悪性骨腫瘍……………117
 原発性アミロイドーシス……………107
 原発性アルドステロン症……………120
 原発性硬化性胆管炎……………104
 原発性高脂血症……………121
 原発性骨髄線維症……………106
 原発性性腺機能低下症……………121
 原発性胆汁性肝硬変……………103
 原発性胆汁性胆管炎……………103
 原発性ネフローゼ症候群……………109
 原発性免疫不全症……………125
 原発性良性骨腫瘍……………117
 現病歴……………18
 原理……………69
 原理と検査技術……………68
 こ
 抗ARS抗体……………11
 抗CCP抗体……………11
 抗dsDNA抗体……………11
 抗GAD抗体……………11
 高IgM症候群……………125
 抗Jo-1抗体……………11
 抗MDA5抗体……………11
 抗Mi-2抗体……………11
 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体……………11
 抗RNP抗体……………11
 抗Sc1-70抗体……………11
 抗Sm抗体……………11
 抗SS-A抗体……………11
 抗SS-B抗体……………11
 抗TIF1- γ 抗体……………11
 抗TSH受容体抗体……………11
 抗 β 2グリオプロテインI抗体……………11

げ

- 芸術……………28
 芸術療法……………80
 ゲーム依存……………87
 外科手技……………27
 外科的気道確保……………23, 77
 外科的侵襲に対する反応……………72
 劇症肝炎……………103
 劇症型……………121
 劇症型A群 β 溶連菌感染症……………90
 下血……………19, 56
 下水道法……………32
 月経……………43
 月経異常……………20, 26, 57, 111
 月経困難症……………112

- 抗アクアポリン4抗体……………11
 抗アセチルコリン受容体抗体……………11
 高圧酸素療法……………80
 抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体……………11
 広域医療搬送……………33
 行為障害……………88
 行為の正当化……………68
 抗インスリン抗体……………11
 高温環境による疾患……………130
 構音検査……………67
 構音障害……………20, 59
 構音障害訓練……………76
 硬化……………53
 光覚……………40
 口角……………40
 光覚異常……………54
 口角炎……………93
 光覚検査……………66
 抗核抗体……………11
 降下性縦隔炎……………96
 硬化性肺胞上皮腫……………97
 硬化療法……………75, 76
 抗カルジオリピン抗体……………11
 光干渉断層計……………66
 交感神経幹……………40, 41
 交換輸血……………72
 口蓋……………42
 口蓋裂……………95
 公害健康被害の補償等に関する法律……………32
 公害健康被害補償制度……………38
 公害の概念……………38
 公害の健康被害と対策……………38
 口蓋の先天異常……………95
 口蓋扁桃肥大症……………94
 抗菌スペクトル……………72
 抗菌薬……………72
 抗菌薬の適正使用……………17
 抗凝固剤……………63
 口腔……………21
 口腔アレルギー症候群……………124
 口腔・咽頭の構造・機能……………42
 口腔環境……………42
 口腔カンジダ症……………93
 口腔乾燥症……………55
 口腔・口唇の癌……………94
 口腔疾患……………93
 口腔内感染……………55
 口腔粘膜の異常……………54
 口腔の異常……………54, 93
 抗血小板薬による粘膜障害……………103
 高血糖高浸透圧症候群……………121
 硬結……………54
 高血圧……………19, 51, 56
 高血圧合併……………84
 高血圧緊急症……………51, 100
 高血圧症……………25
 高血圧性腎硬化症……………109
 高血圧性脳出血……………114
 高血圧による眼底変化……………24
 硬結性紅斑……………90
 光頭・電頭標本……………12
 抗原迅速検査……………12
 抗原提示細胞……………45
 膠原病および類縁疾患に伴う肺病変……………96
 膠原病と類縁疾患……………84, 124, 125
 膠原病に伴う腎病変……………109
 膠原病・リウマチ性疾患……………26
 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体……………11
 咬合……………42
 抗合成酵素症候群……………124
 抗好中球細胞質プロテインナーゼ-3抗体……………11
 抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体……………11
 虹彩……………40
 虹彩炎……………92
 虹彩毛様体炎……………92
 虹彩ルベオーシス……………54
 抗サイログロブリン抗体……………11
 交差混合試験……………107
 交差適合試験……………10, 63, 72
 後産期……………46
 好酸球……………45
 好酸球性胃腸炎……………103
 好酸球性血管性浮腫……………124
 好酸球性食道炎……………103
 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症……………96, 124
 好酸球性中耳炎……………92
 好酸球性肺炎……………96
 好酸球性副鼻腔炎……………93
 好酸球增多症候群……………106
 抗酸菌……………127
 抗酸菌検査……………12
 抗酸菌症……………96
 抗酸菌による感染症……………127
 高在縦定位……………84
 高山病……………78, 130
 抗糸球体基底膜抗体病……………125
 光視症……………54
 口臭……………55
 公衆衛生と医療……………30
 公衆衛生の概念と機能……………35
 抗腫瘍薬……………72
 口唇……………21, 40
 亢進症・低下症……………84
 高身長……………60
 口唇の癌……………94
 高次脳機能……………43
 高次脳機能障害……………58, 118
 後縦靭帯骨化症……………116
 後縦隔……………41
 公助……………30
 甲状腺……………10, 21, 44, 122
 甲状腺¹²³I摂取率……………12, 65
 甲状腺悪性腫瘍……………120
 甲状腺機能異常合併妊娠……………84
 甲状腺機能障害……………87, 120
 甲状腺機能低下症……………26, 120
 甲状腺機能亢進症……………26, 100, 120
 甲状腺クリーゼ……………61
 甲状腺刺激ホルモン……………10
 甲状腺疾患……………120
 甲状腺腫……………20, 54
 甲状腺の炎症……………120
 甲状腺の腫瘍……………120
 甲状腺良性腫瘍……………120
 後陣痛……………46
 硬性鏡……………70
 向精神薬依存・中毒……………129
 光線過敏……………53
 光線過敏症……………90
 光線性眼障害……………94
 光線テスト……………66
 抗セントロメア抗体……………11
 光線療法……………80
 酵素……………10, 63
 梗塞……………51
 拘束型心筋症……………100
 酵素結合免疫吸着法……………64
 酵素阻害……………71
 酵素組織化学染色……………12
 酵素誘導……………71
 構造異常……………49
 構造・過程・結果……………17
 高温温……………24
 抗体検査法……………64
 抗体産生不全を主とする免疫不全症……………125
 抗体療法……………80
 抗第Ⅷ因子インヒビター……………107
 叩打痛……………21
 好中球……………45
 好中球機能検査……………11
 好中球性皮膚症……………89
 高張食塩水負荷試験……………12
 交通事故……………130
 交通性水頭症……………118
 肯定……………18
 高・低エコー域……………68
 公的扶助……………30
 後天性von Willebrand病……………107
 後天性血小板機能異常症……………107
 後天性血栓形成傾向……………107
 後天性血友病……………107
 後天性水疱症……………90
 後天性鉄芽球性貧血……………106
 後天性表皮水疱症……………90
 後天性免疫不全症候群……………125, 126
 喉頭……………41, 70
 後頭蓋窩……………40
 喉頭癌……………93
 喉頭疾患……………93
 喉頭損傷……………95
 喉頭内視鏡検査……………13
 喉頭乳頭腫……………93
 喉頭の異常……………55, 93
 行動……………30
 行動の変化……………48
 行動反応聴力検査……………66
 行動変容……………16, 28
 行動療法……………80
 行動レベルと行動変容……………28
 高二酸化炭素血症……………55

混合性難聴……………54
コンサルテーション……………28
根治照射……………75
昆虫・ダニアレルギー……………124
コントラクションストレステスト68
コンパートメント症候群…78, 118
コンピューター断層複合撮影…70
コンピューテッドラジオグラフィ68
昏迷……………58

い

誤飲……………24, 130
合計特殊出生率……………35
誤嚥……………19, 24, 56, 130
語音聴力検査……………66
誤差……………22
誤差と精度……………23
互助……………30
ゴナドトロピン負荷試験……………12

さ

サーカディアンリズム……………43
サーベイランス……………37
サーモグラフィ……………66
災害……………49
災害医療……………24, 33
災害拠点病院……………33
災害時保健医療……………33
災害派遣医療チーム……………33
細気管支炎……………25, 96
細菌……………96, 126
細菌感染症……………90
細菌検査……………9, 12
細菌(抗酸菌<マイコバクテリア>を
除く)による感染症……………126
細菌・真菌感染症……………114
細菌性……………96
細菌性・アメーバ性肝膿瘍……………103
細菌性食中毒……………129
細菌性髄膜炎……………114
細菌性赤痢……………127
細菌性膣症……………84, 110
細菌性腹膜炎……………104
採血……………22, 63
細隙灯顕微鏡検査……………66
再現性……………23
採光……………39
再興感染症……………50
採取法……………22
再生医療……………74
再生産率……………35
再生不良性貧血……………106
碎石位……………21
碎石術……………76
臍帯……………46
臍帯下垂……………84
臍帯脱出……………84
臍帯脱落……………47
臍帯動脈血pH……………62, 68

臍帯動脈血液ガス……………85
臍帯の異常……………84
臍帯の検査……………68
臍帯の診断……………62
臍帯ヘルニア……………105
採痰……………22
最大羊水深度……………84
再投与試験……………11
サイトカイン……………42, 45
サイトメガロウイルス感染症…126
サイトメガロウイルス肺炎……………96
採尿……………22, 63
再発……………51
再発性多発軟骨炎……………125
再発防止策の立案……………17
臍ヘルニア……………105
採便……………22, 63
細胞……………40
細胞移植……………74
細胞間脂質……………40
細胞間接着……………40
細胞質遺伝……………49
細胞死と細胞生存曲線……………74
細胞周期……………75
細胞障害型……………103
細胞傷害性Tリンパ球抗原4……………45
細胞傷害性T細胞……………45
細胞診……………9, 22, 63, 64
細胞数(種類)……………9
細胞数(種類と比率)……………9
細胞性免疫……………64
細胞表面抗原……………64
細胞免疫・食菌能検査……………11
サイログロブリン……………10
サイン……………68
作業環境管理……………38
作業管理……………38
作業所……………77
作業態様による障害……………129
作業療法……………76, 77
作為体験……………58
鎖肛……………105
左室駆出率の保たれた心不全……………99
左室駆出率の低下した心不全……………99
左心系疾患に伴う肺高血圧症……………97
左心不全……………99
嗝声……………19, 55, 98
させられ体験……………58
擦過……………22, 70
錯覚……………58
撮影法……………69
撮像法……………69
砂漠化……………38
サブクラス……………64
左右短絡疾患……………99
サラセミア……………107
サルコイドーシス……………92, 96, 125
サルコペニア……………36, 48
サルモネラ感染症……………127
酸塩基平衡……………10, 41, 43, 63, 73
酸塩基平衡の異常……………110
酸塩基平衡の評価……………61

参加……………30
産科DIC……………85
産科ショック……………79
産科的救急治療・処置……………79
産科的骨盤エックス線撮影……………13
産科麻酔……………73
産休制度……………36
産業医と労働安全衛生管理……………38
産業医の資格と職務……………38
産業構造……………30
産業精神保健……………37
産業中毒……………129
産業中毒とその他の職業性疾患……………129
産業廃棄物……………38
産業保健……………32, 37
産業保健総合支援センター……………38
産業保健の仕組み……………37
サンゴ状結石……………110
三叉神経……………40
三叉神経痛……………93, 115
三次救急医療……………33
三次救急に必要な処置……………77
三次救急の治療……………77
三次救急の診察……………61
三次元CT……………13
三次元CT血管撮影……………13, 69
三次元再構成画像……………69
産褥……………17, 46
産褥期精神障害……………85
産褥血栓症……………85
産褥熱……………85
産褥の異常……………20, 84, 85
産褥の経過……………46
産褥無月経……………46
酸性雨……………38
三尖弁閉鎖症……………99
三尖弁閉鎖不全症……………100
酸素欠乏症……………78, 130
酸素効果……………75
酸素中毒……………97
酸素投与方法……………77
酸素飽和度……………21
酸素療法……………80
産徴……………46
産道……………46, 50
産道の異常……………84
酸による損傷……………50
三半規管……………40
散布……………70
産婦の診察……………62
産瘤……………46
霰粒腫……………91

せ

座位……………21
剤型……………71
在胎週数……………47
在宅医療……………27, 30
在宅介護……………30
在宅ケア……………30
在宅酸素療法……………80

在宅当番医……………33
 在宅ホスピス・緩和ケア……………80
 在宅リハビリテーション……………30
 坐骨神経痛……………60
 痤瘡……………91
 挫滅症候群……………78, 118
 残尿感……………57
 残尿量測定……………65

し

死……………27, 52
 死因の究明……………52
 シェアードディシジョンメイキング
 ………………16
 支援……………18
 視覚系の構造・機能……………40
 視覚障害……………77
 視覚誘発電位……………66
 視覚路……………44
 子癩……………84
 弛緩出血……………85
 紫外線……………94, 130
 閾<しきい>線量……………52
 視器一般検査……………66
 色覚……………40
 色覚異常……………54, 91
 色覚検査……………66
 色素異常……………53
 色素異常症……………90
 色素性乾皮症……………90
 色素性蕁麻疹……………89
 色素性母斑……………89
 色素性痒疹……………89
 色素内視鏡検査……………13
 色素排泄試験……………65
 色素斑……………53
 指揮と統制……………24
 視機能……………40
 視機能異常……………91
 視機能検査……………66
 視機能障害……………54
 子宮……………43, 50, 75
 子宮鏡……………70
 子宮筋腫……………26, 111
 子宮腔癒着{症}……………113
 子宮頸管炎……………110
 子宮頸管長……………67
 子宮頸管粘液……………63
 子宮頸管ポリープ……………111
 子宮頸癌……………26, 111, 126
 子宮頸部上皮内腫瘍……………111
 子宮頸部の類腫瘍・腫瘍……………111
 子宮支持組織……………43
 子宮性無月経……………111
 子宮腺筋症……………111
 糸球体……………42
 子宮体癌……………26, 111
 糸球体腎炎……………109
 糸球体病変……………109
 子宮体部の類腫瘍・腫瘍……………111
 糸球体濾過……………43

糸球体濾過量……………12
 子宮脱……………112
 子宮内胎児死亡……………85
 子宮内反症……………85
 子宮内膜異型増殖症……………111
 子宮内膜炎・筋層炎……………110
 子宮内膜癌……………111
 子宮内膜症……………26, 111
 子宮内膜症性嚢胞……………111
 子宮内膜増殖症……………111
 子宮内膜の周期性変化……………43
 子宮内膜ポリープ……………111
 子宮肉腫……………111
 子宮の奇形……………112
 子宮破裂……………85
 子宮復古……………46
 子宮復古不全……………85
 子宮卵管造影検査……………13, 69
 子宮留膿症・腫……………110
 死腔……………41
 止血……………72, 76, 78
 止血機能と血管壁……………42
 止血法……………23, 72
 思考……………43
 嗜好……………18
 刺咬症……………79
 思考障害……………58
 刺咬症の治療・処置……………79
 嗜好品との相互作用……………71
 死後経過時間の推定……………52
 死後変化……………52
 視索……………40
 死産……………35, 36
 死産証書……………17
 死産の届出に関する規定……………31
 四肢……………21, 44
 四肢エックス線撮影……………13
 四肢外傷……………78
 四肢血管損傷……………118
 四肢骨折……………118
 四肢切断……………118
 脂質異常症……………26, 112, 121
 脂質および脂質代謝関連物質……………63
 脂質代謝異常……………121
 脂質代謝関連……………10
 脂質代謝の異常……………51
 四肢軟部損傷……………118
 四肢軟部病変……………117
 四肢の診察……………21
 四肢の跛行……………56
 思春期……………18, 48
 思春期危機……………48
 思春期の健康問題……………18
 思春期の身体・心理・精神機能……………18
 思春期の児の診察……………62
 思春期の発来機序……………48
 思春期発現……………18
 思春期早発症……………122
 視床……………44
 視床下部……………44
 視床下部・下垂体・副腎・精巣系……………43
 視床下部・下垂体・卵巣系……………43

視床下部下垂体炎……………120
 視床下部機能障害……………120
 視床下部腫瘍……………120
 視床下部性無月経……………111
 視診……………20
 視神経……………40
 視神経萎縮……………91
 視神経炎・症……………91
 視神経管……………40
 視神経管骨折……………95
 視{神経}交叉……………40
 視神経疾患……………91
 視神経脊髄炎……………115
 視神経損傷……………95
 支持……………18
 支持的態度……………18
 矢状断……………69
 シスチン尿症……………109
 システマティックレビュー……………36
 システマティックレビューとメタ分
 析……………36
 システムエラー……………17
 システムレビュー……………18
 姿勢……………21
 歯性上顎洞炎……………93
 姿勢の異常……………59
 脂腺母斑……………89
 自然科学……………28
 自然気胸……………25
 自然災害……………130
 自然毒食中毒……………129
 自然免疫……………45
 刺創……………49
 死体解剖保存法……………31
 肢帯型……………116
 死体検案……………27
 死体検案書……………17
 死胎検案書……………17
 市中感染症……………50
 視中枢……………40
 市中肺炎……………96
 市町村保健センター……………30
 疾患関連遺伝子……………49
 疾患修飾性抗リウマチ薬……………72
 疾患に応じた薬物治療……………71
 疾患の特徴……………48
 失外套症候群……………58
 シックハウス症候群……………130
 シックビル症候群……………130
 失見当識……………58
 失行……………58
 失神……………19, 24, 55
 疾病構造……………30
 疾病・障害の概念と構造……………16
 疾病・障害の概念と社会……………30
 疾病・障害の分類・統計……………35
 疾病対策……………32
 疾病と影響因子……………49
 疾病の概念と社会環境……………30
 疾病の自然経過……………49
 疾病の自然史……………35
 質改善手法……………17

- 膝蓋軟骨軟化症…………… 117
 膝靭帯損傷…………… 118
 失語…………… 20, 58
 失語症訓練…………… 76
 湿疹…………… 24, 89
 膝関節の疾患…………… 117
 失認…………… 58
 質問紙法…………… 67
 質問の有無の確認…………… 19
 指導医への報告…………… 19
 死に至る心の過程…………… 27
 歯肉の異常…………… 55
 死の判定と診断…………… 27
 紫斑…………… 53, 57
 指標の比較…………… 35
 司法解剖…………… 52
 視放線…………… 40
 脂肪肝…………… 25, 104
 脂肪腫…………… 103, 117
 死亡診断…………… 27
 死亡診断書…………… 17
 脂肪塞栓症…………… 118
 脂肪肉腫…………… 117
 脂肪抑制像…………… 69
 死亡率…………… 35, 50
 市民参画…………… 16
 斜位…………… 54, 91
 社会環境と疾病…………… 49
 社会環境の変動と国民の健康…………… 30
 社会参加…………… 76
 社会資源…………… 16
 社会性…………… 47
 社会生活支援…………… 28
 社会的苦痛…………… 79
 社会的状況…………… 18
 社会的情報…………… 18
 社会的な健康規定要因…………… 28, 33
 社会的配慮…………… 74
 社会的要因…………… 49
 社会と医療…………… 16
 社会不安障害…………… 24, 87
 社会福祉…………… 30, 33
 社会福祉関係施設…………… 30
 社会福祉協議会…………… 30
 社会復帰…………… 16
 社会保険…………… 30
 社会保障制度…………… 16, 28
 社会保障制度と医療経済…………… 30
 社会保障の概念と制度…………… 30
 社会歴…………… 18
 斜頸…………… 116
 社交恐怖…………… 87
 社交不安症…………… 87
 社交不安障害…………… 24, 87
 斜視…………… 54, 91
 射精…………… 43
 射精障害…………… 57
 遮蔽化…………… 36
 視野…………… 40
 視野異常…………… 19, 54
 視野狭窄…………… 54
 視野検査…………… 66
 周囲臓器との位置関係…………… 40
 習慣および衝動の障害…………… 88
 習慣流産…………… 84
 集学的治療…………… 75
 周期性嘔吐症…………… 122
 周期性四肢運動障害…………… 88
 周期性四肢麻痺…………… 116
 就業制限…………… 37
 周産期…………… 17, 20
 周産期死亡…………… 36
 周産期心筋症…………… 84
 周産期の異常…………… 24
 周産期の保護…………… 36
 収縮期駆出性雑音…………… 56
 収縮性心膜炎…………… 100
 収縮中期クリック…………… 55
 収縮中期性雑音…………… 56
 周術期照射…………… 75
 周術期の管理…………… 27, 72
 修正大血管転位症…………… 99
 集団予防と個人予防…………… 37
 集団療法…………… 80
 羞恥心への配慮…………… 20
 終末期患者とのコミュニケーション…………… 27
 終末期ケア…………… 27
 終末期における意志決定…………… 27
 終末期における水・栄養管理…………… 27
 終末期の治療…………… 27
 羞明…………… 54
 就労支援…………… 77
 主観的所見…………… 16
 宿主…………… 30, 35
 手根管症候群…………… 115
 酒皸様皮膚炎…………… 91
 手術…………… 27, 72
 手術時期…………… 72
 手術切除検体取扱法…………… 64
 手術創の処置…………… 74
 手術適応…………… 72
 手術の記録…………… 16
 手術部位感染症…………… 73
 主訴…………… 18
 手段的日常生活動作…………… 61
 腫脹…………… 21
 出血…………… 51, 70, 72, 75
 出血傾向…………… 57
 出血傾向・血栓傾向…………… 20
 出血時間…………… 9
 出血性…………… 51
 出血性疾患と血栓傾向…………… 107
 出血性腸炎…………… 102
 出血性貧血…………… 106
 出血と産科ショック…………… 85
 出血斑…………… 53
 出産と労働…………… 49
 出生前検査・診断…………… 67
 出生…………… 36
 出生証明書…………… 17
 出生時の身長・体重…………… 47
 出生前診断…………… 49, 62
 出生と死亡…………… 35
 守秘義務…………… 16
 腫瘍…………… 50, 75, 102, 103, 104, 122
 腫瘍壊死因子…………… 45
 腫瘍細胞の異型性と多形性…………… 50
 主要疾患・症候群…………… 24
 主要症候…………… 19
 腫瘍随伴性多発ニューロパチー…………… 115
 腫瘍性…………… 57
 腫瘍性低リン血症性骨軟化症…………… 120
 腫瘍の疫学…………… 50
 腫瘍の定義…………… 50
 腫瘍の病因…………… 50
 腫瘍の病理・病態…………… 50
 腫瘍の放射線感受性…………… 74
 腫瘍・母斑性皮膚疾患…………… 89
 腫瘍マーカー…………… 11, 63
 腫瘍…………… 53
 種類…………… 63, 68, 69, 71
 種類と性質…………… 68
 種類と適応…………… 68, 69, 76
 手腕振動障害…………… 130
 春季カタル…………… 91
 初圧…………… 9
 消化…………… 42, 47
 消化管…………… 10, 76
 消化管Behçet…………… 103
 消化管アミロイドーシス…………… 103
 消化管アレルギー…………… 103
 消化管異物…………… 105
 消化管運動…………… 42
 消化管運動機能検査…………… 65
 消化管運動抑制薬…………… 70
 消化管壁の構造…………… 42
 消化管機能検査…………… 65
 消化管共通疾患…………… 103
 消化管出血…………… 56
 消化管神経内分泌腫瘍…………… 103, 121
 消化管生理活性物質…………… 42
 消化管穿孔…………… 105
 消化管損傷…………… 105
 消化管造影検査…………… 69
 消化管内圧減圧治療…………… 77
 消化管粘膜下腫瘍…………… 103
 消化管の構造・機能…………… 42
 消化管の消化・吸収…………… 42
 消化管の免疫…………… 42
 消化管ホルモン…………… 42
 消化管ホルモン産生腫瘍…………… 121
 消化管ポリポーシス…………… 103
 消化器…………… 19, 42, 47, 56
 消化器系…………… 12
 消化器作用薬…………… 72
 消化器・腹壁・腹膜疾患…………… 25
 消化性潰瘍…………… 25, 102
 障害…………… 16, 28, 51
 障害者基本計画…………… 30
 障害者基本法…………… 33
 障害者総合支援法…………… 33
 障害者の社会活動と社会参加…………… 16
 障害者の心理と態度…………… 16
 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律…………… 33

- 障害者のもつ心理・社会的問題・16
 障害児〈者〉への対応・30
 障害の概念と構造・16
 障害の概念と社会・30
 障害の概念と社会環境・30
 小奇形・53
 症候・50
 症候性肥満・121
 小細胞癌・97
 硝子圧法・66
 少子化社会・障害児〈者〉への対応・30
 硝子体・40
 硝子体混濁・92
 硝子体疾患・92
 硝子体出血・92
 硝子体の異常・92
 照射・76
 照射の合併症・75
 症状・傷病別の初期対応・24
 症状性精神障害・87
 症状性を含む器質性精神障害・87
 掌蹠膿疱症・90
 掌蹠膿疱症性骨関節炎・124
 小線源治療・75
 承諾解剖・52
 小腸・70, 77
 小腸癌・102
 小腸・結腸の異常・105
 小腸・結腸疾患・102
 小腸造影検査・13
 小腸内視鏡検査・13
 焦点意識減損発作・116
 焦点意識保持発作・116
 焦点起始発作・116
 小頭・59
 小頭症・119
 消毒と滅菌・72
 小児・71
 小児栄養・47
 小児期・18, 47
 小児期の健康問題・18
 小児期の身体・心理・精神機能・18
 小児期のストレス関連症・88
 小児期発症流暢症・88
 小児期発症流暢障害・88
 小児血液疾患・107
 小児・高齢者麻酔・73
 小児性愛・88
 小児・青年期の精神・心身医学的疾患・88
 小児喘息・25
 小児造血器腫瘍・108
 小児特有の全身症状・20
 小児の診察・61
 小児の成長・47
 小児の発達・47
 小児の保健・福祉・36
 小児リハビリテーション・76
 小脳機能・21
 小脳橋角部腫瘍・93
 小脳とその連絡路・44
 少分割照射・75
 小脈・56
 照明・39
 証明書・17
 小葉癌・122
 症例対照研究・35
 初期・二次・三次救急医療・33
 食菌能・64
 食菌能検査・11
 職業がん・130
 職業性アレルギー・124, 129
 職業性因子による疾患・26
 職業性ストレスによる障害・129
 職業性喘息・129
 職業性腰痛・129
 職業と疾病・49
 職業被ばく・39
 職業リハビリテーション・76
 食行動・125
 食細胞機能不全症・125
 食思不振・19, 56
 職種間コミュニケーション・16
 職種の役割と制度・16
 食思〈欲〉不振の治療とケア・79
 触診・21
 食事・栄養療法・26, 71
 食事・栄養療法の基本・71
 食事摂取基準・28, 37, 44
 食事摂取基準量・71
 食事調査・37
 食事バランスガイド・37
 食事療法・71
 食生活・28
 食生活指針・37
 食中毒・26, 129
 食道・70, 76
 食道アカラシア・102
 食道・胃24時間pHモニタリング検査
 ・12
 食道異物・105
 食道癌・25, 102
 食道気管瘻・98
 食道憩室・103
 食道疾患・102
 食道静脈瘤・25, 102
 食道穿孔・破裂・102
 食道内圧・42
 食道内圧検査・12, 65
 食道の異常・105
 食道裂孔ヘルニア・104
 植皮・78
 植皮術・73
 食品衛生法・32
 食品中の汚染物質・37
 食品添加物・37
 食品の安全性と機能性・37
 食品保健・32
 植物状態・58
 食物アレルギー・124
 食物依存性運動誘発アナフィラキ
 シー・124
 食物・嗜好品との相互作用・71
 食欲異常・56, 58
 食欲不振・19, 56
 書痙・115
 初診時の評価・61
 食塊形成・42
 触覚・21, 41
 ショック・19, 24, 51, 53, 61, 73
 ショック指数・61, 85
 ショックの治療・77
 所得・16, 28
 初乳・46
 処方箋・16
 処方内容・19
 使用記録保管義務・17
 ショートステイ・31
 視力・40, 47
 視力検査・66
 視力障害・54
 視力障害・視野異常・19
 視路・40
 脂漏性角化症・89
 脂漏性皮膚炎・89
 思路障害・58
 心アミロイドーシス・100
 心エコー検査・13, 65
 心音・21
 新型コロナウイルス感染症・126
 心気症・58, 87
 心機能・12, 41
 真菌・12, 127
 心筋梗塞後合併症・100
 真菌感染症・114
 心筋炎・25, 100
 心筋収縮性・拡張性・41
 心筋症・25
 心筋シンチグラフィ・65
 心筋・心膜疾患・100
 心筋性・51
 真菌性髄膜炎・114
 心筋トロポニンI・10
 心筋トロポニンT・10
 シングルフォトンエミッションCT
 ・13, 70
 神経・12, 20, 40, 43, 47, 58
 神経因性膀胱・110
 神経・運動器疾患・26
 神経・運動器の外傷・118
 神経・運動器の感染性・炎症性疾患
 ・114
 神経学的診察・62
 神経芽腫・121
 神経・筋疾患・77
 神経筋接合部・筋疾患・116
 神経筋接合部疾患・115
 神経系・42, 43
 神経系の診察・21
 神経原性・51
 神経原性腫瘍・97
 神経膠腫・114
 神経根・43
 神経根症・59, 116
 神経根障害・59

- 神経疾患……………92
 神経支配……………44
 神経障害性疼痛……………74
 神経鞘腫……………114, 117
 神経心理学的検査……………67
 神経性過食症……………88
 神経性食思不振症……………120
 神経性食欲不振症……………120
 神経性無食欲症……………88, 111
 神経性やせ症……………88, 111
 神経線維腫症……………119
 神経線維腫症1型……………89, 119
 神経叢……………74
 神経痛……………115
 神経伝達物質……………43
 神経伝導検査……………65
 神経皮膚症候群……………118, 119
 神経病性関節症……………117
 深頸部感染症……………94
 深頸部膿瘍……………94
 神経ブロック……………74, 76
 神経変性疾患……………119
 神経変性・代謝性・脱髄疾患……………115
 心血管CT・MRI……………65
 心血管機能検査……………65
 心原性ショック……………51, 77, 99
 心原性脳塞栓症……………114
 心原性肺水腫……………97
 進行がん……………50
 新興・再興感染症……………50
 進行性核上性麻痺……………87, 115
 進行性多巣性白質脳症……………114
 診察時の患者の体位……………21
 診察時の注意……………61, 62
 診察前後の標準予防策……………20
 診察のあり方……………20
 診察の基本手技……………20
 心サルコイドーシス……………100
 心雑音……………21, 55
 心室期外収縮……………99
 心室細動……………99
 心室〔性〕頻脈性不整脈……………99
 心室中隔欠損症……………99
 心室頻拍……………99
 心室瘤……………100
 心周期と時相……………41
 滲出性中耳炎……………92
 心身医学的疾患……………24
 心身症……………24, 88, 129
 心神喪失等の状態で重大な他害行為
 を行った者の医療及び観察等に
 関する法律……………32
 真珠腫性中耳炎……………92
 浸潤・表面麻酔……………74
 新生児……………47, 71
 新生児壊死性腸炎……………105
 新生児黄疸……………85
 新生児黄疸に対する治療……………80
 新生児仮死……………85
 新生児肝炎……………105
 新生児期……………18
 新生児期の健康問題……………18
 新生児期の身体機能……………18
 新生児クレチン症……………86
 新生児集中治療室……………79
 新生児出血性疾患……………107
 新生児蘇生法……………79
 新生児低血糖症……………122
 新生児・乳児死亡……………36
 新生児・乳幼児の採血と穿刺法……………63
 新生児の異常……………20
 新生児の感染症……………85
 新生児の救急治療・処置……………79
 新生児のけいれん……………85
 新生児の検査……………67, 68
 新生児の呼吸障害……………85
 新生児の診察……………62
 新生児の診察と評価……………62
 新生児の生理……………47
 新生児の分類と異常……………85
 新生児搬送……………79
 新生児マスキング……………36, 68
 新生児慢性肺疾患……………85
 新生児溶血性疾患……………85
 真性赤血球増加症……………106
 振戦……………59
 新鮮凍結血漿……………72
 心臓……………11, 19, 41, 55, 77
 心臓移植……………100
 心臓カテーテル検査……………12, 65
 心臓外傷……………100
 心臓・血管の構造・機能……………41
 心臓死……………27
 心臓腫瘍……………100
 心臓震盪……………100
 心臓〔性〕突然死……………100
 心臓〔性〕突然死をきたす症候群……………99
 心臓電気生理学的検査……………65
 心臓の興奮と伝導……………41
 心臓弁膜症……………125
 心臓・脈管疾患……………25
 身体活動……………28
 身体活動とエネルギー消費……………28
 身体機能と構造……………30
 身体醜形症……………87
 身体障害者福祉法……………33
 身体障害のリハビリテーション……………76
 身体症状症……………24, 87
 身体的苦痛……………79
 身体的苦痛症……………24, 87
 身体的苦痛症または身体的体験症……………87
 身体的苦痛の緩和……………79
 身体的特徴……………47
 身体的要因に関連した障害……………88
 身体の成長・発達……………48
 身体発育……………47
 心タンポナーデ……………51, 100
 診断……………21
 診断限界……………64
 診断書……………17
 診断に伴う医原病……………52
 診断による医原病……………52
 診断プロセス……………52
 シンチグラフィ……………13, 69
 身長……………21, 47
 身長の異常……………60
 心停止……………24, 61
 心停止下での臓器提供……………74
 心的外傷後ストレス症……………87
 心的外傷後ストレス障害……………24, 87
 心電図検査……………12, 22, 65
 浸透圧……………9, 10
 振動による障害……………130
 振動の健康影響と対策……………38
 心内膜床欠損症……………99
 心嚢液貯留……………100
 心嚢穿刺・ドレナージ……………77
 心拍出量……………41
 心肺蘇生法……………77
 真皮……………40
 心不全……………25, 56, 73, 99
 深部感覚……………21, 41
 深部静脈血栓症……………25, 101
 深部線量百分率……………75
 心房細動……………56, 99
 心房性ナトリウム利尿ペプチド……………11
 心房粗動……………99
 心房中隔欠損症……………99
 心膜開窓術……………77
 心膜疾患……………100
 心膜ノック音……………55
 心膜摩擦音……………56
 心理……………20, 43, 57
 心理学的検査……………67
 心理教育……………80
 心理・社会的情報……………18
 心理・社会的状況……………18
 心理・社会的要因……………49
 心理・精神機能……………43
 心理・精神機能検査……………67
 心理的評価……………62
 診療関連死……………52
 診療ガイドライン……………23
 診療支援……………31
 診療所……………31
 診療情報と諸証明書……………16
 診療情報の開示……………16
 診療情報管理・情報セキュリティ……………17
 診療に関する諸記録……………16
 診療に必要な一般的な医学英語……………28
 診療録……………16
 診療録・医療記録の管理と保存……………16
 診療録の内容……………16
 唇裂……………95
 ジ……………
 ジアルジア症……………128
 耳音響放射……………66
 耳介……………40
 耳介奇形……………95
 耳介血腫……………94
 ジカウイルス感染症……………126
 自家感受性皮膚炎……………89
 痔核……………25, 103
 自家・同種・異種移植……………74

- 耳管……………40, 42
 耳管機能不全……………92
 時間性……………35
 時間的線量配分……………75
 自我……………43
 自我障害……………58
 自我同一性形成……………48
 自記オージオメトリ……………66
 磁気共鳴画像……………23
 磁気共鳴画像検査の原理と技術……………69
 磁気共鳴血管撮影……………13, 69
 磁気共鳴胆管膵管撮影……………13, 69
 耳硬化症……………92
 耳垢栓塞……………92
 自己炎症性疾患……………125
 自己決定権……………16
 自己抗体……………11, 22, 64
 自己紹介……………18
 自己同一性形成……………48
 事故による障害……………130
 自己免疫疾患……………50
 自己免疫疾患による免疫不全症……………125
 自己免疫性胃炎……………102
 自己免疫性肝炎……………103
 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症……………107
 自己免疫性視床下部下垂体炎……………120
 自己免疫性膵炎……………104
 自己免疫性溶血性貧血……………106
 事後確率……………23
 自殺……………129
 自殺対策……………36
 自殺対策基本法……………32
 自殺の予防……………28, 37
 耳小骨……………40
 耳小骨連鎖異常……………95
 自傷他害……………61
 地震……………24
 自助具……………76
 自助・互助・公助……………30
 ジスキネジア……………115
 ジストニア……………59, 115
 耳性帯状疱疹……………92
 次世代育成支援対策……………30
 耳せつ……………92
 事前確率……………23
 持続可能な開発のための2030アジェンダ……………34
 持続的気道陽圧法……………80
 持続的陽圧換気……………80
 持続勃起症……………112
 自治体との連携……………33
 実質性・間質性肺障害……………97
 実施の説明……………22
 耳痛……………54
 児頭回旋の診断・表現法……………62
 児頭骨盤不均衡……………84
 児頭の浮動・下降・進入・固定・嵌入……………46
 児頭の変形……………46
 児童虐待の防止等に関する法律……………32
 児童虐待の予防……………36
 児童相談所……………30
 児童の事故と対策……………37
 児童の慢性疾患と保健管理……………37
 児童福祉法……………33
 児の娩出……………46
 自発眼振……………67
 ジフテリア……………127
 自閉……………58
 耳閉感……………54
 自閉スペクトラム症……………88
 耳鳴……………19, 54
 弱オピオイド……………79
 弱視……………91
 若年性血管線維腫……………94
 若年性特発性関節炎……………125
 若年発症型両側性感音難聴……………93
 縦隔……………41, 70, 98
 縦隔炎……………96
 縦隔気腫……………98
 縦隔疾患……………25
 縦隔腫瘍……………97
 縦隔の感染症……………96
 縦隔の形態・機能異常と外傷……………97
 縦隔の腫瘍……………97
 重金属……………10, 63
 重金属などによる肺障害……………97
 重金属類……………38
 充血……………51
 重症感染症……………61
 重症救急病態……………78
 重症急性膵炎……………104
 重症筋無力症……………97, 116
 重症先天性好中球減少症……………125
 重症度と緊急度……………61
 重症度判定……………78
 重症複合免疫不全症……………125
 重心動揺検査……………67
 銃創……………49
 住宅改修……………76
 十二指腸……………70
 十二指腸潰瘍……………25, 102
 十二指腸憩室……………103
 十二指腸疾患……………102
 十二指腸腫瘍……………102
 十二指腸腺腫・癌……………102
 十二指腸乳頭部腫瘍……………102
 十二指腸の異常……………105
 重複がん……………50
 重複腎盂尿管……………112
 絨毛癌……………111
 絨毛検査……………68
 絨毛性ゴナドトロピン……………10
 絨毛性疾患……………111
 絨毛膜羊膜炎……………84
 重要臓器機能の障害を招く病態・疾患……………23
 授産所……………77
 樹状細胞……………45
 受精……………46
 受精卵の卵割と輸送……………46
 術中麻酔管理……………73
 術後管理と集中治療……………73
 術後合併症……………73
 術後創部痛……………74
 術後鎮痛法……………73
 術後副鼻腔嚢胞……………93
 術前合併症の評価と対処……………73
 術前・術中・術後照射……………75
 術前評価……………73
 術前麻酔管理……………73
 受動喫煙……………28, 129
 授乳性無月経……………46
 ジュネーブ宣言……………16
 寿命……………48
 受療行動……………19
 純音聴力検査……………66
 循環……………18, 47
 循環器……………47
 循環器作用薬……………72
 循環器疾患……………129
 循環器病対策基本法……………32
 循環血液量……………42
 循環血液量減少性ショック……………51, 77
 循環障害……………51, 53
 循環動態の調節……………42
 循環の変化……………50
 純型肺動脈閉鎖……………99
 準言語的コミュニケーション……………18
 常位胎盤早期剝離……………84
 上咽頭癌……………94
 上顎骨骨折……………94
 上眼窩裂……………40
 上気道炎……………25, 96
 上気道・下気道の構造・機能……………41
 上喉頭神経……………41
 上肢・下肢の運動器疾患……………116
 上室期外収縮……………99
 上室(性)頻脈性不整脈……………99
 上縦隔……………41
 上水道と下水道……………38
 浄水法と消毒……………38
 常染色体……………65
 状態特性不安検査……………67
 上大静脈症候群……………98
 上・中・下咽頭……………42
 上腸間膜血管……………42
 上腸間膜動脈症候群……………102
 上腸間膜動脈性十二指腸閉塞症……………102
 常動運動症……………88
 常動運動障害……………88
 上皮小体……………10, 44
 上皮小体機能障害……………120
 上皮小体機能低下症……………120
 上皮小体機能亢進症……………120
 上皮小体疾患とカルシウム・リン代謝異常……………120
 上皮性……………50
 上皮内がん……………50
 上皮内癌……………111
 上部消化管逆流症状……………56
 上部消化管造影検査……………13
 上部消化管内視鏡検査……………13
 上部尿路腫瘍……………111
 上部尿路閉塞性疾患……………110

情報収集法……………23
情報セキュリティ……………17
情報伝達……………24
静脈……………21, 27
静脈栄養・経腸栄養の選択……………74
静脈確保……………23, 27
静脈管……………46
静脈還流……………42
静脈奇形……………89
静脈血栓……………57
静脈血栓塞栓症……………118
静脈血……………63
静脈採血……………27
静脈疾患……………101
静脈性尿路造影検査……………13
静脈洞血栓症……………114
静脈麻酔……………73
静脈瘤……………75
静脈路選択と確保……………77
常用薬……………18
上腕骨外側上顆炎……………116
褥瘡……………24, 49, 94
褥婦と胎児の診察……………62
褥婦の診察……………62
徐呼吸……………55
除細動……………23, 77
女性……………21
女性化乳房……………60
女性性器……………70
女性性器損傷……………113
女性性器・膀胱の下垂・脱出……………57
女性生殖器の異常……………57
女性生殖器の炎症……………110
女性生殖器の形態異常……………112
女性生殖器の構造・機能……………43
女性生殖器の類腫瘍・腫瘍……………111
女性不妊症……………112
除石術……………76
徐脈性不整脈……………99
自律訓練法……………80
自立支援医療……………36
自律神経系……………44
自律神経系疾患……………116
自律神経系の障害……………59
自律神経作用薬……………71
自律神経障害……………59
自律神経・内分泌機能の変化……………49
自立生活支援……………76
自律尊重……………16
痔瘻……………25, 102
耳漏……………54
腎……………20, 42, 44, 47, 57
腎盂……………43, 70
腎盂・尿管癌……………111
人格……………43
腎機能の障害による異常……………110
腎梗塞……………109
腎結石……………76, 110
腎血管疾患……………109
腎機能検査……………65
人工栄養……………47
人工換気……………80

人工関節・骨・腱・靭帯……………74
人工血管……………74
人口構造……………30
人工呼吸……………73
人工呼吸療法……………23, 77
人工心肺……………74
人工授精……………80
人工腎臓……………74
人口静態……………35
腎血管性高血圧症……………100, 109
人工臓器……………27, 74
人工臓器の種類と適応……………74
人工聴覚器……………74
人口統計と保健統計……………35
人口動態……………35
人工内耳埋込み術……………93
人工内耳・中耳……………74
人工妊娠中絶……………36
人工弁……………74
腎細胞癌……………26, 111
腎障害……………71
腎実質性高血圧症……………100
人獣共通感染症……………50
人獣共通感染症対策……………37
尋常性痤瘡……………91
尋常性白斑……………90
尋常性疣贅……………91
尋常性狼瘡……………90
腎・上部尿路腫瘍……………111
腎静脈血栓症……………109
腎性全身性線維症……………69
腎性尿崩症……………109
人生のプロセス……………48
腎性貧血……………106, 110
腎前性・腎性・腎後性……………110
迅速簡易超音波検査……………13
迅速診断の適応……………64
腎臓……………10, 21, 47, 77
靭帯……………44, 74
靭帯損傷……………118
人体の構造と機能……………17
人中……………40
陣痛……………46
陣痛の異常……………84
陣痛の観察……………62
人的……………16
人的支援……………28
腎・尿路・生殖器の炎症……………110
腎・尿路損傷……………113
腎・尿路・男性生殖器の腫瘍……………111
腎・尿路の炎症……………110
腎・尿路の形態異常……………112
腎膿瘍……………110
腎の構造・機能……………42
腎の内分泌機能……………43
じん肺……………130
腎杯……………43, 70
じん肺症……………97
じん肺法……………32
腎・泌尿器・生殖器疾患……………26
腎不全……………73
人文・社会科学……………28

蕁麻疹……………24, 89, 124

す

臍管……………70
臍管内乳頭粘性性腫瘍……………104
臍外腫瘍……………121
臍癌……………25, 104
臍機能検査……………65
水系感染……………38
遂行機能障害……………58
推算糸球体濾過量……………65
臍疾患……………104
水質汚濁……………38
水質基準……………38
水腫……………51
水晶体……………40
水晶体混濁……………54
水晶体偏位・脱臼……………92
臍神経内分泌腫瘍……………104, 121
水腎症……………110
臍石症……………104
臍損傷……………105
錐体……………40
錐体外路徴候……………59
錐体路徴候……………59
臍・胆管合流異常症……………104
垂直感染……………50
推定胎児体重……………68
推定と信頼区間……………23
水痘……………24
臍島……………10, 44
水頭症……………118
水痘・帯状疱疹……………126
水道法……………32
臍内外分泌……………42
臍嚢胞性腫瘍……………104
臍の構造……………42
臍の構造・機能……………42
水疱……………53
水泡音……………55
水疱性類天疱瘡……………90
睡眠……………43
睡眠-覚醒障害……………88
睡眠障害……………20, 58
睡眠時無呼吸症候群……………25, 88, 98, 100
睡眠時無呼吸症候群検査……………65
睡眠の質……………28
睡眠薬依存・中毒……………129
数的異常……………49
スキルス型胃癌……………102
スクリーニング……………22
スクリーニング検査……………67
スクリーニング法……………47, 67
健やか親子21……………30
スティグマ……………52
ステロイド糖尿病……………121
ステントグラフト内挿術……………75
ステント留置{術}……………75, 76
ストレス……………49

ストレス関連疾患の誘発と症状増悪
..... 49

ストレス関連症..... 87

ストレス対策..... 28

スパイロメトリ..... 65

スピリチュアルペイン..... 79

スピロヘータ..... 12

スペキュラーマイクロコピー..... 66

スポーツ外傷..... 118

スポロトリコーシス..... 91, 128

座り方..... 18

ず

髄液の分泌・循環・吸収..... 43

髄液漏・脳脊髄液減少症..... 118

髄外造血..... 42

{随時}血糖..... 10

髄膜..... 43

髄膜炎..... 26, 59, 85, 114

髄膜炎菌感染症..... 127

髄膜癌腫症..... 114

髄膜刺激症候..... 21, 59

髄膜腫..... 114

髄膜瘤..... 86, 119

頭蓋..... 43, 44

頭蓋咽頭腫..... 114, 120

頭蓋腔の構造..... 40

頭蓋骨骨折..... 118

頭蓋骨腫瘍..... 114

頭蓋骨転移..... 114

頭蓋・頭蓋腔の構造..... 40

頭蓋内圧亢進..... 59

頭蓋内血腫..... 26

頭蓋内出血..... 85

頭蓋縫合早期癒合症..... 118

頭重感..... 60

頭痛..... 20, 24, 60

せ

精液..... 63

精液検査..... 112

精液の性状..... 57

声音振盪..... 55

生化学検査..... 22, 63

性格..... 43

性格の変化..... 48

生活環境..... 18, 61

生活環境因子・職業性因子による疾患..... 26

生活環境因子による障害..... 130

生活環境の評価..... 62

生活技能訓練..... 77

生活指導..... 77

生活習慣..... 18, 47, 49

生活習慣とリスク..... 28

生活習慣病と保健対策..... 36

生活習慣病のリスクファクター..... 28, 36

生活習慣病の罹患と死亡..... 36

生活・職業・社会環境と疾病..... 49

生活の質..... 16, 30, 36

生活の質の改善・維持..... 80

生活への復帰..... 28

生活保護法..... 33

生活様式..... 30

精管..... 43

性感染症..... 50, 111

性器異物..... 113

性器外周期..... 43

性器クラミジア感染症..... 126

正規雇用..... 37

性器出血..... 57

性器の異常..... 86

性機能不全..... 88

性器の復古..... 62

性器ヘルペス..... 111

正義..... 16

制御性T細胞..... 45

清潔操作..... 27, 73

生検..... 22, 63, 70

生検検体採取法..... 64

生検・手術切除検体取法..... 64

整合性..... 35

性索間質性腫瘍..... 111

精索静脈瘤..... 112

精索水瘤..... 112

性差と年齢差..... 22

生歯..... 47

性嗜好(パラフィリア)症..... 88

性周期..... 43

生殖医療..... 80

生殖器..... 20, 42, 47, 57

生殖器異常..... 112

生殖器外傷..... 78

生殖器疾患..... 26

生殖機能..... 18

生殖器の炎症..... 110

生殖器の機能異常..... 112

生殖器の診察..... 21

生殖器の損傷..... 113

生殖毒性..... 51

生殖補助医療..... 80, 112

生殖補助技術..... 80, 112

精神..... 43, 47

精神医療審査会..... 37

精神運動興奮..... 61

精神運動性興奮..... 58

精神科救急..... 24, 61

精神科コンサルテーション..... 81

精神機能..... 20, 43, 57

精神機能検査..... 67

精神機能と身体..... 43

精神作用物質使用による精神および行動障害..... 87

精神障害者..... 36

精神障害者社会復帰施設..... 37

精神神経系..... 44

精神・心身医学的疾患..... 24

精神状態..... 21

精神遅滞..... 57, 88

精神・知的・発達障害のリハビリテーション..... 77

精神的..... 16

精神的苦痛..... 79

精神的健康の保持・増進..... 37

精神発達..... 48

精神病性障害..... 87

精神分析療法..... 80

精神保健..... 32

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律..... 32

精神保健福祉..... 36

精神保健福祉センター..... 37

精神保健福祉相談..... 37

精神保健福祉法..... 32

精神療法..... 80

成熟B細胞性腫瘍..... 106

成熟T細胞・NK細胞腫瘍..... 107

成熟徴候..... 47

成熟乳..... 46

成熟の診断..... 62

正常圧水頭症..... 114

星状神経節..... 40, 74

正常組織耐容線量/腫瘍致死線量..... 74

正常組織の放射線感受性..... 74

正常妊娠・分娩..... 20

成人Still病..... 124

成人T細胞白血病・リンパ腫..... 107

成人・高齢者保健..... 32

成人の人格・行動障害..... 88

成人のパーソナリティ・行動障害..... 88

成人保健..... 36

性腺..... 44

性腺機能障害..... 121

性染色体..... 65

精巣..... 43

精巣炎..... 110

精巣癌..... 26, 111

精巣系..... 43

性早熟症..... 122

精巣上体..... 43

精巣上体炎..... 110

精巣水瘤..... 105

精巣・精索水瘤..... 112

精巣性女性化症候群..... 86

精巣損傷..... 113

精巣痛..... 24

精巣捻転症..... 112

生存分析..... 35

生存率..... 50

声帯..... 41

生体機能検査..... 22, 65

生態系と生物濃縮..... 38

声帯結節..... 93

生体色素..... 10, 63

生体臓器提供..... 74

生体弁..... 74

声帯ポリープ..... 93

正中頸嚢胞..... 94

成長曲線..... 47

成長スパート..... 48

成長速度曲線..... 47

- 成長軟骨…………… 44
 成長の評価…………… 46, 47
 成長・発達の障害…………… 86
 成長・発達の評価…………… 61, 62
 成長ホルモン…………… 10
 成長ホルモン分泌不全性低身長…………… 122
 生と死にかかわる倫理的問題…………… 16
 成乳…………… 46
 青年期…………… 18, 48
 青年期の精神・心身医学的疾患…………… 88
 成年後見制度…………… 32
 青年・壮年期の健康問題…………… 18
 青年・壮年期の身体・心理・精神機能…………… 18
 精囊…………… 43
 性発達の異常…………… 20
 政府開発援助…………… 34
 整復…………… 78
 整復・固定術…………… 73
 生物学的原理…………… 74
 生物学的製剤…………… 80
 生物学的妥当性…………… 35
 生物学的モニタリング…………… 38
 性分化疾患…………… 86
 性分化・性器の異常…………… 86
 性分化・染色体異常…………… 86
 成分輸血…………… 72
 精密度…………… 23
 生命表…………… 35
 声門上器具…………… 73
 性欲異常…………… 58
 生理的黄疸…………… 47
 生理的障害…………… 88
 生理的体重減少…………… 47
 生理的変動…………… 22
 世界の人口…………… 35
 世界の保健・医療問題…………… 34
 世界保健機関…………… 34
 赤外線…………… 94, 130
 赤芽球癆…………… 106
 脊索腫…………… 117
 脊髄…………… 43
 脊髄外傷…………… 78
 脊髄腔造影検査…………… 69
 脊髄空洞症…………… 119
 脊髄くも膜下麻酔…………… 74
 脊髄血管系とその支配領域…………… 44
 脊髄血管障害…………… 116
 脊髄疾患…………… 116
 脊髄腫瘍…………… 116
 脊髄症…………… 116
 脊髄障害…………… 59
 脊髄小脳変性症…………… 115
 脊髄・神経根障害…………… 59
 脊髄性筋萎縮症…………… 119
 脊髄損傷…………… 26, 76, 118
 脊髄動脈系…………… 44
 脊髄の機能局在と主な伝導路…………… 44
 脊髄の形成異常…………… 118, 119
 咳喘息…………… 96
 脊柱…………… 21, 43, 44
 脊柱靱帯骨化症…………… 116
 脊柱管狭窄症…………… 26, 116
 脊柱の異常…………… 59
 脊柱変形…………… 59
 赤沈…………… 9, 63
 脊椎…………… 43
 脊椎圧迫骨折…………… 118
 脊椎運動制限…………… 59
 脊椎エックス線撮影…………… 13
 脊椎カリエス…………… 114
 脊椎関節炎とその類縁疾患…………… 124
 脊椎骨折…………… 118
 脊椎腫瘍・脊髄腫瘍…………… 116
 脊椎すべり症…………… 116
 脊椎・脊髄外傷…………… 78
 脊椎・脊髄疾患…………… 116
 脊椎脱臼骨折…………… 118
 脊椎分離症…………… 116
 石綿肺…………… 97
 セキュリティ…………… 16
 切開…………… 76
 切開法…………… 72
 積極的疫学調査…………… 37
 赤血球…………… 9
 赤血球液…………… 72
 赤血球凝集抑制試験…………… 64
 赤血球系疾患…………… 106
 赤血球酵素異常症…………… 107
 赤血球浸透圧抵抗試験…………… 10
 赤血球沈降速度…………… 63
 赤血球破砕症候群…………… 106
 赤血球・白血球・血小板形態…………… 63
 窃視症…………… 88
 摂食・嚥下訓練…………… 76
 摂食嚥下障害…………… 48
 摂食機能…………… 42
 摂食障害…………… 88
 接触皮膚炎…………… 24, 89
 節足動物による疾患…………… 129
 窃盗症…………… 88
 切迫早産…………… 84
 切迫流産…………… 84
 せつ…………… 90
 窃触症…………… 88
 切除…………… 76
 切除術…………… 72
 切断…………… 77
 説明義務…………… 31
 説明と報告…………… 19
 セデーション…………… 79
 セミノーマ…………… 111
 セラチア感染症…………… 127
 線維化マーカー…………… 11
 線維筋痛症…………… 125
 線維性骨異形成…………… 117
 線エネルギー付与…………… 75
 遷延分娩…………… 84
 腺癌…………… 97
 線形回帰…………… 35
 尖圭コンジローマ…………… 111, 126
 潜血…………… 63
 穿孔…………… 70
 潜在がん…………… 50
 穿刺…………… 22, 27, 63
 穿刺液…………… 63
 穿刺液検査…………… 9
 腺腫様甲状腺腫…………… 120
 染色体…………… 17
 染色体異常…………… 49, 86
 染色体異常の原因…………… 49
 染色体異常の種類…………… 49
 染色体・遺伝子異常…………… 86
 染色体検査…………… 65
 染色法…………… 12, 22, 64
 洗浄…………… 78
 洗浄赤血球液…………… 72
 潜性遺伝…………… 49
 選択的IgA欠損症…………… 125
 選択的動脈造影検査…………… 13
 先端巨大症…………… 100, 120
 線虫症…………… 96
 穿通性損傷…………… 49
 先天異常…………… 49
 先天異常および成長・発達の障害…………… 86
 先天異常・代謝異常に基づく疾患…………… 97
 先天異常の検査…………… 68
 先天奇形…………… 118
 先天性アミノ酸代謝異常症…………… 122
 先天性巨大結腸症…………… 105
 先天性筋強直性ジストロフィー…………… 119
 先天性筋疾患…………… 119
 先天性筋ジストロフィー…………… 119
 先天性頸嚢胞・瘻…………… 94
 先天性血小板機能異常症…………… 107
 先天性血栓形成傾向…………… 107
 先天性甲状腺機能低下症…………… 86, 122
 先天性股関節脱臼…………… 117
 先天性小腸狭窄・閉鎖症…………… 105
 先天性食道閉鎖症…………… 105
 先天性心疾患…………… 25, 99
 先天性十二指腸閉鎖・狭窄症…………… 105
 先天性耳瘻孔…………… 95
 先天性表皮水疱症…………… 90
 先天性風疹症候群…………… 126
 先天性副腎皮質過形成…………… 86, 122
 先天性補体欠損症…………… 125
 先天代謝異常…………… 122
 せん妄…………… 20, 58, 87
 線溶異常…………… 72
 線溶系…………… 42
 線溶系検査…………… 22
 線溶検査…………… 9, 63
 線量限度の適用…………… 68
 線量当量…………… 68
 線量分布図…………… 75
 線量率効果…………… 75
 ぜ
 舌下…………… 71
 舌下神経…………… 40
 舌下神経麻痺…………… 93
 絶食試験…………… 12
 舌苔…………… 54
 絶対的不整脈…………… 56

造影剤腎症	69
造影磁気共鳴画像検査	69
造影超音波診断法	68
臓器腫大	56
臓器障害の状態把握	61
臓器・組織移植	27
臓器・組織・細胞移植	74
臓器提供	74
臓器の移植に関する法律	31
臓器不全	51
増強	55
造血因子	42
造血幹細胞	42
造血器	20, 42, 47, 57
造血器疾患	25
造血器の構造・機能	42
造血ビタミンの代謝	42
造血不全症	106
増殖因子	42
造精機能	43
続発性	97, 121
続発性アミロイドーシス	106
続発性免疫不全症	125

た

タール便	56
体位	73
胎位	46, 62
胎位・胎向の診断	62
胎位の異常	84
退院時要約	17
体液	47
体液喪失	51
体液の分布と組成	42
体温	21, 47, 73
体温異常に対する救急処置	24
体温管理療法	24
体格	37
体格の評価	21
胎芽	46
体外衝撃波結石破碎術	80
体外受精-胚移植	80
大気汚染	38
体型	21
帯下	57
胎向	46, 62
体細胞遺伝子検査	65
対策	71
体質性黄疸	105, 122
代謝	20, 41, 44, 47, 60, 71
代謝異常に基づく疾患	97
代謝機能	12
代謝機能検査	22, 65
代謝経路	44
代謝疾患	26, 61
代謝性合併症	71
代謝性骨疾患	116
代謝性疾患	103, 104, 115
代謝性反応	50
代謝性ミオパチー	116
代謝調節	44

代謝と栄養	44
代謝と内分泌	44
代謝の異常	51
大食症	88
対処行動	19
対診	28
胎児	46
胎児異常	85
胎児下降度の診断・表現法	62
胎児機能不全	79, 85
体軸性脊椎関節炎	124
胎児血液検査	68
胎児・新生児期	18
胎児・新生児期の健康問題	18
胎児・新生児期の身体機能	18
胎児・新生児の異常	20, 85
胎児・新生児の診察と評価	62
胎児新生児溶血性疾患	85
胎児心拍数陣痛図	62, 67, 68, 85
胎児心拍数の測定	62
胎児水腫・胸水・腹水	85
胎児性アルコール症候群	129
胎児成熟度検査	68
胎児・胎盤系	46
胎児・胎盤循環	46
胎児中大脳動脈最大血流速度	85
胎児の位置の診断	62
胎児の形態	46
胎児の検査	67
胎児の健全性<健全性、fetal well-being>の検査	68
胎児の診察	62
胎児の発育	46
胎児発育	46
胎児発育・成熟の検査	68
胎児発育不全	85
胎児貧血	85
胎児付属物	46
胎児付属物の診察	62
胎児への影響	129
胎児ヘモグロビン	47
胎児母体間輸血症候群	85
体重	21, 47
体重減少・増加	19, 53
体重増加不良	20
他医受診	19
体循環	42
帯状疱疹	126
帯状疱疹後神経痛	115
耐性	87
胎勢	46, 62
体性感覚系の構造・機能	41
耐性菌	96
体性痛	56
苔癬化	53
体調への配慮	18
耐糖能異常合併妊娠	84
タイトレーション	79
胎動	62, 68
体内植込みデバイス	69
胎盤	46
胎盤機能不全	84

胎盤系	46
胎盤・臍帯・羊水の検査	68
胎盤・臍帯・羊水の診断	62
胎盤循環	46
胎盤の異常	84
胎盤の位置	62
胎盤剥離徴候	62
胎盤娩出	46
胎便	47
胎便吸引症候群	85
胎便性腹膜炎	105
大麻精神病	87
体毛の異常	60
体力	37
多因子遺伝	49
他覚的聴力検査	66
高安静脈炎	101, 124
多汗症	90
多形滲出性紅斑	89
多形腺腫	94
多系統萎縮症	115
多形皮膚萎縮	53
多国間協力	34
たこつぼ心筋症	100
多疾患合併	48
多職種各専門性の理解	27
多職種連携とチーム医療	31
多職種連携教育	31
多数傷病者事故	24
多臓器機能障害症候群	51, 73
多臓器不全	51, 73, 78
多胎	85
多胎妊娠	84
多動	58
田中・Binet式知能検査	67
多尿	20, 57
多嚢胞性卵巣症候群	112, 121
他の気管支・肺腫瘍	97
他のよく定義された免疫不全症	125
多発単ニューロパチー	115
多発外傷	78
多発血管炎性肉芽腫症	96, 109, 124
多発性筋炎	116, 124
多発性硬化症	87, 115
多発性骨髄腫	106
多発性内分泌腫瘍症	121
多発性軟骨性外骨腫	117
多発ニューロパチー	115
タバコ依存	129
タバコ煙	129
タバコ煙中の有害物質	129
たばこ(主流煙・副流煙)関連疾患	26
多脾症	99
多分割照射	75
多毛	60
多門照射	75
単位	68
単一遺伝子病	49
胆管炎	25, 104
胆管癌	104
単球	45
探索	18

単心室	99
単心房	99
胆汁うっ滞型	103
胆汁および胆汁分泌	42
胆汁酸	42
単純	23
単純性血管腫	89
単純性甲状腺腫	120
単純性腎嚢胞	112
単純性腸閉塞	105
単純性肥満	121
単純・造影CT	13
単純・造影MRI	13
単純部分発作	116
単純ヘルペス	91
単純ヘルペスウイルス感染症	126
単純ヘルペス脳炎	114
胆石	76
胆石症	25, 104
単染色	64
短腸症候群	102
タンデムマス・スクリーニング	68
胆道	70, 76
胆道機能検査	65
胆道疾患	104
胆道損傷	105
胆道造影検査	69
胆道の異常	105
胆道の構造	42
胆道構造・機能	42
胆道閉鎖症	105
丹毒	90
単ニューロパチー	115
胆嚢炎	25, 104
胆嚢癌	104
胆嚢収縮の調節	42
胆嚢腺筋腫症	104
胆嚢・胆管造影検査	69
胆嚢ポリープ	104
蛋白	63
蛋白・アミノ酸代謝異常	121
蛋白〔質〕代謝の異常	51
蛋白・蛋白分画	10
蛋白定量	9
蛋白尿	20, 57, 109
蛋白分画	10, 22, 42, 63
蛋白漏出試験	65
単発性骨嚢腫	117

だ

ダーモスコピー	66
第1~4回旋	46
第1期	46
第2期	46
第3期	46
第Ⅷ因子	107
第Ⅸ因子	107
大横径	68
ダイオキシン類	38
大規模災害	24
大血管	41

大血管障害	121
大後頭孔	40
大細胞癌	97
大細胞神経内分泌癌	97
大泉門	47
大腿	24
大腿骨近位部骨折	118
大腿骨長	68
大腿骨頭すべり症	117
大腿ヘルニア	104
大腸CT	13, 69
大腸癌	25
大腸菌感染症	127
大腸憩室	103
大腸腺腫	102
大腸ポリープ	102
大頭	59
大動脈解離	101
大動脈疾患	101
大動脈縮窄症	99
大動脈弁狭窄症	99
大動脈弁疾患	99
大動脈弁閉鎖不全症	100
大動脈弁膜症	25
大動脈弁輪拡張症	101
大動脈離断症	99
大動脈瘤破裂	25
ダイナミックMRI	69
ダイナミックCT	13, 69
大脳基底核とその連絡路	43
大脳皮質基底核変性症	115
大脳皮質と機能局在	43
大脈	56
唾液	42
唾液腺	21, 42
唾液腺炎	94
唾液腺癌	94
唾液腺疾患	93
唾液腺の異常	94
唾液腺良性腫瘍	94
唾液分泌検査	12, 65
唾液分泌異常	55
打診	21
唾石症	94
墮胎	31
脱臼	26, 118
脱臼の治療・処置	78
脱水	19, 53
脱水と浮腫	110
脱髄疾患	115
脱毛	53, 60
脱毛症	91
脱抑制型対人交流障害	88
脱抑制性対人交流症	88
ダニ	129
ダニアレルギー	124
ダブルバブルサイン	105
ダメージコントロール	78
男性	21
男性化徴候	60
男性性機能の異常	57
男性生殖器の炎症	110

男性生殖器の形態異常	112
男性生殖器の構造・機能	43
男性生殖器の腫瘍	111
男性生殖器腫瘍	111
弾性線維性偽性黄色腫	122
弾性線維性仮性黄色腫	90
男性不妊症	112
ダンピング症候群	102

ち

チアノーゼ	19, 56
地域移行	37
地域医療	33
地域医療構想	33
地域医療支援センター	33
地域医療支援病院	31
地域医療支援病院の整備	33
地域医療でのチームワーク	28
地域医療搬送	33
地域産業保健センター	38
地域社会構造	30
地域社会と公衆衛生	35
地域社会との連携	33
地域診断	33
地域生活支援センター	77
地域精神保健福祉活動	37
地域包括ケア	33
地域包括ケアシステム	28
地域包括支援センター	30
地域保健	32, 33
地域保健・地域医療と医師の役割	33
地域保健福祉活動	33
地域保健法	32
地域リハビリテーション	76
地域連携	33
地域連携パス	28
チームアプローチ	79
チーム医療と多職種連携	27
遅延相	69
知覚	43
知覚障害	58
地球温暖化	38
地球環境の変化と健康影響	38
蓄尿	43
蓄尿症状	57
致死性不整脈	99
致命的骨折の固定法	24
致命的な病態・疾患・外傷の鑑別	23
致死的不整脈の治療	77
致死量	51
チック	59
チック症	88
チック障害	88
窒息	79
腔	43
腔炎	110
腔癌	111
腔欠損症	86
秩序破壊的または非社会的行動症群	88
腔脱	112

低体温{症}……………24, 78, 86
 低体温療法……………73
 低蛋白血症……………121
 低二酸化炭素血症……………55
 停留精巢……………112
 定量……………63
 適応……………68, 69, 71, 74, 75
 適応障害……………24, 87, 129
 適応と一般的注意……………72
 適応と禁忌……………69, 70, 71
 適応と採血法……………22
 適応能力の低下……………48
 適応反応症……………24, 87
 笛音……………55
 摘出術……………73
 適時性……………17
 適正使用……………72
 テストステロン……………10
 徹照法……………66
 鉄過剰症……………106
 哲学などに関連する一般教養的知識
 や考え方……………28
 鉄欠乏性貧血……………25, 84, 106
 鉄染色……………63
 鉄・造血ビタミンの代謝……………42
 鉄代謝障害……………106
 テニス肘……………116
 手の疾患……………117
 テロ……………24
 転移……………51
 転医……………28
 転移がん……………50
 転移性肝癌……………103
 転移性骨腫瘍……………117
 転移性腫瘍……………100, 111
 転移性脳腫瘍……………114
 転移性肺腫瘍……………97
 てんかん……………26, 119
 転換……………58
 転換症……………87
 てんかん重積状態……………24, 116
 転換性障害……………87
 点眼……………71
 転座……………49
 点状出血……………57
 転倒……………48, 49
 点頭てんかん……………119
 転倒・転落……………130
 点鼻……………71
 添付文書……………17
 天疱瘡……………90
 転落……………49

で

デジタルサブトラクション血管造
 影検査……………13
 デイケア……………30, 77
 デイサービス……………30
 デキサメタゾン抑制試験……………12
 溺水……………24, 79
 溺水の治療・処置……………79

デジタルラジオグラフィ……………68
 デスカンファレンス……………80
 デブリドマン……………78
 デルマトーム……………44
 デルマドローム……………53
 伝音機構……………40
 伝音難聴……………54
 電解質……………10, 63
 電解質の異常……………110
 電解質の代謝調節……………43
 電解質の評価……………61
 電解質分析……………61
 電気けいれん療法……………80
 電気ショック……………77
 電気治療……………80
 電気味覚検査……………67
 デング熱……………126
 電顕標本……………12
 電撃傷……………49, 94
 電撃症……………61
 電子顕微鏡による病理検査……………64
 電子スコープ……………70
 伝染性紅斑……………84, 126
 伝染性単核{球}症……………107
 伝染性軟属腫……………126
 伝染性膿痂疹……………90
 伝達麻酔法……………74
 癩風……………90, 128
 電離放射線……………68, 94
 電離放射線障害……………130
 電離放射線の健康影響……………39

と

頭囲……………47
 頭位・頭位変換眼振……………67
 頭囲の異常……………59
 頭位変換眼振……………67
 投影法……………67
 統計解析……………35
 頭頸部……………19, 40, 54
 頭頸部疾患……………24
 頭頸部の診察……………21
 頭頸部の生理的間隙……………40
 頭頸部の先天異常……………95
 頭血腫……………85
 凍結切片……………64
 凍結治療……………76
 凍結療法……………80
 糖原病……………122
 橈骨遠位端骨折……………118
 統合失調感情障害……………87
 統合失調症……………24, 87
 統合失調症と類縁疾患……………87
 糖質および糖代謝関連物質……………63
 糖{質}・脂質・蛋白{質}代謝(核酸
 代謝を含む)の異常……………51
 糖{質}代謝異常……………121, 122
 凍傷……………49, 78, 94, 130
 透析アミロイドーシス……………110
 凍瘡……………49, 89, 94, 130
 糖代謝異常……………121

糖代謝関連……………10
 疼痛……………21, 53
 疼痛緩和の薬物療法……………79
 疼痛のアセスメント……………27
 疼痛の管理……………74
 疼痛の種類と原因……………79
 糖定量……………9
 頭殿長……………68
 糖尿……………57, 60
 糖尿病……………26, 84, 91, 121
 糖尿病ケトアシドーシス……………121
 糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼
 底変化……………24
 糖尿病神経障害……………121
 糖尿病腎症……………26, 109, 121
 糖尿病性昏睡……………61
 糖尿病足病変……………121
 糖尿病の高血糖緊急症……………121
 糖尿病の慢性合併症……………121
 糖尿病網膜症……………92, 121
 逃避的態度……………18
 頭部……………21
 頭部エックス線撮影……………13
 頭部外傷……………26, 76, 78, 118
 投与経路と種類の特徴……………71
 投与方法……………77
 トータルヘルスプロモーションプラ
 ン……………38
 トータルペイン……………27
 トータルペインの種類と原因……………79
 兎眼……………54
 兎眼{症}……………91
 トキシックショック症候群……………127
 トキシドローム……………61
 トキソプラズマ抗体……………11
 トキソプラズマ症……………128
 特異的IgE……………11
 特異的IgE検査……………64
 特異度……………23
 特殊な治療法……………78
 特定機能病院……………31
 特定健康診査……………36
 特定行為……………33
 特定保健指導……………36
 特発性……………97
 特発性間質性肺炎……………97
 特発性器質化肺炎……………97
 特発性細菌性腹膜炎……………103
 特発性心筋症……………100
 特発性正常圧水頭症……………118
 特発性大腿骨頭壊死症……………117
 特発性肺線維症……………97
 特発性膝骨壊死……………117
 特発性門脈圧亢進症……………104
 特別支援学校……………30
 特別養護老人ホーム……………31
 特別用途食品……………37
 吐血……………19, 56
 徒手筋力テスト……………21
 閉じ込め症候群……………58
 閉じこもり……………36
 突発性難聴……………92

突発性発疹	126
突然死	52
都道府県労働局	38
届出	37
塗抹	12
塗抹検査	22
トラコーマ	126
トリアージ	23, 24, 33
トリグリセリド	10
トリコモナス症	128
トリコモナス膣炎	110
トルコ鞍	40
トレーサー原理	69
トロンビン・アンチトロンビン複合体	9
トロンボポエチン	42

ど

同意の条件	74
動眼神経麻痺	91
動悸	19
同期	77
同期式間欠的強制換気	80
動機付け	18
動機付けインタビュー	19
洞結節	41
瞳孔	40
同種移植	74
同種生体弁	74
同種輸血と自己輸血	72
動態検査	69
動注化学療法	75
洞定	12
洞不全症候群	99
動物性皮膚疾患	91
動脈	21
動脈化学塞栓療法	75
動脈管	46
動脈管開存症	99
動脈血栓	57
動脈血	63
動脈血ガス分析	12, 22, 65
動脈血酸素飽和度	61
動脈硬化	112
動脈硬化による眼底変化	24
動脈採血	27
動脈塞栓術	75
動脈優位相	69
動脈瘤	75
動脈瘤コイル塞栓術	75
動脈瘤様骨嚢腫	117
動揺病	93, 130
毒劇物中毒	129
毒蛇咬傷	129
ドクターカー	33
ドクターヘリ	33
毒物及び劇物取締法	31
毒物の吸収・分布・代謝・排泄	51
土壤汚染	38
ドナーと被移植者	74
ドプラ法	65, 68

ドレーン管理	74
ドレッシング	27
ドレナージ	73, 77
呑酸	56
鈍の外傷	49
鈍的眼外傷	94

な

ナイアシン欠乏	122
内因と外因	49
内頸動脈海綿静脈洞瘻	114
内頸動脈領域	44
内喉頭筋	41
内視鏡下手術	76
内視鏡検査	13, 23, 70
内視鏡検査の基本手技と合併症	70
内視鏡検査の適用部位	70
内視鏡治療	27, 76
内視鏡的鉗子生検	64
内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査	13, 69
内視鏡的止血術	77
内視鏡的粘膜下層剝離術	76
内視鏡的粘膜切除	64
内視鏡の種類と原理	70
内耳	40
内耳炎	93
内耳奇形	95
内耳・神経疾患	92
内耳道	40
内耳の異常	92
内臓心房錯位	99
内臓痛	56
内の妥当性	23
ナイトケア	77
ナイトホスピタル	77
内軟骨腫	117
内反足	117
内部障害	77
内{部}照射療法	75
内部被ばく	52
内分泌・代謝機能	12
内分泌	18, 20, 44, 47, 60
内分泌異常による低血糖	121
内分泌異常による貧血	106
内分泌かく乱化学物質	38
内分泌器官	44
内分泌器官の構造・機能	44
内分泌機能	46
内分泌機能検査	65
内分泌機能の変化	49
内分泌系と免疫系・精神神経系	44
内分泌腫瘍	121
内分泌性高血圧症	100
内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患	26
内分泌・代謝・栄養の異常	51
内分泌・代謝機能検査	22, 65
内分泌・代謝疾患	61
内分泌・代謝性ミオパチー	116
内分泌の異常	86
内リンパ囊	40

泣き入りひきつけ	119
ナトリウム代謝異常	110
生ワクチン	37
ナルコレプシー	88
軟口蓋麻痺	93
軟骨	44
軟骨肉腫	117
軟骨無形成症	116
軟産道	46
軟性下疳	127
難聴	19, 54
難病対策	33
難病の患者に対する医療等に関する法律	33
難病法	33
軟部腫瘍と類似疾患	117

に

二国間協力	34
肉眼的所見	9
肉芽腫症	91
肉芽組織	49
肉離れ	118
ニコチン酸欠乏	122
ニコチン代替療法	129
二次感染	50
二次救急医療	33
二次救命処置	23
二次・三次救急に必要な処置	77
二次・三次救急の治療	77
二次・三次救急の診察	61
二次性血小板減少症	107
二次性高血圧	100
二次性高脂血症	121
二次性腫瘍	111
二次性心筋疾患	100
二次性赤血球増加症	106
二次性徴	48
二次性徴の評価	62
二次性糖尿病	121
二次性認知症	57
二次性脳障害	78
二次性白血病	106
二次性貧血	25, 106
二次性膜性腎症	109
二次治療	49
二重免疫拡散法	64
日常生活障害	48
日常生活動作	36, 61
日常生活動作訓練	76
日光角化症	90
日内リズム	43
二分脊椎	119
二分頭蓋	119
日本住血吸虫症	103
日本臓器移植ネットワーク	74
日本脳炎	126
日本の人口	35
日本版Denver式発達スクリーニング検査	67
ニューモシスチス肺炎	96, 128

- 脳血管攣縮……………114
濃厚血小板……………72
脳梗塞……………26, 114
脳挫傷……………118
脳死……………27
脳死下での臓器提供……………74
脳室……………43
脳室ドレナージ……………77
脳死判定……………27
嚢腫……………53
脳出血……………26
脳腫瘍……………114
脳症……………26
脳神経……………21, 44
脳神経障害……………58
脳振盪……………118
脳実質外腫瘍……………114
脳実質内腫瘍……………114
脳静脈系……………44
脳性ナトリウム利尿ペプチド……………11
脳性麻痺……………26, 77, 119
脳脊髄液……………63
脳脊髄液検査……………9, 22
脳脊髄液減少症……………118
脳・脊髄血管系とその支配領域……………44
脳・脊髄の形成異常……………118, 119
脳槽……………43
脳卒中後遺症……………114
脳卒中後の急性期・回復期・維持期
リハビリテーション……………114
脳底動脈領域……………44
脳動静脈奇形……………114
脳動脈解離……………114
脳動脈狭窄・閉塞……………114
脳動脈瘤……………75, 114
脳内出血……………114
膿尿……………57
脳膿瘍……………114
脳波検査……………12, 23, 65
脳ヘルニア……………59
脳ヘルニア対策……………24
膿疱……………53
膿疱症……………90
嚢胞腎……………112
膿疱性乾癬……………90
嚢胞性腫瘍……………97
嚢胞貯留液……………63
脳保護療法……………24
農薬……………38
農薬中毒……………129
膿瘍……………76
脳瘤……………119
ノーマライゼーション……………16, 30
ノカルジア症……………127
ノルアドレナリン……………10
ノロウイルス感染症……………126
ノンストレステスト……………68, 85
ノンレム睡眠……………43
- 胚……………46
肺悪性腫瘍……………97
肺炎……………25
肺炎球菌感染症……………127
肺拡散能力……………65
肺癌……………25, 97
肺気腫……………96
廃棄物処理……………38
廃棄物処理法……………32
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
……………32
肺気量分画……………41, 65
配偶者からの暴力の防止及び被害者
の保護等に関する法律……………32
肺結核……………25
肺結核症……………96
肺血管系……………41
肺血栓塞栓症……………51, 97, 101
敗血症……………24, 78, 85
敗血症性……………51
肺高血圧症……………97, 99
肺コンプライアンス……………41
肺サーファクタント……………68
胚〔細胞〕腫……………120
胚細胞腫瘍……………97, 111, 114
肺疾患あるいは低酸素血症に続発す
る肺高血圧症……………97
排出規制……………38
肺腫瘍……………97
肺真菌症……………25, 96
肺実質感染症……………96
肺循環……………42
肺循環異常……………97
肺水腫……………25, 97
肺性心……………97
排泄……………71
排泄障害……………48
肺塞栓症……………25, 85
肺損傷……………96
排痰法……………80
肺低形成……………85
肺動静脈瘻……………97
肺動脈性肺高血圧症……………97
肺動脈閉鎖症……………99
排尿……………43
排尿機能検査……………65
排尿困難……………20
排尿後症状……………57
排尿障害……………20
排尿症状……………57
排尿遅延……………57
排尿痛……………57
肺の異常……………96
肺の形態・機能異常……………96
肺の構造・機能……………41
肺の腫瘍……………97
肺のリンパ管とリンパ節……………41
肺表面活性物質……………41
背部痛……………20, 24, 60
背部の叩打痛……………21
肺分画症……………96
排便機能……………42
- 肺胞……………41
肺胞気-動脈血酸素分圧較差……………41
肺胞呼吸音……………21, 55
肺胞蛋白症……………97
肺胞低換気症候群……………98
肺胞微石症……………97
廃用症候群……………36, 77
廃用性萎縮……………114
排卵……………43
排卵痛……………57
ハイリスク妊娠……………84
排臨……………46
肺リンパ脈管筋腫症……………97
破瓜型統合失調症……………87
白質変性症……………115
白色瞳孔……………54
白色便……………56
白杖……………76
白癬……………90, 127
白内障……………24, 92
白斑症……………93
白板症……………93
波形診断……………65
ハサップ手法……………37
橋本病……………120
播種……………51
播種性血管内凝固 26, 78, 85, 107
破傷風……………127
破傷風とガス壊疽の予防……………78
破水……………46, 57
ハチ……………129
発汗……………40, 53
発汗異常症……………90
発汗テスト……………66
白血球……………9
白血球系疾患とその他の骨髄性疾患
……………106
白血球形態……………63
白血球反応……………9
白血球分画……………9
白血病……………96, 108
発声……………21
発声器……………40
発声機能検査……………66, 67
発声器の構造・機能……………41
発声・発語検査……………67
発生率……………50
発達……………18
発達区分……………48
発達指数……………47
発達障害……………58
発達障害のリハビリテーション……………77
発達性学習症……………88
発達性協調運動症……………88
発達性協調運動障害……………88
発達テスト……………67
発達の遅れ……………20
発達の障害……………86
発達の評価……………61
発達理論……………48
発育区分……………47
発育指数……………47

は

歯……………42, 55

発育性股関節形成不全…………… 117
 発育・成熟の診断…………… 62
 発がん因子…………… 50
 発がん性…………… 51
 発語検査…………… 67
 発熱…………… 19, 53
 発熱性好中球減少症…………… 106
 発露…………… 46
 鼻…………… 21, 40, 41
 鼻アレルギー…………… 124, 130
 話の伝え方…………… 19
 鼻の異常…………… 54
 鼻・副鼻腔癌…………… 93
 鼻・副鼻腔の異常…………… 93
 針筋電図検査…………… 12, 23, 65
 針刺し切創…………… 17
 針反応…………… 66
 反映…………… 18
 反回神経…………… 40, 41
 反回神経麻痺…………… 93, 98
 半月板…………… 44
 半月板障害…………… 117
 半月板損傷…………… 118
 反抗挑発症…………… 88
 癬痕…………… 53
 癬痕組織…………… 49
 半座位…………… 21
 反射…………… 44, 47
 反射異常…………… 59
 汎収縮期雑音…………… 56
 搬送…………… 24
 反跳痛…………… 56
 反応性…………… 57
 反応性愛着障害…………… 88
 反応性アタッチメント症…………… 88
 反応性関節炎…………… 124
 反応性低血糖…………… 121
 汎発性腹膜炎…………… 25
 汎ぶどう膜炎…………… 92
 反復性脱臼…………… 116
 反復投与…………… 71
 反復誘発筋電図検査…………… 65
 半盲…………… 54

ば

バイアス…………… 23
 バイオテロ…………… 61, 127
 バイオテロ対策…………… 37
 バイオテロに関連する感染症…………… 50
 バイタルサイン…………… 21, 61
 バイタルサインの把握…………… 23
 梅毒…………… 127
 梅毒血清反応…………… 11
 培養…………… 12
 培養検査…………… 22
 爆傷…………… 49, 78
 バクテロイデス感染症…………… 127
 麦粒腫…………… 91
 バソプレシン…………… 10
 ばち指…………… 56
 抜糸…………… 27

抜毛症…………… 87, 91
 馬蹄腎…………… 112
 バニリルマンデル酸…………… 11
 ばね指…………… 117
 場面緘黙…………… 88
 バリアフリー…………… 30
 バリウム…………… 69
 バルーン内視鏡…………… 70
 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術…………… 102
 晩期死体現象…………… 52
 晩期反応…………… 51
 バンコク憲章…………… 33
 晩発性放射線障害…………… 75

ぱ

パーソナリティ…………… 43
 パーソナリティ症…………… 88
 パーソナリティ障害…………… 88
 パッチテスト…………… 11, 66
 パニック症…………… 87
 パニック障害…………… 24, 87
 パニック値と緊急対応…………… 22
 パニック発作…………… 58
 パラコート中毒…………… 97
 パラチフス…………… 127
 パルスドプラ法…………… 68
 パルトグラム…………… 62
 パルボウイルスB19…………… 84
 パルボウイルスB19感染症…………… 126
 パワードプラ法…………… 68
 パンデミック…………… 34

ひ

脾…………… 45
 非アルコール性脂肪性肝炎…………… 104
 非アルコール性脂肪性肝疾患…………… 104
 皮下…………… 27
 皮下気腫…………… 98
 皮下組織…………… 40
 光パッチテスト…………… 66
 非観血的…………… 78
 非感染性骨・関節・四肢軟部疾患…………… 116
 非感染性疾患…………… 28, 34, 36
 非がん疼痛…………… 79
 引きこもり…………… 37
 脾機能亢進症…………… 107
 非結核性抗酸菌症…………… 90, 96, 127
 非血管系治療…………… 75
 非言語的コミュニケーション…………… 18
 肥厚性癬痕…………… 49
 肥厚性幽門狭窄症…………… 105
 皮脂…………… 40, 53
 皮脂欠乏性湿疹…………… 89
 非社会的行動症…………… 88
 脾腫…………… 56, 57
 皮疹…………… 19, 53
 非侵襲的陽圧換気…………… 80

比重…………… 9
 非上皮性…………… 50
 非正規雇用…………… 37
 非政府機関…………… 34
 非セミノーマ…………… 111
 非穿通性損傷…………… 49
 脾損傷…………… 105
 脾臓…………… 21, 42
 悲嘆のケア…………… 27, 80
 肥大型心筋症…………… 100
 非チフス性サルモネラ症…………… 127
 必須栄養素…………… 51
 必須元素…………… 51
 非定型精神病…………… 87
 非定型的症状…………… 48
 非定型病原体…………… 96
 非電離放射線の健康影響…………… 39
 非電離放射線障害…………… 130
 ヒトT細胞白血病ウイルス感染症…………… 126
 非特異性間質性肺炎…………… 97
 ヒトパピローマウイルス感染症…………… 126
 ヒト免疫不全ウイルス感染症…………… 126
 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針…………… 16
 非同期…………… 77
 皮内…………… 27
 皮内テスト…………… 66
 皮内反応…………… 11
 泌尿器…………… 20, 42, 47, 57, 70
 泌尿器疾患…………… 26
 泌尿器・生殖器外傷…………… 78
 避妊…………… 112
 被ばく低減3原則…………… 39
 被ばくの種類…………… 52
 非びらん性胃食道逆流症…………… 102
 皮膚…………… 19, 21, 40, 46, 53, 71, 124
 皮膚悪性腫瘍…………… 89
 皮膚悪性リンパ腫…………… 90
 皮膚温測定法…………… 66
 皮膚炎…………… 24, 89
 皮膚潰瘍…………… 24
 皮膚・感覚器・発声機能検査…………… 66
 皮膚筋炎…………… 116, 124
 被覆…………… 27
 皮膚欠損の処置…………… 78
 皮膚血流障害…………… 89
 皮膚検査…………… 66
 皮膚抗酸菌症…………… 90
 皮膚真菌症…………… 90
 皮膚線維腫…………… 89
 皮膚腺病…………… 90
 皮膚・頭頸部疾患…………… 24
 皮膚・頭頸部の先天異常…………… 95
 皮膚の異常…………… 56
 皮膚の緊張度…………… 53
 皮膚の構造・機能…………… 40
 皮膚反応…………… 11
 皮膚描記法…………… 66
 皮膚分泌異常…………… 53
 皮膚良性腫瘍…………… 89
 飛蚊症…………… 54
 非閉塞性腸管虚血症…………… 105

非閉塞性無精子症……………112
 被包化膀胱壊死……………104
 肥満……………20, 51, 60, 98
 肥満細胞……………40
 肥満症……………121
 肥満度……………47
 秘密漏示……………31
 非Mendel遺伝様式……………49
 百日咳……………127
 ヒヤリ・ハット……………17
 ヒューマンエラー……………17
 評価……………16, 24, 47
 評価尺度……………67
 評価的態度……………18
 評価と原因の鑑別……………61
 評価と対策……………39
 表在がん……………50
 標準化死亡比……………35
 標準型失語症検査……………67
 標準誤差……………35
 標準偏差……………35
 標準予防策……………17
 ひょう疽……………90
 表層上皮性・間質性腫瘍……………111
 標的体積……………75
 表皮……………40
 表皮ブドウ球菌感染症……………127
 表皮母斑……………89
 標本作製法……………64
 標本の抽出……………35
 標本の取扱法……………64
 費用対効果分析……………23
 日和見感染症……………50, 96
 非淋菌性尿道炎……………111
 ヒルの基準……………35
 比例ハザードモデル……………35
 広場恐怖……………24
 広場恐怖症……………87
 貧血……………20, 57
 頻呼吸……………55
 頻度と分布……………35
 頻度を表す指標……………35
 頻尿……………57

び

鼻炎……………93
 鼻腔……………41, 70
 鼻腔・副鼻腔・喉頭疾患……………93
 鼻骨骨折……………94
 鼻根……………40
 鼻出血……………19, 54
 微小血管減圧術……………93
 微小変化群……………109
 微弱陣痛……………84
 微生物学検査……………64
 微生物抗原検査……………64
 鼻せつ……………93
 ビタミン……………10, 51, 63
 ビタミンB₁……………10
 ビタミンB₁₂……………10, 42
 ビタミンB₁₂欠乏症……………115

ビタミンB₁₂欠乏性貧血……………106
 ビタミンB₁欠乏症……………122
 ビタミンD……………43
 ビタミンK欠乏症……………85, 107
 ビタミン過剰症……………122
 ビタミン欠乏症……………71, 122
 ビタミン類の代謝異常……………122
 鼻閉……………54
 びまん性軸索損傷……………118
 びまん性大細胞型B細胞リンパ腫……………106
 びまん性汎細気管支炎……………96
 病因……………30, 35
 病院……………31
 病院感染症……………50
 病院機能評価……………17
 病院・診療所・薬局の連携……………33
 病院前救護……………33
 病害動物および鼠族・節足動物による疾患……………129
 病害動物による疾患……………129
 病型……………49
 病期……………49
 病原体……………50
 病原体遺伝子<核酸>検査……………22
 病原体検査……………12
 病原体の迅速検査……………22
 病原体別検査……………64
 病原微生物の同定・検鏡……………64
 病原微生物の培養・分離・同定……………64
 病死及び自然死……………52
 病識欠如……………58
 病診連携……………28
 病状説明……………18
 病態……………50, 71
 病態に応じた診察……………61
 病的反射……………21
 病病連携……………28
 病理解剖……………52
 病理学的組織検体の染色法……………64
 病理組織学検査……………22, 64
 病理発生……………49
 病歴情報……………18
 びらん……………53
 微量アルブミン……………9
 微量栄養素……………51
 微量元素……………10, 51, 63
 微量元素欠乏……………71
 ビリルビン……………9, 63
 ビリルビン代謝……………47
 ビリルビン代謝異常……………104
 ビリルビン代謝の異常……………122
 ビリルビン尿……………57
 鼻漏……………54

び

ピークフローメトリ……………65

ぶ

ファイバースコープ……………70

不安……………20, 58
 不安症……………87
 不安障害……………87
 不安定狭心症……………100
 不育……………57, 111, 112
 不育症……………84, 112
 風疹……………24, 126
 フェティシズム……………88
 フェニルケトン尿症……………122
 フェリチン……………10
 負荷試験……………65
 不活化ワクチン……………37
 不機嫌……………20
 不規則抗体……………67
 吹き抜け骨折……………95
 腹圧……………46
 腹圧性尿失禁……………112
 腹圧排尿……………57
 腹囲……………68
 副咽頭間隙……………40
 腹臥位……………21
 腹腔……………27, 70
 腹腔鏡……………73
 腹腔穿刺・ドレナージ……………77
 腹腔内臓器……………42
 副甲状腺……………10, 44
 副甲状腺機能障害……………120
 副甲状腺機能低下症……………120
 副甲状腺機能亢進症……………120
 副甲状腺疾患とカルシウム・リン代謝異常……………120
 副甲状腺ホルモン……………10
 複合型免疫不全症……………125
 複合性局所疼痛症候群……………118
 副作用……………69
 副作用への対応……………17
 副雑音……………21, 55
 複雑部分発作……………116
 複視……………19, 54
 福祉工場……………77
 福祉施設……………30
 福祉ホーム……………77
 福祉用具……………28, 76
 副神経……………40
 副腎……………10, 43
 副腎過形成……………120
 副腎偶発腫……………120
 副腎静脈サンプリング……………120
 副腎髄質機能障害……………121
 副腎腺腫……………120
 副腎その他の疾患……………122
 副腎白質ジストロフィー……………115
 副腎{皮質}癌……………121
 副腎皮質機能障害……………87, 120
 副腎皮質刺激ホルモン……………10
 副腎皮質・髄質……………44
 副腎皮質・髄質疾患……………120
 副腎不全……………61
 腹水……………21, 56, 63
 腹水の検査……………22
 腹水・の治療とケア……………79
 複数菌感染……………50

輻湊	40
腹痛	19, 24, 56
副反応	37
副鼻腔	21, 40, 70
副鼻腔炎	93
副鼻腔癌	93
副鼻腔真菌症	93
副鼻腔の異常	93
副鼻腔疾患	93
腹部エックス線撮影	13
腹部外傷	78, 105
腹部腫瘍	56
腹部大動脈瘤	75, 101
腹部超音波検査	13
腹部の診察	21
腹部膨満・腫瘤	20
腹部膨隆	56
腹壁	42
腹壁血管怒張	56
腹壁疾患	25, 104, 105
腹壁の筋肉・筋膜	42
腹壁破裂	105
腹壁癒痕ヘルニア	104
腹壁・腹膜の構造・機能	42
腹膜	42
腹膜癌	111
腹膜偽粘液腫	104
腹膜刺激症状	56
腹膜刺激徴候	21
腹膜疾患	25, 104
腹膜中皮腫	104
腹膜透析	72
服薬計画	71
服薬指導	71
福山型	119
フグ	129
浮腫	19, 21, 53, 56
浮腫性硬化症	91
不詳の死	52
不随意運動	20, 59
不正軸進入	84
不正性器出血	20
不整脈	25, 51, 56, 99
付属器	40
付着部痛	60
腹腔鏡下手術	76
不定愁訴	58
不妊	36, 57, 111, 112
不飽和鉄結合能	10
不眠	28, 58
不眠症	88
不良姿勢	59
振舞い	18
フレイル	36, 48
フレイルの評価	61
フローサイトメトリー	63
フロセミド負荷試験	12
フロッピーインファント	62
憤怒けいれん	119
糞便	63
糞便検査	9, 22
粉瘤	89

イ

部位	63
部位別治療優先順位の判断	23
部位別治療優先順位の判定	78
部位別優先順位の判断	61
物質関連障害および嗜癖性障害	87
物的	16
物的支援	28
物理・化学的外傷	94
物理的原因・生活環境因子による障害	130
物理的損傷	49
物理療法	76, 80
舞踏運動	59
ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	90
ブドウ糖負荷試験	10, 12
ぶどう膜	40
ぶどう膜炎	92
ぶどう膜・網膜・硝子体疾患	92
部門間連携	16
ブラ	96
ブレブ	96
文化的配慮	74
文献検索法	23
分子標的薬	72, 97
文書偽造	31
分析モデル	35
分染法	65
分泌物検査	67
分布	71
分娩	17, 20, 46
分娩開始	46
分娩外傷	86
分娩・産褥の異常	84
分娩時期	46
分娩時期の診断	62
分娩時裂傷	85
分娩停止	84
分娩の3要素	46
分娩の異常	20
分娩の経過	46
分娩の検査	67
分娩麻痺	118

ロ

プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮	20
プライバシー・体調・環境への配慮	18
プライバシー保護	16
プライマリ・ケア	33
プライマリヘルスケア	33
プラスミン・プラスミンインヒビター複合体	9
プラセボ	36
プラセボ効果	71
プリオン病	114, 128
プリックテスト	11, 66
プリン(尿酸)代謝の異常	122

プレコンセプションケア	62
プロカルシトニン	11
プロゲステロン	10
プロゲステロン負荷試験	12
プロテインC欠乏症	107
プロテインS欠乏症	107
プロトコール	27
プロトンピン時間	9
プロトン密度強調像	69
プロポーシオン	47
プロラクチノーマ	120
プロラクチン	10

へ

平易な表現	19
平滑筋腫	103
平滑筋肉腫	118
平均寿命	35
平均赤血球ヘモグロビン	9
平均赤血球ヘモグロビン濃度	9
平均赤血球容積	9
平均余命	35
閉経	18
閉経後障害	112
閉瞼	40
閉瞼不全	54
平衡・感覚・自律神経系の障害	59
平衡機能検査	66, 67
平衡障害	59
平衡相	69
閉鎖孔ヘルニア	104
閉塞性	98
閉塞性細気管支炎	96
閉塞性ショック	51, 77
閉塞性水頭症	118
閉塞性動脈硬化症	101
閉塞性無精子症	112
平背	59
併用禁忌	71
併用薬	71
へき地医療	34
へき地医療・救急医療の確保	33
へき地医療拠点病院	34
へき地医療支援機構	34
へき地診療所	34
へき地保健医療対策	34
ヘパリン起因性血小板減少症	107
ヘプシジン	42
ヘマトクリット	9
ヘモクロマトーシス	104, 106, 122
ヘモグロビン	9
ヘモグロビン尿	57
ヘモジデロシス	106
ヘモフィルス感染症	127
ヘリコバクター・ピロリ感染症	102, 107, 127
ヘリカルCT	69
ヘルシンキ宣言	16
ヘルスプロモーションの概念	33
ヘルパーT細胞	45
ヘルパンギーナ	93, 126

ヘルペス	24
辺縁系	44
変換症	87
変形	21
変形性足関節症	117
変形性関節症	26, 117
変形性股関節症	117
変形性膝関節症	117
変形性脊椎症	26, 116
変形治癒骨折	118
変視症	54
片頭痛	26, 116
変性近視	92
扁桃	21, 42, 45
扁桃炎	25
扁桃周囲炎・膿瘍	94
扁桃体	44
扁平上皮癌	97
扁平苔癬	90

へ

便細菌検査	9
娩出期	46
娩出物	46
娩出力	46
便潜血反応	9
便中抗原	64
便通異常	19, 56
便秘	19, 56
便秘症	25, 102
弁膜症	25, 99

へ

ペインクリニック	74
ペースメーカ	74, 99
ペプシノゲン	10
ペプシノゲン測定	65
ペラグラ	122
ペルオキシダーゼ染色	63

ほ

法医学的試料の採取	63
蜂窩織炎	90
放火症	88
包茎	112
報告義務	17
報告様式	64
縫合	27, 78
縫合法	72
放射性医薬品	69
放射性同位元素	68
放射性同位元素内用療法	75
放射性廃棄物	39
放射線	36
放射線管理	39
放射線効果の修飾	75
放射線障害	49, 51
放射線性腸炎	102

放射線治療	27, 74
放射線治療の適応	75
放射線治療可能比	74
放射線による発がん	52, 130
放射線の影響	46
放射線の確率的影響・確定的影響	52
放射線の健康影響と管理	39
放射線の身体的影響	51
放射線の単位と測定	68
放射線肺炎	97
放射線防護3原則	68
放射能	68
胎状奇胎	84, 111
放線菌症	127
蜂巣炎	90
方法	76
訪問介護	30
訪問看護	30
訪問看護ステーション	31
訪問診療	30
訪問リハビリテーション	30
保菌者	50
保健・医療・福祉・介護・教育の制 度と連携	16
保健・医療・福祉・介護・教育の連 携	28
保健・医療・福祉・介護の仕組み	30
保健・医療・福祉・介護の施設と機 能	31
保健・医療・福祉・介護の資源	31
保健・医療・福祉・介護の組織と連 携	30
保健・医療・福祉・介護関係法規	31
保健・医療・福祉・介護従事者	31
保健・医療・福祉介護従事者の現状 と役割	31
保健機能食品	37
保健指導	35
保健所	30
保険薬局	31
歩行	21
歩行器	76
歩行訓練	76
歩行障害	20, 59
歩行障害・転倒	48
保護・防御機能	41
補償	17
ホスピス	79
ホスピス・緩和ケア	80
ホスピスケアの基準	80
保存期間	22, 63
保存方法	22
補体	11, 45, 64
補体欠損症	125
補体結合反応	64
発作性異常波	65
発作性寒冷色素尿症	106
発作性・機能的・自律神経系疾患	116
発作性上室頻拍	99
発作性夜間ヘモグロビン尿症	106
哺乳力低下	20

ホメオスタシス	43, 44
ホモシスチン尿症	122
ホルモン	10, 11, 63
ホルモン受容体異常症	121
ホルモンの合成・分泌とその調節	44
ホルモンの合成・分泌の異常	51
ホルモンの作用機序	44
ホルモンの種類	44
ホルモン補充療法	112
本態性血小板血症	106
本態性高血圧	100
本態性振戦	115
奔馬調律	55

ぼ

防御機能	41
膀胱	43, 70, 77
膀胱炎	110
膀胱癌	26, 111
膀胱憩室	112
膀胱結石	110
膀胱穿孔・ドレナージ	77
膀胱腔瘻	113
膀胱腸瘻	113
膀胱内圧測定	65
膀胱尿管逆流症	110
膀胱の下垂・脱出	57
膀胱瘤	112
防護の最適化	68
房室結節	41
房室中隔欠損症	99
房室ブロック	99
膨疹	53
帽状腱膜下出血	85
房水セル	54
房水フレア	54
乏尿	20, 57
ボーダーラインパターン	88
墨汁染色	64
墨汁法	64
母子感染	37, 50, 84
母子健康手帳	36
母子の健康状況	34
母子保健	32, 36
母子保健法	32
母集団	35
母性保健	36
母体・新生児搬送	79
母体保護法	32
勃起	43
勃起障害	57, 112
ボツリヌス症	127
母乳	50
母乳栄養	47
母斑	89
母斑症	89, 119
母斑性皮膚疾患	89

ぼ

ボジトロン核種	69
ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	13
ボジトロン断層撮影	13, 70
ポリープ切除	64
ポリオ	126
ポリソムノグラフィ	65
ポリファーマシー	48, 71
ポルフィリン症	122
ポルフィリン代謝の異常	122

ま

マイクロバブルテスト	68
マイコバクテリア	127
マイコバクテリアによる感染症	127
マイコプラズマ	12
マイコプラズマ抗体	11
マイコプラズマによる感染症	126
マイコプラズマ肺炎	126
膜性腎症	109
膜性増殖性糸球体腎炎	109
マクログロブリン血症	106
マクロファージ	45
マクロファージ活性化症候群	107
マグネシウム代謝異常	110
麻疹	24, 126
麻酔	27, 72
麻酔合併症	73
麻酔事故	73
麻酔導入	73
麻酔の維持	73
麻酔前投薬	73
マスキング	36
末梢T細胞性リンパ腫	107
末梢血管	41
末梢血管抵抗	42
末梢血・骨髓血塗抹	9
末梢神経	44, 74
末梢神経・神経筋接合部・筋疾患	115
末梢神経症状	59
末梢神経障害	59
末梢神経損傷	118
末梢神経伝導検査	12, 23, 66
末梢神経の炎症性・遺伝性・代謝性疾患	115
末梢神経の構造・機能	43
末梢神経の絞扼性疾患	115
末梢受容体	41
末梢循環障害	53
末梢静脈栄養	71
末梢性脊椎関節炎	124
末梢性動脈疾患	25
末梢性免疫系臓器	45
末梢前庭器官	40
末梢動脈疾患	101
マナー	18
麻痺性イレウス	105

麻薬依存・中毒	129
麻薬及び向精神薬取締法	31
麻薬性鎮痛薬・鎮静薬	72
マラリア	128
慢性	96
慢性アルコール性臓器障害	129
慢性胃炎	102
慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー	115
慢性肝炎	25, 103
慢性間質性腎炎	109
慢性期	80
慢性気管支炎	96
慢性好酸球性白血病	106
慢性甲状腺炎	120
慢性光線性皮膚炎	90
慢性喉頭炎	93
慢性硬膜下血腫	118
慢性骨髄性白血病	106
慢性糸球体腎炎	109
慢性糸球体腎炎症候群	26
慢性疾患に伴う貧血	106
慢性心不全	99
慢性心不全の急性増悪	99
慢性腎盂腎炎	110
慢性腎臓病	26, 110
慢性腎不全	110
慢性膀胱炎	25, 104
慢性穿孔性中耳炎	92
慢性中毒	51
慢性疼痛	79
慢性肉芽腫症	125
慢性肺血栓塞栓症	97
慢性白血病	26
慢性副腎不全	120
慢性閉塞性肺疾患	25, 96, 129
慢性扁桃炎	94
慢性リンパ性白血病	106
マンモグラフィ	13

み

ミエリン塩基性蛋白	9
ミエログラフィ	69
ミオクロームス	59
ミオグロビン尿	57
味覚系の構造・機能	41
味覚検査	67
味覚障害	54
未承認薬・適応外使用の取扱い	31
未熟児貧血	86
未熟児無呼吸発作	85
未熟{児}網膜症	85, 92
水	63
水制限試験	12
水・電解質の異常	110
水・電解質の代謝調節	43
未成年者の喫煙	129
身だしなみ	18
密封小線源治療	75
ミトコンドリア脳筋症	115
ミネラル	51

ミネラル骨代謝異常	110
耳	21
耳の異常	54
耳の損傷	94
脈拍	21
脈拍異常	56
脈拍の欠損	56
脈波検査	22
脈絡膜	40
脈絡膜炎	92
脈絡膜腫瘍	92
脈絡膜の異常	54
脈管	40, 41
脈管異常	53
脈管系	42, 43
脈管疾患	25, 101
味蕾	41
民生委員・社会福祉協議会	30
民法	31, 32

む

無為	58
無医地区	34
ムカデ	129
無顆粒球症	106
無汗症	90
無害性雑音	55
無ガンマグロブリン血症	125
無危害	16
無機質	51
無気肺	96
無筋症性皮膚筋炎	124
無月経	20, 111
無呼吸	55
無呼吸反射	41
ムコ多糖症	122
無症候性脳梗塞	114
むずむず脚症候群	88
夢中遊行症	88
ムチン沈着症	91
無痛性虚血性心疾患	100
無痛性甲状腺炎	120
無動	59
無動性無言症	58
無尿	20, 57
むねやけ	56
胸やけ	19
無排卵	112
無脾症	99
ムンプス	126

め

迷走神経	40, 41
メープルシロップ尿症	122
メタアナリシス	23, 36
メタネフリン・ノルメタネフリン	11
メタ分析	23, 36
メタボリックシンドローム	121

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 127

眼の乾燥感 54

眼の外傷 94

眼の充血 54

めまい 19, 24, 53

メラニン生成 40

メレナ 85

免疫 20, 45, 47, 57

免疫異常疾患 50

免疫応答とその調節 45

免疫介在性壊死性筋症 124

免疫学的機序が考えられる肺疾患 96

免疫機能 40

免疫学的検査による診断 64

免疫学的便潜血検査 9

免疫寛容 45

免疫系 44

免疫グロブリン 45, 64

免疫グロブリン製剤 72

免疫グロブリン大量療法 80

免疫系の調節 45

免疫血清学検査 22, 64

免疫系臓器 45

免疫性血小板減少症 84

免疫性血小板減少性紫斑病 107

免疫組織化学染色 12, 64

免疫蛋白 11

免疫チェックポイント阻害薬 72

免疫異常 50

免疫調節不全症 125

免疫電気泳動 11, 22

免疫反応 50

免疫複合体 11

免疫不全 50

免疫抑制薬 72

免疫療法 80

面接者の態度 18

メンタルヘルス対策 38

も

毛細血管拡張 53

毛細血管拡張症 103

毛細血管拡張性失調症 125

毛細血管拡張性肉芽腫 89

毛細血管奇形 89

毛細血管血 63

毛周期 40

網状皮斑 89

網赤血球 9, 63

妄想 20, 58

妄想型統合失調症 87

妄想性障害 87

毛髪異常 53

網膜 40

網膜疾患 92

網膜静脈閉塞症 92

網膜上膜 92

網膜色素変性 92

網膜前膜 92

網膜電図検査 66

網膜動脈閉塞症 92

網膜剥離 92

網膜芽細胞腫 92

網膜・脈絡膜の異常 54

網膜の異常 92

網膜脈膜炎 92

毛様体 40

もうろう状態 58

モザイク 49

モニタリング 73

もやもや病 114

モラクセラ・カタラリス感染症 127

森田療法 80

問題解決への援助的態度 18

問題志向型医療記録 16

門脈圧亢進症 104

門脈系 42

門脈相 69

や

夜間遺尿症 112

夜間頻尿 57

薬剤感受性試験 12, 22, 64

薬剤性 107, 109, 115

薬剤性過敏症症候群 89

薬剤性難聴 92

薬剤性肺障害 97

薬剤性平衡障害 93

薬剤性無顆粒球症 106

薬剤耐性 17, 50

薬剤耐性・院内感染対策 17

薬剤による低血糖 121

薬剤リンパ球刺激試験 66

薬疹 24, 89

薬事 31

薬物 36, 46

薬物アレルギー 124

薬物依存症 26

薬物依存・中毒 129

薬物性肝障害 103

薬物性腸炎 102

薬物中毒 24

薬物動態 71

薬物の選択 71

薬物の相互作用 71

薬物療法 26, 71

やせ 20, 60

薬効 71

薬効の評価 71

夜尿 57

夜尿症 112

夜盲 54

ゆ

有意水準 35

有害事象 37, 71

有害事象と副作用 17

有害物質の吸収・排泄 38

有機塩素剤 129

有機酸代謝異常症 122

有棘細胞癌 89

有機溶剤依存・中毒 129

有機溶剤中毒 129

有機リン剤 129

遊戯聴力検査 66

遊戯療法 80

有効性 17

優性遺伝 49

尤度比 23

有病率 35

有毛細胞 40

遊離コルチゾール 11

遊離サイロキシン 10

遊離トリヨードサイロニン 10

輸液 27, 72, 73

輸液管理 74

輸液の公式 78

輸液の種類と用法 72

輸液療法 77

輸血 27, 72, 73

輸血関連急性肺障害 72

輸血関連検査 10, 22, 63

輸血後GVHD 72

輸血による感染症 72

輸血副作用 72

輸血療法 23, 77

癒着胎盤 84

ユニバーサルデザイン 30

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 34

輸入感染症 50

よ

癰 90

養育医療 36

要介護 31

要介護認定 31

溶血性尿毒症症候群 107, 110

溶血性貧血 106

溶血に関する検査 10, 63

養護教諭 37

葉酸 10, 42

葉酸欠乏性貧血 106

要支援 31

要支援・要介護の原因 36

痒疹 89

幼児・学童の栄養 47

幼児期 47

幼児血管腫 89

幼児聴力検査 66

幼児突然死症候群 52

羊水 46, 63

羊水過少症 84

羊水過多症 84

羊水検査 67, 68

羊水指数 68, 84

羊水塞栓症 85

羊水の検査 68

羊水の診断 62

羊水の性状 62

羊水ポケット	68, 84
羊水量	62, 68
腰髄損傷	118
腰椎	27
腰痛	24, 60
腰痛症	116
用法・用量	71
容量血管と抵抗血管	42
用量反応曲線	51
ヨード造影剤	69
抑うつ	20
翼状片	91
杵創	49
予見性	31
予後指数	78
予備力・適応能力の低下	48
予防	50, 69
予防医学	35
予防医学と健康保持増進	35
予防医学の概念	35
予防照射	75
予防接種	37
予防接種と検疫	37
予防接種法	32
予防対策とその評価	36

ら

ライフサイクル	48
ライフスタイル	49
ラクナ梗塞	114
ラジオ波焼灼術	76
ラトケ嚢胞	120
卵円孔	46
卵管	43
卵管癌	111
卵管留膿症・腫	110
卵形嚢	40
卵巢	43
卵巢過剰刺激症候群	112
卵巢癌	26
卵巢系	43
卵巢腫瘍	111
卵巢性無月経	111
卵巢チョコレート嚢胞	111
卵巢嚢腫	26
卵巢・卵管・腹膜癌	111
ランダム化比較試験	36
ランブル鞭毛虫	128
卵胞刺激ホルモン	10
卵膜	46

り

リウマチ性疾患	26
リウマチ性心炎	100
リウマチ性多発筋痛症	124
リウマチ熱	125
リウマトイド因子	11
リウマトイド血管炎	124
リエゾン精神医学	81

理解の態度	18
理解の確認	19
罹患率	35, 50
理学療法	76
リケッチア	12
リケッチアによる感染症	126
リサイクル	38
離床	74
離人感・現実感喪失症	87
離人症	58
リスク差	23, 35
リスク臓器	75
リスク比	23, 35
リスクファクター	30, 35
リステリア感染症	127
リスボン宣言	16
離脱症状	87
離断性骨軟骨炎	118
立位	21
離島・へき地医療	34
離乳	47
利尿薬	72
理念	76
リハビリテーション	27, 76
リハビリテーション工学	76
リハビリテーション・チーム	76
リハビリテーションの概念	76
リハビリテーションの技術	76
リハビリテーションの理念	16
リバーミード行動記憶検査	67
リパーゼ	10
リビングウィル	27
リピドーシス	122
リフト	76
リベド	89
流行	34
流行性角結膜炎	126
流行性耳下腺炎	126
流産	84
粒子線治療	75
流・早産	24
流涙	54
療育	77
両価性	58
両眼視	40
両眼視機能検査	66
良好なコミュニケーション	18
良肢位	59
良性	50
良性家族性血尿	109
良性小児てんかん	119
良性軟部腫瘍	117
良性肺腫瘍	97
良性発作性頭位めまい症	93
両大血管右室起始症	99
量反応関係	35
療養病床	31
緑内障	24, 92
緑膿菌感染症	127
旅行者下痢症	129
旅行者疾患	129
淋菌感染症	127

淋菌性尿道炎	111
臨床疫学的指標	23
臨床期	49
臨床研究と倫理性	16
臨床研究中核病院	31
臨床試験	36
臨床試験・治験の倫理と制度	16
臨床判断の基本	23
臨床病理検討会	52
輪状甲状靭帯穿孔・切開	77
輪状甲状軟骨間膜穿孔・切開	77
鱗屑	53
隣接遺伝子症候群	49
リン代謝異常	110, 120
リンパ管奇形	53
リンパ管疾患	101
リンパ管腫	89, 94
リンパ管とリンパ節	42
リンパ管の構造と機能	42
リンパ還流障害	51
リンパ球刺激試験	11
リンパ球下垂体炎	120
リンパ球表面抗原検査	11
リンパ行性転移	51
リンパ系疾患	106
リンパ腫	107
リンパ節	45
リンパ節腫脹	20, 53, 57
リンパ節転移	53, 94
リンパ節の触診	21
リンパ組織	42
リンパ浮腫	51, 101
リンパ漏	51
リンパ濾胞	45
倫理的・社会的・文化的配慮	74

る

涙液分泌障害	91
涙器	40
類乾癬	90
涙器の異常	91
涙道狭窄・閉塞	91
類腱腫	117
類骨骨腫	117
涙嚢炎	91
涙液分泌検査	66
類白血病反応	106
ループス腎炎	109
ループスアンチコアグラント	9

れ

礼儀	18
冷式抗体による溶血性貧血	106
冷暖房	39
レーザー	76, 130
レーザー光線	94
レーザー療法	80
歴史の変遷	30
レクリエーション療法	77

レシピエント	74
レジオネラ症	127
レスキュードーズ	79
レスパイトケア	80
裂肛	103
劣性遺伝	49
レニン	43
レノグラム	12
レム睡眠	43
レム睡眠行動障害	88
連合弁膜症	100
連鎖球菌感染症	127
連続性雑音	56

ろ

老化	48
労作性狭心症	100
老人性難聴	92

老人福祉法	33
漏斗胸	98
労働安全衛生マネジメントシステム	38
労働安全衛生法	32
労働衛生管理体制	38
労働環境	49
労働基準監督署	38
労働基準法	32
労働災害	38
労働災害の補償	37
労働者災害補償保険法	32
労働者の安全衛生管理	37
労働者の健康増進	37
労働力の動向	37
老年期	18
老年期の健康問題	18
老年期の身体・心理・精神機能	18
老年症候群	48

ロービジョン	77
ロービジョンケア	77
ロコモティブシンドローム	36, 48
濾紙ディスク検査	67
露出症	88
ロジスティック回帰	35
ロタウイルス感染症	126
肋間神経	41
肋骨骨折	98
濾胞性リンパ腫	106

わ

ワークライフバランス	49
悪い知らせの伝え方	19
腕神経叢損傷	118
彎曲	21
腕神経叢	40

医師国家試験改善検討部会
報告書

令和2年 11 月

目次

1. はじめに.....	3
2. 医師国家試験問題について.....	3
(1) 出題数及び合格基準について.....	3
(2) 出題基準について.....	4
(3) 禁忌肢について.....	4
(4) その他.....	5
3. コンピュータ制の導入等について.....	6
(1) 医師国家試験へのコンピュータ制の導入について.....	6
(2) 試験問題のプール制について.....	6
(3) 問題の非公開化について.....	7
4. OSCE の導入について.....	7
5. 受験回数の制限について.....	9
6. 外国の医学部を卒業した者に対する医師国家試験について.....	10
(1) 基本的な考え方.....	10
(2) 受験資格認定基準について.....	10
(3) 予備試験等の共用試験 CBT 及び OSCE による代替について.....	11
(i) 予備試験について.....	11
(ii) 日本語診療能力調査について.....	12
7. おわりに.....	12

1. はじめに

- 医師国家試験は、医師法第 9 条に基づき「臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能」について行うこととされており、昭和 21 年に第 1 回が実施され、以後、医療を取り巻く状況及び医療の進歩に合わせ、その都度改善が行われてきた。
- 近年、卒前教育、臨床研修、専門研修、及びその後の生涯教育にわたり、医師の養成を一貫して行う必要性が認識されてきている。平成 27 年医道審議会医師分科会医師国家試験改善検討部会報告書(以下、「前回報告書」という。)に基づく第 112 回医師国家試験の見直し以降、令和 2 年度からの臨床研修制度の見直しや、卒前教育におけるいわゆる Student Doctor の法的位置づけに向けた議論など、一貫した医師養成に向けた改革が進められており、医師国家試験においてもさらなる改善に向けた取り組みが求められている。
- 令和元年 7 月に設置された医道審議会医師分科会医師国家試験改善検討部会において、現行の医師国家試験に関する評価と改善事項の検討を開始し、以後ワーキンググループでの議論も含めて 8 回にわたり検討を重ねてきた。今般、医師国家試験の改善に関する基本的な方向性等についての意見を取りまとめたので、ここに報告する。
- 本報告書で示している改善事項のうち、速やかに着手可能な事項については、早急に対応することが求められる。また、出題基準に関する事項については、今後の改定を経て令和 5 年(第 117 回)の試験から適用することが望ましい。

2. 医師国家試験問題について

(1) 出題数及び合格基準について

- 平成 27 年度からの共用試験 CBT の最低合格基準の設定を踏まえ、前回報告書に基づき、第 112 回医師国家試験から、問題数が 500 題から 400 題へ変更されるとともに、従来各々合格基準が設けられていた「一般問題」と「臨床実地問題」について、両者をあわせて相対基準を設定することとされた。
- 本部会において、第 112 回からの出題数及び合格基準の変更による評価の信頼性に対する影響について、分析・検討を行ったが、著しい信頼性の低下は認めなかったことから、現時点でさらなる見直しは行わず、現行の問題数及び合格基準による試験をさらに重ね、得られたデータを基に引き続き検討を行うことが妥当である。

(2) 出題基準について

- 前回報告書においては、出題内容について「高度な専門的事項を問う内容ではなく、臨床研修において、指導医の下で診療に従事するのに必要な知識および技能を問う水準とするとともに、診療科に関わらずに総合的鑑別診断や治療方針の選択に関する能力を問う内容とする必要がある」とされるとともに、共用試験 CBT との重複を考慮して一般問題を削減し、臨床問題については臨床実習の経験に即した出題傾向とする方針が確認されている。
- 近年、一貫した医師養成への取り組みが進む中で、医学生がより集中して診療参加型臨床実習に取り組める環境を構築する重要性は増しており、医師国家試験の出題基準を可能な限り臨床実習における経験を評価する内容に絞るよう見直しを行うことが妥当である。
- 具体的には、「臨床研修において、指導医の下で診療に従事するのに必要な知識および技能を問う水準とする」という前回報告書における原則に基づき、特にブループリントの各論について出題する疾患を厳選すること、出題する疾患についてはどの程度の知識を求めるかを示すこと、臨床実習前に修得可能な単純な知識を問う領域を除外すること等を検討し、全体として出題範囲を絞るべきである。例として、臨床研修の到達目標を超えるような高度な医療を必要とする病態あるいは頻度が極めて低い疾患等については、原則、臨床研修において適切なコンサルテーションができるための知識を求める程度にとどめるべきである。
- 出題基準の見直しについては、医道審議会医師分科会医師国家試験出題基準改定部会において検討が行われるものであるが、可能な限り精緻な検討を行うべきであることから、部会に先立ち、研究班等における専門家による検討を踏まえて上記の考え方に沿った原案を作成する等、あらかじめ整理することが望ましい。

(3) 禁忌肢について

- 医師国家試験における禁忌肢は、平成 9 年の第 91 回医師国家試験より導入され、「患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項」を新たに禁忌肢問題として出題することとされた。また、平成 15 年の医師国家試験改善検討委員会報告書において、前述の内容に加え、「極めて非倫理的な事項」も明示的に加わり、禁忌肢として出題される可能性のある範囲が拡大して現在まで出題が継続されている。
- 禁忌肢については、導入から約 20 年が経過し、医師として不適格な者を判別するという当初の目的が達成されるものとなっているか等、その在り方については様々な意見が

あり、医療安全をめぐる社会的な要請や禁忌肢の設定による教育的な効果など様々な観点からの議論が必要である。

- 本部会において、禁忌肢の選択数とその後の医師の行政処分との関係性について調査するなど、可能な範囲で分析を行ったが、禁忌肢問題の撤廃に足る根拠は不十分であり、現時点では継続することが妥当である。
- ただし、禁忌肢の内容について、「極めて非倫理的な事項」に相当する問題については、禁忌肢を選択する者が非常に少ないため有効性の判断が困難であることに鑑み、禁忌肢導入当初の「患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項」に限定することが妥当である。
- 禁忌肢を含む問題数について、第 112 回より全体の問題数が削減されているが、禁忌肢を一定数以上選んだ者を判別するという禁忌肢本来の目的に鑑みると、現時点では、概ね現在の問題数を維持することが望ましい。問題数については、今後、今回の出題内容の変更後の解答状況等を再度評価した上で、引き続き検討を行うべきである。
- 禁忌肢の公開についても、今回の出題内容の変更後の解答状況等を再度評価し、3(3)に記載する、問題の非公開化の議論の進捗とあわせ、教育的な効果等も考慮した上で、引き続き検討を行うことが望ましい。

(4) その他

- 英語問題について、近年出題された問題について正答率の変動が大きいことが指摘されており、医学生にとっても学習が困難な領域となっている。医師として具有すべき英語能力については、英語文献を読む能力や診療を行う能力など多岐にわたるが、臨床研修医に特に求められる英語能力は、臨床研修医が実際の医療現場において上級医をはじめとした医療従事者間でのコミュニケーションをとる際や、外国人患者への診察を行う際に必要な基礎的な英語の能力であることから、これらを医師国家試験における英語問題の出題の中心とすることが望ましい。
- 計算問題について、近年の電子機器の発展により、診療の現場において必要な数値計算をより簡便に行うことができる環境が整った。その状況に鑑み、計算問題については、単純な計算結果の数値自体を問う問題ではなく、計算結果を得るために必要な知識や結果の解釈、臨床判断への活用などを問うような問題とすることが望ましい。

3. コンピュータ制の導入等について

(1) 医師国家試験へのコンピュータ制の導入について

- 前回報告書においても指摘されたように、医師国家試験のコンピュータ化により、連続して判断が求められる問題やマルチメディアを用いたより臨床に即した問題の出題が可能となり、診療参加型臨床実習の活性化にも寄与することが期待できることから、今後、コンピュータ化に向けた検討を具体的に進めていくべきである。
- コンピュータ制の導入にあたり、最終的な到達目標としては、臨床実習前の共用試験 CBT と同様に、個々の受験者に対して異なる問題が出題され、異なる日時においても受験が可能となるシステムが構築されることが望ましい。
- 一方で、前回までの報告書において指摘がなされたように、実施方法や、出題手法、合格基準、諸経費等の課題の解決が必要であることから、例えば視覚素材からのコンピュータ化や一斉受験を前提としたコンピュータ化など、段階を踏んだ導入の検討も行うことが望ましい。
- コンピュータ化については、災害時や感染症のパンデミック時等、通常の試験実施が困難となった場合において、試験の複数回化や実施場所の増加等への対応が容易となることが想定される観点からも、可能な限り早期の導入が望まれる。

(2) 試験問題のプール制について

- 医師国家試験へのプール制の導入については、医師国家試験改善検討部会において長年その導入を目指す提言がなされてきており、実際に平成 13 年(第 95 回)の国家試験から問題冊子の回収が行われてきたところである。しかし、平成 17 年度の「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」に基づく異議申し立てに対する、内閣府情報公開・個人情報保護審査会の答申を受けて、平成 19 年(第 101 回)以降、問題冊子の持ち帰りが認められたことから、事実上プール制への移行は困難となり、試験委員会が毎年作成する新規問題が現在もなお医師国家試験の主体をなしている。
- 過去の報告書でも指摘されているように、良質な問題の作成には、一度使用された試験問題のブラッシュアップ作業が不可欠であるが、プールされた問題を適切な手法で再利用することは医師国家試験の質の向上に大きく寄与すると考えられる。
- また、前項のコンピュータ制の導入にあたり、個々の受験者に対して異なる問題を出題するシステムを構築するためには、大量のプール問題が必要となることから、早期にプール制を導入するべきである。

- 医師国家試験の問題については、医療の進歩が早いために過去に作成された問題の妥当性が後になって損なわれることも多く、一定以上年数を経た問題はプール問題としての活用が困難であることから、使用して間もない問題をプール問題として活用できる体制を構築するためには、次項に記載する試験問題の非公開化が不可欠である。

(3) 問題の非公開化について

- 平成 17 年度の「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」に基づく異議申し立てに対する、内閣府情報公開・個人情報保護審査会の答申を受け、現行の医師国家試験の問題及び正解肢は公開することとされている。
- 問題の非公開化により、試験問題のプール化が促進され、①コンピュータ化に向けた課題の一つが解消されること、②良問の再利用が促進され医師国家試験の質の向上につながること、③試行問題の導入が可能となること、④実施回ごとの試験問題の難易度によらない評価基準が設定できることで絶対評価が可能となること等のメリットが考えられる。
- これらの点を踏まえ、受験生に対する教育的効果の観点等から、問題の一部を公開するなどの対応はとり得るものの、本部会の結論として、医師国家試験は再度、原則非公開とすることが妥当と考える。

4. OSCE の導入について

- 技能および態度を評価する試験である OSCE(Objective Structured Clinical Examination)の医師国家試験への導入については、長年その必要性が指摘されており、近年の一貫した医師養成を目指す動きの中で、臨床実習終了後に行う OSCE の重要性はさらに増している。
- 前回報告書において、「(現時点では、)全ての医学部での臨床実習終了時 OSCE の導入を進めていくことが重要である」とされ、「医師国家試験への OSCE の導入の是非については、その達成状況を確認してから、改めて議論していく必要がある。」とされている。
- 公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO)により実施されている臨床実習後 OSCE(Post-CC OSCE)は令和元年度に全大学が参加したトライアルが行われ、令和 2 年度より正式実施が開始されている。
- 一方で、共用試験 CBT 及び臨床実習前 OSCE(Pre-CC OSCE)は、平成 17 年度より実

施されており、令和2年5月に取りまとめられた医道審議会医師分科会報告書において、その成熟に鑑み公的化すべき試験とされ、今後法改正も視野に入れて具体的な検討が行われる予定とされている。

- 以上を踏まえ、Post-CC OSCE の医師国家試験への導入については、CATO による正式実施が開始されて間もない現状に鑑み、現時点では医師国家試験に相当する位置付けとすることは妥当ではなく、将来的に Post-CC OSCE の成熟を見きわめて判断を行うべきである。

- Post-CC OSCE の医師国家試験への将来的な導入について、本部会においては下記のように課題を整理した。

I. 試験の実施について

- ①実施時期が医師国家試験の受験勉強期間と重なること。
- ②実施場所について、現在は各大学で実施しているが、国家試験とした場合に利用可能な施設の確保が必要であること。
- ③実施経費について、受験料、大学負担分、国・都道府県（地域）の負担分等の検討が必要であること。
- ④必要な機材について、録画機材、シミュレーター等標準的に具備すべき機材・物品の用意が必要であること。
- ⑤評価結果の集計について、現場で評価結果を入力、集計するためのシステムの導入が必要であること。

II. 問題作成と評価について

- ①現在は CATO 提供課題 3 課題に各大学が独自に作成した大学独自課題 3 課題を加えて実施しており、統一が必要であること。
- ②国家試験と同様に、各問題の適切性の評価を試験実施後に行うことが必要であること。
- ③実技試験の受験勉強化を避けるために、多様な問題のプールが必要であること。
- ④問題の作成・検証及び合否判定を行うための、公的な場が必要であること。
- ⑤所定の課題を同一日程に実施するための体制作り、あるいは同一日程に実施できない場合における課題設定等についての検討が必要であること。

III. 評価者及び模擬患者について

- ①評価者・模擬患者の絶対数の不足等に伴う継続的な人材育成への対応が必要であること。
- ②評価者・模擬患者の標準化が必要であること。
- ③評価者・模擬患者の認定について、国がどのように関与するかの検討が必要であること。

④現在は、内部評価者（大学教員・臨床実習実施関連病院医師）と外部評価者（他大学教員・臨床研修病院指導医）の両者により評価を実施しているが、国家試験化する場合の評価者について検討が必要であること。

⑤評価者・模擬患者の派遣システムの構築が必要であること。

⑥評価者・模擬患者からの問題の漏洩について、対策が必要であること。

- 次回の医師国家試験改善検討部会において、上記の様々な課題に関する観点から改めて Post-CC OSCE の実施状況を確認し、医師国家試験に相当する位置づけとすることについて、改めて検討を行うことが望ましい。

5. 受験回数の制限について

- 医師国家試験における受験回数制限の導入の是非については、少なくとも昭和 60 年の医師国家試験改善検討部会より断続的に検討が行われ、直近では平成 23 年の医師国家試験改善検討部会において、多数回の不合格を経て合格した者を排除する必要性を明確に示すことができないこと等の理由から、導入を行わないとされた。
- 昨今、医学教育における OSCE の導入など、環境が大きく変化するなか、医学部卒業から期間が空いた者に対する質の担保が課題となり得るとの意見もあったことから、本部会において改めて検討を行った。
- 医学部卒業から期間が空いた者の卒業後の進路や医道審議会の処分歴等の客観的な情報も踏まえた検討を行ったが、明らかに他の医師と異なるといった事実は明らかとされなかったことから、受験回数の制限を現時点で導入することは妥当ではない。
- ただし、臨床実習から長年離れていることから技能に関する確認は行われることが望ましく、Pre-CC OSCE が公的化された際には、Pre-CC OSCE の受験がない時代に医学部を卒業した者及び Pre-CC OSCE の受験から一定程度期間が経過した者については、移行期間を設けた上で Pre-CC OSCE の受験を必須とするべきであり、将来的には Post-CC OSCE の成熟を見きわめて、Post-CC OSCE の受験を課すことの検討を行うことが望ましい。
- また、基礎医学等の医師国家試験で出題されない領域の知識についても改めて確認が行われることが望ましく、今後、出題基準の見直し等の状況を踏まえて、共用試験 CBT を課すことについても検討を行うことが望ましい。

6. 外国の医学部を卒業した者に対する医師国家試験について

(1) 基本的な考え方

- 外国の医学部を卒業した者に対する医師国家試験受験資格については、医師法第 11 条に基づき、①医師国家試験予備試験に合格した者で、合格後 1 年以上の実地修練を経た者 ②外国の医学校を卒業し、又は外国で医師免許を得た者で、我が国の大学において医学の正規の課程を修めて卒業した者と同等以上の学力及び技能を有し、かつ、適当と認定された者に対して受験資格が与えられている。
- 近年、海外の医学部を卒業して医師国家試験を受験する者が増加傾向にあり、医師の需給の観点から合格者数の制限を行うべきとの意見もあったことから、改めて本部会において、これらの者に対する合格判定の在り方について議論を行った。
- 医師国家試験の第一義的な目的は、我が国における医師として求められる知識及び技能を評価し、質の担保を行うことであること、及び「医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会」における議論等を踏まえ、海外の医学部を卒業した者に対しても、公平性を持った評価を行うべきであり、現時点でこれらの者に対して別途基準を設けることは妥当ではない。
- 一方で、今後さらに受験者が増加した場合においては、医師の需給バランスの適正化のための一つ的手段として、医師国家試験及びその受験資格認定による調整も検討すべき状況となる可能性が考えられるため、医師需給分科会等の検討会等の議論を注視し、必要に応じて引き続き検討すべきである。

(2) 受験資格認定基準について

- 「本試験認定見込み」及び「予備試験認定」については、医学校の教育年限や専門課程の時間数等の基準により判定が行われている。
- 近年、世界医学教育連盟(WFME)による卒前教育の標準化が進められていることを背景に、前回の報告書において、「外国の医学部における卒前教育の内容（カリキュラム、臨床技能の評価等）について、我が国の医学の正規の課程と同等以上であることをより客観的に評価する体制を検討すべき」とされている。
- 海外においても WFME の活用が進められており、米国においては、2024 年度から、USMLE の受験要件として、受験者が卒業した大学が WFME 公認の認証機関による認定を受けていることが必須となる予定である。

- 我が国においても全国医学部長病院長会議を中心に WFME 公認の認証機関である日本医学教育評価機構（JACME）が設立された後、全国の医学部が順次 JACME による認定を受けており、2023 年度を目途に日本の全医学部の初回の評価が終わる予定である。
- 以上の状況を踏まえ、将来的には、外国の医学部における卒前教育の内容が、我が国の医学の正規の課程と同等以上であることを評価するための一つの基準として、卒業した大学が WFME 公認の認証機関の認定を受けていることを要件とすることが望ましい。
- 現時点では、申請者の多い国の中には WFME の認証機関が設立されて間もない国等も存在することから、近年の WFME の公認基準の変更や、各国における認定の状況を見ながら、引き続き慎重に検討を行う必要がある。

（3）予備試験等の共用試験 CBT 及び OSCE による代替について

- 前回報告書において、外国の医学部を卒業した者が受験する日本語診療能力調査について、「申請者数が増えつつあることから評価方法を充実すべきであるとの意見があったことを踏まえ、引き続き評価方法の検討を行うとともに適宜見直しを行っていく必要がある」とされていた。
- 我が国の大学における卒前教育において、医師国家試験前に受験する試験として、平成 17 年から CATO により実施されている、共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE があり、全ての医学生が臨床実習前に受験を行っている。
- 前述のとおり、共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE については、その成熟に鑑み公的化すべき試験とされ、今後法改正も視野に入れて具体的な検討が行われる予定とされており、これらの関連する制度にかかる近年の動向等を踏まえ、予備試験及び日本語診療能力調査について、下記の見直しを行う。

（i）予備試験について

- 医師国家試験予備試験は、1 年以上の実地修練を行う前段階で受験される試験であることから、その位置づけは、我が国の卒前教育においては共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE に相当することから、共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE が公的化された場合においては、予備試験の代替として共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE を課すことが妥当である。
- 適用を行う時期については、今後法改正等により共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE が公的化された場合においては、公的化後の試験を受験した我が国の医学生が、初めて医師国家試験を受験する際の試験から適用することが望ましい。

(ii) 日本語診療能力調査について

- 日本語診療能力調査は、「本試験認定見込み」と認定された者が我が国の医学生と同等以上の①聴く能力、②話す能力、③書く能力、④読み取る能力、⑤診察する能力を具有するかについて評価するための日本語による実技試験である。
- Pre-CC OSCE の公的化にあたり、日本語診療能力調査の代替として、技能および態度を評価する試験である Pre-CC OSCE の受験を課すとともに、筆記試験を併せて受験させることで、前述の5つの能力について、我が国の医学生と同等以上の能力を持つことを確認することが、当面の取り扱いとして妥当である。
- また、適用を行う時期については、予備試験と同様、今後法改正等により共用試験 CBT 及び Pre-CC OSCE が公的化された場合においては、公的化後の試験を受験した我が国の医学生が、初めて医師国家試験を受験する際の試験から適用することが望ましい。
- 今後、Post-CC OSCE の成熟度を見極めつつ、将来的には Post-CC OSCE で代替することも引き続き検討すべきである。

7. おわりに

- 一貫した医師養成に向けた改革の中で、医師国家試験は卒前教育と卒後教育を繋ぐ最も重要な要素の一つであることから、その見直しの重要性は回を重ねるごとに増しており、一連の養成課程において教育を受ける医学生・医師、及びその医療を受ける患者に対する影響も非常に大きなものとなっている。
- このような状況を踏まえ、本報告書における医師国家試験の見直しについては、医学生が積極的に診療参加型臨床実習に取り組み、その後の臨床研修においてより充実した研修を行うために必要な知識及び技能を修得していることを評価することで、より質の高い医療を提供できる医師が養成されることを念頭に検討を行った。
- 各養成課程における一貫した医師養成に向けた改革の進捗状況を見極めつつ、適宜、継続的な見直しを行っていくことが重要である。

医道審議会医師分科会
医師国家試験改善検討部会委員

- 岩間 亨 岐阜大学大学院医学系研究科長・医学部長
- 北村 聖 東京大学名誉教授
- 清水 貴子 聖隷福祉事業団顧問
- 瀬尾 宏美 高知大学教授
- 高木 康 昭和大学副学長
- ◎ 中谷 晴昭 千葉大学理事・副学長
- 野上 康子 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構研究部専門員
- 伴 信太郎 愛知医科大学医学教育センター長
- 平川 俊夫 公益社団法人日本医師会常任理事（～令和2年6月30日）
- 福井 次矢 聖路加国際病院院長
- 前野 哲博 筑波大学医学医療系教授
- 山口 育子 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長
- 吉田 穂波 神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授
- 渡辺 弘司 公益社団法人日本医師会常任理事（令和2年7月28日～）

※◎は部会長。敬称略、50音順。

医師国家試験改善検討部会報告書概要

1. はじめに

- 卒前・卒後の一貫した医師養成に向けた改革が進められる中で、医師国家試験についてもさらなる改善に向けた取組みが必要である。
- 早期に改善できる点は可及的速やかに改善し、出題基準については全体の範囲を絞る等の見直しを行い、第117回（令和5年）の試験から適用することが望ましい。

2. 医師国家試験問題について

- ① **出題数・合格基準について**：第112回から変更したことによる著しい信頼性の低下は認めないことから、**現行の出題数・合格基準による試験を継続し**、引き続き検討することが妥当。
- ② **出題基準について**：医学生が診療参加型臨床実習に集中して取り組めるよう、**可能な限り臨床実習における経験を評価する内容に絞るよう見直す**べき。
具体的には、特に各論について出題する疾患を厳選すること、出題する疾患はどの程度の知識を求めると示すこと、臨床実習前に修得可能な単純な知識を問う領域を除外すること等を検討し、**全体として出題範囲を絞る**べき。
- ③ **禁忌肢について**：現時点では**禁忌肢問題を従前どりの出題数で継続**することが妥当。内容について、「極めて非倫理的な事項」では禁忌肢選択者が少なく有効性の判断が困難であり、**導入当初の「患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項」に限定**すべき。

3. コンピュータ製の導入等について

- ① **コンピュータ製の導入**：
 - ・最終的な到達目標は、個々の受験者に対して異なる問題が出題され、異なる日時においても受験が可能となるシステムの構築がなされることが望ましい。
 - ・実施方法、合格基準等の課題の解決が必要なことから、一部の問題のみの導入や、一斉受験を前提とした導入など、**段階的な導入について、より具体的に検討を進めていく**べき。
- ② **試験問題のプール制**：プール問題を適切に再利用することは試験の質向上に大きく寄与すると考えられ早期導入すべき。
- ③ **問題の非公開化**：プール制導入に不可欠であり、**試行問題や絶対評価の導入が可能となる等想定されるメリットを踏まえ、再度、原則非公開とす**べき。

4. OSCEの導入について

- Post-CC OSCEの国家試験への導入は、**正式実施開始から間もない現状に鑑み現時点では妥当ではないが**、実施状況を確認した上で、**将来的に成熟を見極めて判断**を行うべき。

5. 受験回数の制限について

- **現時点で導入は妥当ではない**。
- ただし、臨床実習から長年離れていることから技能に関する確認は行うべきであり、**Pre-CC OSCEが公的化された際には、移行期間を設けた上でPre-CC OSCEの受験を必須とす**べき。
- さらに出題基準の見直し等の状況を踏まえ、**共用試験CBTを課すことについても今後検討**すべき。

6. 外国の医学部を卒業した者に対する試験について

- ① **基本的な考え方**：現時点で別途基準を設けることは妥当でないが、医師需給分科会等の議論を注視し、必要に応じて引き続き検討すべき。
- ② **受験資格認定について**：将来的にはWFME公認の認証機関の認定を受けた大学の卒業を要件とすることが望ましい。WFMEの公認基準の変更や、各国の認定状況などを注視し、引き続き慎重に検討を行うべき。
- ③ **予備試験等の代替について**：
 - ・予備試験の代替として、**共用試験CBT及びPre-CC OSCEを課す**ことが妥当。
 - ・日本語診療能力調査の代替として、**Pre-CC OSCE及び筆記試験の受験を課す**ことで、我が国の医学生と同等以上の能力を持つことを確認することが、当面の取り扱いとして妥当。→いずれも共用試験CBT及びPre-CC OSCEが公的化された場合、両試験を初めて受験した我が国の医学生が、初めて医師国家試験を受験する際の試験からの導入が望ましい。

参考資料

医道審議会 医師分科会 医師国家試験改善検討部会 報告書

※ 本参考資料は、報告書の理解に役立つよう、審議会におけるこれまでの議論で各委員や参考人から提出された資料の一部をまとめたものであり、必ずしも審議会として合意されたものではない。

医師法

(試験の内容)

第9条 医師国家試験は、臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う。

(試験の実施)

第10条 医師国家試験及び医師国家試験予備試験は、毎年少なくとも1回、厚生労働大臣が、これを行う。

2 厚生労働大臣は、医師国家試験又は医師国家試験予備試験の科目又は実施若しくは合格者の決定の方法を定めようとするときは、あらかじめ、医道審議会の意見を聴かなければならない。

医師国家試験の一年

(例)一般的な医師国家試験の流れ

○4月頃、医道審議会医師分科会で医師国家試験の方針決定



○7月頃、試験日、試験地、試験委員などの公表



○翌年2月頃、医師国家試験実施



○3月頃、医道審議会医師分科会で合格基準の決定



○3月頃、合格発表

【参考】
第113回医師国家試験

平成31年2月9、10日
実施

平成31年3月18日(月)
合格発表

※上記は医師国家試験の流れの一例を示しているに過ぎず、毎年必ずしもこのとおりに進行するわけではない。

医師国家試験の出題内容

内容と形式

【出題内容】

- 試験問題は、臨床上必要な医学又は公衆衛生に関し、医師として具有すべき知識、技能について広く一般の実力を試し得るものとされている。
- 具体的な出題範囲は、「医師国家試験出題基準（ガイドライン）」に準拠している（平成30年実施分からは平成30年版ガイドラインに準拠）。
- 生命や臓器機能の廃絶に関わるような解答や、倫理的に誤った解答をする受験者の合格を避ける目的で、禁忌肢が設定されている。

【出題形式】

- 多肢選択式・マークシート方式であり、出題総数は400題である。
- 試験問題の内訳は次表の通り。なお、ブループリント(医師国家試験設計表)において、各項目・評価領域毎の出題割合が示されている。

	一般問題	臨床実地問題
必修問題:100題	50題	50題
医学総論:150題	100題	200題
医学各論:150題		

医師国家試験の合格基準

医師国家試験の合否

(1) 基本的な考え方

- 必修問題、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の合計の得点と、禁忌肢の選択状況をもとに合否を決定する。
- 必修問題の合格基準は絶対基準を用いて最低の合格レベルを80%とし、必修問題を除いた一般問題・臨床実地問題の合計得点の合格基準は平均点と標準偏差とを用いた相対基準を用いる。

(2) 合否判定の方法

- 試験の実施結果を踏まえ、医道審議会医師分科会医師国家試験K・V部会において問題の妥当性を検討している。
- 同分科会の意見を踏まえて厚生労働大臣が合格者を決定している。

医師国家試験の歴史

- **昭和21年** 第1回医師国家試験（年2回実施、筆記3日間、論述式）
（国民医療法施行令の一部改正により開始）
- ↓
- **昭和28年** 筆記が1日になり、口頭試問を導入（第14回）
- ↓
- **昭和47年** 問題が論述式から客観式へ変更（第53回）
- ↓
- **昭和50年** 筆記1.5日になり、口頭試問を廃止（第59回）
出題数が190題から260題へ（第59回）
出題基準作成のための医師国家試験専門委員会が初めて設置（10月）
- ↓
- **昭和51～53年** 医師国家試験出題基準が初めて策定（昭和53年版）
- ↓
- **昭和60年** 秋試験を廃止し、年1回の実施となり、試験日数も2日間へ（第79回）
出題数が260題から320題へ
- ↓
- **平成13年** 試験日数が3日間へ（第95回）
出題数が320題から500題へ（第95回）
- ↓
- **平成30年** 試験日数が2日間へ（第112回）
出題数が500題から400題へ（第112回）

近年の医師国家試験の変遷

回	第87～90回	第91～94回	第95～111回	第112回～
年	平成5～8年	平成9～12年	平成13～29年	平成30年～
一般問題	内容	医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論
	数	200問		250問
臨床 実地 問題	内容	医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論	必修 医学総論 医学各論
	数	120問		250問
設問数	計320問		計500問	計400問
試験日数	2日間		3日間	2日間

出題基準：昭和53年～
医師国家試験設計表（ブループリント）：平成13年～

平成13年～問題の公募

平成13年～問題回収

平成18年～問題の持ち帰り可

平成18年～正答肢の公表

平成30年版医師国家試験出題基準(概要)

(1)定義

医師国家試験出題基準(ガイドライン)は、医師国家試験の「妥当な範囲」と「適切なレベル」とを項目によって整理したもので、試験委員が出題に際して準拠する基準である。

(2)基本的考え方

- ①全体を通じて、臨床実習での学習成果を中心とした臨床研修開始前の到達度を確認することに主眼を置く。
- ②「必修の基本的事項」では、医師としての基本的姿勢を含めた基本的診療能力を主題として出題する。
- ③「医学総論」、「医学各論」では、原則、我が国のどの医療機関であっても対応できるような内容に限定する。

【必修の基本的事項】

(大項目)	(ブループリント)
1 医師のプロフェッショナリズム	約4%
2 社会と医療	約6%
3 診療情報と諸証明書	約2%
4 医療の質と安全の確保	約4%
5 人体の構造と機能	約3%
6 医療面接	約6%
7 主要症候	約15%
8 一般的な身体診察	約13%
9 検査の基本	約5%
10 臨床判断の基本	約4%
11 救急初期診療	約9%
12 主要疾患・症候群	約10%
13 治療の基本	約4%
14 基本的手技	約4%
15 死、緩和ケア、終末期ケア	約2%
16 チーム医療	約2%
17 生活習慣とリスク	約5%
18 一般教養の事項	約2%

【医学総論】

(章)	(ブループリント)
I 保健医療論	約13%
II 予防と健康管理・増進	約17%
III 人体の正常構造と機能	約9%
IV 生殖、発生、成長、発達、加齢	約9%
V 病因、病態生理	約12%
VI 症候	約12%
VII 診察	約7%
VIII 検査	約9%
IX 治療	約13%

注:「医学総論」では大項目までブループリント(医師国家試験設計表)を設定

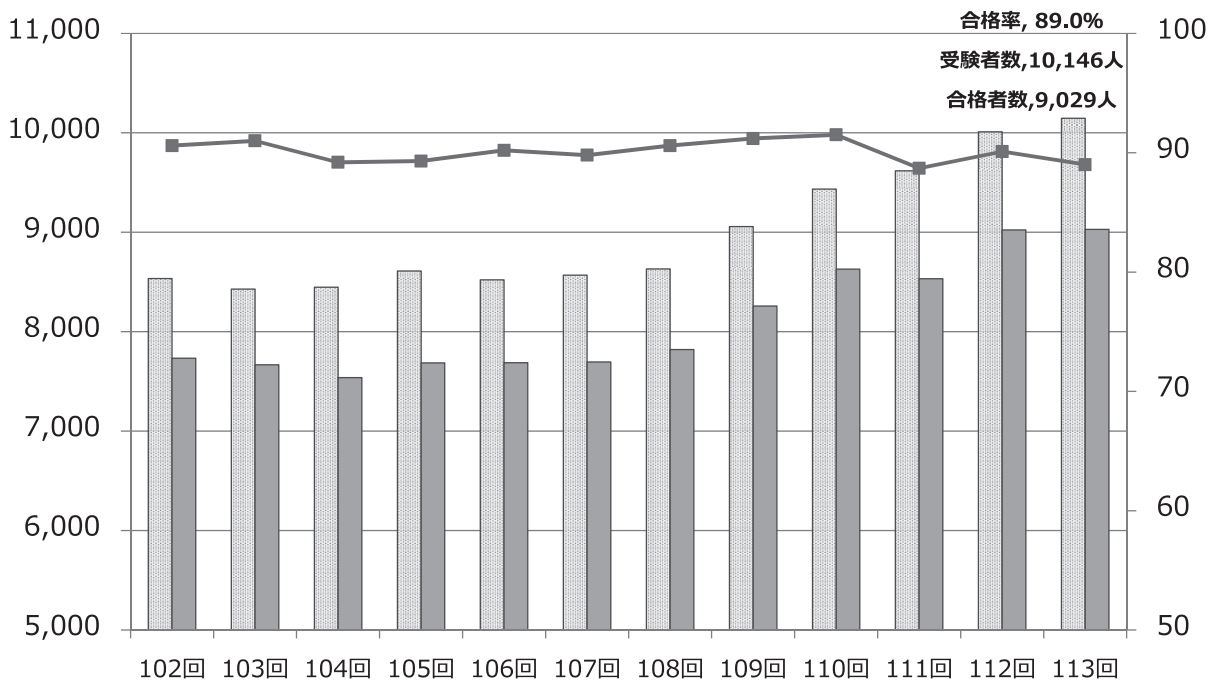
【医学各論】

(章)	(ブループリント)
I 先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常	約5%
II 精神・心身医学的疾患	約5%
III 皮膚・頭頸部疾患	約11%
IV 呼吸器・胸壁・縦隔疾患	約7%
V 心臓・脈管疾患	約10%
VI 消化器・腹壁・腹膜疾患	約13%
VII 血液・造血器疾患	約5%
VIII 腎・泌尿器・生殖器疾患	約12%
IX 神経・運動器疾患	約9%
X 内分泌・代謝・栄養・乳腺疾患	約8%
XI アレルギー性疾患、膠原病、免疫病	約5%
XII 感染性疾患	約8%
XIII 生活環境因子・職業性因子による疾患	約5%

※ブループリントの数字は概数のため必ずしも合計が100%にならない。

医師国家試験の合格率等の推移

■ 受験者数 (人) ■ 合格者数 (人) ■ 合格率 (%)



医師国家試験の回数別合格状況

回数	施行年月日	受験者数	合格者数	合格率
第113回	H31.2.9～10	10,146 人	9,029 人	89.0 %
第112回	H30.2.10～11	10,010人	9,024 人	90.1 %
第111回	H29.2.11～13	9,618 人	8,533 人	88.7 %
第110回	H28.2.6～8	9,434 人	8,630 人	91.5 %
第109回	H27.2.7～9	9,057 人	8,258 人	91.2 %
第108回	H26.2.8～10	8,632 人	7,820 人	90.6 %
第107回	H25.2.9～11	8,569 人	7,696 人	89.8 %
第106回	H24.2.11～13	8,521 人	7,688 人	90.2 %
第105回	H23.2.12～14	8,611 人	7,686 人	89.3 %
第104回	H22.2.13～15	8,447 人	7,538 人	89.2%

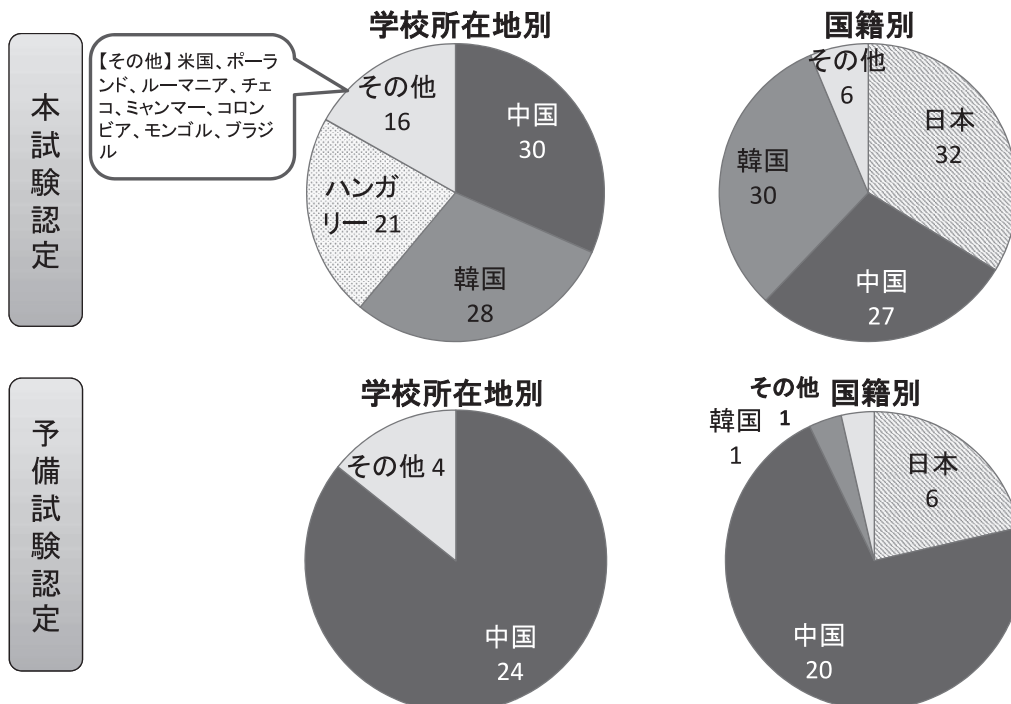
医師国家試験の男女別合格者数等の推移

回数		総数	男性	女性	男女別合格率	
					男性	女性
第113回 (H31春)	受験者数(%)	10,146人	6,843人 (67.4%)	3,303人 (32.6%)	—	—
	合格者数(%)	9,029人	6,029人 (66.8%)	3,000人 (33.2%)	88.1 %	90.8 %
第112回 (H30春)	受験者数(%)	10,010人	6,685人 (66.8%)	3,325人 (33.2%)	—	—
	合格者数(%)	9,024人	5,958人 (66.0%)	3,066人 (34.0%)	89.1 %	92.2 %
第111回 (H29春)	受験者数(%)	9,618人	6,368人 (66.2%)	3,250人 (33.8%)	—	—
	合格者数(%)	8,533人	5,593人 (65.5%)	2,940人 (34.5%)	87.8 %	90.5 %
第110回 (H28春)	受験者数(%)	9,434人	6,400人 (67.8%)	3,034人 (32.2%)	—	—
	合格者数(%)	8,630人	5,802人 (67.2%)	2,828人 (32.8%)	90.7 %	93.2 %
第109回 (H27春)	受験者数(%)	9,057人	6,245人 (69.0%)	2,812人 (31.0%)	—	—
	合格者数(%)	8,258人	5,655人 (68.5%)	2,603人 (31.5%)	90.6 %	92.6 %
第108回 (H26春)	受験者数(%)	8,632人	5,948人 (68.9%)	2,684人 (31.1%)	—	—
	合格者数(%)	7,820人	5,337人 (68.2%)	2,483人 (31.8%)	89.7 %	92.5 %

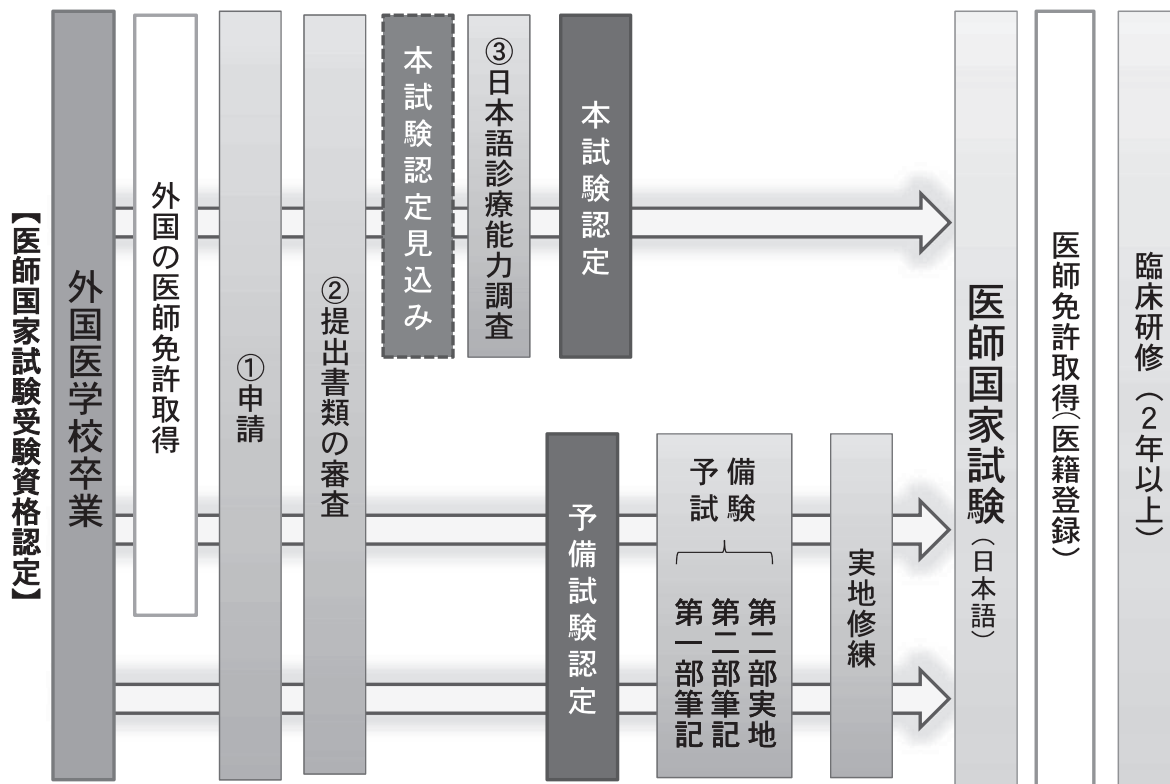
第113回医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数	構成比	合格者数	合格率
新卒	H30年4月～ H31年3月	1回	9,176人	90.4%	8,478人	92.4%
既卒	H29年4月～ H30年3月	2回	595人	5.9%	435人	73.1%
	H28年4月～ H29年3月	3回	134人	1.3%	69人	51.5%
	H27年4月～ H28年3月	4回	67人	0.7%	23人	34.3%
	H26年4月～ H27年3月	5回	27人	0.3%	7人	25.9%
	H25年4月～ H26年3月	6回	26人	0.3%	5人	19.2%
	H24年4月～ H25年3月	7回	14人	0.1%	6人	42.9%
	H23年4月～ H24年3月	8回	9人	0.1%	1人	11.1%
	H22年4月～ H23年3月	9回	11人	0.1%	2人	18.2%
	H22年3月以前	10回以上	87人	0.9%	3人	3.4%
既卒計			970人	9.6%	551人	56.8%
総計			10,146人	100%	9,029人	89.0%

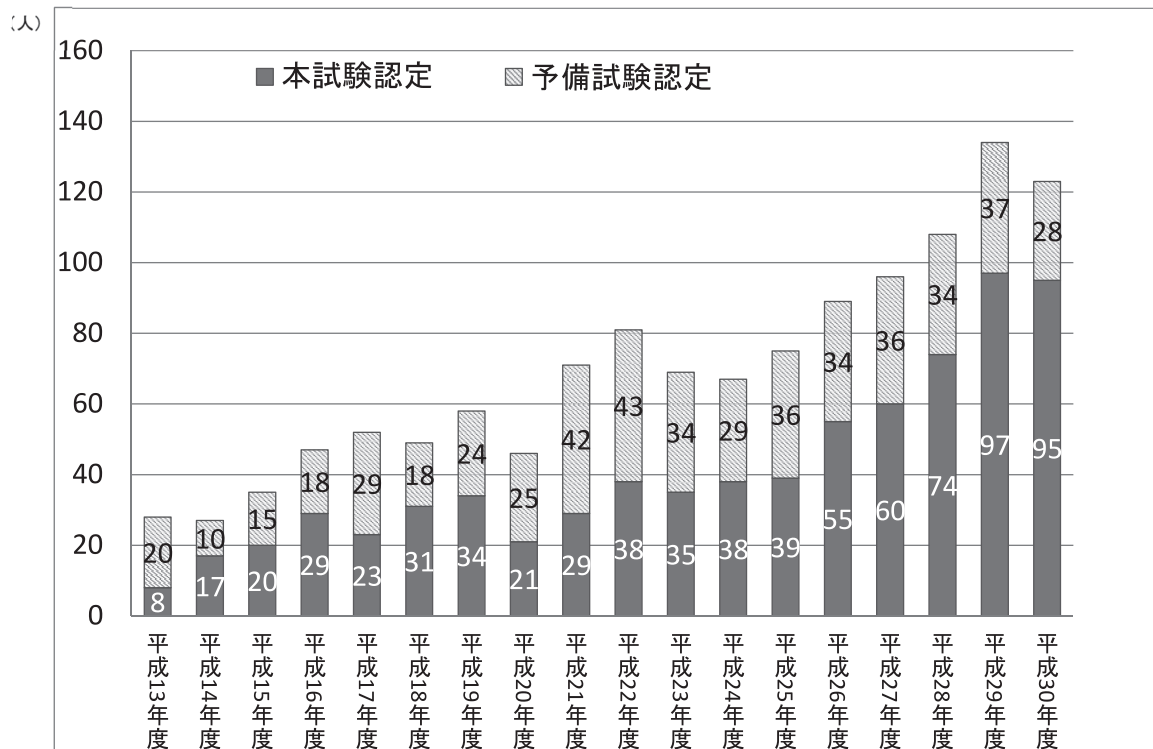
受験資格認定者の内訳(平成30年度)



外国医師による日本の医師免許取得の流れ



受験資格認定者数の推移



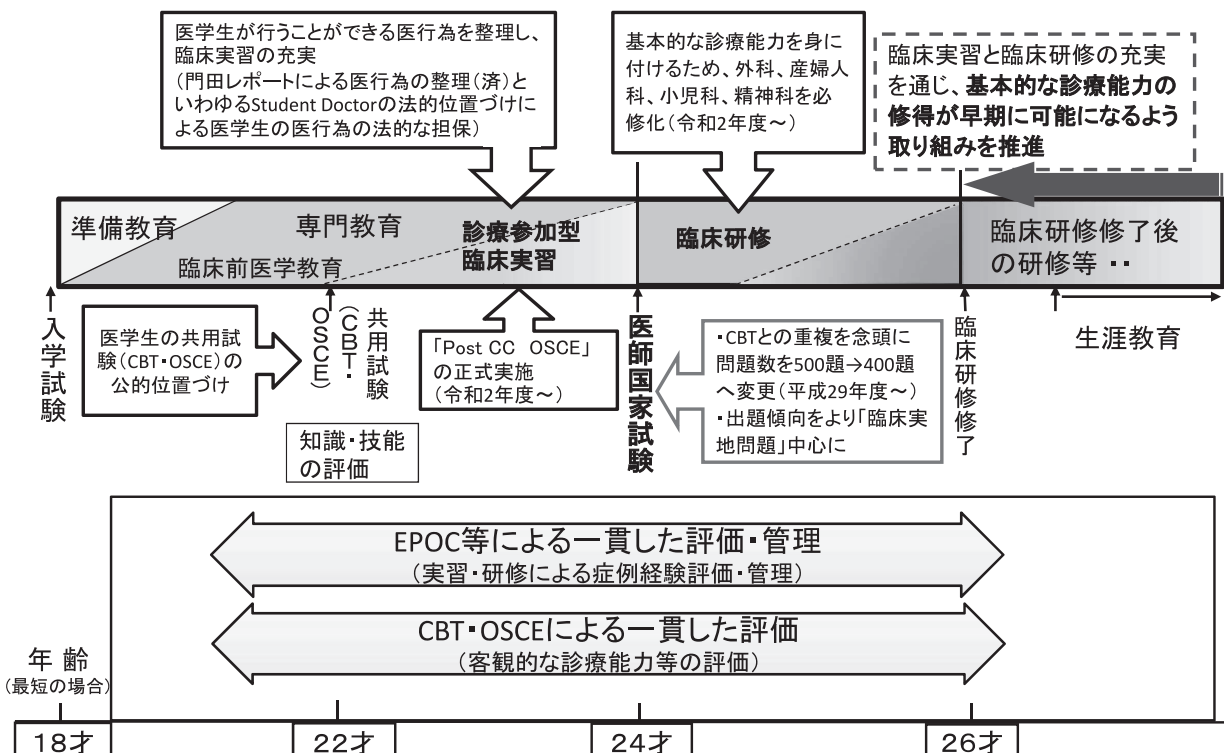
現行の医師国家試験受験資格認定基準(書類審査)

		「本試験認定」	「予備試験認定」
修業年数	医学校の入学資格	高等学校卒業以上(修業年数12年以上)	
	医学校の教育年限*	6年以上 [進学課程:2年以上、専門課程:4年以上] (ただし、5年であっても5,500時間以上の一貫した専門教育を受けている場合には基準を満たすものとする。)	5年以上 [専門課程:4年以上]
	医学校卒業までの修業年限	18年以上	17年以上
専門科目の授業時間		4,500時間以上で、かつ一貫した教育を受けていること	3,500時間以上で、かつ一貫した教育を受けていること
医学校卒業からの年数		10年以内 (但し、医学教育又は医業に従事している期間は除く)	
専門科目の成績		良好であること	
教育環境		大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学とほぼ等しいと認められること	大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学より劣っているものではないこと
当該国の政府の判断		WHOのWorld Directory of Medical Schoolに原則報告されていること	
医学校卒業後、当該国の医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、日本語能力試験N1の認定を受けていること	

※:大学院の修士課程、博士課程等は算入しない。

(医政局長通知)

シームレスな医師養成に向けた改革全体案



1. 基本的な考え方

- 医師国家試験は、卒前教育・卒後臨床研修・新しい専門医の仕組みを含めた一連の医師養成過程の中に位置付けられることから、それぞれの到達目標との整合性を図りつつ、近年の卒前教育を巡る動向を踏まえ、その果たすべき役割を十分に発揮できるものとする必要がある。
 - 平成27年度より全ての医学部において、卒前教育における共用試験CBTの合格基準が統一化される予定であり、基本的な知識が担保された医学士が医師国家試験を受験する第112回(平成30年)から出題数や合格基準等の設定を適用することが適当である。
- <参考> 医師法(昭和23年法律第201号)・抄
 第九条 医師国家試験は、臨床に必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う。

2. 医師国家試験について

- ① **出題数について**: 共用試験CBTの出題内容と医師国家試験の出題内容の重複を精査し、基本的診療能力を問う「必修問題」は現状通りとし、「医学総論」及び「医学各論」から「一般問題」を100題程度減らす。「臨床実地問題」は、臨床実習の経験に即した出題傾向とするために現状維持が適当。
- ② **出題内容について**: 引き続き、高度な専門的事項を問う内容ではなく、臨床研修において指導医の下で診療に従事するのに必要な知識および技能を問う水準とするとともに、診療科に関わらずに総合的な鑑別診断や治療方針の選択に関する能力を問う内容とする。また、少子高齢化など、今後の医療現場の動向に応じた出題内容とする。
- ③ **合格基準について**: 「必修問題」以外の「一般問題」の出題数を減じるにあたり、「一般問題」と「臨床実地問題」を併せて相対基準を設定する等の算出方法の見直しを行う。「必修問題」の合格基準は従前通り、絶対基準を用いて80%以上の得点とし、「禁忌肢」の選択状況を加味して合否を決定する。
- ④ **出題基準(ガイドライン)について**: 「臨床実地問題」の出題数の比率を高めることととも、各領域における基本的な問題や保健医療論・公衆衛生等の「一般問題」での出題数は担保するべきであるという点を考慮した上で、ブループリント(医師国家試験設計表)については、分野毎に必要な出題数が確保されるよう見直しを行う。
- ⑤ **共用試験CBTとの連携について**: CBTは一連の医師養成課程として医師国家試験と密接に関連することから、全国医学部長病院長会議及びCBTを実施する医療系大学間共用試験実施評価機構は、CBTの運用状況や検証結果などの試験の改善・評価に必要な情報を国と共有する必要がある。なお、共用試験CBTにおける臨床に関する内容については、引き続き、医師国家試験に求める水準ではなく、臨床実習開始前に必要な基本的な知識を問うものとするべきである。
- ⑥ **試験日数について**: 出題数の見直しに伴い、試験日数を3日間から2日間に変更する。

3. OSCEについて

- OSCEが筆記試験より優れている点として、臨床技能を評価するのにより適していること、態度やコミュニケーション能力など筆記試験では測れない部分の評価を行うことができるという点で共通の認識を得た。
- OSCEを医師国家試験として実施する場合は、国民に対して安心感を与えるメッセージとなること等の利点がある一方で、統一的な模擬患者、評価者及び実施場所等の確保が困難であること等の課題がある。
- OSCEを医師国家試験としてではなく各医学部で臨床実習終了時OSCEとして実施する場合は、6年間の卒前教育に携わった者が態度やコミュニケーション能力などについて細かな評価を行うことが可能であること等の利点がある一方で、現状では医学部毎に評価者や会場等の実施体制、問題の数や質の差が大きいこと等の課題がある。
- 現在、全ての医学部における統一的な臨床実習終了時のOSCEを導入する準備が進められており、平成32年度を目処に全国的に正式実施が開始される見込みであることから、現時点では、全国医学部長病院長会議及び医療系大学間共用試験実施評価機構による全ての医学部での臨床実習終了時OSCEの導入を進めていくことが重要である。医師国家試験へのOSCEの導入の是非については、その達成状況を確認してから、改めて議論をする。

4. その他の論点

- コンピュータ制の導入に関して、動画や音声等を活用し、臨床現場に近い形での出題が可能となるという指摘がある一方、日本の卒前教育に沿い、かつコンピュータの特性を活かした出題手法の開発、及び諸経費等の問題について検討が必要であり、プール問題の活用、医師国家試験の年間の実施回数等と合わせて検討すべき課題である。
- 外国で医師免許を得たものに対する国家試験受験資格に関して、外国における卒前教育の内容について、我が国の医学の正規の課程と同等以上であることをより客観的に評価する体制を検討すべきであり、申請者数が増えつつあることから、引き続き評価方法の検討を行う。

医師臨床研修制度の見直しについて(2020年度研修より適用予定)

～医道審議会医師分科会医師臨床研修部会報告(概要)～

- 医師臨床研修制度は、医師の基本的な診療能力の習得のため、平成16年度に努力義務から必修化され、概ね5年毎に見直しを行ってきた。
- 今回は、①卒前卒後の一貫した医師養成、②到達目標、③臨床研修病院の在り方、④地域医療の安定的確保等について見直し。
- 今後、臨床研修制度が研修医、患者、医療制度等に与えた影響を評価し、卒前・卒後教育の連続性の観点から制度の在り方の検討が必要。

1. 卒前・卒後の一貫した医師養成について

・卒前と卒後の医師養成過程が整合的であることが必要

- (1) 医学教育モデル・コア・カリキュラムと整合的な到達目標・方略・評価を作成
- (2) 今後、臨床研修制度について、医学部の共用試験、医学教育モデル・コア・カリキュラム、国家試験と同時期に検討

2. 到達目標・方略・評価について

・現行の到達目標は、目標、方略、評価が不明確
 ・基本的診療能力や臨床推論の更なる習得
 ・評価方法の標準化が必要

- (1) 目標、方略、評価に分けて整理・簡素化
- (2) 目標を「医師としての基本的な価値観(プロフェSSIONナリズム)」、「資質・能力」、「基本的診療業務」に整理し、入院、外来、救急、地域医療の基本的な診療能力を担保
- (3) 方略は、内科、救急、地域医療に加え、外科、小児科、産婦人科、精神科を必修化し、一般外来の研修を含むことを追加
- (4) 評価は、モデル・コア・カリキュラムとの連続性を考慮しつつ、標準化

3. 臨床研修病院の在り方について

・臨床研修病院の更なる質の向上

- (1) 指導・管理体制等についての訪問調査の見直し
 - 改善の見られない病院は指定取消の対象へ
 - 課題の見られる基幹型病院は訪問調査の対象へ
- (2) プログラム責任者養成講習会の受講義務化
- (3) 第三者評価を強く推奨し、次回以降義務化を前提に検討

4. 地域医療の安定的確保について

・地域医療の確保に対する更なる対応が必要
 ・都道府県の実情に応じた対応が必要

- (1) 大都市圏の募集定員を圧縮し、それ以外の募集定員を確保
 - 臨床研修病院の募集定員倍率を2025年度に1.05倍まで圧縮
 - 医学部入学定員による募集定員の算定には上限を設ける
 - 地理的条件等の加算を増加
- (2) 地域枠等の一部について、一般のマッチングとは分けて選考
- (3) 国が一定の基準等を示した上で、臨床研修病院の指定・募集定員設定を都道府県が行う

5. その他

・基礎研究の国際競争力の低下

- (1) 中断・未修了の対応は継続
- (2) 大学病院に基礎研究医養成枠を設置

シームレスな医師養成に向けた共用試験の公的化といわゆるStudent Doctorの法的位置づけについて
医道審議会医師分科会 報告書 概要 (令和2年5月)

- 従来より卒前教育と卒後教育は分断され、連続性が乏しいと評されてきたが、医師が修得すべき知識・技能が増加していることや、プロフェッショナリズム教育の重要性が増していることなどから、**卒前教育においても医学生が診療に参加し、医療現場を中心として一貫して行う必要性が認識**されてきた。
- 医学生が診療チームの一員として診療に参加する診療参加型臨床実習の充実のため、**医学生の質の担保とその医行為について法的な位置づけが重要**。
- 今回は、**(1)共用試験CBTの公的化、(2)共用試験臨床実習前OSCEの公的化、(3)いわゆるStudent Doctorの法的位置づけ**について検討した。

(1) 共用試験CBTの公的化

- ・全大学で実施され、項目反応理論などの問題の精度管理の手法や評価手法が確立している。
- ・医学教育でその位置付けは確立されており、医師国家試験の受験要件とする等による公的化に相当する試験である。

(2) 共用試験臨床実習前OSCEの公的化

- ・現状の医学教育の中で臨床実習前に技能と態度を試験する機会として確立している。
- ・臨床実習前に一定水準の技能・態度のレベルに達していることを試験することは極めて重要であり、共用試験CBTとともに公的化すべきである。
- ・模擬患者が重要な役割を果たしており、全国的に取り組む組織の創設や模擬患者に対する研修体制の整備などの検討が必要。

(3) いわゆるStudent Doctorの法的位置づけ

- ・臨床実習開始前の共用試験を公的化することで、一定の水準が公的に担保されることから、実習において医行為を行う、いわゆるStudent Doctorを法的に位置づけることが可能となる。
- ・実施する行為については、指導する医師が適宜、医学生の能力と患者の状態等を勘案して判断すべき。

共用試験の公的化といわゆるStudent Doctorの法的位置づけによる影響

- (1) 医学教育への影響
 - ・臨床実習の診療参加型化の促進につながる。
- (2) 医学生(医師)個人への影響
 - ・手技等を経験する機会が増加し、手技の比重が高い診療科に対する積極的な効果により、診療科偏在是正に対する効果が期待される。
 - ・臨床研修における負担が一部軽減され医師の働き方改革にも資することが期待される。
- (3) いわゆるStudent Doctorが診療参加型臨床実習を行う際の患者同意等
 - ・同意を患者から得られやすくなることで、診療参加型臨床実習が促進される。
 - ・将来的に患者理解が進んだ場合、一般的な処置について、特別な同意取得の必要なく、診療参加型実習において行うことが可能となることが望ましい。
- (4) 地域における実習と地域医療への影響
 - ・主体性を持って地域医療を体感することで、将来のキャリアに良い影響が与えられる。
 - ・各養成課程の中で現状よりも地域に貢献することが可能となる。

他の診療参加型臨床実習の充実のための取組

- (1) 患者の医育機関等へのかかり方
 - 患者自身も共に医師を育てる認識に基づいた、患者の協力が不可欠であり、下記の点を国民に広く周知する取り組みを行う必要がある。
 - ・いわゆるStudent Doctorが共用試験に合格し、診療参加型の臨床実習を行うに足る学生であること。
 - ・大学病院はその設置目的に医学生の育成が盛り込まれていること。
 - ・将来的な地域医療や総合的な診療能力を持つ医師の確保のため、大学病院以外の医療機関で臨床実習が行われること。
- (2) 診療参加型臨床実習の指導体制
 - ・教員等が十分に学生教育に時間を充てることができ、また評価される必要がある。
 - ・臨床研修医や専攻医も屋根瓦式に医学生への指導を積極的に行うことが望ましい。
- (3) 医学生が加入する保険
 - ・医学生を保護する観点から強く推奨されるべき。